紙のプロレス RADICAL

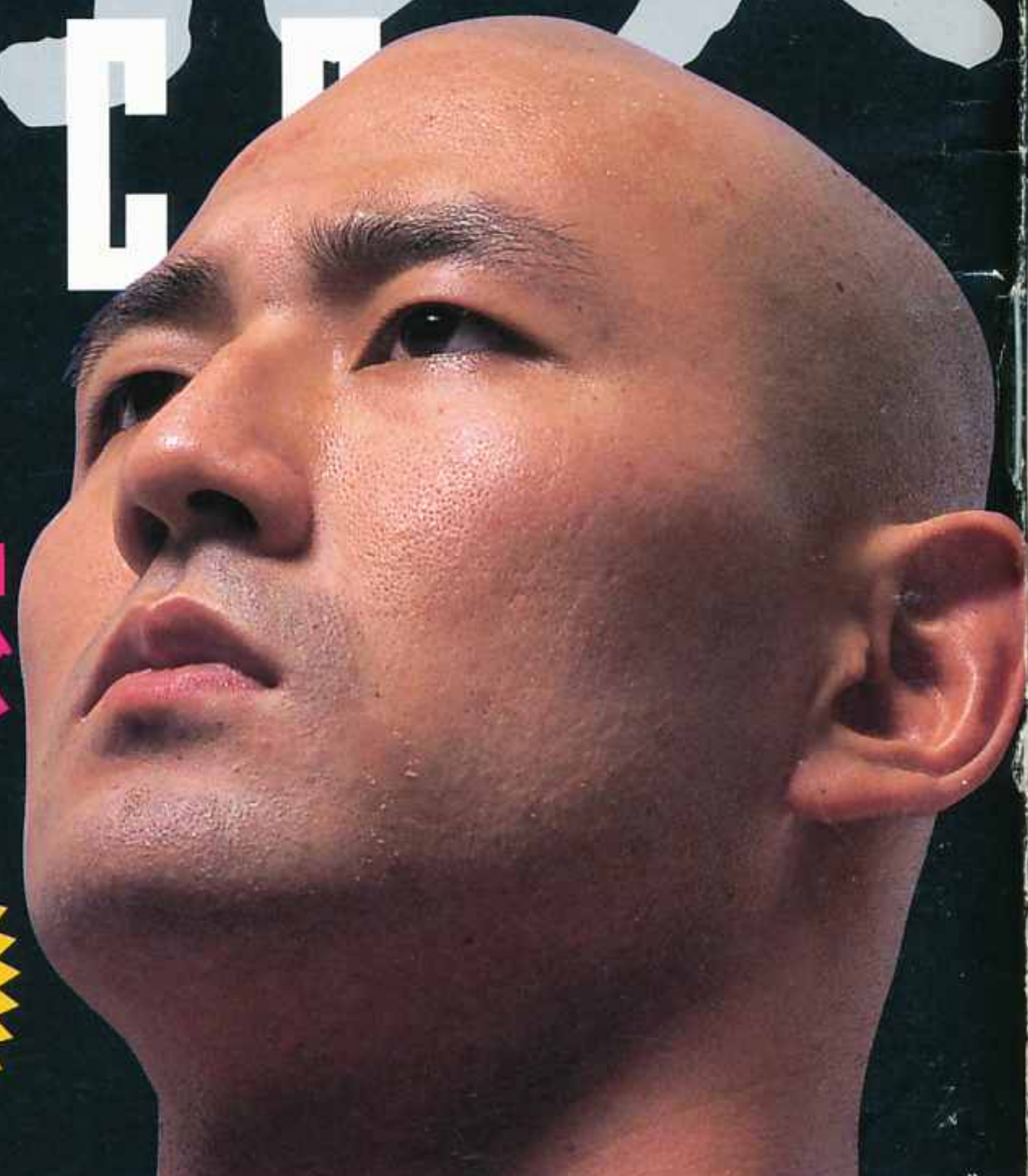
ヒクソン戦後の**高田延彦**がその心中をリアルに語った!!

前田日明・エンセン井上
「高田vsヒクソン戦」を語る

実写版『1・2の三四郎』降臨!
★VTで大物マルコ・ファスを撃破だ記念
★次なる敵はロード・ウォリアーズだ記念

アレクサンダー大塚
独占ロング・インタビュー!!

アレク 一気にマット界の救世主に! んむはぁ

「底力しか信じない」

人類最強の男・カレリン戦決定!
前田日明の重戦車人生相談!!

21世紀間近に蘇ったゴールデン・タイム伝説
ボブ・バックランド
ウォウ! インタビュー

What is プロフェッショナル!
松永光弘/リッキー・フジ

待望、衝撃の再登場!
谷津嘉章
バーリ・トゥード出陣宣言!

心にねじり鉢巻き! 胸に軍艦マーチ!!
浅草キッド
10・11を語る

あのSWSを再検証
『S多重アリバイ』
ケンドー・ナガサキ

神取忍、八木淳子の往く道は?
What is L-1?

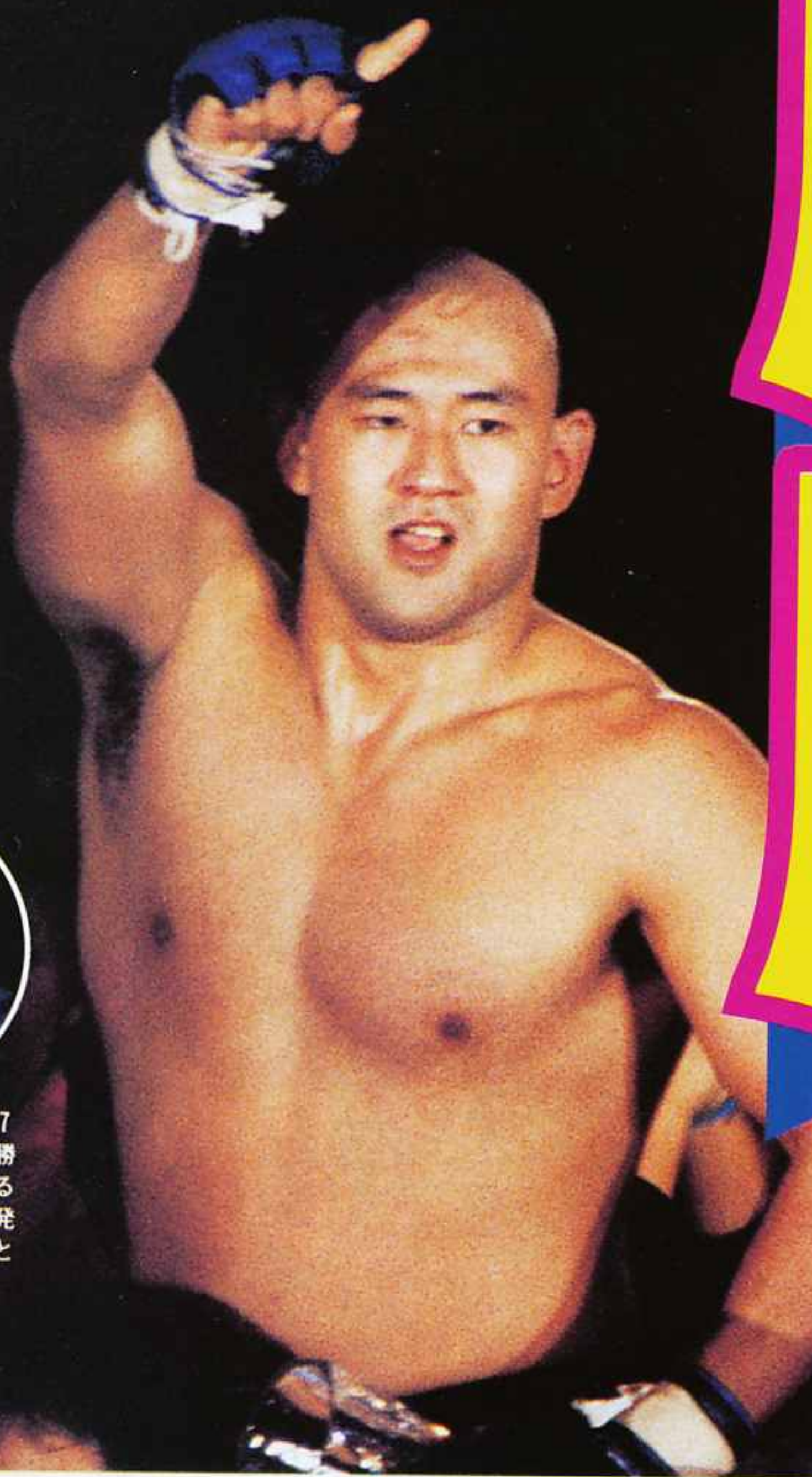
No.13

紙のプロレス RADICAL No.13 が語る「高田vsヒクソン戦」!!
発行元:(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話/03-3403-5188

ヒクソンに勝てる越谷人として急浮上!!

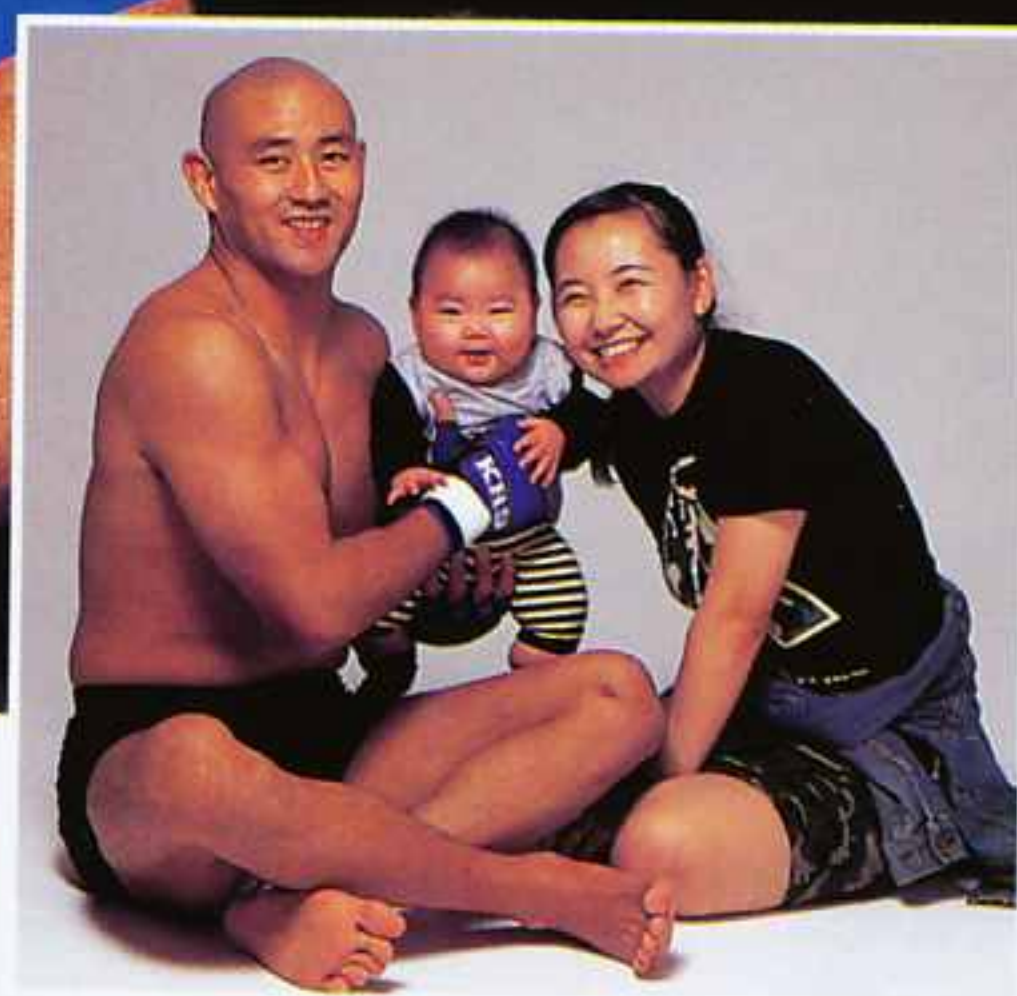
コッ!スポ

あっぱれアレク!! "路上の王"(マルコ・ファス)に劇勝

通称・"路上の王"。第7回アルティメット大会優勝という輝かしい実績もあるマルコだが、今回も本領発揮ならず。膝が悪かったともいわれているが

ヒクソンも対戦を避けているといわれる、バーリ・トゥード界の大物中の大物、マルコ・ファスを撃破し、底力を見せたアレク。ドームを大爆発させた!

コッ!スポーツ

10月12日(月曜日)

コッ!スポーツ新聞社
越谷市リオ・デ・ジャネイロ1・2の3
TEL.0987・65・4321
振替口座 888888888

奥さんの真希子さん(本名・のものも?=元『紙プロ』編集者)と愛娘の愛(いと)ちゃんと1枚の写真に収まるアレク。"路上の王"に勝利したあとの感動の1枚である

バトラーツ両国大会『来い、コノヤロー!』11・23(祝)BIGに開催

10月11日、マット界にニュー・ヒーローが誕生した! 押忍!

その名はアレクサンダー大塚。

この日、一部の人の中で世界最強といわれるヒクソン・グレイシーは、高田延彦のリベンジを辛うじて退けた。その2試合前に登場したマルコ・ファスは、そのヒクソンが対戦を避けているといわれるブラジル格闘技界の超大物。

そのマルコに挑んだのが、世界最小、越谷一デカいプロレス団体、または世界一自由で世界一フザけたプロレス団体ともいわれる、格闘探偵団バトラーツ所属の大塚だった。押忍押忍!

誰もがマルコの圧勝を予想していたが、終わってみれば逆に大塚の圧勝という、実に痛快な結果が待っていた! この勝利は、バーリ・トゥードや他の格闘技の土俵で、最近はプロレスラーの敗戦が続いていたため、溜まりに溜まったプロレス・ファンのストレスを一気に解放させる形となり、東京ドームは大爆発! 感動の嵐に包まれた。押忍押忍押忍!

大塚は、あまりにも貧乏なため各団体のリング設営を請け負うバトラーツのリング主任。この日も過酷なバーリ・トゥードの試合にも関わらずリングを朝5時から設営した。以前はグッズ管理部長。試合に専念できない状況にもめげず、様々な雑用をこなすということも含めた下積みを黙々と積んで今回のビッグチャンスを掴んだというわけだ。

『紙のプロレス』という世界最悪のプロレス雑誌の誌上で大塚はそのことについて触れ、「嫌だけど、そういった下積みや環境は"底力"をつけるのに最適。マルコ戦ではその底力を見せたい」と語っていた(大塚の愛妻は、その世界最悪のプロレス雑誌の元・編集者)。

その言葉通り、大塚は見事にこの日、プロレス・ファン、にわか格闘技ファンにプロレスラーの底力を突き刺した。押忍押忍押忍押忍押忍!

バトラーツのバチバチ・ファイト以外にも、幅広く様々なスタイルの試合をこなしつつ、"芯"の部分を失わない大塚の闘いぶりは、バトラーツのイカレ社長、石川雄規の「芯を守るためなら、いくらでもフニャフニャ曲がりますよ」という理念を見事に体現している。

アレクはアレク

これだけの大仕事をやってのけたため、TV、雑誌などの取材以来が殺到。しかし大騒ぎしているのは周囲だけとばかりに、「全身、すべて心」の大塚は常に変わらない。

奥さんののものもさんによると、試合の翌日(つまり今日の昼)夫妻は初めて入ったラーメン屋でこんな事件に出くわした。

座った2人の前にいきなりワサワサと現れたのは巨大なゴキブリ。それでも「見なかったことにしよう」と2人は大騒ぎすることもなく黙殺。さらに注文しても何も聞いていないオヤジに腹を立てることもなく、2人は注文したラーメンが出てくるのを待った。

しかし、一向に作る気配のないオヤジは、その上トイレに入ったっきり出てこない。もちろん"大"である。

過酷なバーリ・トゥードを闘うと翌日も興奮醒めやらぬ選手もいる。が、奥さんののものもさんが「もう帰ろぉぉぉ」と言っているのにも関わらず、大塚は「このヤロー、オヤジ、墓にクソぶっかけるぞ!」と怒鳴ることもなく我慢し続けた。

普通の状態の人間でもご立腹するこのオヤジの態度だが、大塚は満足そうな顔をしてトイレから出てきたオヤジに向かってこう聞いたらしい。「すいません、もう作ってますか? まだ時間はかかりますか?」。それもバカ丁寧に。

のものもさんはこう語る。

「昨日はあんなに人の顔をバコバコ殴ってて、ホントにキレたら凄く怖い人なんだな~と思ってたんだけど、その光景を見たら、やっぱアレクはアレクでした。ワタシの中でのアレクのイメージは、マルコに勝ったアレクじゃなく、パーマンやってるアレクなんだな、と思いました。愛(いと)もそうだと思います。ほえ~」

アレクはアレク。普段の試合と変わらない気持ちで挑み、その底力が呼び込んだビッグな勝利。プロレス界、格闘技界のひっくるめた「マット界のニュー・ヒーロー」は"底知れぬ等身大"の男だった。

10月11日、アレクの勝利に一人のファンがこう叫んだ。

「底力をありがとう、アレク!」

●10月11日 東京ドーム
●10分3R PRIDEルール
アレクサンダー大塚(2R TKO)マルコ・ファス

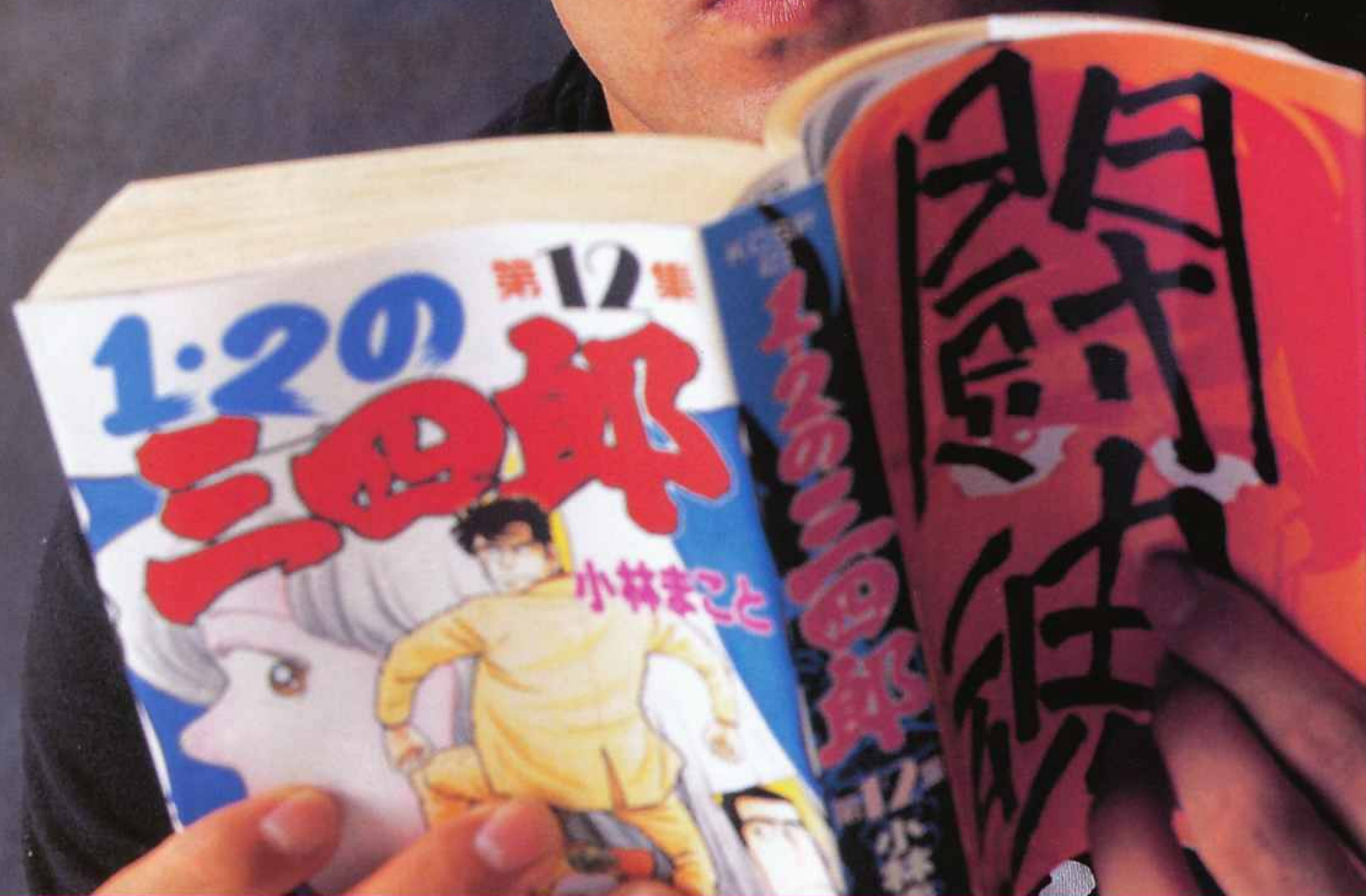
次号の紙プロは12月10日発売予定!

日も当たりもしないいぃ　ジメついたぁ街でェ
たたかうこと～だけ許されてぇ
産ぶ声を上げた～
幼～きィ頃から……愛情を求めェ
優しさ～に気付いた時にゃ
独り血まみれのリングぅう――
這いずりぃ回～りィ
どうにかここまぁで来たーサ
明日さえ知れぇぬ
俺に恐れるモノなどなーい
さあてェ　そろそろぉ…
"AO"cornerからぁああぁ!!!

格闘探偵団バトラーツ
アレクサンダー大塚選手の入場です!!

※マルコ戦の勝利によって問い合わせがメガ多数のアレクの入場テーマ曲は、青西高嗣『AO CORNER』というアルバムに収録されています（vapより絶賛絶版中!）

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo
試合写真／松永源さん
photographs by Gensan Matsunaga
試合写真／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

んむはぁ

バーリ・トゥード初参戦、初勝利!
バトラーツ完全犯罪達成記念!
なにに対してってわけじゃないけど「ザマァミロ!」記念!!

アレクサンダー大塚
INTERVIEW

マルコに勝ったボーナスは、サウナ代の2000円ぽっちなんですよ（悲）

出演者

アレクサンダー大塚
（通称・アレク）

島田裕二
（バトラーツ迷レフェリー＆名広報）

のものも
（アレクの妻）

愛ちゃん
（アレクとのものものガキ＝女／0歳）

山口日昇
（聞き手・本誌運転手兼雑用係）

―ヤンジェネ（『ヤング・ジェネレーション・バトル』）優勝おめでとうございます。

アレク ありがとうございます。でも、それは去年です。

―あ、去年（笑）。それはともかくマルコ戦はとにかく感激しました。感覚が激しました。

アレク ボクも感激しました。

―「できればお客さんとして感動したかった」らしいですね（笑）。

アレク そういう感動することを体感したいんですよぉ。ドームでの入場の時、『″AO″ corner』がバンッって流れた瞬間、気合い入れながらもホントに涙が出てきましたから。

―あのテーマ曲がドームに流れるのは感慨深いものがありますね。

島田 ♪アウト！ セーフ！ ファイトファイトファイトファイト！ ん～、お疲れッシ！ イヤ～、オレも感激しましたよォ！ は～い。

―また来た。アレクさん、この男のことは気にせずにしゃべってください。それにしても、根っからの感激屋さんですね（笑）。

アレク 愛（いと）（愛娘）が生まれた時にもワンワン泣きましたしね。あと、自分がプロレスラーになる前に「こんなところでプロレスをやれたらカッコイイな」って思ってた、地元・徳島の文化の森大会が決まって、リング作りして、リングが組み上がった時には、な～んか感動して、涙がジワワワァって出てきました。

―「一刻一刻の体験にいちいち感動できる能力と体力by村松友視」ですね。

アレク いちいち感動できる能力……。

―家庭でもしょっちゅう泣いてるんですか？

アレク 奥さんにも泣かされますしね（笑）。

のものも ほぇ～（笑）。

―だけど、アレクの入場シーンはめちゃ沸きましたね。バトなんか旗揚げ2年半で、延べ600人ぐらいの観客動員しかないからほとんどの人が見たことがないはずなのになぁ（笑）。

島田 ん～～～っクク、失礼だな！ 900人はいますよ！

アレク で～も、入場だけでオレの勝ちだと思いましたよ～。たとえ試合に負けたとしても（微笑）。

―それで10・11は、ホントに『PRIDE』のリングを組み立てたんですよね。しかし、あきれたバカですね（笑）。

アレク だから言ったじゃないですか、前（号）のインタビューの時にも。『PRIDE』のリングも組み立ててますよ」って。

―さすがに冗談だと思ってました（笑）。まさか、いくらバトラーツでも、バーリ・トゥードを闘う当日までリングを組み立てさせないだろうって。

島田 ん～、お疲れッシ！ オレが怒られましたよ、みんなに。「ひどい会社ですね～」って。は～い。

アレク 今回だけはホントに自分からお願いしましたから。いつもは仕事だからって嫌々やってるんですけど、こういう闘いだから特別っていうんじゃなくて、普段通りに行きたかったもんですから。

―実に素敵です！ じゃあ、「いま明かされる、あの日あの時」の第2弾、10・11版いきますかァ！

アレク いきますかぁぁ。まず前の日はプレステやってましたね。桜庭（和志）さんは、試合の前の日に遅くまで『バイオハザード』やってたのが有名ですけど、ボクは『桃太郎電鉄7』やってましたね。

のものも あれは一人でやるゲームじゃないのに、一人でやってたぁ（笑）。

アレク それから支度があるんで道場に泊まって夜中の3時半に起きて東京ドームに向かいました。着いたのが朝の5時ちょい前ぐらいですか。みんなでリングを組み上げて。それで大会運営本部に挨拶に行ったら「ホントに来てくれたんですか！」ってみんな驚いてました。

―それは驚くよ（笑）。だって何時間か後にバーリ・トゥードをやるんだから。

アレク そうですね～。んむはぁ（笑）。

―大した″生活力″ですよ。カタブツ君風に言うと、″ナマの活力″。それがありますね、バトラーツの連中には。

アレク それでリング作りも終わって、モハ（メド・ヨネ）と一緒にサウナに行って。そこで身体を洗って昼の1時ぐらいまで仮眠して。

―そこで寝れたという時点でビッグハートですよ。

愛（いと） アゥウゥ、ンギャ～ンギャ～。

―あ、愛（いと）ちゃんは起きちゃいましたね（笑）。

アレク （愛ちゃんの顔をのぞいて）んむ

Alexander Otsuka

KRS
PRIDE.4
運営マニュアル
KRS

	スパーク	特殊効果	
	シミズビジュアル	大型ビジ	
リング設営	バトラーツ	リング	大塚 (04
設営・装飾	シミズ舞台	設営	
リース備品	花文	備品	

本誌前号で話していた通り、本当に朝5時からリング屋として仕事をこなしたアレク。『PRIDE.4』の運営マニュアルにも「リング設営責任者」の覧に「大塚」と記してある

四角いジャングル
RADICAL

はぁ〜（微笑）。

――親バカですね（笑）。

アレク　それで親バカは1時半ぐらいにはドームに入ってました。あっ！　一番大切なことを言うのを忘れてました！

――なんですか？

アレク　マルコ戦の3日ぐらい前から寝る時に『1・2の三四郎』を読み返していたんですよ！

――バイブルの（笑）。みんな実力があって、バカで面白い。僕はバトは『1・2の三四郎』の世界だって旗揚げの頃から言っていて、パンフとかにも書いてたんだけど、「実力がある」というところをほとんどの人が疑ってましたからね。吹けば飛ぶような団体だし（笑）。

アレク　あ〜、はい。でもあの時は、ああ、いい表現していただいたなぁと思いましたからね。

――要するにパーマンからバーリ・トゥードまでの振り幅が持てる世界がプロレスという大きなフィールドなんだけど、実際にマルコという大物に勝って、これでようやく信用されるで……もしもし？　聞いてます？

アレク　（話を聞かず、愛ちゃんを見つめて「アババババ」をしている）。

――……人の話を聞いてませんよ、おたくの看板選手は（笑）。

島田　いやいや、まだ看板じゃないですよ〜。うちのイカレ社長（石川雄規）は、「よりによって一番弱い奴が出ていった！」って言ってますからね。ハハハハハァ。

――それでマルコに勝ったことによって特別ボーナスは出るのかって新聞記者に聞かれたら、あなたは「はい。当日の試合後のリング撤収はなしにしました」って言ったらしいですね（笑）。

島田　いいボーナスじゃないですか。他にもボーナスは出しましたよ！　サウナ代2000円！

アレク　いただきました。2000円ぽっちですけど（悲）。モハには「出さない」って会社は言ったらしいですけど。

のものも　島田さんは、こっちは何も言ってないのに、あたし顔を見るなり「勝ってもギャラは同じだから！」って釘を刺してきましたぁぁ（笑）。

島田　そこはシビアにいかないとね。そこで回路を変えないとね。ま、すべては11・23の両国が終わったらですよ。

――鬼畜のような団体ですね（笑）。

アレク　でも両国がこれで入ればいいです〜。

――でもマルコ戦当日はいつもの試合会場とは雰囲気が違ったでしょう。

アレク　控室がダメですね。雰囲気とい い……。なんかジメジメした。

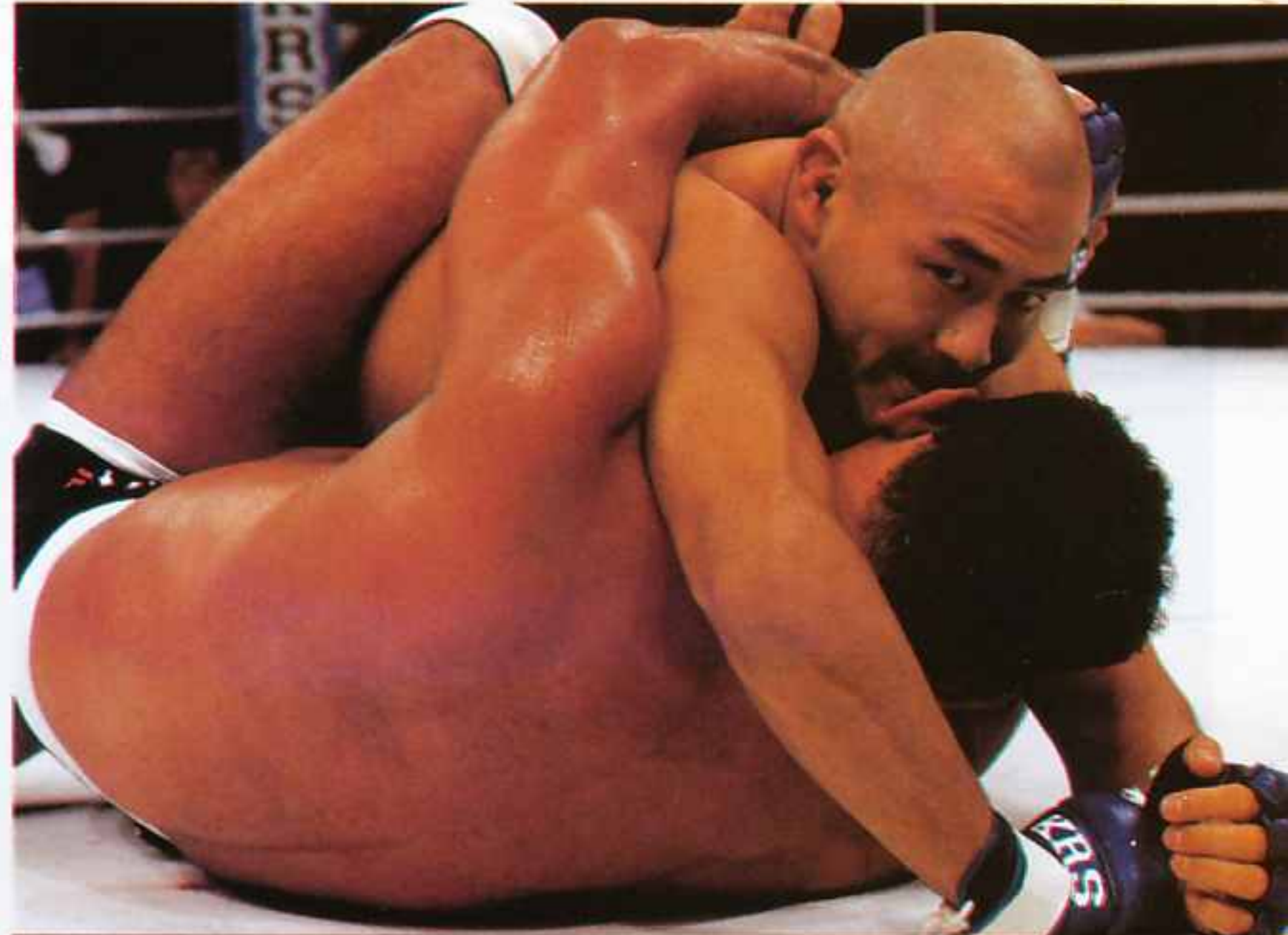
――湿気が多いの？（笑）。

アレク　いや、そういうんじゃなくて、人の空気がイヤですね。だって部屋の中でオレらの空間だけですもん、ヘラヘラしてるのは。

島田　それはみんな切羽詰まってるもん。だけど、こっちには石川社長がいますからね。

昭和46年徳島生まれ。自動販売機の修理の仕事をしていたが、大道塾の大会にも出場したことがある。平成７年に一度は諦めかけた藤原組に正式入門。同年８月に米山サトシ（現モハメド・ヨネ）戦でデビュー。得意技は各種スープレックス、ジャイアント・スイング、だんまり、阿波弁、んむはぁ他。バチバチ・スタイルで揉まれる中で、リングスでは坂田亘、Ｃ・ヘイズマンを破り、ＦＭＷではバトルロイヤルに出場し、みちのくプロレスのリングではノータッチ・トペコンを披露。ＪＷＰではミックスド・マッチまでやってしまった（喜んで）。この８月にはパーマンのペイント姿で試合をしている。そして去る10・11にバーリ・トゥードの土俵でマルコ・ファスを破り、一気にマット界の救世主となった

立ち上がりから、威カクのタックルをかまし、積極的に向かっていったアレク。序盤ではタックルに行ったところをバックに回られ首を取られたが、うまく抜けて上のポジションをキープ。勇猛果敢な闘いぶりにドームが目を覚ました！

上になりながらも「下からマルコにコントロールされている」という声にアレクは「何を言ってるんですかぁぁ」とブスブスと怒りの炎を燃やした。グローブのヒモがマルコの指に引っかかった以外は、冷静に闘いの炎を燃やし続けられたようだ

1R中盤、猪木―アリ状態になった両雄。アレクが上からプレッシャーをかけ続けると、マルコはロープ際にジリジリと下がり、不利な位置へと追いつめられていく。しかし、さすが〝路上の王〟。その体勢からヒールに行くまでの、見事なまでの早業には目を見張らされた

——ガハハハハ！ そういえば社長からどんなアドバイスをもらいましたか。

アレク 社長からのアドバイスは「ゴリさんならイケるよ！ 今日はゴリさんがヒーローだ！」って。

——素敵なアドバイスじゃないですか（笑）。

アレク 的確ですね（微笑）。

島田 的確ですよォ。マスコミの前でも「アレクが勝つアレクが勝つ」って言い回ってましたから。

——ガハハハ！ さすが社長！ パンフレットでもマスコミの予想すべてがマルコでしたからね。『PRIDE』のオフィシャルブックの編集長を始めとして。

島田 いや、あの本は素晴らしいですよ！ 問題は近藤隆夫ですよ！

アレク 近藤隆夫さんってどういう人ですか？

島田 ク●レですよ！

——そのオフィシャルブックの編集長で、『PRIDE』のPPV中継の名解説者です。

アレク え！ あの解説者ですかぁ〜！

——これは別に近藤隆夫君がどうのこうのじゃなくて、中継の解説であまりにもトンチンカンな「それはどうかな？」ということを言ってたんで、そのへんをアレク選手に直接聞いてみたいと思ってるんですよ。

アレク はい。

——まず「アレクサンダー大塚選手はリングスでも試合してるし、格闘技志向が強い選手」と言ってましたが、そうなんですか？

アレク いや、ボクは格闘技志向そんなにないです。いや、これホント！

——で、次に「マルコ・ファスに挑むのは僕らから見たら凄い勇気」だとも言ってました。

アレク「僕らから」っていうのは〝格闘技側〟っていうことですかね？

——もしくは、〝自称・本物の格闘技を見る目を持ってる人たち〟。この発言は一見ホメてるように思いますけど、凄く失礼なことを言ってますよ。

島田 チッ！ 人の練習を見たこともないのに言うな！

アレク ホントですよ〜。ランニングと腹筋を一生懸命やってるのに。んむはぁ（笑）。

——出た！ ランニングと腹筋！

アレク 今回も島田さんにパンチの対応をやれって言われて、ポイントポイントはバーリ・トゥード用の練習はしました。普段と一緒で、要はポイントをきっちりやっとけばいいんですよ。

島田 顔面パンチだけ喰らわないようにしときな、と。は〜い。

アレク 島田さんの戦略にあった「相撲部屋に行ってテッポウに打たれる」というのはできなかったですけどね（微笑）。あとは、髙阪（剛）さんに2回道場で教えていただいたのを〝我流〟で練習してただけですからね。

——〝我流〟でね（笑）。

アレク by芳賀元太。んむはぁ。

——実に力強いですね。去年、高田さんがヒクソンに負けた時から、そういう言葉を「いまかいまか」と待ち続けてたんですよ（笑）。それから、1Rが終わったあと、「2Rめはないと思っていたので大健闘」って、これまた名解説があったんですけど。

アレク それを聞いた時「何を言ってるんだ、ボケ！」ってツッコミましたよ、VTRを見ながら。

Alexander Otsuka

マルコの恐怖がアレクを襲う！ が、髙阪剛に「マウントを取らすなら取らした方がいい。その方が殴ってくる時にバランスを崩せるから」というアドバイスをもらっていたためか、この体勢でも冷静でいられたという。ビバ、TK！ ビバ、アレク！

ジャイアント・スイングとフロント・スープレックスにトライしようと思ってました

四角いジャングル RADICAL

——温厚なアレクが！　だから、一連の発言を聞いていて、やっぱりプロレスを見極める目がない人は格闘技を見る目もないと言い切っていいと思いましたね。格闘技の知識云々より、ものを見る力の問題ですよ。

島田　カ●ワですよ！

——そこまで言う（笑）。

島田　カシワって言ったんですよ！　は〜い。

——勝ったら勝ったで、プロレスではなくてアマレスの選手が勝ったという論法でくるんですけど。

島田　チッ！　それはおかしいですよ！　だってプロレスラーになりたくてアマレスをやってたわけだから。

アレク　いや、ボクはそういうんじゃないんですけど（微笑）。

——意見が違うよ、意見が（笑）。

アレク　でも、たまたまアマレスをやってて、その途中でプロレスラーになりたくなったわけですよ。でも、プロレスラーになるにはアマレスをやっといた方がいいかなっていう部分もありましたから。だから、入り方が違うだけで一緒は一緒ですよ。

——それに関しては、「大塚の勝因は元国体選手であったグラウンドの技術を利して、常に上のポジションをキープできたこと」というような記事もあって、要するに元国体選手だから勝てたという論調ですね。

アレク　なにを言ってるんですか！　国体なんか一回戦で負けましたよ！

島田　あれ？　ゴリさん（アレクの愛称）、国体出てたっけ？

アレク　しかも2回出たんですけど、1回は香川県のレベルが当時たまたま低くて出れた。地元・徳島代表で出た時は、アジア選手権があって、強い選手がそっちに行って空きが出たから、「出てみる？」って言われて、たまたま出ただけですよ。そんな強くないですもん、アマレス（キッパリ）。

——ガハハハハ。そうすると、「強い者が勝つというルールのもとではプロもアマチュアもない。こういう場に出てきたら彼はプロレスラーという意識を忘れてるはず」との近藤隆夫君の名解説ぶりはどうなるんでしょう。

アレク　ボクの心の中のことは誰も読みとれない……。ボクの中ではジャイアント・スイングにトライしようとも思ったし、フロント・スープレックスで投げようとも思ってました。それはチャンスがあればやろうと思ってました。

島田　だからカ●ワにメ●ラですよ。アゲ足ばっかり取るんですよ。

——そういう中で素晴らしい試合をしてくれたアレクにはプロレスファンは感謝しなきゃいけないですね。

アレク　逆にボクはプロレスファンに感謝したいです。

——あらためて聞きますけど、アレクがプロレス入りして一番身に付いた技術ってなんですか。

アレク　ジャイアント・スイングとトペ・コンヒーロ。んむはぁ。

——その二つは抜きにすると？（笑）。

アレク　そうすると関節技ですか。ただ単にアマレス的な動きだけじゃなくて、関節を取られないようにどう動くかっていう部分はプロの世界に入って身に付けましたよね。上を取るというのはアマレスの技術である程度、うまくコントロールできる部分はあるでしょうけど、アマレスだけの技術で上のポジションを取れたとしても、そこで極めにくい技術もないし、下から極められるということもありますから。やっぱりアマレスだけの押さえ込みや、上のポジションの取り方だけじゃダメなんじゃないですかね。

——今日はちょっと『紙プロ』らしくなく、試合の流れなんかを追ってみちゃっていいですかね？（笑）。

アレク　んむはぁ。いいですよ〜。

【1R】

——まず1R。タックルに行くとバックに回られて、いきなりスリーパーを取

【バトラーツ社長】

石川雄規社長から見た「アレクの勝利」

よりによって一番弱い奴が出ていった。そして勝った！　つまり、そういうことですよ。グッフッフ。ゴリさん（アレク）は絶対勝つと思ってましたよ。当たり前ですよ。普段はランニングと腹筋しかしなくてあんだけ強いんだから。ちょっと練習すれば、もっともっと恐ろしくらいに強くなりますよ。

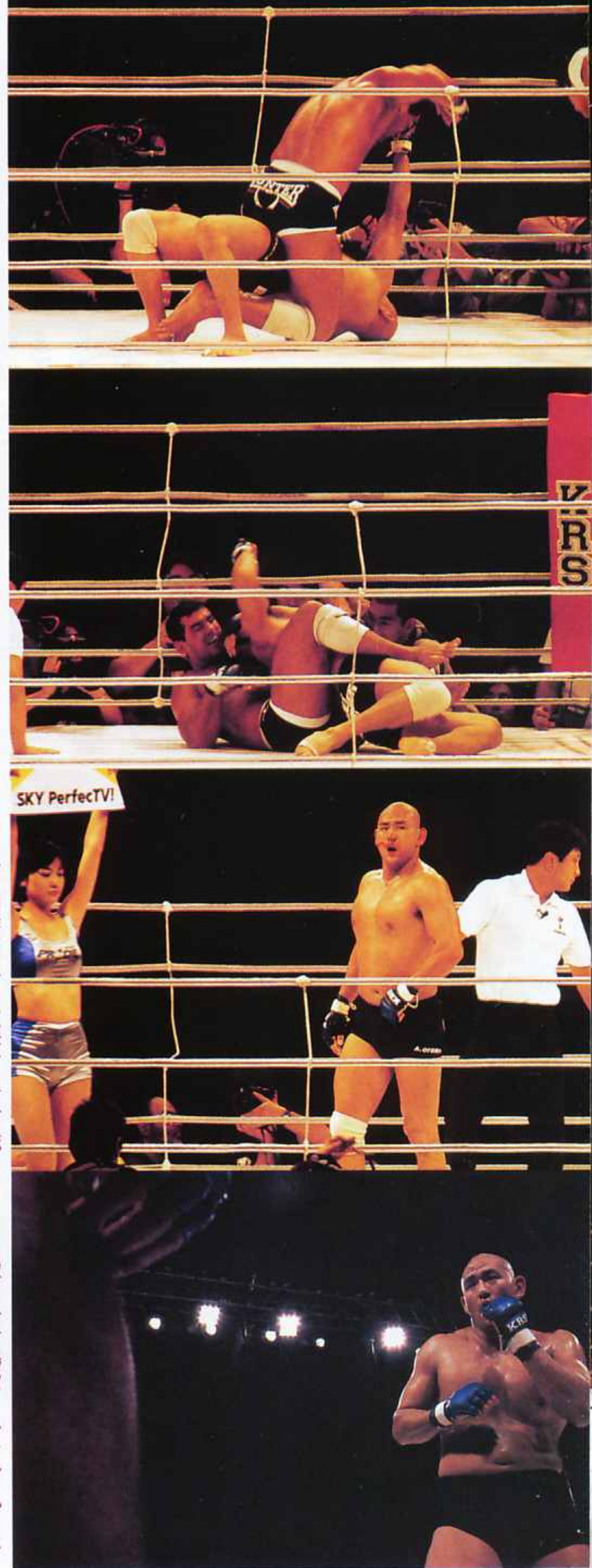
俺、セコンドでしょ。マルコ選手が入場してくる表情を見て、「あ、いい人そうだな。これなら怖くない。イケルぞ、ゴリさん！」と思ってね。1R終わってさらに「絶対イケル！」と確信して、俺はニコニコしてましたよ。

ゴリさんは闘ってて一番嫌なタイプ。アマレスをベースにしたねちっこさ、しつこさね。ゲロ吐きそうになるくらいシンドイですよ。

でも、ゴリさんが今度両国でやるロード・ウォリアーズの壁は厚いですよ。なにせ、秒殺の元祖！　狂ったように入ってきて、狂ったように闘って、狂ったように帰っていくんだから!!

それにしてもにわか格闘技ファンっていうのはバカ！　何もわかってないで講釈タレるから。「マルコに勝ったアレク」を見に来たそんな奴らは両国に何を見るんでしょうかね。にわか格闘技ファンっていうのはバカだから!!　感性が鈍いから!!　バカッ!!　そんなバカ共が俺らの闘いに何を見つけられるのか、それが楽しみですよ。この両国は、そんなバカ共への俺らからの挑戦状でもあるんですよ。グッフッフ。

それから両国には応援ガールのサウスポーを見に来てほしいですね。理由？　カワイイから！

ボクはアマレスはそんなに強くない だから「アマレスの勝ち」じゃないです

腕をカンヌキ状態にされ、足を使ってうまくひっくり返されたアレク！！！　数発マウント・パンチをもらうも、ブリッジワークでマルコの体勢を崩そうとする。相手の得意なポジションでも勝負を決して捨てない男っぷりは、とても普段からは想像がつかない。んむはぁ

1R終了間際。カメの状態になったアレクにマルコの脅威が襲う！　しかし、一見強烈に見えたスリーパーもポイントがわずかにズレていて、ここで極めようとしたマルコはスタミナを思いきりロス。逆に耐えたアレクには千載一隅のチャンスが到来した

1R終了間際のマルコの猛攻を鼻血を流しながら耐えたアレク。マルコは「よく耐えた」とばかりに、1R終了のゴングが鳴ると同時にアレクのツルツル頭を撫でた。この時、「けっこうやるじゃないか、アレク！」という空気がドームを支配した

2Rのゴングが鳴っても、マルコからは1Rの覇気が失われていた。スタミナ回復をはかるマルコに乗じて、アレクもコーナーに押し込みながら呼吸を整えた。こんな顔でも、この男、聡明につき！　アレクは常に相手と戦況から目を離さず、頭と肉体をフル回転させていた

られそうになりました。それを抜けて上になりましたね。ここで例の名解説者が、「マルコが下からコントロールしている」と言っていましたが。

アレク　っていうか、マルコは1回上に乗ろうとして、それをボクが切り返したんですよ。上を取れるコントロールができなくて、仕方なく下のポジションになった。やられないようなポジションをキープしただけですからね。上をコントロールしたのはボクですよ。それをそういう風に見るっていうのがおかしいんですよねぇ。

——イメージですよ。「格闘技は技術がある。プロレスは技術がない」という。

島田　チッ！

——そのあと上になってる状態から離れて、猪木—アリ状態になりましたよね。なぜああいう状態になったのか、教えて監督。

アレク　あれは、うまい具合にマルコにハーフガードからクロスガードに移られちゃったんですよ。そこで冷静だったからそういうことに考えられたと思うんですけど、「このままコロッと返されて終わっちゃったら、オレの見せ場はなんにもないなぁ〜」って考えたわけですよ。

——見せ場！（笑）。

アレク　で、ガードポジションだから、そのまま立てばマルコの両足を抱えられるポジションにいるわけじゃないですか。

——ジャイアント・スイング！（笑）。

アレク　もしそれで失敗して逆に足を取られて負けても、ファンはボクのチャレンジャー精神を買って拍手をくれるだろうと思って。んむはぁ（微笑）。

——大ブーイングされたりしてね。「ふざけるな、アレク！　ふざけるな、プロレス！」（笑）。

アレク　たとえ回せなかったとしても、チャレンジするところを見せようと思って足を取りにいったら、マルコが足を蹴り出してきて、ポンッと離れちゃったんですよね。ただ、あんなにキッチリ立つつもりじゃなくて足を取って立とうとした。そこからはジックリと。あ！、その場面で、「これだけ猪木—アリ戦のような状態が続いても勝機は見えないし、上に乗れないんであれば、（マルコを）立たせちゃった方がいいんじゃないか」みたいな解説をしてたんですよ。それを聞いた時もボクはカチンッときました。

——それは元オリンピック選手の太田章さんが言った発言ですね。

アレク　ああ、そうなんですか！　ボクはスタンドの技術に関してはマルコ・ファスに比べても……いまそこにいる、空手をやってたカタブツ君に比べてもヘボかもしれない（笑）。そういう部分で自分の未熟さをわかってるからこそ、スタンドにはしたくなかったんですよ。だから、敢えてあの状態でプレッシャーを与えていたんですよ。それでマルコはドンドン、ロープ際まで逃げて行きましたよね。チャンスを狙ってボクは上に乗ろうと思って、ああいうプレッシャーをかけていたんですよ。それなのに彼をスタンドにした方がいいんじゃないかという解説をして〜（怒）。

——でも、マルコ選手もさすがだなって思ったのは、その下になってる状態からアレク選手の手首を取って足関節を狙ってきましたよね。極まらなかったけど、あの手首を取ってくる早さっていうのは驚きましたね。

アレク　ああ。

——あそこは隠れた名場面ですよ。コブラがシュッと噛み付くような勢いで、下から手首を取って、しかも足を狙ってるというのは怖いですね。あれは脅威に感じなかった？

アレク　あれは……動きが早すぎてボク

Alexander Otsuka

にはそんなゆとりはなかったですね。あとから見れば、これがマルコの技術かってわかるんでしょうけど。

島田　あのヒール（・ホールド）に入るタイミングは早かったですよね。

――それを逃れたアレクは再び上になるも、今度は腕をカンヌキ状態にされたまま足を使って裏返されてしまいました。

アレク「あ！　やっちゃった～」っていう感じですね。その次の展開を考えないといけないと思って、ひっついて。残り時間も2～3分でしたから、パンチを何発かもらっても、ひっついていれば大丈夫だって思ってました。

――そこからこじ開けられてパンチを何発かもらい、カメになりましたね。

アレク　後頭部にはパンチができないルールでしたから、マウントを取られて顔面を殴られるよりも後ろを向いちゃった方がいいやと思ったんです。

――あれも戦略だったと。1Rの残りは1分30秒、なんとか1Rを凌げ、アレク！　という空気が充満する中、マルコの太い腕が首に巻きついてきた。スリーパーだァァァ！（なぜかコーフン状態）。あそこで東京ドーム中に悲鳴が巻き起こりましたね。

のものも　あたしも叫んだぁ～。

――叫んだ！　なんて？

のものも「きゃあ～」って。黄色い悲鳴で叫んでましたぁ（笑）。

――さすがだ（笑）。場内も絶対絶命という雰囲気だ！

島田　絶体絶命じゃないですよ～。だって全然首に入ってないですもん。は～い。

アレク　マルコ選手もあそこで極めたかったんでしょうね。全然ポイントがズレて締めてましたから、無我夢中で。むしろ上にずれちゃって頬骨が痛かったですよぉ。

――フェースロック状態。でも、ビジョンじゃよく見えないから。

アレク　そうですね。残り30秒ぐらいでスリーパーが入っちゃったんで、「うわぁ！」と思いましたけど、キッチリ入ってなかったんで耐えられるなって。あそこではヘタに技術とか使って離れちゃうよりも、あのまま耐えた方がプロレスラー的ですし。

――ガハハ！　あれも見せ場？

アレク　また、そこでも出てくるんですよ～。プロレスラーの性が（微笑）。鼻血をドロドロ垂れ流しながら「アレク～！」って言われながら耐えた方が感動するじゃないですか。「拍手くるぞ～」って思いながら耐えてたんですよ。んむはぁ。そういう思いともう一方では、マルコが必死になって力を使ってますから、これで2Rにはバテるだろうという予想もたってたんで一石二鳥でいいなと。これは試合が終わったから言ってるんじゃなくて、ホントに試合中にそうやって考えてましたから。

――イカレてる（笑）。バーリ・トゥードでこうやったらファンが感動するだろうって考えるっていうのは凄いね（笑）。

島田　怒りますよ（笑）。

――真面目にやってる人はね（笑）。

アレク　ボクだって真面目にやってますよぉ～！

島田　でも観客がいるわけだから、それは必要なことですよ。●●みたいなのはダメですよ！

――ガハハ。それで1R終了のゴングが鳴って、鼻血を出しながら耐えきった。場内は安堵のタメ息ですよ。マルコは力をだいぶ使ったのかだいぶ疲れているようでした。

アレク　はい。でもインターバルの時は「ボクも疲れた～」って思ってました。でも、セコンド陣は盛り上がってましたね。特に社長が。

――社長が何を言ったか覚えてます？

ジリジリと体勢を崩しながらマルコを倒したアレク。ハーフガードを取られながらも、上から的確に鼻と目を狙ったパンチでマルコを追い込んでいく。この時くらいから、「アレク勝利」の予感がドームを包む。マルコは出血により、さらに戦意を奪われ、とうとう3Rを放棄。その瞬間、プロレス界の救世主というより、格闘技界もひっくるめた、マット界のニュー・ヒーローが誕生した！

Alexander Otsuka

アレク 「アレク！　絶対にお前が勝つよ！　今日はお前がヒーローだ！」って。さっきの言葉です（笑）。

――ガハハハハ！　またもや（笑）。いいなあ、素敵な世界ですよ（笑）。

【2R】

――迎えた第2R。マルコはやはり相当スタミナをロスしてるようでした。

アレク ボクもかなり疲れてるんで、スタミナを回復するためにも様子を見ようかって思って。だけど、相手の方もかなり疲れてたんで「これはただ見てるだけじゃもったいない」と思って、ちょっとずつちょっとずつプレッシャーを与えながらコーナーに詰めていった。で、コーナー近くになったんで、取れやしないだろうけど一発タックルに入って、さらにプレッシャーをかけようと。

――マルコがそのタックルを切って、そこから押し込んでコーナーに詰めた。

アレク そうしたらダブルアーム・スープレックスにいかれるような体勢になって。ああいう形で関節を極めるのをマルコさんはやるんですよ。ただそこまでの力が残ってなかった。それでスルッと抜けて一気にコーナーに詰めたんです。

――近藤隆夫君は、さかんに「大塚選手は2Rまでもったんだから何か仕掛けないとまずいですよ」とコメントしてました。

アレク だ～からオレが仕掛けてるんですよ～（怒）。

島田 格闘技がわからんのに格闘技を語るな！　メ●ラ、カ●ワ、早●、短●！　これ書いていいですよ！

――ガハハハ！　熱いぜユージ！（笑）。

アレク ボクが小さいプレッシャーをかけてるから、じわじわマルコが下がっていったんですよ。

――それでコーナー際から、引きつけて足を掛けて倒しました。

アレク 実はその倒すまでに葛藤があったんですね。

――というと？

アレク あそこで腕の力に余力が残っていればフロント・スープレックスしたかったんですよ！

――わぁお！　イカすぜアレク！（笑）。

アレク なんですけど、力が無かったんで自分の体力が回復するまで待ってたんですよ。パンチとか膝とか入れながら赤コーナーの回りにいたお客さんの顔を見てました。田代まさし、赤井英和、髙橋義生さん、藤原紀香。それに昔ボクが出ていたバラエティー番組「渋谷系裏リンゴ」で共演した裏リン・ギャルらしき女の子がいたんでジーッと見てたんです。そうしたら不思議なことに向こうもこっちを見てたんですよ～。んむはぁ（微笑）。

――当たり前だよ、試合を見てるんだから。あなたを見てなかったらどうするんですか（笑）。

アレク そうこうしているうちに体力が回復してきたから足を掛けて、マルコにロープを背負わせながらジックリ倒しました。

――倒してからアレクの素晴らしい攻撃が始まるわけですよ！　ハーフガードに絡めとられながらも、小刻みに、的確に鼻と目を狙ってコツコツぶん殴っていきましたね。

アレク それはもうシッカリ見てましたから。

――「倒した時にはイケルと思った」って言ってましたね。

アレク そうですね。最初に殴り始めた時にマルコの目の光がだいぶ弱ってきたことがわかっていたし、それを見た時に「イケル！」と思いましたね。

――マルコの血だらけの顔がオーロラビジョンに映って、場内はどよめきと大歓声の渦！　「もしかしたらイケる」と観客の期待値もググーンとバイアグラ級ですよ。1Rと逆でマルコがアレクの猛攻を耐えきったという場面。そしてしばらくマルコは立てなかった。

【3R前】

――そしてインターバルですね。

アレク そこでまた石川社長の……。

――やっぱり言いましたか！（笑）。

アレク 「アレク！　絶対にお前が勝つよ！　今日はお前がヒーローだ！」。

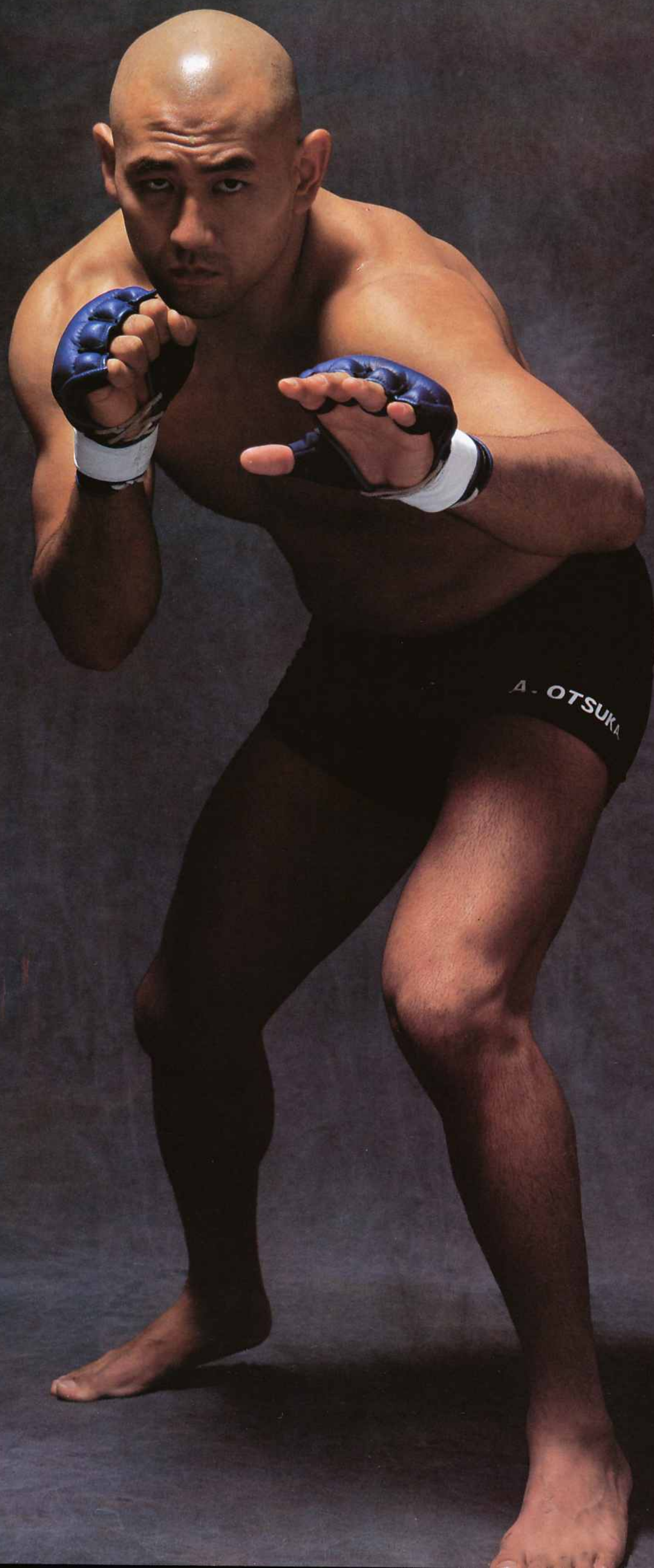
――ガハハハハハ！　で、3Rが始まる頃には、マルコはドクター・チェックを受けた。そしてマルコは再びコーナーから出てくることなく、「マルコの放棄試合です」っていうアナウンスがあった。ドームが大爆発しましたね！

アレク んむはぁ～（笑）。

島田 いい宣伝になった、両国の（笑）。

――ガハハハハハ！　そう！　その宣伝といえば最後にマイクで、「プロレスファンのお陰です」とドーム中を感動させておきながら、「11月23日両国、モハと組んでロード・ウォーリアーズとやります！」と言って、思いきり引かせましたね。

アレク さすがにその時はボクも「うわぁ、引いてる～」って思って。でも、あとから考えたら唐突過ぎたし、マルコ・

四角いジャングル
RADICAL

血をドロドロ流しながら耐えた方が感動的じゃないですか。んむはぁ

A. OTSUKA

ドームで初めて『"AO" corner』を聞いた方　もう一度、両国に聞きにきてください

ファスに勝ったボクに酔いしれてるのに、そこで「そんなことを言ってもな」っていう（笑）。

―あれは20世紀最大にカッコよくて、20世紀最大にマヌケなマイクでしたね。

島田　あれは痛快でしたね（笑）。失敗したのがあそこで両国のポスターを持ってなかったことだよ（笑）。

―まさに熱闘コマーシャルだ（笑）。凄いよな。でも、プロレスの世界にしかありえない世界ってあるじゃないですか。それが格闘技界から過小評価されてるというのが非常に悔しいところですね。

島田　いいですよ。だってメ●ラですもん。どんなに美しいシーンを見たってメ●ラなんだから見えないですもん。

―プロレスの"広さ"は首を90度曲げてみれば"深さ"なのに、首が不自由な人が多いんですよ。そういえば、隠れたドラマがまだあったんですよね。

アレク　え〜、なんですか？

【試合終了後】

―引き上げてきた控室前の通路で、通路中に響き渡る声でアレクが「やった〜」って叫んだ。そのあとになんて言ったと思う、のものも？

のものも　ん？　なになに？

―「うちのカミサン、どこにいますかね。連れてこれますかね」ですよ（笑）。そこで僕は機転を利かして、うちのノブに「スタンド席にいるから連れて来い！」って言ったんだよ（笑）。

のものも　うふふふふふぅぅ。

―『ロッキー』に「エイドリア〜ン」って叫ぶシーンがあったでしょ。それが控室前の通路で見れるかと思ったの。そしたら子供を抱えてるのものもを見て、「愛ちゃ〜ん」だって（笑）。

アレク　あれは照れ隠しですよ。んむはぁ（微笑）。

島田　ホントは子供を投げ捨てても抱きしめたかったはずですね、は〜い。

アレク　投げ捨てはしないですよ〜（怒）。

―だけど、こういう家庭的な、昔気質の格闘技ファンが嫌うような話も、プロとしての結果を出せば光るんですよ。だから僕は、あの日の興行を見ててプロとアマチュアあるいはセミプロの闘い模様の差を一番感じましたね。

アレク　はい。

―だってね、試合前にアンケートを取ったら、「出場選手の中で一番強い人と思う人は誰？」っていう質問では、アレクが一位だったんだから。

アレク　そうなんですかぁ？

―ところが試合後は、「一番弱い人と思う人ランキング」でヒクソンに次いで2位ですよ！

のものも　ほえ〜。ホントぉぉぉ〜！

島田　報知新聞も「ヒクソンを倒すのはアレクサンダー大塚か……」で終わってますからね。

―「愛ちゃ〜ん！」って言ってる人間が「ヒクソンに勝てる」というイメージを持たれた。だから、イメージっていう言葉は、「実体がない」っていう悪い意味で捉えられたりするけど、プロはイメージをリング上から突き刺す作業ですからね。

アレク　うん。

―勝っても負けてもイメージは突き刺せますよね。それがたとえプロレスにしてもプロ格闘技にしても。

アレク　そうですよね。だから、ボクは積極的にプロらしい試合をしようとしてジャイアント・スイングにもトライしようとしたんですよ。

―そのイメージを突き刺すという作業は、底力がないとできないと思うんですよ。その底力を見極めるのにプロレスも格闘技もないですよね。アレクは結果を出して、その上にイメージを突き刺したんだから、プロとしてベストな仕事をしたわけですよ。

アレク　そんなに誉めて、そろそろまとめに入りましたね？（笑）。

―んむはぁ（笑）。バレた？　格闘技

馬場、鶴田、天龍、長州など日本のトッププレスラー相手に強烈無比なインパクトを残し、佐々木健介（パワー・ウォリアー）とトリオを組んだこともあるウォリアーズの脅威がアレクとモハを襲う！　一体、暴走戦士相手にアレク＆モハはどう立ち向かうのか？　ウッシャー！

Alexander Otsuka

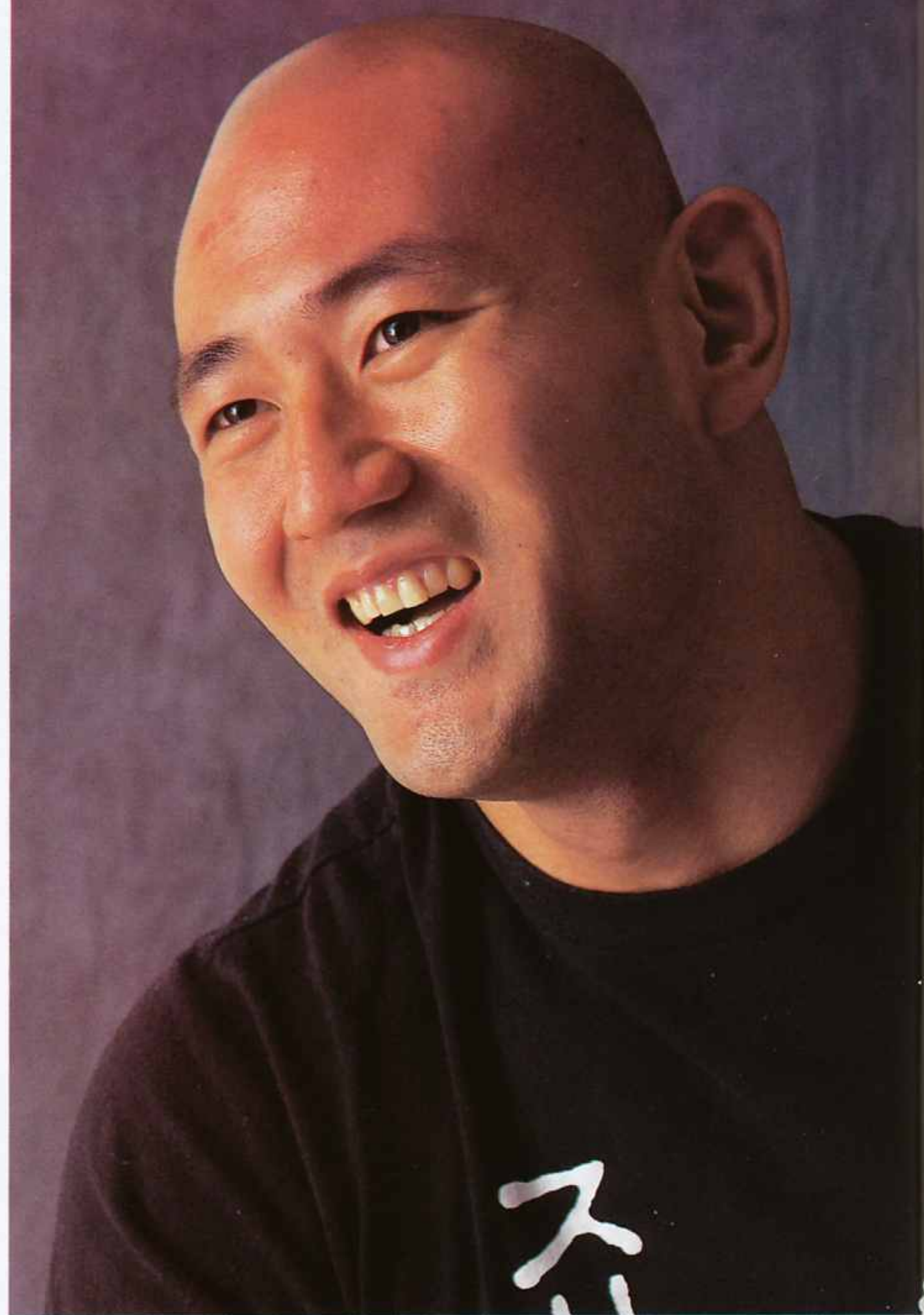
マルコ戦の５日後の10・17には、バトラーツの越谷道場で行われたＦＣ限定マッチに出場したアレク。ウォリアーズ戦に向けての合体攻撃、タッチワークの予行演習とばかりに、モハと組んで日高郁人＆岡本衛と対戦したのだった。（撮影＝のものも）

四角いジャングル RADICAL

が劇画だとしたら、プロレスを漫画と思って軽んじてる。「漫画は劇画にはかなわない。しょせん漫画は漫画だよ」って。でも、漫画だろうが劇画だろうが、表現方法が違うだけで、書いてる人に底力がなければ届くわけないんですよ。

アレク あ〜、はいはい。そうですね。

島田 ん〜、そんなことどうでもいいから、両国のこともちゃんと煽ってくださいよ〜。

——うるせえな（笑）。こういうのを食っていくための底力というんだろうね（笑）。で、その11月23日にはプロの権化のロード・ウォリアーズとヨネとのタッグで当たることになりました。

アレク そこでもまた、マルコ戦のような感動させるような試合をしないとダメですね〜。だけど、やっぱりロード・ウォリアーズの試合を見て自分が感動したいなぁと。

——でもマルコ・ファスからロードウォーリアーズへ。この振り幅の勢いはアレクサンダー大塚が目指す世界じゃないんですか？

アレク こういう両極端というか。できることなら、ボクが一番望んでいたカードは、『PRIDE.4』の翌日、つまり98年10月12日にザ・マジックマンと闘うことだったんですよね。んむはぁ（微笑）。でも、前（号）でも言いましたけど、プロレスではスランプなんで、そのロード・ウォリアーズ戦をやることによって、必ずスランプを打破しようと思いますね。

——マルコ戦はスランプ打破になったでしょう。

アレク いや、きっかけに過ぎないです！（キッパリ）。

——ガハハハハ！ 素敵だ！（笑）。

アレク これでスランプにストップをかけて、ロード・ウォリアーズ戦で一気に復調の拍車をかけるんです！

——マルコ・ファスとはタイプの違う世界の強豪、ウォリアーズ相手にアレク選手が何をやるのか、実に楽しみですね。ね、のものも？

のものも あたしも早く見たいですぅ。愛もそう思ってますぅ。

アレク 頑張りますよ！ ドームで初めて『“AO” corner』を聴いた方がほとんどだと思いますが、もう一度しっかりと両国国技館に『“AO” corner』を聞きにきてください！ ボクたちが夢見たプロレスの世界をみなさんの目の前で再現しますんで。それをビデオじゃなくて現実のものとして見に来てください！

——いいシメです（笑）。

アレク んむはぁ（微笑）。

のものも ほえ〜（大笑）。

愛 アゥゥ、ンギャ〜ンギャ〜（泣）。

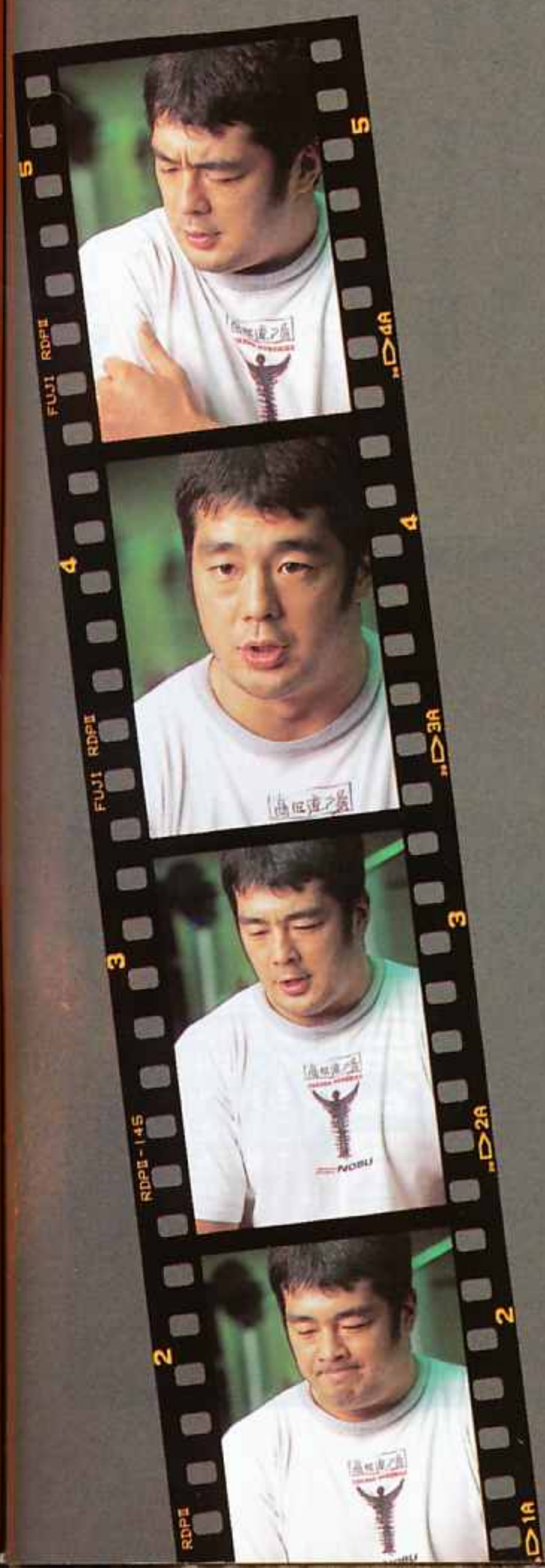
【10月14日／六本木アートセンターにて収録】

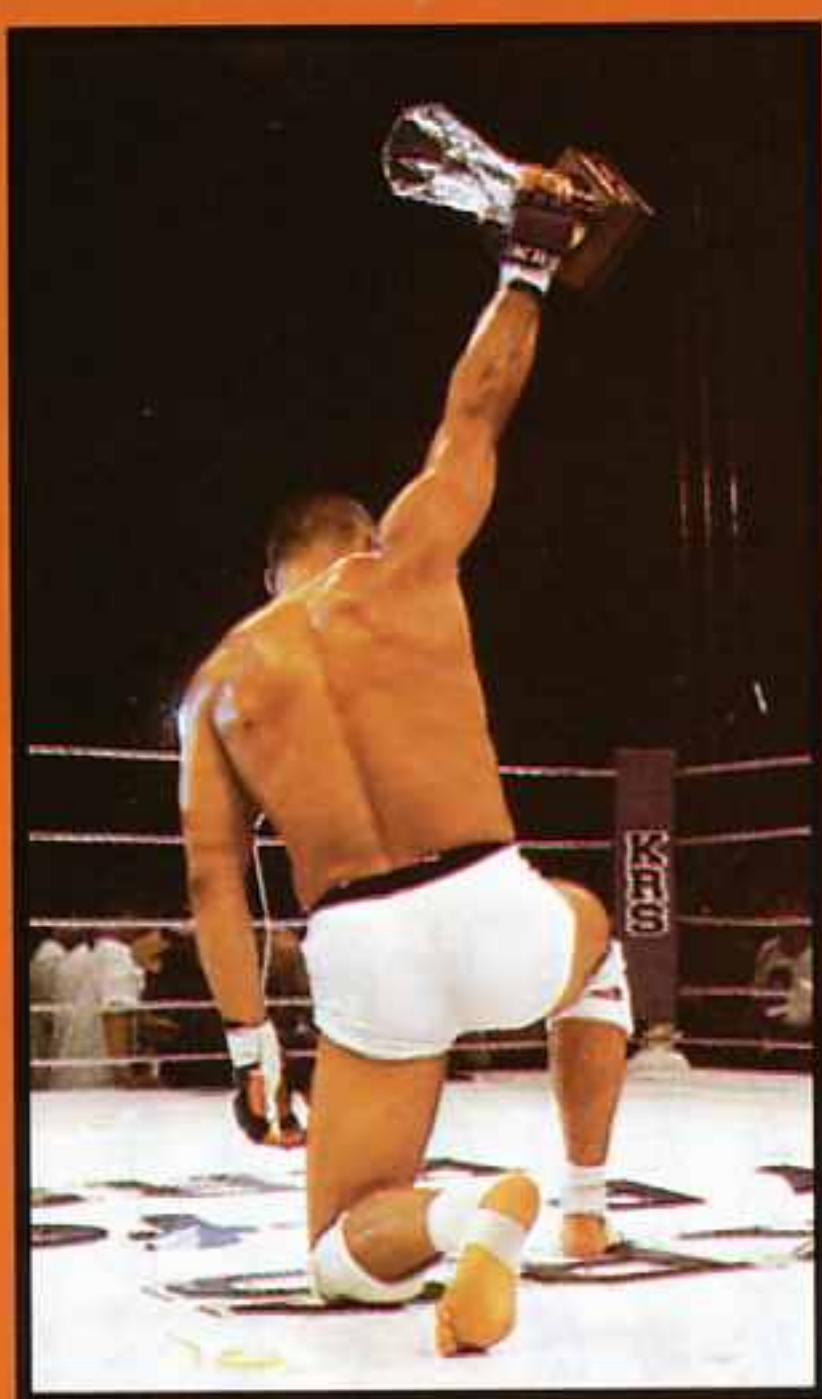
2度目のヒクソン戦、終わった！ 負けた！

俺は今回ほど、人の喜ぶ顔が見たくて勝ちたいと思ったことはないね

Nobuhiko Takada

勝つまでやれや INTERVIEW

四角いジャングル
RADICAL

髙田延彦

98・10・11東京ドーム――。世紀のリベンジマッチを迎えた
髙田はスコブルいい顔をしていた。ドームを揺るがす
髙田コールに迎えられた花道では笑みさえこぼし、
まったくといっていいほどふてぶてしく映る。
コールを受けるときの髙田が光りを放つ。
髙田は〝カッコつけしい〟ではなく、
もともとカッコよかったことを誰もが思いだした。
いつしか身につけた、ただ重いだけの旧式の〝鎧〟。
もの凄い落差でドン底まで落ちた髙田は、
その鎧を脱ぎ捨て、裸のまま大地を走り出した。
裸の髙田はこの1年で底力という、
2度と離れないナチュラルな鎧を身体に張り付け、
闘いの陣地取りへと繰り出した。
3万6千人は総バイアグラ状態!
行け、髙田! GOGO、髙田!
しかしヒクソンも敵ながらあっぱれ! 憎いほどうまかった。
どーする髙田!? 最大級の興奮をもたらしてくれた
髙田延彦へ本誌はキッパリとこの言葉を送りたい!
男なら! 勝つまでやれや、勝つまで!!

聞き手/山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi
撮影/遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

——去年はヒクソン戦の後、ハワイに行ったらしいですけど、今年はどこに行ったんですか？

高田　ん？　六本木！　去年ハワイに行ってさ、太陽を1回も見てないんだよ。太陽が沈む頃に起き出して。それで二日酔いでしょ。夜はまた飲みに行くでしょ。ハワイに何しに行ったかわからなかったよ（笑）。どこに行っても同じだから、今年は六本木！　3日連続！

——痛飲ですか。今年は去年より、お酒も少しはおいしく感じました？

高田　それはあんまり変わらないね（心の底から悔しそうに）。

——奥さんの向井亜紀さんからは、どんな言葉をかけられたんですか？

高田　う〜ん、「お疲れさま」くらいだね。どんな試合に関しても、結果については何も言わないから。去年は彼女も泣いてたけど、今年はそういうようなこともなかった。

——一緒に飲みに行ったんですか？

高田　そう。

——浴びるように飲んだ？

高田　浴びるようにっていうか、泳いでるようなもんだよね（笑）。

——泳ぎましたか？　試合後のコメントで「3度目を」と高田さんは言ってましたけど、いまでもその気持ちは変わらないですか？

高田　それが日に日に強くなってくるんだよ。もう、ここまで来たら10回20回、いや100回でもやりたいね！　なんとしても!!　常識的に考えたら3回目も無理だろうと思うけど、1回目も2回目も実現したのは運が良かった部分があるからね。自分の運を信じたいね。

——時間がたてばたつほど悔しさって増すもんでしょうね。

高田　そうだね（心の底から悔しそうに）。今日はマンタン状態！

——マンタンですか！　ああ、悪い日に来ちゃったなぁ（笑）。

高田　ん？　いや、いい日だよ（笑）。

——仮にブラジルに乗り込んででも再戦をっていう気持ちはありますか。

高田　それでもOK！　まあ、自分としては日本のファンが見てる前でやれることに越したことはないけどね。ただ、日本以外で無理だと思う。向こうのギャラのことを考えたら。

——だけど、現実の結果を受けとめた上で言いますけど、僕から見たら凄く面白い試合でしたね。会場の興奮度、観客の期待度の高さも含めて。

高田　やってても面白かったよ、過程は。でも、やっぱり結果だね。

——高田さん的には今年も何らかの問題提起が出来た試合だったということですかね。

高田　うーん、そう……だね。戦術的なものに関してもそうだし、2度目ということに対する期待感とかも感じたしね。去年と違った問題提起ができたんじゃないかとは思いますよ。

——「全格闘家にヒクソンはそんなでもないよ、というヒントを与えられた試合だった」と、試合後に言ってましたけど。

高田　2ラウンドまで行けなかったことが、あの結果を招く自分の中での大きなポイントだよね。

高田がオフェンスの姿勢をみせる度にドームに津波のような歓声が巻き起こる。行け！　高田！　GOGOノブ！　アグレッシブにアキレス、ヒールと2度足を取りにいった高田だったが、しかし、焦りすぎたのかホールドするまでには至らなかった。

意外にもヒクソンを転がして“ヒクソンの家”である、グラウンドにもっていった高田！！　「だって簡単に転がっちゃうんだもん」とは高田の弁だ。作戦ミスとみるか、相手の家に乗り込んでいった心意気をみるか、どちらにしても目の離せない展開だった

「ブン殴り合いに活路を見いだしたかった」高田。高田はロープ際、コーナーに詰めた状態でヒザをコツコツ当てていった。一度はボディへのヒザで尻モチをつくようにダウンしたヒクソンに対して、まだ高田の表情も去年に比べたら断然余裕があった

——4分47秒という去年の試合タイムは試合中、気になりましたか。

高田　まったく気にならなかった。何度も言ってるように短くても自分が納得できる試合ができて、その上で勝てればそれが一番だし。5ラウンド、10ラウンドとダラダラやってればつまらない試合になる。いかに悔いのない試合にするかっていうことしか頭になかったからね。

——去年と比べてヒクソンの感触というのはどうでしたか。

高田　結果的に負けてるから相手のことは言えないよね（笑）。

——せっかくだから言ってください（笑）。

高田　ただ、勝つためには何をしなければいけないのか、今回は本当に手に取るように確信が持てた！　相手は神でも超人でもないし、ただの柔術のオッサンだから（笑）。

——柔術のオッサン！　気持ちいいですね（笑）。

高田　ただし、あの闘い方の中での勝ち方を熟知してるオッサンだね。でも、そこを崩すことは不可能じゃない。今回はホントに〝強いな〟っていうよりも、〝うまくやられたな〟っていう思いの方が強いんだよね。ただ、最初に狙ったアキレスが、彼に対するプレゼントになっちゃったね。

——逆に瞬間的でも〝イケるな〟って思った場面はありましたか？

高田　う〜ん、「もらった」っていう瞬間はないけど、全体として力が強いとも思わないし、足腰が強いわけじゃないし。ポイントはマウントに入る時のうまさだと思うんですよ。ピンポイントで入ってくるうまさがあるんで、そこをカットすれば違った結果になったかもわからないね。

相手は神でも超人でもないし、ただの〃柔術のオッサン〃だから

四角いジャングル RADICAL

ね。でも、負けてグチャグチャ言うのもさ、「所詮負けたじゃないか」って言われればそれまでだからね。あとは神様にお願いして、3回目をもらいたいっていうね。そうしたら違う結果を出します。

――しかし、あの試合の興奮っていったらないですよね。ああいった興奮というか熱というかテーマがなければマット界は正直言ってもたないと思いますよ。だからというわけでもないけど、「3度目は、ある」といきたいもんですね（笑）。

高田　ね？　20世紀は終わらないよね（笑）。

――来年は1999年だから、高田さんがリベンジを果たして「20世紀はもうオシマイ！」という方が気持ちいいですね（笑）。ところで今日、ここに来る前に前田さんに試合のビデオを見てもらったんですよ。そしたら、「まだ、いつもの高田じゃないな」って言ってましたね。

高田　ヒクソンは常に及第点を出してくる、常に安定した精神力と実力を持っている選手だと思うんだよね。だから、ピンポイントでの捌き方っていうのが今回肌を合わせてわかったわけだから、あとは経験だよね。

――あと前田さんは、「高田は慎重に行きすぎた」「もっと自信を持って厳しくいった方がよかった」とも言ってましたね。

高田　俺としては立ち技のブン殴り合いから活路を見出していくっていうのがベストだったんだよね。だから、組みついた時っていうのは極力慎重にならざるをえなかった。

――立ち技の攻防でいうと、コーナーに詰めてるときに、ヒクソンが高田さんの後頭部にパンチを入れて、高田さんがレフェリーに注意を促してましたね。

高田　だって、いけないんだもん！（爽やかに）。

――ガハハハハ！　反則だもん！（笑）。

高田　そう。反則だもん（笑）。

――でも、そのあと高田さんも後頭部に1発やり返してましたね（笑）。

高田　うん。1発ね（爽やかに）。

――今度はヒクソンがレフェリーに注意を促してました（笑）。

高田　1回は1回だから！（笑）。

――1回は1回！　気持ちは引いてなかったということですよね。そういえばゴングが鳴る瞬間、高田さんは、コーナーに戻るか戻らないかしないうちにすぐさまパッと振り向いて、陣地取りでいえば中央を確保しようとした。それを察知したヒクソンも短期決戦を狙ってるからというだけじゃない部分で、いきなり胴タックルを仕掛けてきましたね。

高田　とにかく気持ちの中で後ろに下がらない試合をしなきゃいけない。だから、あそこで1回コーナーに下がって「せーの！」でやるのが嫌だったんだよ。だから、いつもだったらコーナーに下がって「せーの！」なんだけど、今回はとにかくそういう姿勢はダメだと思ってたからね。

――僕はあの一瞬が一番ドキドキして面白かったですね。

高田　あ、そう。

――あの瞬間に両者のこの一戦における戦術や、ここまでの1年間の思いや意気込み。いろんなものが絡み合って立ち昇ったような気がするんですよ。

高田　あとで見てみよ（笑）。

――すかさず胴タックルを仕掛けてきたヒクソンもさすがだなと思ったし、高田さんも去年とは意気込みが全然違うなって思ったし、あの場面を見れただけで「帰ってもいいや」って思いましたよ（笑）。

高田　帰っちゃダメだよ！（笑）。だけど、あんなにいきなり胴タックルにくるのも反則だよね、あれ？（笑）。

――いや、あれは反則じゃないです（笑）。

高田　あ、そう（笑）。あの時はね、一発で足の内側を蹴り砕いてやろうって思ってたんだよ。そういった部分に関しては思いきり大胆にいきたかったしね。

――そういったことも含めて、今回の負けについては現実として受け入れられましたか。

高田　現実を受け止めなきゃしゃ～ないんですよ！　今回も完璧に負けたんですよ！　それは現実に出た答えなんだから認める。そこからやってる本人がどの方向に発想を展開するかでしょ。マスコミ

ヒールにいくところを立ち上がられて、マウントを取るチャンスを与えてしまった高田。足を狙う作戦は多くの格闘家が打倒・ヒクソンの突破口として挙げていたことだが、さすがはヒクソン。足狙いに対しても一筋縄ではいかなかった

ヒールをうまく抜けて再びマウントを取ったヒクソン。この絶体絶命の体勢にも高田はブリッジなどで勝負への執着をみせた。が、こうなったらヒクソンは勝手知ったる自分の部屋に帰ってきたようなもの。安堵の表情を浮かべるようにフィニッシュを狙う

マウントを幾度か抜けた高田だが、１Ｒ残り30秒でマウント防御をミスしてしまった。ヒクソンはマウントをおとりにするようにクルッと回りながら電光石火の逆十字！　皮肉にも昨年と同じフィニッシュ！　もうこうなったら「勝つまでやれや！」である

Nobu Taka

負けを受け止めながら〃行く道〃っていうのは3度目に必ずブッ倒す！ その道を信じて行くよ!!

Nobuhiko Takada

あたりに、「去年よりは進歩があった」とか言われると、逆に悔しい。子供が大人に突っかかって行ってるようなシチュエーションに見られてるようでさ。負けは負けだから！

――そういうことですね。

高田 やっぱり全然満足してないし、今年は試合前も試合中も常に勝ちたいと思ってやってた試合だから。そういった意味では負けを受け止めながらも、〃行く道〃っていうのは3度目に絶対にブッ倒す！ その道を信じて行くよ。何を言われようがね。俺は今回ほど、人の喜ぶ顔が見たいから勝ちたいと思ったことはないね。自分じゃないんだ。今日、ここ（東京ドーム）に来てくれて、俺を応援してくれてる人の喜ぶ顔が見たくて。それだけだったんだ。それを実現したいんだ！ それができなかったのが悔しいよ。

――これから高田さんの方からヒクソン側に何かしらモーションを起こしていくということですか。

高田 少しでもこっちに気を引くようなシチュエーションをつくっていきたいね。

――試合後の控室でも高田さんは「武道家ならば金、金と言わず、3度目を受けてほしい」って言ってましたね。いっそプロレスファンがスポンサーになればいいんですけどね（笑）。

高田 いいね。ヒクソン基金ってやつ（笑）。

――そうそう（笑）。

高田 それはでも、凄いプレッシャーかかるよ！ 今度はホントにプロレスを背負うことになるよ。前代未聞だね（笑）。

――今回うちで試合後にアンケートを取ったんです。その代表的意見としては「今夜の高田延彦は昨年以上に輝いていた」「これからだ」「勇気をもらった」とか、そういう意見がほぼ大多数を占めてるんです。

高田 ファンの言葉っていうのはホントに響くよね。一番パワーになる。ファックスとか手紙でも、大体そういう言葉なんですよ。反対に否定的に捉えてる人もいると思う。そう思ってる人はなおのこと「もう1回」っていうことがバカげてると感じてるはずなんだよね。だけど、人のことを気にしてたら、おそらく2回目もやってないと思うんだよね。

――そうですね。だから、そういった部分を感じとったからこそ、好意的な意見が出てきてるんだと思いますよ。リング上から「なんとでも言ってくれ」という、きれい事でも開き直りでもない部分は突き刺せたと思うんですよね。

高田 やっぱり自分がどうするべきか、どうしたいのか。その結論が3回目以外考えられない。「ヒクソンはもういいよ」っていう気持ちはまったくない！ できてもできなくても、それに向けてのトレーニングをしなければいけないし、自分の状態を良くするための試合もしていかなきゃいけない。だから、負け惜しみではなく、また目標を持てたってことに関しては幸せだなって思ってますけどね。

――もう「勝つまでやれや！」っていう気分ですね、僕は（笑）。そうじゃないと「プロレス」じゃないですよね。従来のプロレスにはない物語が新しい「プロレス」をつくるというか。

高田 俺、3回目があってこそ「プロレス」って気がするけどね。それは俺が考えてる「プロレス」だけどね。3回目をやることによって、この闘いの意味合いっていうのが見えてくるっていうかね。そこに何か、人生とかドラマっていうものがつくられていくなって気がするんだよね。自然発生的に。だから、3回目は絶対に掴まなきゃいけない宿命にあるような気がするんだよ。

――そうなってこそ、プロレスラー・高田延彦というのが生きてきますよね。

高田 これで掴んだらね。いや、必ず実現するんだって信じてるから。

――ただ、さっきのファンの好意的な声の裏側では、「プロレスファンは負けた者に温かすぎる」「プロレスラーは〃甘えの構造〃を断ち切らなければダメだ」という声もあるんですよ。

高田 （しばらく考えて）それは極論すぎる！ 要するに、その人が感じたものが、そのまま表現として出てきたり批判であったりするわけだから。それに対して第三者がとやかく言う必要はないと思うよ。俺に対して批判する人間はその人の感性だからそれでいいしね。だから、「もっと厳しくしなければいけない」とか「甘くしなければいけない」とか音頭を取る必要はないと思いますよ。むしろ、それは強引な論法だと思うね。俺はどっちも経験してるからよくわかるんだ。最初の武藤敬司戦（95・10・9）、去年のヒクソン戦は典型的な例だよね。どっちにしたってリングに上がってる者が結果を出せばいいわけだからね。だから、プロレスファンが特に温かすぎるわけではないと思うね。そういう意見がどっから出てきてるのか知らないけど、逆に言ったらプロレスラーに対する偏見とか嫉妬の裏返しなんだよ。

――〃甘えの構造を断ち切らなければいけない〃っていうのは、ストイックなイメージを持つ者への幻想が膨らんだ結果だと思うんですよ。そのストイックな者の像にピタッとハマったのがヒクソンだったわけですよね。

高田 うん。

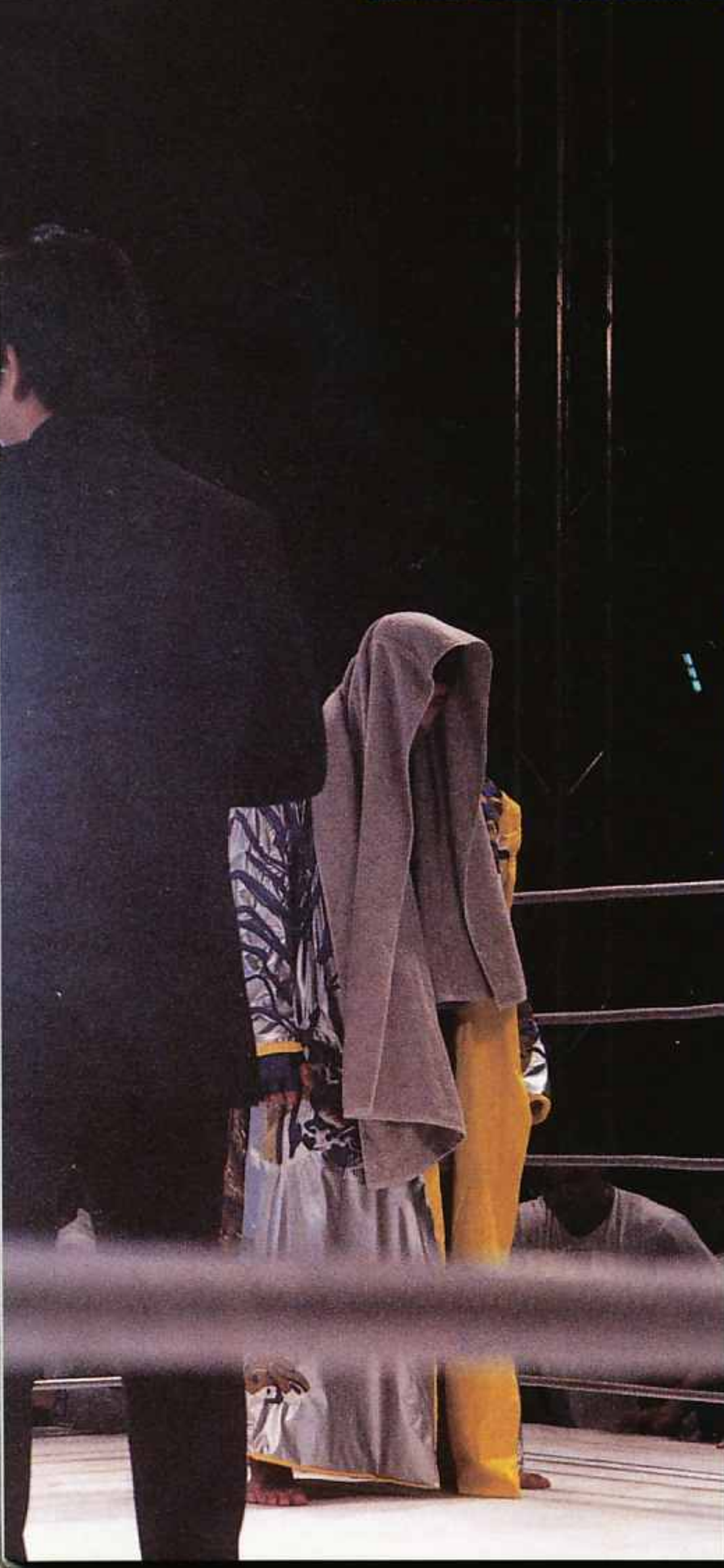
――でもそのヒクソンに関しては、格闘技マスコミと言われる人たちがつくってきたイメージの部分ってすごく大きいと思いますね。

高田 だから、山篭りみたいなものも一種の演出なんだよね。演出としては凄いけども、もはやそんなものはリングには必要ないし。その山篭りみたいなものに、いまの日本人が忘れている何かを感じるわけで、それをもとに大袈裟にヒクソンが振る舞ってるだけという気がするね。

――高田さんもそのイメージに去年はハマってた時期があったわけですよね。

高田 一番ハマってたんだろうね。一番ハマってるヤツがリングに上がったらダメだよね（笑）。でもさ、あれだけ言うん

ラウン

ヒ

だったら、最初はド突き合いぐらいはしてきてもいいと思うよね。最初からベタ〜って来るなっちゅうの！　あんなのに抱きつかれたくないって（笑）。

――高田さんが、スタンドの攻防の中からヒクソンを転がす場面がありましたね。あれは突き放そうとして転がしたわけですか？　それともグラウンドに自らもっていこうと思って倒したわけですか。

高田　すぐに転がりそうだったから、転がしちゃえと思ってね。あいつがガード・ポジションを取ってる間は絶対に極められないっていう自信があったから。そこから先は臨機応変。足を取れたら足を取ってもいい。だから、あの時グラウンドにもっていったことに関しては、自分では無謀だと思ってない。ただ、俺が足を取ったことで相手にマウントを取るチャンスを与えてしまったけどね。だけど、それは結果であって。オフェンスの姿勢を見せたかったしね。

――オフェンスですか。3度目を実現させるためのオフェンスということでいえば、他の対戦相手を突破していって3度目に辿りつくっていう方法もありますよね。例えばホイス・グレイシー戦も噂レベルとしては出てますけど。

高田　そういうアイディアはあると思うね。ホイスに関しては興味ないってことはないよ。まあ、面白いかなという感じだね。

――面白いと思いますよ。実の弟がやられたら、柔術のオッサンも出てこざるをえないでしょう（笑）。

高田　そうだね。

Nobuhiko Takada

――それから去年と同じフィニッシュとなった腕十字ですが、「タップするのが早すぎる」という声もありますね。「あと30秒くらい我慢しろ」「折れたっていいじゃないか」という声ですね。

高田　それは要するにもっと意気込みを見せろということだよね。でも、あと30秒我慢したら、2ラウンド目は生きてないよ。もう、（逆十字に）入った瞬間に完全に伸びきって、それでもヒクソンはまだいくって感じだったからね。完璧に極まったのがわかったから。「しゃあないな」って感覚で。

――だから、潔すぎるということでしょうね。でも、前田さんも「あれを耐えるのは無理や」って言ってました。

高田　そういった心意気は勝って見せたい！　そんなところで耐えてカッコつけるんじゃなくてね。

――去年と同じ逆十字でのフィニッシュに関してはどう思ってます？

高田　あの場面で、右手の逆十字に入られたのはやられたって感じだね。

――だけど、あの最後のマウントをなんとか防いでいれば……。

高田　もうさぁ、“たら”“れば”はやめようよ。悔しいんだから、俺だって（笑）。自分の闘いをテレビで見たんだけど、やっぱり悔しいよ！　結局「ああすれば良かった」「なぜ、ここで――」っていうところに行き着いちゃうからね。

――その悔しいという気持ちは、ブッ倒すまで持ち続けてもらいたいですよね。ところで猪木さんなんです（笑）。

高田　出た！（笑）。

――猪木さんは、「プロレスが勝った負けたというが、高田がプロレスじゃなくなってるところが違う」とコメントしてましたが。

高田　よくわかんないね（笑）。

――要するに、高田延彦はもうプロレスの世界にはいないんだっていうことですよね。

高田　なるほど。ところであの人はプロレスの世界にいるの？（笑）。

――わかりません。地球にいるのかすらわからないですから（笑）。あと猪木さんは「やりたいことをやったんだから、いいんじゃないかな」とも言ってました。

高田　あの人も大人になったね（笑）。それよりいま猪木さんは自分のことじゃない？　人のことはいいからさ（笑）。

――ガハハハハ。なるほど。ヒクソン戦という役割の他に、マット界という目で見ると、高田延彦の役割はどうなっていくんでしょう。団体や道場間のパイプ役になるのか、それとも選手として目標とする結果を出して、次の世代に禅譲していくのか。

高田　選手としてはヒクソンを倒すことが第一。選手じゃないところでは俗に言われているU系がもっともっと大きくなってファンの人たちが喜んでくれるようなものを提供できて、そして選手がよくなるような状況を作っていきたいね。

――そのU系にはUFOは入るんですか？（笑）。

高田　入らない。いまのところは入らない（笑）。

――引退ということは考えてないわけですね。

高田　うん。それは100％。でもさ、「ごく近い将来（引退します）」って言ってからずいぶんたつよね、俺も（笑）。

もうさぁ、〝たら〟〝れば〟はやめようよ 悔しいんだから、俺だって！（笑）

——ガハハハハ！「ごく近い将来」からはだいぶたってますね（笑）。

高田　だけど、俺は辞めたら帰ってこないから。大仁田じゃないから。テリー・ファンクじゃないからね（笑）。

——そうなると、なおさら打倒・ヒクソンですね。いま俗にいうU系って言いましたけど、いま30歳前の選手、桜庭選手なり髙阪選手がトップを取る勢いを見せてますが、高田さんの世代から見ると、この辺の選手たちはマット界という視野に立ってみると何をやっていけばいいんでしょう。

高田　彼らは素晴らしいよね。ただ、漠然とだけど、一生懸命練習して一生懸命試合してっていうだけじゃダメなんじゃないかって気がするんだよね。

——僕もそう思います。

高田　競技者としてはそれでいいんだろうけど、それだけじゃあ、これ以上道は広がらないと思うんだよね。だけど「じゃあ、どうしたらいいの？」っていうところで明確に答えが出ない部分がある。凄い疑問が残るし、ある部分不安でもある。そこに風穴を開けるようなきっかけが何かないとね。もっと大きなムーブメントが起こせるようなきっかけがないと。じゃあ、そのムーブメントって一体なんなの？っていうことだよね。桜庭はUFC—Jで優勝してるし、誰にも文句がつけられないいい試合してるし。髙阪もそうだしね。それでも大きなムーブメントにならない現状を受けとめなければね。

——そうですね。これだけ素晴らしい結果を出してるのに、なかなかマット界自体が爆発しないですよね。

高田　例えばパンクラスとリングスの交流？　高田道場が入っていくことで線が結ばれていって、それがきっかけになっていく。それはやらなければいけないことだと思う。一番可能性があることだと思うから。でも、ホントにこれは直感なんだけど、それが本当に風を起こすのかっていう疑問って感じるんだよ。感じない？

——いわゆるU系の再編というだけじゃダメだと思いますね。漠然とですけど。

高田　まあ、一時期盛り上がっても、そんなに大きな風が吹くのかなって。それはマット界の地盤沈下なのか不景気からなのか、あるいは俺がヒクソンに負けたことのツケが回ってきてるのかわからないけど、なんか肌寒いっていうかね。前は「こうすれば凄いよ」っていうひらめきってあったんだよ、常に。でも、いまはそういう大きな予感がないんだよね。確かにいいカードは組めるんだけど。

——僕はプロレスラーやプロ格闘家のプロ意識。「わかんない人はわかんないでいい」じゃなくて、わかんない人でもこっちに振り向かせるくらいの勢いがあるプロ意識が必要だと思うんですよ。

高田　うん、わかるよ。

——さっき桜庭さんに「（アラン・）ゴエス戦いい試合でしたね。一般の人にはわかんないでしょうけど」って言ったら、「僕らは一般の人にでもわからせなきゃいけないんですよ」って言ってましたね。

高田　そこだよね！　あのレベルにいる選手が「わかんないならわかんないでいい」と思っちゃったら、それこそ終わりだろうからね。

——ファン側も熱狂しながら観察してるように、選手側も技術という〝剣〟の部分と同時に、世間の人になんて言われようと跳ね返せる精神的な〝鎧〟を見せつけてほしいですよね。わかんない人を引っぱり込むような。

高田　うん。古い時代のプロ意識じゃなくて、新しい時代のプロ意識だね。

——今回、そういう意味では、あれだけ叩かれた高田さんがまた戦場に出向いた

四角いジャングル RADICAL

来年の10・11に会おうぜ！ってね（笑）マット界にはもっと大きな夢が必要だしね

Nobuhiko Takada

っていう部分では、深い部分での精神的な〝鎧〟を見せてもらいましたからね。

高田　だからこそ、勝ちたかったね。マット界にはもっと大きな夢というかパワーが必要だしね。いまのマット界は、ここを直せばいいとかじゃないから。

――いま世の中全体に元気がないじゃないですか。だから、リング上から圧倒的な〝底力〟を見せてほしいはずなんですよ、ファンは。その中には高田さんがヒクソンに勝つっていうのも含まれるだろうし、ブラジル勢を圧倒するってのもあるだろうし。ズバリ言えば、ドキドキワクワクするものですよね。シチュエーションも含めて。

高田　そうだね。でも、そのドキドキワクワクするものを模索しなきゃいけないって状況がもどかしいよね。

――だから、来年10・11にヒクソンと3度目をやって、今度こそキッチリ落とし前をつけましょう（笑）。それは実にデカイきっかけになりますよ。

高田　もう日にちまで決まっちゃってるの？（笑）。

――いま決めました（笑）。

高田　ヒクソン基金でね（笑）。

――でも、ファンはそのぐらいのことはやりたいはずですよ。ファンだってエネルギーを使いたがってるんですから。じゃなければ、ドーム中に高田コールがあれだけ鳴り響かないですよ。

高田　来年の10・11に会おうぜ！ってね（笑）。

――ヒクソンを倒すのは高田さんたちの世代じゃなきゃダメだと思うんですよ。漠然とですけど（笑）。

高田　向こうは俺より年上だしね。

――願わくば日本対ブラジルの全面対抗戦とかやったら燃えますよね。だけど、高田さんの顔を見てると、マット界に火を付ける秘策が何かありそうですね。

高田　そういう意味での引き出しは多いからね。技術的な引き出しは少ないけど（笑）。ね？

――何も言ってませんよ（笑）。高田さんは見事に会社一個潰してますしね（笑）。

高田　それは俺が言うことだよ。山口さんには言われたくない！（笑）。

――はい（笑）。じゃあ、最後に応援してくれたファンにひと言お願いします。

高田　はい。ああいう結果になりましたけど、期待に応えられなくて申し訳ないと思ってます。自分の中の気持ちとして必ず3回目ができることを信じてトレーニングを積み、試合をやっていきますので、ぜひファンの人たちもそれについてきてください。

――高田延彦の底力を突き刺してもらうまでは、うちも高田延彦を追っかけますよ。高田さんじゃないですけど、うちのモットーは「なんとでも言ってくれ」ですから（笑）。

高田　ファンのみなさん『紙のプロレス』をよろしくお願いします（笑）。って、なんか選挙みたいになっちゃったな。でも、ホントになんと言われようと、3度目を実現させたいね。

【10月16日／高田道場にて収録】

ノブ兄さんから「応援ありがとう」サイン入りプレだ!!

Front　Back

完敗？　惜敗？　いずれにしても、ヒクソン戦で最高級の興奮をもたらしてくれたノブ兄さん。でも、ああ、勝ってりゃあもっと興奮できたのに。でも、“たら”“れば”はやめようね。ということで、3度目はある！　ということを信じて待ちたいキミに、ノブ兄さんからプレゼントがあるぜ！　10・11ドームで限定200枚しか売られなかったスペシャルTシャツをサイン入りでくれてやる！　近々4000円で再発売されるらしいが、サイン入りだけに鬼レアだ。応募方法は、読プレページ参照。希望の欄に「3度目は、ある！　高田サイン入りTシャツ希望」と書いて送っておくれ。（読プレページの）応募券なきものは1度目（の当選）も、ない！

試合前

●もう泣かせないでくれ。最強をもう一度
（杉田ふみのり／22歳／社会人）

●高田とりあえず勝て!! プロレスがやばい
（柳沢靖彦／24歳／フリーター）

●うまい酒を飲ませてくれ!
（渡辺真也／23／男／フリーター）

●勝てなくても勝って
（立野暢之／15歳／学生）

●今、人生でくすぶっているのは高田選手だけじゃなくたくさんのひとがいる。努力をしてもむくわれていない人はたくさんいる。あきらめかけている人もいる。高田選手の勝利がそんな人達に勇気を与えてくれると思ってます。がんばってください。
（上条裕二／20歳／フリーター）

●今度こそ勝て!!
（コウノユウコ／23歳／女）

●うで、折られても闘ってください
（植松宏樹／25歳／造園業）

●去年の出来事が間違いである事をこの目で確かめに来ました。ぜひ我々の目の前で歴史を変えて下さい。応援してます。
（安田卓史／24歳／学生）

●前みたいにあっさりはやめて。意地でも勝って。FIGHT!
（Ｙｕｋｉ．Ａ／21歳／会社員）

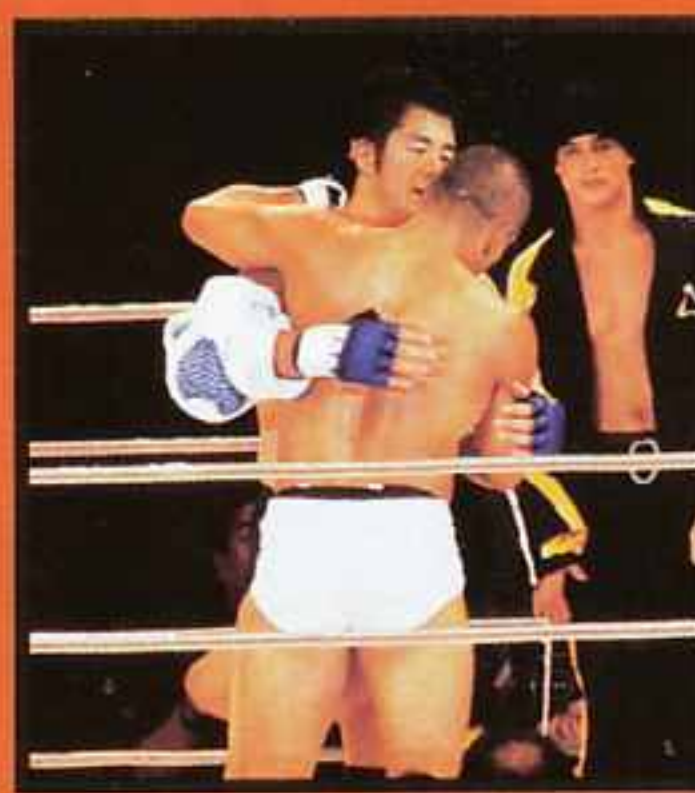
●『紙プロ』誌上であなたの元気な姿を見て勝利を確信しました。がんばれ高田、もう一度最強を目指せ
（今津啓／24歳／フリーター）

●プロレスラーの代表として今回は必ず勝ってください。次はもうないです。ヒクソンが泣いてる姿を見たい。
（山之城舞／21歳／ＯＬ）

●オレは信じてる。一年前は本当の高田じゃない
（栗原昭夫／35歳／会社員）

●ぜひ勝って社会げんしょうになって下さい
（石田智也／23歳／学生）

救いの論理？甘えの構造？何でも言ってくれ！ボクらは髙田を見続ける!!

試合後

●よくがんばった。
（横井伸之／28歳／フリーター）

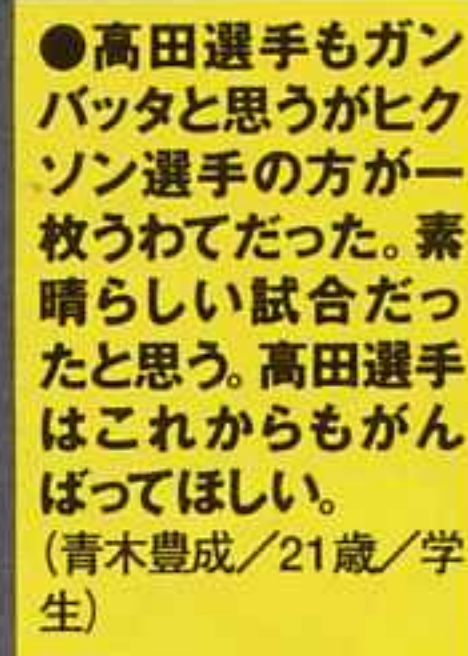
●アキレスケン固めをやった事が運のツキ。ヒクソンはバカじゃない！ 安生もアルバレス（U－JAPAN）でアキレスから逆転されたのを思い出した。もうすこしで勝てる。いけばわかるさ！
（矢谷亮平／22歳／サラリーマン）

●すごくよかった。高田より前田って感じじゃったけど高田色に染まった。カレリン倒したら前田やけど
（近藤止／20歳／学生）

●よくやった
（則松徹／19歳／浪人生）

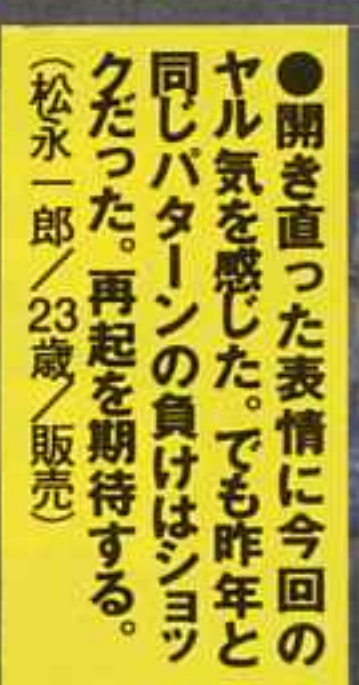
●今日は、おつかれ様でした。去年よりもずっと中身の濃い試合で楽しませてもらいました。今日の高田はカッコ良かった。ホレます。
（山崎麻由美／25歳／ＯＬ）

●よくがんばった。興奮したのでOKでしょう。しかし勝って欲しかった。
（辰巳理香／23歳女／販売員）

●高田選手、残念でした。でもかっこ良かったです。
（山本由美／27歳／会社員）

●高田選手もガンバッタと思うがヒクソン選手の方が一枚うわてだった。素晴らしい試合だったと思う。高田選手はこれからもがんばってほしい。
（青木豊成／21歳／学生）

●スタンディングヒールホールド決まっていれば歴史が変わったはず。惜しかったです。
（鈴木貴久／31歳／会社員）

●こころをみださないぎじつをあと学べば最強に近くなります
（ブノタカプセル／13歳／無職）

●何らかの形でまたプロレスファンを楽しませてください
（ＪＵＮ／23歳／フリーター）

●開き直った表情に今回のヤル気を感じた。でも昨年と同じパターンの負けはショックだった。再起を期待する。
（松永一郎／23歳／販売）

●この一年よくがんばり、試合にのぞんだ姿は大変評価したいと思う。だが、柔術に対し、同じ練習を積んで同じ土俵に立つ事はどう考えても不利なので高田の持ち味のスタンドでガンガン攻めた方がよかったと思う
（大工園博／23歳／画家）

四角いジャングル RADICAL

前田日明が「高田vsヒクソン戦」を斬る!!

&「アレクvsマルコ戦」

「日本マット界全部が地盤沈下でどうすんねん！高田やられたよ、どうすんの！」——昨年、高田がヒクソンに完敗を喫した時の前田日明のイラだちぶりは尋常ではなかった。「断言します！　やります、ヒクソンと！」——自ら高田の仇討ちまで明言した。そんな前田は、「高田vsヒクソン再戦」をどう見たのか。イギリスから帰国した直後の前田にビデオを見てもらいながら語ってもらった。日明兄さんの言葉を耳の穴をかっぽじってからよ〜く聞け！

最後の十字の取られ方にしても、俺から言えば、まだ普段の高田じゃないよ！

聞き手／山口日昇
Interview by Noboru Yamaguchi
撮影／斉藤ユーリ
Photographs by Yuri Saito

相手に考えさせる間を与えることが一番怖いことなんだよ

四角いジャングル RADICAL

一時は高田のセコンドにつくともいわれていた前田日明だが、高田とヒクソンの再戦が行われる10月11日はリングスUKの旗揚げに立ち会ったためにイギリスにいた。帰国したのは16日。成田空港からそのままリングス事務所に直行してもらい、高田vsヒクソンをビデオで見てもらった。
結果だけは知っていたためか、「負けたもんはしゃーないやろ！」と、去年とは違って、リラックス・ムードで前田はVTRのリモコンの再生ボタンを押したが……。

■高田vsヒクソンのVを
ひと通り見終わって■

——一番印象に残ったシーンはどこですか。
前田 最初のヒクソンのダウンだね。
（もう一度自分でVを巻き戻して最初から試合を見直す）
【開始直後のスタンドの攻防】
前田 ここでもうちょっとプレッシャーをかければよかったんだよ。
——腿へのヒザは嫌がってますよね。
前田 嫌がってる。（ヒクソンは）苦しそうだね、けっこう。もっとヒクソンの気持ちのリズムを乱さなあかんよね。
【高田がボディへのヒザでダウンを奪う】
前田 入った、ミゾオチ。いや、レバーやレバー。レバーに入った！ ダウンした。
——ヒクソンが寝技に引き込むために作戦として倒れたって説もあるんですけど。
前田 いや、ダウンだね。顔を見たらわかるやん。あれは腹が効いてる顔だよ。
（巻き戻して何度もダウン場面を見直す）
前田 凄い嫌がってるな。ヒクソンは差されてるんで、自分の重心を下げるのに精一杯なんだよ。うん、レバーに入ってる。キレイにレバー入ってるね。見た？ ダウンだダウン。入ったでしょ。
——このあとにヒクソンの情けない顔がオーロラビジョンに映ったんですよ。実に気持ちよかったですね（笑）。
前田 （ヒクソンのダウンシーンをスロー再生しながら）ここでね、ヒクソンの腰がパッと落ちた瞬間にね、俺だったら頭を抑えて乗っかって縮めちゃうよ、体重乗せて。ちっちゃく真上からプレッシャーを与えてね。首で背中を殺して丸めていくような感じで抑えていって首を持ったら、取れたと思うんだよね。それが取れなかったとしても、そのまま後ろに逃がして十字にいったりとか変化ができたよ。人間の身体って背筋が死んじゃうと力が出ないからね。凄いチャンスだった。ここで腹も効いてるから力も出ないし。ここで休ませちゃダメだね。ダッシュかけなきゃいけないところだよ。
【高田が振り回すようにヒクソンを転がす。高田が上でヒクソンはガード・ポジション】
——ここで倒さずにスタンドで勝負した方がよかったという意見もありますね。
前田 全然そんなことないよ。全然そんなことないんだけど、（高田の）戦略がダメだよ。さっきのロープ際の攻防の時もそうだし、この時でもプレッシャーを与えないと。ヒクソンを休ませちゃってるじゃない。こういう試合は何が一番怖いかっていうと、どんな技よりも相手に考えさせる間を与えるっていうことが一番ダメなことなんだよ。
【フィニッシュ・シーン】
前田 ああ～。
（Vを止める）
前田 いまのフィニッシュはね、「マウントいくぞ、マウントいくぞ」っていうフェイントをかけて、高田の身体を素通りして頭を押さえてパッと十字にいったヒクソンがうまかったね。高田はまたがれた時点で瞬間的にマウントからのパンチが来ると思って一瞬手を伸ばしてしまった。パンチを防ぐために。その時に取られてしまった。十字はパッとワイプしちゃえばよかったな。頭の上に足が乗らなかったら、十字なんか絶対かかんない

上の写真では綺麗に入ってはいないが、確かに高田のヒザでガクッと尻モチをつくかように崩れたヒクソン。前田はこの後が最大のチャンスだったという

格闘技は人が嫌がることをやらなアカンねん 今回の一番の敗因は慎重過ぎたっていうのがすべてやね

から。それに、あのグラブ付けてたからグリップが強く握れてないね。ああ、ワイプしたかったな。あまりにもあっさりとやられちゃったよね。パッと手を取られた瞬間に「十字来るな」ってわからないと。あともう一つは、高田自身が頭の中にマウント・パンチっていうものがありすぎたんだと思うよ。だから、手の防御が疎かになってたし、ワイプもできなかった。

——この場合は、ヒクソンがうまかったということですね。

前田　あともう一つは精神的なもんで、高田の試合運びを見てると取りあえず1Rは様子を見て、2Rに勝負をかけようっていう感じなんだよね。それが随所に散見できるんだよ。例えば、コーナーに詰めた時にプレッシャーを与えなきゃアカンのに与えられなかった。反対にヒクソンに考える余裕とか、つけいる余裕を与えてしまった。レバーにいい膝を入れてダウンさせた場面はチャンスだったんだけど、その時もフロント・チョークも何もできなかった。だから、これはヒクソンがどうのこうのっていうよりも、高田のミスが目立つね。高田が自滅したって感じだね、俺からしたら。

四角いジャングル RADICAL

——要するに勝てるチャンスは何回かあったわけですね。

前田　あった！　う〜ん、高田、本気でやってほしいなぁ。ヒクソンなんて、そんな難しい選手じゃないよ。高田は組んでもガンガン行ってほしかったね。格闘技っていうのは、基本的に人の嫌がることをやんなきゃいけないんだよ！　逆に嫌がられなきゃアカンねん。それはどういうことかといったら、平常心じゃないってことなんだよ。

——平常心を失わせる。

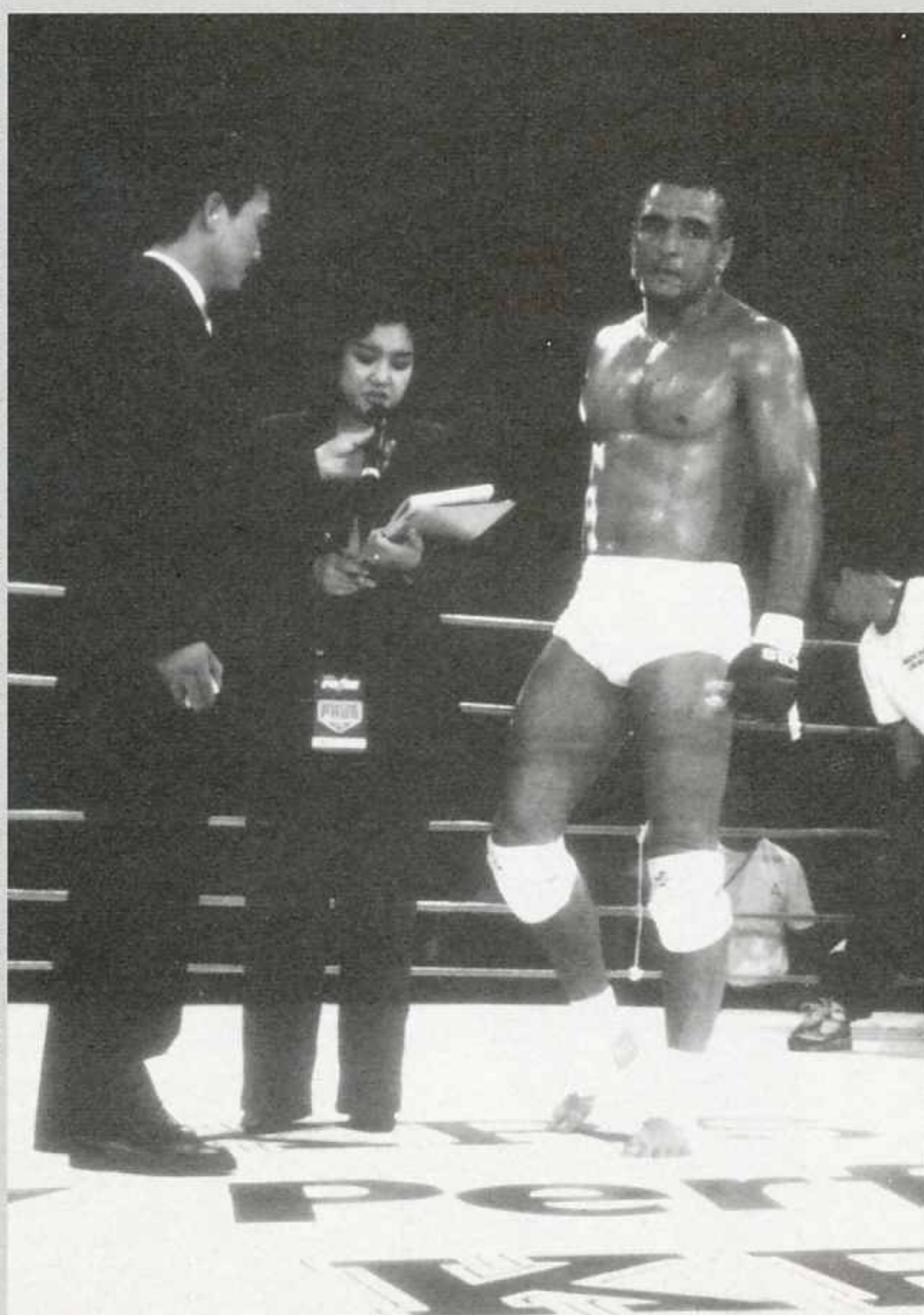
前田　そう。相手のやることを嫌がるということは、普段の自分の気持ちのペースが違うところにあるわけでしょ。自分のペースを守るには、自分を見つめることと相手を見つめることを半々にやってこそ、平静にペースを掴める。つまり、相手を嫌がるということは、自分を見つめる余裕を取っとかなきゃいけないのに、全部相手に目がいっちゃうわけ。それはどういうことかといったらパニックなんだよ、小さなパニック。それが断続的に起こってくると思考も判断も細切れの状態になってくるんだよね。そうなってくるとちっちゃなミスがいっぱい起きてくる。ちっちゃなミスが起きると、ああいう局面での大きいミスに繋がってくる。

——ヒクソンは高田さんに対してどんな嫌がらせをしてたんですか。

前田　ヒクソンはやっぱり、そういった意味での精神的な余裕が凄いあったよね。前回勝ってるということも含めて。で、高田は、実際の局面でもアルティメット・スタイルの定石っていう部分でいうと優しすぎたね！　もっとやるべきことはいっぱいあるのにやってなかった。そういった部分でヒクソンは「これなら大丈夫だ」っていうのがあったんじゃないかな。ただ、惜しむらくはさ、場面的にいっぱいチャンスがあったんだよね。ちょっと高田にも余裕がなかったね。で、なんか慎重過ぎた。今回の一番の敗因は慎重過ぎたっていうのがすべてやね。あの十字の取られ方にしても俺から言わせれば、まだ普段の高田じゃないよ。

——タップが早すぎたっていう声もありますね。

前田　いや、あれはしょうがないね。ピシッと手を挟まれてたし。手が伸びきる前に極まってたね。

——素人考えかもしれないけど、残り30

昨年とは違い、明らかに疲れが滲み出ていた試合後のヒクソン。試合中も高田のヒザを嫌がり神秘的な表情は消え失せた。ヒクソンに落とし前をつける日本人は一体誰なんだ！　ハッキリさせろ!!

秒を我慢してくれれば、とは思っちゃいますよね。

前田　ワイプしたかったな……。

——報道では「高田惨敗」とか、「善戦という名の完敗」とかありますけど、前田さんから見たらニュアンス的にはどういう感じですかね。

前田　だから、無惨とかなんかよりも、もっと厳しくいってもよかったんじゃないか。もっと自信を持って厳しくいってもよかった。2回も勝てるチャンスを作れたんだから。

フィニッシュの逆十字の基本的な防ぎ方を実演を交えて説明する前田。フィニッシュ・シーンを見た前田はかなり悔しそうだった

——前田さんだったら、徹底的に厳しくいってたってことですね。

前田　俺だったら相手に考えさせないように、パンチなりなんなり、なんかしらやったよね。例えばロープ際の攻防の時だって、頭をちょっとずらして押し上げたら身体が伸びちゃうんだよ。その状態でパンチを出せば凄い効くんだよね。身体が伸びると足も棒立ちになってくるしさ。

——ヒクソンは逆十字にいく時に高田さんが1Rを凌ごうとしてるのがわかったから、残り時間で極めてやろうと思ったらしいんですよ。

前田　コーナーに詰めての高田の対処の仕方、ヒクソンがダウンした時の高田の対処の仕方を見れば俺でもそう思うよ。「ああ、1Rは流そうと思ってるんだな」って。ということは、高田としても「もうすぐ1Rも終わりなんだな」ってフッと気が抜けたかもわかんないね。惜しむらくは、周りの「やれ去年4分で負けたうんぬん」の声によって慎重になりすぎたんちゃうかなぁ。

——去年より長く闘おうという方に気がいっちゃったということですか？

前田　それはわかんないけどね。無意識にそういうのがあったかもわからんし。同じ4分でも地獄のような4分もあれば、天国のような4分もあるんだからさ。見る者にとっても、やる者にとっても。

——あらためてヒクソン・グレイシーをどう思いますか。

前田　ヒクソンの実像がだいぶハゲてきたね、正直言ってね。「ああ、こういう選手なんだな」ってね。ただやっぱり勝負どころをよくわかってる選手だよ。意外と、みんなが思ってるよりせっかちな性格で、自分が危険な立場に立ったら即勝負に出るみたいなさ。チャンスのあとにピンチがあって、ピンチのあとにチャンスがある。ヒクソンとやる時はいつもそれを頭に入れておかないとダメだね。

——高田さんは試合後のコメントで、「もう少し時間をくれれば間違いなく倒せる相手だ」って言ってましたけど？

前田　そうやね。それは間違いないと思うわ。俺もそう思う。終わってから気付いたんでしょ。あんな慎重にいくことはなかったみたいだね。

——リング上の高田さんの顔はどう見えますか、去年と比べて。

前田　リング上にパッと上がった瞬間の顔を見たら、高田の方が割となんか、淡々と試合に入れそうだったね。ヒクソンの方が「嫌だな〜」っていう顔に見えた。どっちかっていうとね。

——高田さんは、「武道家だったら、金、金と言わずに3回目を受けてほしい」とも言ってましたよ。

前田　「金、金」って言うんだったらハッキリ言って武道家じゃないよ。アイツは自分のことを武術家とか、サムライとか言うでしょ。武術家とか、サムライという意味の中に金というイメージはこれっぽっちもないよ。

——サムライとか、ヒクソンが雲の上の存在であるっていうのはグレイシー側や格闘技マスコミが作ってきた……。

前田　幻想やね！　それにマスコミの人間もリングの上の人間もなぜか踊らされてな。ちゃうやろ！　お前ら、何でメシ食ってんねん！　俺から言わせれば、「お前たち何年やってんの？」っていう感じだよ。ド素人じゃあるまいし。彼が400戦無敗っていっても、日本でやった5戦？　6戦か？　それが無敗っていうだけでね。でも、武道家とか言いながら、ヒクソンのセリフはプロレスラーみたいなことを言うもんな（笑）。

——ヒクソンはいいプロレスラーですよ（笑）。毎回言うことは同じですけどね。前田さんはズバリ言ってファイターとしてヒクソンとやってみたいとは思わないですか。どこでやるとか条件等とかは抜きにして。

前田　いまは興味があるとしか言えないね。興味はあるけどね。

——ヒクソンは、「観客は高田選手の訓練の過程を見たいのではなく、勝つ高田選手の姿を見たいのだと思います」と言ってますね。

前田　そりゃ、そうやろ！　あなたに言われるまでもありませんって感じやね。余計なお世話や！

——高田さんが連敗したことによって、マット界にはどういう影響が出てくるんですかね。

前田　どうなんだろうね。でも、俺は桜庭にしろ大塚にしろ高阪にしろさ、いろんなヤツが出てきてるわけだから、マット界全体にはそんな影響はないと思うけどね。もう高田とか俺の時代じゃないでしょ。

——僕らは前田さん、高田さんを見てきた世代だから、高田さんには結果出してほしいですけどね。

前田　でも、若いヤツが結果出した方がいいんじゃない。いつまでも、俺だ高田だって言ってたら先は見えないよ。

アレクの快挙に日明兄さん激白！「大塚の子供なら産んでやってもええで」

「大塚、やったらしいやん」――実は、高田VSヒクソン戦についてのことよりも、先に前田日明の口をついて出てきたのが、アレクのことだった。VTRを見ても興奮しっぱなしの日明兄さん。例え団体は違っても、日本勢がブラジルの強豪を下した快挙には無邪気に喜ぶ。「刻一刻の体験をいちいち感動として受けとめていく能力と体力」を持った大先輩が、アレクVSマルコ戦を語る……れそうもないので、「アレクVSマルコ戦を見る前田日明を見る」ということで、VTRを見ながら叫ぶ兄さんの声を拾ってみました。

※

前田　大したもんやな。アレクサンダーの奥さん、山口君とこで働いてたんでしょ？　アゲマンやな（笑）。うちの坂田（亘）にセリ勝った時も思ったけどさ。大したヤツや、こいつ。根性あるやん、こいつ。大したもんだよ。

〈1R序盤スリーパーを逃れたアレクが上になりキープ〉

前田　（アレクがパンチを時折コツコツ当てていく）お！　いいねぇ。嫌がらせしないとな。「やだなぁ」って思ってる間にわけわからんようになるんだよ、人間は。OK！　シバけぇ～。

〈アレクが上になり、マルコがクロスガード〉

前田　頭突き行け！　頭突きなしか？

――頭突きはなしです（笑）。

〈1R終盤、アレクが残り30秒でスリーパーに掴まえられる＝アレク最大のピンチ〉

前田　これは大丈夫や。「カメになったら絶対に首を取られる」って言ってるバカがいるけどさ、そんなことは全然ないよ。大丈夫、大丈夫。ぜ～んぜん大丈夫だよ。あの体勢だったら、俺が素人を思いっきり絞めても大丈夫。アゴが胸についてるから全然へーキ。そんなこともわからんとつべこべ言うな、アホ！（解説者に向かって）。

〈2Rのゴング〉

前田　スタミナないね、マルコ。ヒクソンも意外とスタミナないんだよ、あいつ。（アレクのタイツに入ってるロゴを指し）ダイエット・ブッチャーって何？

〈マルコをコーナーに詰めて、プレッシャーを与え続けるアレク〉

前田　いいねぇ～。シバけぇ～！　よしよしよし。高田がこれやったらヒクソンも嫌がったろうな。高田は慎重になりすぎたよ。

〈2R後半。マルコにハーフガードの体勢を取られながらも鼻と目に的確にパンチを振り下ろしていくアレク〉

前田　シバけシバけ！　やっぱり顔ですよ、顔！　だいたい顔のキレイな人間はね、顔を殴られただけで動揺するんだよ。動揺するか、カッと頭に来ちゃうんだよ。だからマーク・ケアーみたいなのは顔殴られてもなんでもないんや（笑）。

〈アレクのパンチが確実に功を奏しはじめる〉

前田　よし！　シバけ～、行け！

〈マルコが流れる血を手で拭う場面が大写しになる〉

前田　血が出てドキッ！としたんやな。シバけシバけ！　血ィ出た、血ィ出た。顔が切れちゃったよ。あ～あ。（さらにパンチのラッシュ）よしよし！　いいなぁ、いいところでダッシュするじゃん、大塚。さすがじゃん。（パンチ）いいねぇ。（パンチ）いいねぇ～。スゴイいいよぉ～。大したもんだよ、大塚。大塚に会ったら言っといて。「愛してる」って。「大塚の子供だったら、いつ産んでもいいよ」って。へっへっへ。

〈3Rになっても、マルコは出てこずにタオルが入り、アレク激勝！〉

前田　やった～。

――ガハハハハハ！　どうでしたか、アレクサンダー大塚の男っぷりは。

前田　良かったね。こういう試合っていうのは、いかにプレッシャーを与えさせないか。またはプレッシャーを与えるかですよ。

――このアレク選手の勝利の陰には高阪剛がいますからね。

前田　そういえば高阪が「教える」って言ってたね。凄い心配したんだよ。「大丈夫か？　そんなマッチメイクやって」って。高田に話を聞いたらマルコは強いって聞いたからさ。

――TKシザーズも伝授したらしいですよ、高阪さんが。

前田　あ、そう。高阪は偉い！　そして高阪を育てた俺はもっと偉い！（笑）。

――ガハハハハハ！　そうきますか。

前田　最初に言葉ありき、汝自身を知れ。俺はなんて偉いんだろうってね。へっへっへっへっへ。

前田日明まで感動させてしまったアレクも凄いが（さすがモーホー?）、あげまんのののものもも凄い。ほえ～

四角いジャングル RADICAL

アレクの男っぷりのいい闘いぶり（さすがモーホー?）に、なぜか日明兄さんの目尻は垂れっ放し。最終的には団体の垣根なく日本マット界の将来を憂いているのだ！

来年2月。高田延彦のリベンジマッチの次は日明兄さんの出陣だ。先刻ご承知の通り、日明兄さんがリングスとは別枠の引退試合の相手に選んだのは"人類最強の男"との異名を持つ、アレクサンダー・カレリン。日本マット界に真の怪物がやってくる。頼むぞ、日明兄さん！

※

——アレクサンダー大塚の話題が出たところで、カレリン戦が決定しましたけど、いまだに実現しないんじゃないかという声を聞くんですけど。

前田　え？　いまも？　まだあるの？　ホント。そいつらの名前教えて？　俺が賭けようって言ってたって（笑）。

——ガハハハハ！　それぐらい大物だってことですよね（笑）。

前田　そうそうそう。うちはカレリン戦に関しては試合以外にもいろんな契約結んでるし。面白くなるよ。

——場所はまだ決まらないんですか。

前田　とりあえず横浜アリーナを押さえてあるんだけど。ドームでやれないかと手をつくしてるけどね。

——ヒクソンなんかも含めて、格闘技世界大戦みたいな様相になってきましたね。

夢の中に、蹴ろうが掴まえようがどうやっても倒れなくてリングの上でウンウン唸ってる自分の姿が出てくるよ

前田　なってきたね。ホントにね。来年はいろんな選手を引っ張り込むから。引っぱり込まれたくない人は気をつけつけるようにね、と（笑）。

——カレリン戦のテーマってなんですか。

前田　カレリンと闘うってことはね、うちらの業界にいるノータリンとクルクル・パーがね、俺らのやってることを実体のないものののように言うじゃない。ウソの世界みたいにさ。俺はハッキリ言うけど、ヒクソンだって、「400戦無敗の証拠ありますか？」って聞かれたら、同じことになるよ。俺たちが知ってる公式記録っていったら日本でやった何戦と向こうでやったデカイのだけでしょ？　しかもね、相手がどのくらい強いのかっていってもわからないやん。でもね、オリンピックのグレコで130キロ級11年間無敗、ヨーロッパ選手権10回優勝、世界選手権8回優勝してオリンピックも3回優勝して今度4回目でしょ。誰の文句もつけようがないんだよね。彼を出すためにロシアのオリンピック委員会、レスリング委員会、国際レスリング連盟全部と話して。それだけでも大変なことなんだよ。誰にもできないよ。今世紀でこれだけリアルな完全無比なキャリアを持ってるヤツなんて誰もいないよ。でしょ？　だから、なぜ連れてきたかと言えば、そういうノータリンどもの目を向かせるためだよ。頭の悪い人にショックを与えるためやね。脳味噌の皺はショックによって刻まれる！

——ヒクソンより、カレリンの方がいまは興味があるということですか。

前田　いまはね。じゃあ、反対にさ、ヒクソンがカレリンとどうやってやるの？　もし現実に試合するとしたらどうやって攻めると思う？

——マウントに行く以前の問題ですね。

前田　倒れないよ。四つに組んで世界で一番強い人間やで。どうやって倒すの？

——逆に前田さんは、そんな恐ろしい相手とどういう風に闘うんですか。

前田　それはその時に考えるよ（笑）。

——ガハハハハ！　そう来ますか。5分2ラウンドだと、また口さがない連中がどうせエキシビションだろうとか、そういう声が上がってくると思うんですけど。

前田　レスリングの本戦だって5分でしょ。エキシビションじゃあらへんやんけ。

——カレリンはリングス・ルールでもOKだって言ったとか。

前田　なにをやっても大丈夫だって自信があるからだろうね。細かい部分の調整はあるだろうけど。

——不気味ですね。

前田　ちょっと不気味だよね。ルールの段階になるとみんな駆け引きがある連中ばっかりじゃない、どんな名の通ったヤツも。そういう駆け引きのないヤツだったんで、ちょっと不気味だよね。時々、夢の中で蹴ろうが掴まえようがどうやっても倒れなくて、"どうしようかな？"ってリングの上でウンウン唸ってる自分の姿が出てくるよ、たま〜に。参ったね。

——来年2月まではファイター前田日明としての意識を働かしていかないといけませんね。

前田　ホント、ホント。

——それにしても忙しそうですからね、前田さんは。大丈夫ですか？

前田　まあ、そんなヤワじゃないよ。昨日今日始まったわけじゃないからね。アレクサンダー大塚だってリングを組み立てて勝ったじゃない。それと同じようなもんですよ。貧乏暇なし！

※カレリン戦については、次号で詳報！

"ゴリラよりも強い男"——。まさに怪物というのに相応しいカレリン。この男相手に前田日明はどう闘うのか——。

やったぜTK! 来年1月にルッテンとUFCヘビー級王座決定戦か

去る10月16日、ブラジルで行われた「アルティメット・ファイティング・チャンピオンシップ」で髙阪剛がピート・ウィリアムスを3―0の判定で下し、またもや一気に名を上げた。次回のＵＦＣは99年１月にアラバマで行われる予定だが、現在ヘビー級王者戦線はランディ・クゥートァー（10・25／ＶＴ―Ｊでエンセン井上と激突）が防衛戦をしていないため、新王者を決定する方向へ向かっている。王者決定戦の候補は「前々王者であるマーク・コールマンを倒したピート・ウィリアムスを撃破した」髙阪剛とバス・ルッテン！　とんでもないカードがオクタゴンで実現しそうだ!!

桜庭の悔し涙!! PRIDE.4大爆発!!

四角いジャングル RADICAL

ビッグマッチ限定のスペシャル観戦記 3者3様 '98 第一回

本誌おなじみのライター陣は世紀の一戦をどう見た!? PRIDE.4

●戦慄の個性派ライター せきしろ

ヒクソン選手はよく頑張りましたね。相手が高田といえども、2連勝してしまうんですから。高田のパンチをもらわないように開始早々タックルを仕掛けるなんてとっても頭脳的だし、コーナーに釘付けにされてたときにも一生懸命高田の脇腹にパンチを打ち続けていたし、ボディに膝蹴りされたときも体勢を崩したけど、涙は堪えました。いまにも涙がこぼれ落ちそうでしたが、少し上を向いてヒクソンは頑張りました。高田に上を取られても泣きませんでした。アキレス腱固めをかけられたときも泣きませんでした。カカトを取られそうになったときも泣きませんでした。そして最後は、いままで何度も何度も練習した腕ひしぎ逆十字で大逆転勝利！　おめでとう、ヒクソン！

というわけで、高田が負けました。がしかし、敗戦直後私にはかすかな希望がまだ残っていました。それは、いままでの興行が全部、じつは引田天功のマジックだったというオチがつくのではという希望。いわば夢オチ。

――ヒクソンの勝利者インタビュー中、颯爽と天功が再登場。騒めく観客。天功が指をパチンと鳴らす。すると高田が入場ゲート横にひっそりかつ不自然に置かれた恐竜の張りぼてのところに瞬間移動！　びっくりする観客。再び天功が指を鳴らす。すると今度はあら不思議！　ヒクソンの両手に武輝の魂が現れる！　眼を丸くするヒクソンと観客。そして三度指を鳴らすと高田とヒクソンの姿は消え、第一試合の選手が入場。そう、ここからが本番。いままでのは全部マジック。佐野の流血も、佐野のボコボコに腫れた顔も、佐野の腑甲斐なさも、全部マジックでした！

そんな夢物語は起こるはずもなく、後楽園ホールで試合があった我らが維震軍の乱入もなく、私はとぼとぼ家路につき、無関係な人たちにあたり散らしました。以上。

ところで、「高田よくやった」的な意見を言うな！　負けは負けです。

●ピリ辛プロレス評論家 椎名基樹

足っ!!

と、前回のカイル・ストゥージョン戦の勝利者インタビューで叫んだとおり、高田は足関節を狙っていたようだった。と、いうよりも、足関節一本に賭けたように見えた。戦前、打撃を指示する声が多かったように思えたが、高田が自分の勝利する姿をイメージできたのが足関節だったのだろう。前回のヒクソン戦と比べると、高田が自分のすべきことを決めてリングに上がったことが、一番良かった点だ。

前回のヒクソン戦の時、『SAMURAI!!』で座談会が開かれて、各分野の専門家の人たちが、「昔の最強のイメージは極真の一撃必殺を代表とする打撃であったが、グレイシー柔術の出現により、寝技にとって変わった」と言っていた。俺は、それを聞いて「このボケナス共!!」と怒りを感じた。俺はいま30歳だが、俺の世代の最強は「倒して極める」だ。そ

アレク、激勝!! 高田、大きく前進!!

れが何かといえば、かつての新日道場を支配していたゴッチイズムだ。「倒して極める」はグレイシーも同じだが、そこにポジショニング、もっと言えばガードポジションという戦法が、グレイシーの出現によって明らかになった。それは、俺にとってコロンブスの卵だった。だから前田日明の〝グレイシーなんて大笑いや〟という発言は、コロンブスの卵を笑う人に感じて、悲しかった。いまは、バーリ・トゥードに出るプロレスラー全員が、ガードポジションを起点に寝技をする。しかし、プロレスラーには、ゴッチイズムがある。インサイドガードから狙うのは、パスガードだけじゃない。強烈な足関節がある。足関節はポジションを奪わなくても行ける。もっとも、速いサブミッションの足関節は、俺にとってゴッチイズムのアイデンティティだ。去年の敗北により、フリチンになった高田が選んだモノが、足関節だったことに、一応俺は満足だ。

しかし、今回もっと輝いたのは、ファスを破ったアレクだ。正直、予想外だった。でも、恥を忍んで言わせてもらえば、アレクが勝つのは当然だ。なぜならば、アレクは27歳、ファスは37歳のクソジジイだ。高田が、相手を受け入れた上で、イデオロギーをぶつけてくれたのは、すごく嬉しい。でも、俺はVTが好きなので、俺のそんなグジャグジャした考えなんてブッ飛ばすくらい、アレクのような若い衆にガンガン頑張ってもらいたい。

●ぼやきマンガの第一人者

花くまゆうさく

新・四角いジャングル

半ソデ半ズボンでいったこともありますが、ブルブル震えました、コーフンしました。選手もファンもひっくるめた男祭りでした。自然と大声を出してました。

イズマイウとファスのブラジル戦士に心からタップを奪った小路とアレク。菊田から凌いだ松井。引き分けてしまった痛恨の菊田。強すぎる桜庭。そんな強い桜庭に対してオープンガードでやりあえるゴエス。圧勝の本間。典型的プロレスラーながら今年はすべてVT出場の佐野。ちょっと?が見えてきたケアー。人間になってしまったウゴ。果敢にひと握りの夢にトライし、スッキリした高田。以前、菊田が言っていた「ヒクソンは85キロの中では強いと思いますけど、重量級と比べちゃかわいそうだと思います」が現実的になってきたヒクソン。

ブラジル戦士たちが世界へ出てきた今年。もう特別に抜きんでたトップではなく、みんな同じ地点に立っている。それが今回のプライド4。

アメリカには、エリクソンがいます。日本では、船木がやっと動いてくれそうだし、リングスには高阪がいます。中軽量級充実の修斗があります。そしてプロレスには、シャムロック、スバーン、フライが上がり、タイソンまで上がった。来年にはカレリンまで上がってくる。そんな世界の上を格闘家再就職先のUFOが飛んでいます。ぐちゃぐちゃなボーダーレス状態です。まさに四角いジャングル。

昔、石井館長がK—1のリング上で「これから新・空手バカ一代の始まりです」と宣言しましたが、今回のプライド4が新・四角いジャングルの始まりだと思いました!

追伸

いくつもあったウワサに心配しててマヌケな私でした。スイマセン。プライド3のおかげでつい半信半疑になってしまいました。

それにしても桜庭選手は強いですね。ケアーやヒクソンにも勝てそうな気がしました。

アレク&のものもさん、おめでとうございます。

そして、さようならウゴ……。しくしく。

世界初のプロレス専門店

レッスル®

営業時間　月～土 AM11:00～PM7:00　日祝祭 AM10:00～PM6:00
年中無休

㊗11・23バトラーツ両国大会記念 池田大輔&田中稔サイン会決定!

バトラーツ池田大輔&田中稔サイン会

11月8日(日) PM1:00～PM2:00
レッスル池袋店

■来る11/23バトラーツ両国大会を記念して、緊急サイン会決定!両国大会のB-CUPトーナメントに出場するFMWでも活躍中の池田大輔選手と両国大会ではJYBスーパーバウトに出場するアメリカ進出を果たした田中稔選手の二大モテモテテスターがレッスルに初登場!
※10/24(土)～11/8(日)のPM12:50までレッスルで1,000円以上のグッズorCDorビデオor11/23の両国大会のチケットお買い上げの方に整理券を配布します。色紙等は各自御持参下さい。

格闘王　前田日明 PART1・2　各¥10,200

7/20ついに引退してしまった前田日明。今回のビデオは前田が新日本マットで繰り広げた名勝負を何と!ノーカットで発売!今まで完全ノーカットではビデオ化になってない試合も多数収録。パート1の見所は猪木、長州、藤波と今では考えられない試合のオンパレード!特に前田の容赦ない蹴り(大車輪キック)その猛攻を大流血で耐え凌ぐ藤波戦は必見!パート2には何とあのドン中矢ニールセン戦がノーカット版が登場!多くのファンが待ち望んだ試合です。他、タッグ戦ながらケンカ腰でやりあった猪木との試合、一部でしか放送されなかったスーパーストロングマシーン戦とスゴイ内容。前田ファンは勿論、プロレスファン必見です。
収録試合　●パート1　vsポールオンドーフ(`83.4/21蔵前凱旋試合)、vsアントニオ猪木(`83.5/27高松　第一回IWGP決勝リーグ戦)、vs長州力(`83.11/3蔵前　新日本vs維新軍4vs4対抗戦)、vs藤原喜明(`86.2/5大阪城)、vs藤波辰巳(`86.6/12大阪城)●パート2　vsドン中矢ニールセン(`86.10/9両国)、前田日明&木戸修vsアントニオ猪木&藤原喜明(`86.12/10大阪城)、前田日明&高田延彦vs藤原喜明&山崎一夫(`87.5/28宮城県IWGPタッグ選手権試合)、vsスーパーストロングマシン(`87.8/20両国)

前田日明メモリアル2　神話篇

～新日本Uターンから新生UWF解散まで～　90分¥6,930

主な収録内容
◆新日Uターン後TVで新日軍団と初対決◆対藤波&木村&星野('86年3月14日鹿児島)新日のエースとの流血の一騎討ち、対藤波辰巳('86年6月12日大阪城ホール)◆格闘王の称号を受けた超有名な格闘技戦、対ドン・中矢・ニールセン戦('86年10月9日蔵前国技館)◆感動の新生U.W.F.旗揚げ戦◆対山崎一夫('88年5月12日後楽園ホール)◆新生U.W.F.の名勝負数え詩第一章、対高田延彦('88年6月11日札幌中島体育センター)◆新生U.W.F.の大成功を確実とした格闘技戦、対ジェラルド・ゴルドー戦('88年8月13日有明コロシアム)◆オランダとの交流が始まった記念すべき第一戦、対クリス・ドールマン('89年5月4日大阪球場)◆師でもある関節技の鬼との死闘再び、対藤原喜明('89年8月13日横浜アリーナ)◆新生U.W.F.の命運を賭けた東京ドーム初進出の大一番、対ウィリー・ウィルヘルム('89年11月29日東京ドーム)◆U.W.F.叩き上げレスラーとの熱血戦、対中野龍雄('90年4月15日博多スターレーン)◆次代のエースとの初対決、対船木誠勝('90年5月4日)◆最初で最後の?一戦、対鈴木みのる('90年5月28日宮城県スポーツセンター)◆対高田延彦('90年6月21日大阪府立体育館)◆対安生洋二('90年8月13日横浜リーナ)◆新生U.W.F.最後の一戦、対船木誠勝('90年10月25日大阪城ホール)他

前田日明メモリアル1　黎明篇

～入門、デビューから第1次U.W.F.まで～　¥6,930

主な収録内容
◆欧州遠征からの帰国第1戦、対ポール・オーンドーフ('83年4月21日蔵前国技館)◆第1回IWGPトーナメントでアントニオ猪木と初対決('83年5月27日高松市民文化センター)◆維新軍団との対抗戦で長州力と初対決('83年11月3日蔵前国技館)◆記念すべきU.W.F.旗揚げ戦、対ダッチ・マンテル('84年4月11日)◆スーパータイガーとU.W.F.実力No.1をかけ激突('84年9月11日後楽園ホール)◆公式リーグ戦で師匠の藤原とケンカ勝負('85年3月2日後楽園ホール)◆若き日の高田伸彦とU魂をぶつけ合った死闘('85年7月17日大阪臨海スポーツセンター)◆旧U.W.F.での最後の闘いとなったスーパータイガーとのセメントマッチ('85年9月2日大阪臨海スポーツセンター)など全12試合/この他、撮りおろしインタビュー、高校時代の空手道場訪問などの未公開映像、入門からデビュー、欧州遠征当時の貴重な未公開写真なども多数収録

フラッシュバック オブ ガイアジャパン　Vol.7　税込¥8,000

後継者は里村…ハイスパート"600"トーナメントを制し、3周年大会のメインを務めた里村対し、ついに長与の口から後継者指名が発せられた!しかし、この一言にKAORU、加藤が激しく反発。沈黙を守る山田を加え、タッグトーナメントを舞台に4者4様それぞれの思惑が交錯する。そして8.23後楽園、里村vs加藤"魂の1800秒"の果てには、何が見えたのか…。

パンクラス5周年記念大会

120分6,930円

`98年9/14日本武道館。パンクラス超ビッグイベント!船木、鈴木、ルッテン、メッツァー、柳沢、近藤、山田親分とジックリ十分堪能。そして、今大会の大注目選手が渡部謙吾!デビュー戦の相手がいきなりパンクラス最強王者バスルッテンという期待度200%の選手です。その風貌も金髪に入れ墨、192cmのタッパも今までの日本人とは違う超日本人!試合も打撃、それも掌打で挑み、ルッテンを慌てさせるという激打撃戦!メインはキング オブ パンクラスのガイメッツァーと未完の大器柳澤龍志のタイトルマッチ。船木は2mの巨人セームシュルトと対戦。鈴木は危険すぎる相手としていままで対戦が見送られてきた高橋と対戦。鈴木が壮絶なKO負け。山田親分が707日ぶりの復活。エヴァンタナーと國奥とのランキング戦。必見の1本!
収録試合　・メッツァーvs柳澤・船木vsシュルト・鈴木vs高橋・ルッテンvs渡部・國奥vsタナー・近藤vs渋谷・山田vs稲垣・ジェイソンvs長谷川

PRIDE-4 高田延彦vsヒクソングレイシー 2

90分9,970円

'98年10/11東京ドーム。ついにこの時がやってきました。1年前同じ東京ドームでこの世紀の一戦が行われ話題を呼び、様々な波紋を呼んだが、まさかその時点でもう一度この夢のカードが実現するとは思わなかった…。この試合によって、高田延彦とは?グレイシーとは?様々な答えが出るに違いない。他にも、いつもニコニコ桜庭和志vsあのアボットと喧嘩した柔術の実力者アランゴエス、マルコファスvsアレクサンダー大塚、佐野友飛vs正道会館・本間聡、菊田早苗vs松井駿介、PRIDE男・小路晃vsグレイシー柔術四天王・ヴィレッジイズマイウ、マークケアーvsルタリーブリのウゴデュアルチ、ゲーリーグッドリッチvsイゴールボブチャンチンと超オモシロマッチのオンパレード!PRIDE史上No1のカードが並んでます。ともかく、ビデオで何回見てもスゴイ内容です。

全日世界最強タッグ列伝'83～'85

120分5,040円

ついに、待望の世界最強タッグ列伝の第三弾が登場!それも、初めて全日本プロレスビデオに天龍源一郎と長州力が登場!世界最強タッグのビデオというだけでも凄いのに、この2人が見られるなら買うしか無い!テリーが引退し、ドリーと馬場がチームを結成、そして鶴田は天龍とチームを結成した1983年からはスタンハンセン&ブルーザーブロディvsジャンボ鶴田&天龍源一郎を収録。無敵のミラクルパワーコンビに鶴龍コンビが挑むも、予想通りハンセン&ブロディの優勝。ダイナマイトキッド&デイビーボーイスミスが電撃参戦し、馬場がラッシャー木村とタッグを組み、ファンクスが復活した84年からはハンセン&ブロディvsファンクスを収録。ブロディの新日本移籍によりテッドデビアス&ハンセン組が結成され、ジャパンプロレスからは長州力&谷津嘉章組が参戦した波乱の85年からはハンセン&デビアスvs長州&谷津を収録。

川崎真紅の闘争　豊田vs神取～20世紀最後の最強伝説～

90分9,800円

'98年8/23川崎市体育館。全女ビデオの最新作が久々に登場!それも女子プロ史上に残る名勝負WWWA世界シングル選手権試合、神取忍vs豊田真奈美をノーカット収録!堀田からベルトを奪取後も、神取を脅かす選手は現れず、全女の最後の切り札として豊田が挑戦!試合は期待以上の文句の付けようの無い試合。神取の強さと豊田の巧さをじっくり18分8秒味わって下さい。勿論、他の試合も熱戦の連続!セミのデストロイタッグウォーと名付けられたZAP I&Tvs堀田&脇澤も脇澤のガンバリで超盛り上がり、それに貴子が乱入と面白いよ～!前川の久々の格闘技戦、ナナモモの悲願の全日本タッグタイトル奪取等々。ともかく、このビデオ、豊田vs神取は保存版です!
収録試合　豊田vs神取、ZAP I&Tvs堀田&脇澤、前川vsノンキアオノーパケオ、中西&高橋vs坂井&薮下、貴子vs薮下、豊田紀vs磯崎

Neo-Stage 1998 3nights

怪女登場!ニコルバス　90分¥6,980

`98.8/14～16後楽園ホール。女子プロ初の後楽園3連戦を行ったネオレディースのイイ所取りビデオ。見所は、トーナメントオブネオ!参加はネオ・京子、ASARI、田村、ラスカチョ・下田、三田、JWP・福岡、裁恐軍・ファング鈴木、そしてこのトーナメントの目玉、怪女ニコルバスは一回戦・三田、二回戦・ASARIに今回がデビュー戦とは思えない暴れブリ!京子との決勝戦もその猛攻は止まらず、4分50秒チョークスラムで完勝!他にも「椎名の夏」と題された椎名試練の三番勝負。(矢樹戦、ジャガー戦、尾崎戦)ネオ期待の新人・仲村由佳デビュー戦、夢のタッグ京子&関西、ラスカチョの内部分裂と盛り沢山!
収録試合　京子vsバス、バスvsASARI、京子vsファング鈴木、バスvs三田、下田vsASARI、京子vs福岡、下田&三田&遠藤vs飛鳥&ブラディー&エチセラ、仲村vs下田、京子&関西vs下田&三田、飛鳥vsASARI、他

フラッシュバック オブ ガイアジャパン　Vol.8　税込¥8,000

AAAWシングル・タッグ両王座の体重制撤廃により、タイトル戦線は風雲急を告げた。シュガー&永島に挑むはタッグトーナメントを制した最強の挑戦者・アジャ&尾崎。若き王者組にいきなり試練到来!!一方、シングル王座はKAORUとの決定戦を制した長与が挑戦権を獲得。ある思いを胸に、至宝を賭けたタイトル戦へ挑む!

アルシオン シオントーナメント

120分¥6,930

98年8/31なみはやドーム。話題満載となったこの大会。吉田、大向、二上、玉田、府川、浜田、マリー、レジーと誰が優勝してもおかしくない今回のシオントーナメントは白熱の試合が続出。中でも赤丸選手はやはり、浜田文子!1回戦ではマリーを破り、2回戦では本命の二上を破る快挙!決勝が浜田vs吉田になるとは誰が予想できたでしょう。デビュー4戦目の新人、浜田の大物ぶりをビデオでチェック!もう一人の赤丸選手は一般マスコミでも話題のタイガードリーム!ステップワーク、ローリングソバット、サマーソルト、ダイビングヘッドバットと虎戦士のダイナミックな技プラス華麗さを持ったタイガードリームは正にプロレスの夢です。対戦相手も宿命の矢樹です。他にも府川のローリングソバット対策、アジャが賞賛した秋野vsアジャなど。試合前後のインタビューも有り!そして、タイガードリーム記者会見、初代タイガーとの練習なども収録。特別解説は噂の浜田文子です。
収録内容
・吉田vs浜田・吉田vs大向・二上vs浜田・吉田vsレジー・大向vs府川・二上vs玉田・浜田vsマリー・アジャvs秋野・ファビーvsメタル・タイガードリームvs矢樹

アルシオン スターティスト'98

～浜田文子鮮烈デビュー～120分¥6,930

'98年8/9後楽園ホール。ついに、噂のアルシオンの噂の超新人浜田文子がデビュー!TV、雑誌でデビュー前からこれ程話題になったレスラーはいません。その浜田文子がセミファイナルでアルシオンのトーナメント覇者キャンディー奥津と対戦。文子が会場に姿を現わした時点で会場は期待度120%の大興奮、リング上でのポーズにも大歓声。試合もグラン浜田直伝のスイングDDTなど期待に違わぬ動き。あの感動の試合をこのビデオで見て、文子ファンになって下さい。(試合後のグラン浜田との涙のインタビューもあり)メインは吉田vs二上の業師合戦。他にも玉田vs大向の因縁の同期対決。第一試合ではもう一人の新人秋野が府川に挑む。特別解説としてアルシオンファイティングプロデューサーアジャコング。アルシオン後半戦の重要なポイントとなるこの大会、これを見ずして、'98女子プロレスは語れない。
収録試合　・吉田vs二上・キャンディーvs浜田・玉田vs大向・レジーvsマリー・レディvsファビー・府川vs秋野

●アルシオンビジュアルシリーズ!!●

HIPER VISUAL SERIES Vol.4
ATHENAinキャンディー奥津　税込¥3,980
●ときにワイルドに、ときにコケティッシュに…とにかく"素顔の魅力"完全保存版。
●ミス・パーフェクトがこだわりぬいたセクシービジュアルの到達点。
●天才的なバランス感覚とズバ抜けた運動能力の奥津がはじめて明かす自らの身体と心の秘密。「私はこうやってつくられてきた!!」
☆同タイトル写真集も発売!　送料込¥3,100

HIPER VISUAL SERIES Vol.3
ANDROMEDA アンドロメダ　税込¥3,980
☆同タイトル写真集も発売中!　送料込¥3,100

FMW STORY OF THE F 3

2本組¥16,000

`97年8/2～`98年7/27。毎年恒例、完全保存版2本組ビデオの第3弾登場!今回は1年間の激闘を収録した「ドキュメンタリー編」と、ビデオ初収録の試合を中心に8試合を完全収録の「BEST BOUTS編」の2本立。大仁田のFMW脱退=新団体「ZEN」との抗争、「ECW」の殴り込み、「ブリーフブラザーズ」旋風と「ハヤブサのインディー2冠奪取と完全復活。など、目まぐるしい展開をみせるFMWマットから目がはなせない!

新作ビデオ案内

発売日	タイトル	価格
10月10日	闘魂Vスペシャル VOL.49　THE・ジュニアイズム	¥3,880
10月10日	闘魂Vスペシャル VOL.50　復活!武藤敬司	¥3,880
10月21日	RISING THE NEXT GENERATION in OSAKA DOME 1・2	各¥10,200
10月21日	K-1 U.S.A. GRAND PRIX' 98 in LASVEGAS	¥12,600
10月21日	LLPW　ライブバトル98　98.8.26後楽園ホール	¥5,040
10月21日	'98サマーアクション・シリーズ　三冠ヘビー級選手権試合　小橋vs田上	¥5,040
11月6日	K-1 GRAND PRIX' 98 開幕戦　98.9.27大阪ドーム	¥12,600
11月18日	アントニオ猪木格闘技世界一決定戦　第11戦vsミスターX	¥10,200
11月18日	アントニオ猪木格闘技世界一決定戦 第12戦vsレフトフック・デイトン	¥10,200
11月18日	BRAIN BUSTER SPECIAL～大暴走!大仁田厚 完全復活!(仮)	¥9,990
11月26日	'98G1クライマックス・スペシャル 9.23横浜アリーナほか	¥10,200
12月2日	マイクベルナルド・ヒストリー(仮)	¥10,500
12月16日	猪木vsホーガン　2大IWGP優勝戦(再発売)	¥6,200
12月16日	壮絶!9.23　幻の田園コロシアム(再発売)	¥6,200
12月16日	猪木vs長州 激闘 ラストマッチ(再発売)	¥6,200
12月23日	THE GREAT MUTA VOL.3・4	各¥10,200
1月13日	BATTLE FICTION～蘇れゴールデンタイム伝説～	¥8,000
1月27日	POWER HALL VOL.1・2	各¥6,200

★表示価格はすべて税込です。送料はビデオは1本につき¥500、2本以上サービス、グッズは表示に送料が含まれています。

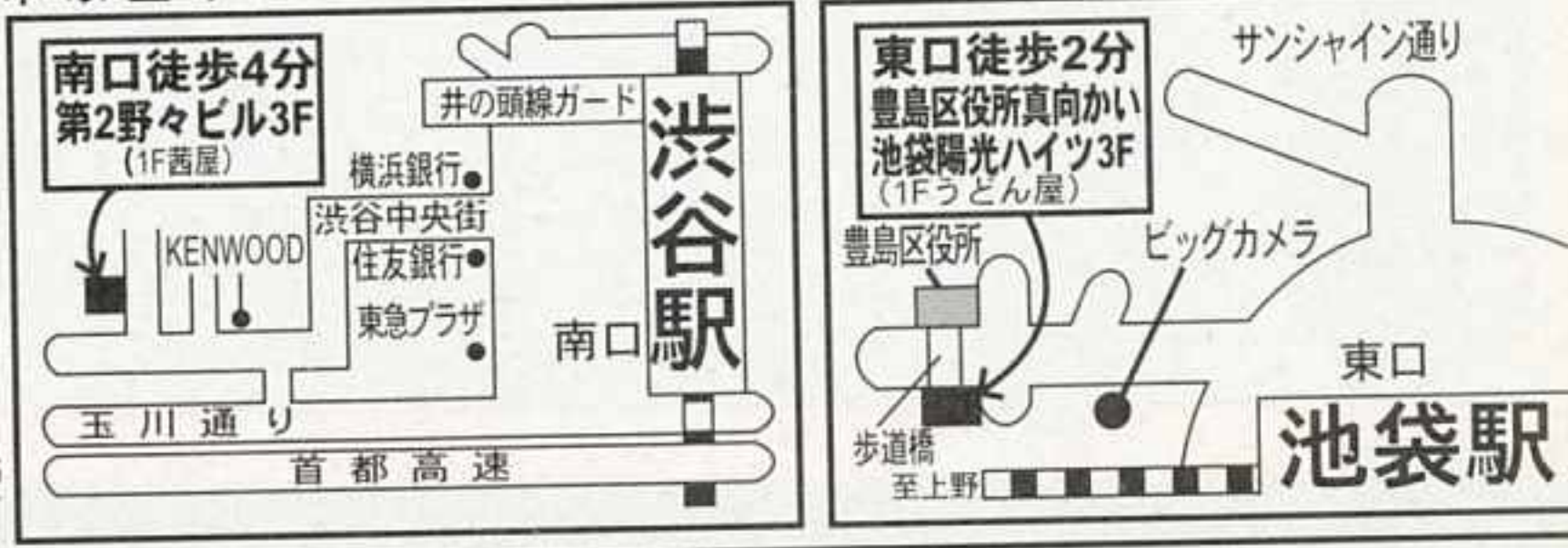
1,000円お買い上げごとにスタンプを一つプレゼント。30個でTシャツ、50個でトレーナー、100個でビデオがもらえる!(店頭・通販共)

【通信販売お申し込み方法】
住所・氏名・TEL・希望商品名を明記のうえ現金書留か郵便振込でお申し込み下さい。ビデオ送料は1タイトルにつき500円、2タイトル以上はサービスです。

●郵便振込口座番号　00180-8-65236　レッスル通販
通販部　TEL 03-3464-1780
レッスル渋谷店
〒150-0043東京都渋谷区道玄坂1-17-2 第2野々ビル TEL 03-3464-0078
レッスル池袋店
〒170-0013東京都豊島区東池袋1-36-3 池袋陽光ハイツ306 TEL 03-3989-0056

南口徒歩4分
第2野々ビル3F
(1F吉屋)
井の頭線ガード
横浜銀行
渋谷中央街
KENWOOD
住友銀行
東急プラザ
南口
渋谷駅
玉川通り
首都高速

東口徒歩2分
豊島区役所真向かい
池袋陽光ハイツ3F
(1Fうどん屋)
サンシャイン通り
豊島区役所
ビッグカメラ
歩道橋
至上野
東口
池袋駅

★最新グッズ情報満載レッスルレターをご希望の方は80円切手をお送りください。

紙のプロレス RADICAL

1998 no.13

よりによって
ウチで一番弱いヤツがでていって
勝っちゃった!
おめでとう! アレク!!(by石川雄規)

紙のプロレス・ラディカル

CONTENTS

※不慣れな月刊ペースでの発売のため『RADICAL BOUT REVIEW』『RADICAL MYSTERY TOUR』『デブリンのENTERTAINMENT WRESTRING VIDEO』は今回はお休みです。次号でお会いしましょう! 押忍! 押忍!! 押忍!!!

RADICAL特製 ★ピンナップ★
バトラーツ両国国技館進出記念
暴走戦士「ザ・ロードウォリアーズ」

RADICAL特製 ★ポートレート★
バーリトゥード初出場初勝利記念
アレクサンダー大塚&ののもも夫妻の愛娘・愛ちゃん(0歳)

Art Director
出田さん●San Ideta
Design/two-three
村松さん●San Muramatsu
ヒサくん●Kun Hisa
マツ●Matsu
古川ふるーる●Furuuru Furukawa

表紙モデル/アレクサンダー大塚
撮影/遠藤政文
スタイリング/Alexander Otsuka
ヘア&メイク/Alexander Otsuka

※「RADICAL」って何? 私知らないもん。へぇ~「根源的」、「根本的」って意味なんだぁ。勉強になったね。ジャイジャイ!!

※ピンポンパンポーン。T印刷の大杉様、T印刷の大杉様。お土産がケーキにグレードアップしたのは嬉しいんですけど、一枝さんが居る時にして下さい。お願いします。ガリガリ!

四角いジャングル RADICAL

リング上でのレベルが問われると同時に
マスコミのレベルも問われる時代になった……

アレク激勝!!
髙田踏み出す!!

10・11周辺に関する
ザマアミロ雑談会!!

節穴は消えろってんだ!!
クソ神の技
（石川雄規調）

ザマアミロ座談会出席者
山口日昇／吉田豪／坂井ノブ／チョロ
中村カタブツ君（35歳）／ジャイ子

新聞報道を見ても、テレビを見ても、高田が善戦したムードは一切ない（吉田）

ノブ　あ、今日の司会はボクが務めさせて頂きます。えー、『PRIDE.4』も終わり、報道も一通り終わり……。

山口　うちはまだ何もやってないだろ（笑）。

豪　ここに『週プロ』の本誌と『PRIDE』特集の増刊号、『週刊ゴング』『PRIDE.4オフィシャル速報号』が並んでますけど、「善戦という名の完敗」というタイトルで高田完敗を前面に押し出してるのはオフィシャルマガジンだけなんですよ。でもウチに言わせれば「完敗という名の善戦」ですよね？

山口　オレにしてみれば「よくやった、高田」でしかないよね。

豪　みんなヒクソン神話が崩れたことに目がいってるんですけど、「高田よくやった」には目がいってないですね。

山口　オレの目の中にはもう、あまりヒクソンは入らなかった。

豪　みんなヒクソン幻想ばかり異常にあったから、高田を見てないんですよ。

山口　高田を見ることによるリスクが怖いんでしょ、マスコミは。ヒクソンは結果を出してるから、ヒクソン側から書いて行けば危険度は少ないわけじゃない。そこをウチはアレクだ、高田だっていってるわけだから。

豪　とんでもないことをしてるんですよ、〝向こう側〟からすれば（笑）。

山口　その分スリルあるけどね（笑）。

豪　新聞報道を見ても、とにかく高田が善戦したってムードは一切ないんです。テレビ関係もとにかく高田の負けシーンを放送して高田惨敗ムードを煽るようなものが多かったんですよね。

山口　「高田惨敗！」の方がインパクトあるしね。「高田善戦！」じゃ、あんまりニュース性はない。

ジャイ子　でも試合後のアンケートとかってみんな「高田よくやった」って言ってたよ、ジャイジャイ！

豪　だから結局、会場にいた人にしか届いてないんだよね。これは伝える側の問題で、スキャンダラスにやるとこうなっちゃうってことだよね。

山口　あそこにいたのは約3万6千人、あとPPVを見てた人。その人たちしかあの感動と興奮は共有してないわけでしょ。それ以外のファンには「高田惨敗」って言うのがべったり張り付くわけだよ。いやぁ、考えさせられるね、マスコミ報道というものを（笑）。

豪　でも正直な話、スキャンダル性のない新聞なんて売れねえですよ。

ノブ　じゃあ、問題は専門誌だ。

豪　専門誌がどこに立つかっていうのがね。これは考えさせられますよ。

ノブ　見た限り、凄い傍観してるなって感じですよね。

豪　そういう意味じゃ『週プロ』のヤスカク頑張ってるじゃん。傍観してないね。

ノブ　アレクが負けると思ってた奴、「土下座しろ！」って、なんか大上段に構えてますね。

豪　問題は、このいろんな流れで前田対カレリン戦というビッグ・ニュースが全く報道されてないことだよね（笑）。

優勝・高阪剛

補欠戦

- 大塚裕一〈日本学生拳法部〉
- 大杉勇〈鈴木道場／95コンバットレスリング74*.段優勝〉
- イーゲン井上〈柔術／グラップリング・アンリミテッド〉
- アレキサンダー大塚〈プロフェッショナルレスリング藤原組〉
- 村上一成〈慧舟會／新格闘術グローブ総合ルール優勝〉
- 郷野聡寛〈コマンドサンボ／94全日本格闘技選手権重量級優勝〉
- 山崎進〈フリー／新格闘術トーナメント重量級優勝〉
- 草柳和宏〈ST／ミドル級1位〉
- 芳岡博之〈フリー／柔道4段〉
- 高阪剛〈リングス・ジャパン〉

『PRIDE.1』終了後、「（高田敗戦は）当たり前。エンターテイメントと真剣勝負は違う」と語り前田日明を激怒させた西良典。その西が主宰する和術慧舟會は95年以降、道着ありの総合格闘技大会を年一回開催している、それが『トーナメント・オブ・J』である。現在の総合格闘技界をリードする強豪ばかりが名を連ねた第一回大会にアレクは出場。RINGS高阪が、決勝でエンセンの兄・イーゲンを下して優勝している他、郷野や村上といったビッグネームもその名を連ねた。

PRIDE.4試合直前
ノー問題300人アンケート

PRIDE.4に関する情報はどの媒体を見て、仕入れていましたか？当てはまるものすべてを選んでください。

順位	媒体	票数
1位	週刊プロレス	158票
2位	紙のプロレス	134票
3位	格闘技通信	126票
4位	週刊ゴング	120票
5位	東京スポーツ	96票
6位	SRS	92票
7位	ゴング格闘技	74票
8位	日刊スポーツ	72票
9位	PRIDE.オフィシャルブック	66票
10位	ファイト	44票
11位	サムライ！	16票
11位	格闘マガジンK	16票
12位	デイリースポーツ	14票
13位	ナイタイスポーツ	10票
・	その他	56票

まあ、見ての通りの結果なのだが、意外や意外！　本誌が『格闘技通信』と『週刊ゴング』を知らないあいだに抜いてしまい、悪気はないのに堂々2位にランクイン！　もちろんプロレス＆格闘技業界内では嫌がられるが、注目レスラーが続々と参戦する『PRIDE.』シリーズを追い続けたのが本誌ぐらいのものだったから当然といえば当然の結果だが、格闘技雑誌の両エース『格通』、『ゴン格』をも抜いてしまったのはどういうこと？　プロレスラーのバーリ・トゥード出場をフォローできない業界誌のスキ間を突いた。

山口　ますます前田日明はＫＲＳが嫌いになったりして（笑）。ところで、『プロレス側』とか『格闘技側』って言葉があるけど、『格闘技側』ってなに？

豪　Ｓｈｏｗ氏が言ってましたよね。「そういう言い方はよくないですよ！　プロレスも格闘技なんだから！」って。

山口　そう短絡的なもんでもないだろうけどね(笑)。

豪　ま、プロレス以外の格闘技を報道してるマスコミですよね。それも特に元『プロレス側』の人が移ったのが『格闘技側』っていう意味なんでしょ。だから『ワールド格闘技』（ぴいぷる社刊）とかを、わざわざ『格闘技側』って呼ばないよね。『側』っていうのはプロレスを対立概念に置いてるからシーなり、否定したい気持ちなりが『側』になるわけよ。

山口　「裏切られた」と思ったり、辛い過去があったんだろうね。

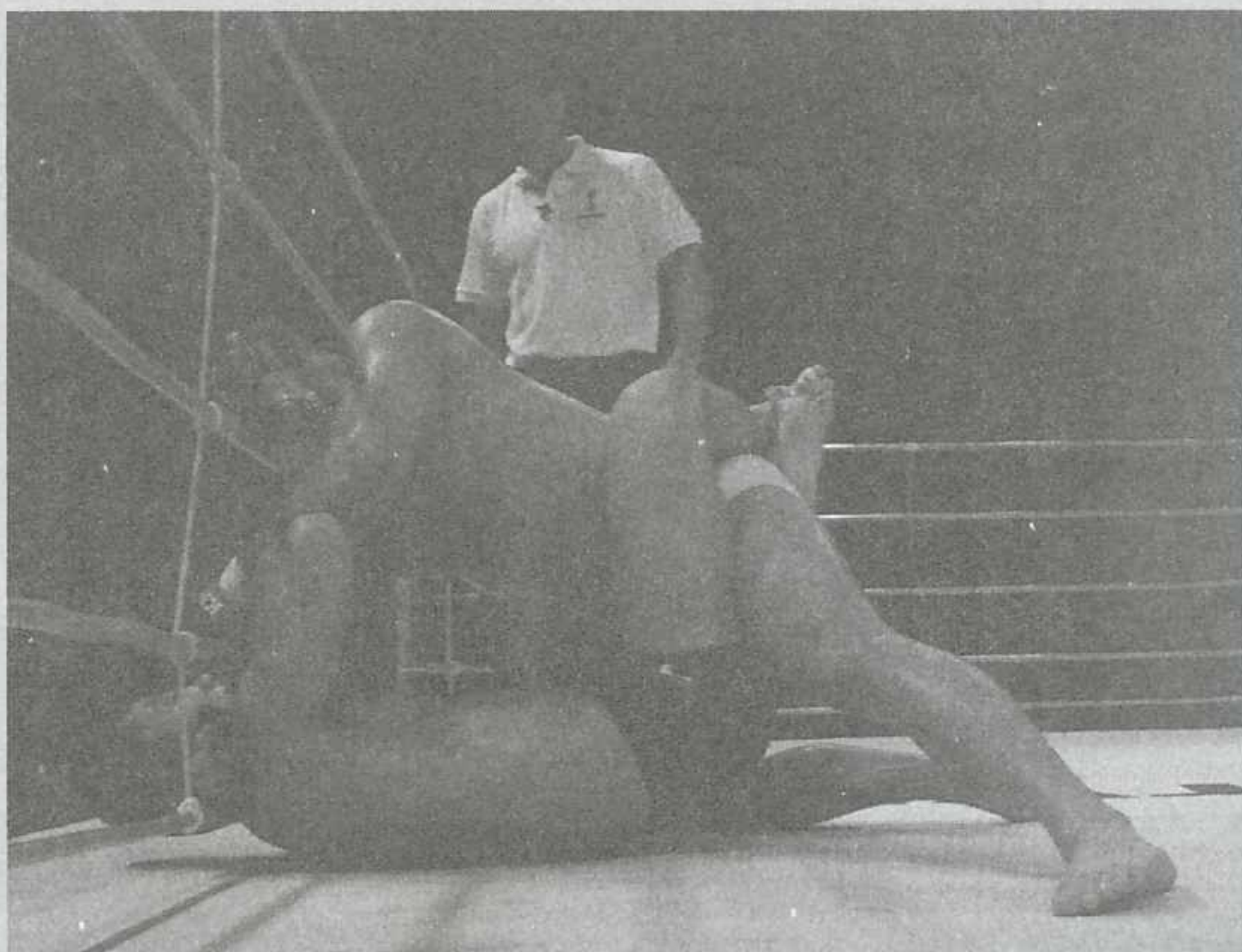
ノブ　ってことは彼らもプロレスから派生したものなんですね。

豪　もともとはそうでしょう。『格通』『ゴン格』にしてもそうでしょ、『フルコン』にしたって。みんなプロレスから始まってるんだから。始め彼らはＵインターと藤原組を載せなくなって、リングスに関しては『フルコン』との揉め事以降ですよね。あれがなければ多分載り続けてる。それまでは線引きはリングスよりあっち側。それでいまはパンクラスのみが向こうに行った。

ノブ　その線引きが明確になって来ましたよね。

山口　オレの中では明確になってないんだけどね、全然(笑)。そういえば、さっき言ってたアレク対マルコの試合リポートあったでしょ？

本誌前号に登場した総合格闘技界の裏実力日本一・菊田早苗。そこで松井戦について、「ヘボイ試合したら終わりですよね」と語ったが高田道場の新鋭・松井駿介の猛ファイトで結果は引き分け。菊田は試合後のリング上で、「もう一回やろう！」と訴えたらしいが、松井は「やりたくないです！　海外に行って修行した方がよっぽど自分のためになる」と突っぱねた。

「出来のいい子はパンクラス」という見方をしていたライターが「土下座しろ」ってのはおかしいだろ！（山口）

豪　「土下座しろ」っていうヤツですか？　面白かったッスね。あの安田拡了さんが書かれた（笑）。

山口　この人、たぶんバトラーツの試合あまり見たことないと思うんだよ。

ノブ　会場ではあまり見かけないですね。

山口　バトラーツの活動ぶりもよく知らないんじゃないかな。それで、格闘技マスコミと呼ばれる媒体で、いわゆる格闘技について書いてるよね、この人。

豪　格闘技というかパンクラスについてですけど。

ノブ　バトラーツの腹違いの兄弟みたいな団体のことを書いてますよね。

豪　パンクラスが兄貴分ね。

山口　まあ、出来のいい子と悪い子みたいなイメージはあるよね。オレからすると出来のいい子はバトラーツなんだけど。面白いから(笑)。

豪　まあ、ウチの会社の見解はみんなそうなんですけどね。

山口　視点の違いだけどね。でも、「出来のいい子はパンクラス」という見方をしていたライターが「土下座しろ」ってのはおかしいだろ、アレクが勝ったからって！

豪　読み上げると、「下馬評ではほとんどアレクの負け。しかし、驚くなかれ。強豪マルコをパンチで戦意喪失させてしまった。ありがとう、アレク。だけど、アレクが負けると思ってた諸君……　土下座しろ!!」

山口　ガハハハハ！　偉そうでいいなぁ

ノブ　で、この本文が面白いんですよ。見出しで「土下座しろ」って言っておいて「相手がグレイシー柔術と対抗するルタ・リーブリの強豪、マルコ・ファスであって、万が一にもアレクが勝つとは誰だって思っていない」

山口　失礼な！

豪　これはきっと、「オレも土下座するから、お前ら土下座しろ！」っていう潔い姿勢なんじゃないの？

山口　誰が誰に土下座するの？　それはちょっと解せないね。俺は土下座されても嬉しくないし。でも、オレが一番言いたいのは、都合によってプロレスと格闘技をコロコロ使い分けてるのがイヤだね。

豪　この人がですか？

四角いジャングル RADICAL

山口　この人を始めとしてね。プロレスがイヤになって格闘技に移ったひとも『週刊プロレス』で仕事してるわけでしょ。

豪　それはＦＭＷとか女子プロだったらいいって人ですよね。Ｕがホントに大好きだったんだけど、途中でＵに裏切られたって感じちゃった人たちというか。だから、純然たるプロレスと純然たる格闘技しかやらないっていう線引きになっちゃった、と。

山口　その姿勢は立派というしかないけどね。でも格闘技マスコミで仕事して、プロレスマスコミで仕事して、都合によってプロレスと格闘技を使い分けてるってことに関しては間違いないよね。ウチは「プロレスと格闘技は地続きである」ってずっと言ってるけどね。まあ、それによって波紋を呼んだりしてるんだけど（笑）。彼らはヒクソン・グレイシーって人を代表格として、プロレスマスコミが作ってきた幻想の替わりに格闘技マスコミとして幻想を作り出したでしょ。そういう意味では幻想と幻想の闘いなわけじゃん。だからプロレス対格闘技って意味じゃないんだよ。どっちの幻想が素敵で面白いかって話なんだから。

豪　ある意味、裏テーマはプロレスマスコミvs格闘技マスコミですよね。ところが思いっ切りプロレスマスコミの側に立ったのがウチぐらいだったようなイメージがあるんですけど。

山口　プロレスマスコミの中にもプロレスを揶揄してるヤツはたくさんいるからね。で、オレは声を大にして言いたいんだけど、近藤隆夫クンっていう『ＰＲＩＤＥ.』のオフィシャルマガジンの編集長をやってる人が、『ＰＲＩＤＥ.４』のテレビ解説もやってたんだけど、あの人は「１００％マルコです。１ラウンド持ったら奇跡です」って言ってるけど、彼はアレクサンダー大塚の練習も試合も見たことないんだよ。

豪　まあ、格闘技に関してもどれだけ知ってるのかって感じなんですけどね。

山口　そう、つまり、練習とか試合を見て、どれだけできるか測ることはできるでしょ。バトラーツの試合なんて特に測り易いわけだし。だから、見たこともない人が公平さを装ってジャーナリストづらして語るのがおかしいんだよ。オレ、自分のことジャーナリストだなんて思ったこと一回もないからね（笑）。

豪　知らないで書くのもしょうがないって気もするんですけどね。ボブチャンチンとかわかんないですから、誰も。

山口　そういうのは仕方ないとしても、なんでマルコが１ラウンドでＫＯ勝ちなの？　アレクはいつでも見れるでしょ。ボブチャンチンと違って。「僕たちは格闘技を見る目を持ってて、信頼に足る人物ですよ」っていうことを「スポーツ・ジャーナリスト」って肩書きで打ち出してるんでしょ。

豪　面白いんですよね。『格闘技側』がプロレスみたいに格闘家に幻想作っていくっていうのはいいことだと思うんですよ。で、プロレス側とお互いぶつけ合って高まって行けばいいんだし。

山口　そういうことですよ。だから、格闘技マスコミによって気づかされたこともたくさんあるし。でも格闘技マスコミがやってきた幻想にプロレス側も踊らされちゃってるっていうのが確実にあったんだよね。高田延彦は言ってた。「一番オレが踊ってた」って。

一同　ガハハハハ！

山口　「そんなヤツが試合しちゃダメだよね」だって（笑）。それはもう、グーですよ。人生じゃないですか。

豪　それは格闘技マスコミ的にはしてやったりですよね。いい仕事しましたよ、『格闘技側』は。

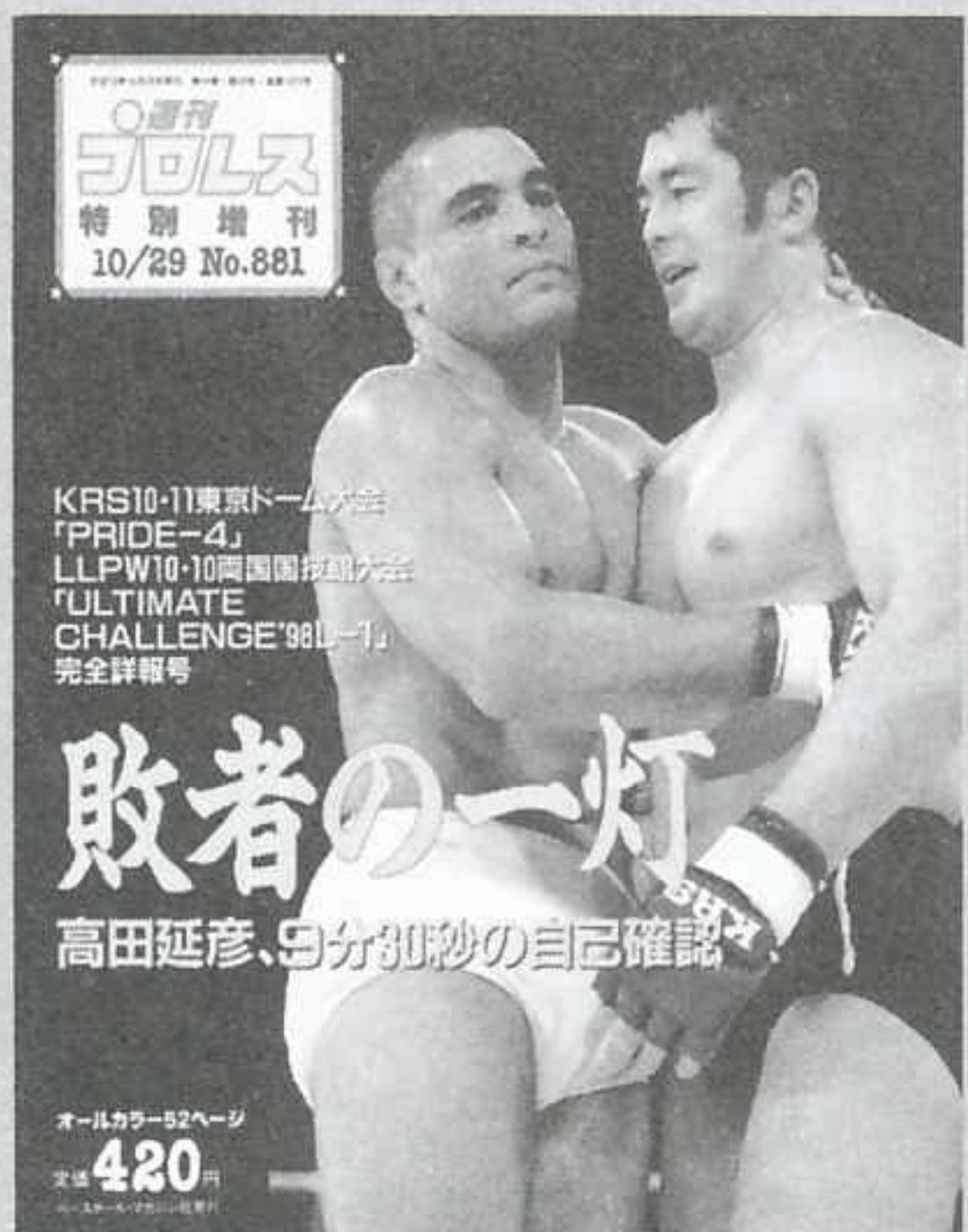
山口　でも、プロレスマスコミにプロレスを見る目がない人がいるのと同じように、その格闘技マスコミも格闘技を見る目を持ってないなっていうのは今回の流れで凄くよくわかったよね。

豪　なにも知らない人間が技術論を語ることの怖さっていうのを今回痛感しましたよね、近藤隆夫クンの解説を見て（笑）。

山口　そういう人たちが格闘

路上の王から見事な勝利を上げた98年版プロレス界の救世主・アレクを豪快に表紙に起用した『週プロ』本誌。「両国で、モハメド（・ヨネ）と組んでロード・ウォリアーズと闘います！」という歴史に残る名マイクを表紙に採用。プロレスファンには気持ちのいい表紙である。

「高田善戦」よりも「ヒクソン苦戦」を主題として扱った『ゴング』。おまけに鬼の黒崎先生が解説するという非常に「ゴン格」的な切り口である。さらに表紙でターザン山本が登場するFULLに対して『ゴング』が取材拒否勧告を突きつけたことに触れ、アレクの勝利は触れていない。

問題の近藤隆夫クンが編集長を務める『PRIDE.4』オフィシャル速報マガジン。「善戦という名の完敗」というコピーが何を表現したかったのかは知らないが、ヒクソンがカタブツ君ばりのハの字眉毛になるまで追い詰めた高田の負けをクローズアップしてもヒクソン幻想は生まれない。

高田の健闘にスポットを当てた天地に愧じない唯一の表紙。前日に行われたL-1との合同増刊号。しかし、これを「カラスの勝手」と知らんぷりを決め込まず増刊号にした浜部編集長の英断はチト嬉しい。

何も知らない人間が技術論を語る怖さを痛感しましたよ。近藤隆夫クンの解説を見て（吉田）

技マスコミと名乗って、いろんな媒体に登場して、幻想を作り上げていってるんでしょ。「プロレスっていうのはイメージ産業で、幻想なんだよ」ってことを彼らは訴えてる一方で。

豪 格闘技もずっとこれまで幻想をつくってきましたよね。梶原一騎とかが。その延長線上にグレイシーが出てきて、そのときは『格通』が梶原的な役割を果たしてたんですよ。ヒクソンもそういう自己演出がうまいから、山篭りだなんだってどんどんうまく見せていきましたよね。ディスコ大好きとか、そういう部分をうまく隠して、ストイックなサムライとして作り上げた。

ノブ そういえば、こないだラジオでグレイシーの本作った編集者が言ってたんですけど、ホイスがディスコで女の子を眺めながら「あの子はヘルシーだ。なぜなら胸にミルクがいっぱい詰まってる」とか、そういうギャグを言ってたらしいです（笑）。

豪 そういう話を聞くと、ボクらは幻想高まるんだけど、『格闘技側』はそういうの排除しますよね。そういう話の方が面白いのにね。ボクもヒクソンに会ったときに、そういうくだらない話ばっかりしたら面白かったし。そういうものも自分の幻想で包もうとするヒクソンっていうのが見えて、いいんですよ。淡々と下ネタ言ったりとかしてね（笑）。ブチはヒクソンの山篭りまで見てきたわけでしょ。それでもヒクソン幻想よりも高田側に思い入れ持てるっていうのはなんだろうね。

ブチ 簡単に言えば日本人っていうのがありますけどね。もうヒクソンに飽きてるんです。凄いことは凄いんですよ。でもやることが変わってないじゃないですか。発言も変わらないし。

豪 高田はホントに変わったからね。

チョロ でも、ヒクソンは等身大以上のイメージが世間一般にも伝わってるじゃないですか。

山口 ヒクソンはその部分では、プロとして偉いんだよ。幻想を背中に貼りつけて結果まで出してるから。400戦かどうかわかんないけど、日本で無敗だし（笑）。立てられたキャラに自分が結果を出すことで追い付いてるんだから偉いと思うよ、リスペクト出来ますよ。

豪 気に入らないっていうのは、去年ヒクソン君がドームの廊下にツバ吐いたの見たあたりからですかね。

山口 あ〜、それもある！ ブン殴ってやろうかと思ったよ！ マジで。サムライの息子がなんで廊下にツバ吐くんだよ！

豪 去年、ヒクソンは試合終わって引き上げるときに女性ファンに抱きついて。なにがサムライだって（笑）。

ノブ リッキー・フジみたいですね（笑）。

豪 そういうのは好きなんだけどね。だから、それを前面に押し出したほうがいいじゃん。『ヒクソン、400戦無敗の女好き』とかさ（笑）。

『週プロ』本誌では、パンクラスの記事を中心に『週プロ』や『格通』で執筆中のヤスカクおじさんが担当。「土下座しろ！」と言うだけあって、普段からアレク及びバトラーツに賭ける拡了さんの情熱が伝わってくる熱いリポートに何度も目頭をハンカチで押さえてしまった。

山口 それが出たことによって幻想がつくれないっていうのは、本人の力不足か、幻想を作ってる側の力不足だよ。

豪 猪木さんだってガンガン出して行きましたよね。下ネタバンバン言うし。

山口 そういう風にさらけ出した上で幻想を作れるのが、猪木さんが凄いんであって、さらけ出さずに幻想にブラ下がってるヒクソンは、その部分で脆さがある気がするね。それに騙されるマスコミと『プロレス側』、あと去年の高田延彦（笑）。それが情けないわけ。それを打ち砕いてくれたのがアレクだったんだよ。幻想に負けずにさ。

豪 っていうか、マルコ知らなかったですからね（笑）。ボクが思うにアレクの勝利の原点は、95年の『トーナメント・オブJ』（慧舟會主催の道衣ありのトーナメント）にあるんですよ。アレク、高

四角いジャングル RADICAL

阪（剛）、イーゲン（井上）、郷野（聡寛）、村上（一成）、あとシューティング勢が出場してますけど。

山口　この時にアレクはイーゲンに一回戦で負けてるんだよね。これはアマチュアの発想から発祥してるものだよね。アレクと高阪はプロだったけど。アマチュアでのムーブメントが根本にある。

豪　アレクと高阪の出会いがあると。しかも、これがちょうどUインターが新日に負けた画期的な時期だったんですよ。繋がってきますよ、色々。それが10・9でしょ。『トーナメント・オブ・J』が10・13。

ノブ　10・11は丁度、その真ん中なわけですね。

豪　Uが敗北した時に、水面下でUが上がった。次の年から2年連続で優勝した菊田（早苗）もいるからね。彼に関してはチョロが語ってくれるよ。

ノブ　どうですか？　3回ぐらい本人に話聞いたんだっけ？　菊田のインタビューはいろいろ物議を醸したよね。

山口　菊田は新日の小島、天山に対してなんて言ったんだっけ？　「あの人たちは試合の見せ方はうまいけど、ロクな死に方しない」か（笑）。面白いな（笑）。

豪　でも『PRIDE』を見た結果として逆に菊田には「あんな試合してたらロクな死に方しないよ」と言いたくなるわけですよね。噛み付く以上は結果を出せ、と。

ノブ　あれだけ見事にプロレスラーに噛み付いて、松井（駿介）を怒らせて、新日も怒らせて……。

豪　アレクも怒った。田中稔も怒った。不思議なのは、プロレスに対する複雑な思いが『格闘技側』のマスコミと選手は同じなんだよね。

山口　格闘技マスコミもプロレスマスコミにコンプレックスと怨念があって、プロ格闘家もプロレスラーにコンプレックスなり怨念がある、と。

豪　その辺をうまく消化してるのってエンセン（井上）ぐらいなんだよね。

山口　『PRIDE』見て思ったのは、もう『プロレス』と『格闘技』って分け方じゃないね。『プロ』か『アマチュア』か。もしくは『プロ』か『セミプロ』か、これしかないね。菊田はあれだけ言って、物議を醸したんだったら、プロとしての試合見せなきゃ嘘だよね。

豪　松井よりキャリアがあるわけだしね。

山口　確かにアマチュアとしては強いでしょう。

チョロ　いや、菊田は強いんですよ。トーナメント・オブ・Jとかでは凄く観客も魅了してたんですよ。道衣着るとメチャクチャ強いんですよ。でも、裸でやると、ちっと、結果が出せないんですよ。

山口　ガハハハ！　何だ、それ。アントン・ヘーシンクと同じか？（笑）。

チョロ　でも、当たり障りのないことをインタビューで言って、試合も魅せられなかったら、ホントにダメな奴じゃないですか。菊田はとりあえず発言はプロでしたよね。読者ハガキでも引っ掛かった人がたくさんいるわけですから。それにあれやってもメリットは全然ないじゃないですか。

ノブ　あるよ。注目を浴びるよね。

豪　ああ言えば『プロレス側』には嫌われても『格闘技側』には好かれるんでしょ。だからメリットはあるよ。でも、菊田みたいな立場であれば、結果出さなきゃゼロなんだよ。

ノブ　オレは逆に松井の気合いの入った表情にグッときましたけどね。

豪　バーリ・トゥード2戦目であそこまでやれれば完璧ですよ。

ノブ　松井もある意味、アレク的な立場でしたよね。弱いと言われて、引き分けたとはいえザマアミロって感じですよ。

山口　でも、高田は合格点出さなかったらしいよ。そのへんがプロの難しさ、切なさだよね。人間としての底力を備えてなければやっていけない世界だよ。桜庭が泣いたっていうのもそれだし。だから意識のレベルしかないんだよ。格闘技もプロレスもなくて、菊田が格闘技側だから攻撃するって気持ちは一切ないからね。「言った以上は自分のケツは自分で拭けよ」ってことだね。プロとしていい試合すればプロレスも格闘技も関係ないもん。

豪　あの舞台においては、勝ち負けだけじゃないんだよね、試合内容。だから高田が負けてもボクらは褒めますよ。それは試合内容がよかったから。

評論家・記者総勢22人による 東京ドーム全8試合大予想大会!!

最前線で取材活動を繰り広げている専門誌記者、新聞紙記者、評論家諸氏が、その取材の成果をいかして全8試合を完全予想する。彼らは今夜の東京ドーム決戦をどう見ているのか。一味違う専門家の目に大注目！

	ヒクソン・グレイシー VS 高田延彦	ウゴ・デュアルチ VS マーク・ケアー	マルコ・ファス VS アレクサンダー大塚	佐野友飛 VS 本間聡	桜庭和志 VS アラン・ゴエス	松井駿介 VS 菊田早苗	小路晃 VS ウァリッジ・イズマイウ	ゲーリー・グッドリッジ VS イゴール・ボブチャンチン	一言コメント
安西伸一 『格闘技通信』編集次長	ヒクソン 1R ギブアップ勝ち	マーク 1R TKO勝ち	マルコ 1R ギブアップ勝ち	引き分け	アラン 3R ギブアップ勝ち	引き分け	引き分け	グッドリッジ 3R TKO勝ち	5月、米国でタンクに惨敗したウゴに期待したいが…
藤本敏和 東京中日スポーツ	高田 3R ギブアップ勝ち	マーク 1R KO勝ち	マルコ 1R ギブアップ勝ち	本間 3R ギブアップ勝ち	桜庭 2R ギブアップ勝ち	菊田 3R ギブアップ勝ち	イズマイウ 2R ギブアップ勝ち	グッドリッジ 2R KO勝ち	ローキックを入れられれば高田のKOもありうる。
福留崇広 報知新聞	ヒクソン 1R ギブアップ勝ち	マーク 1R ギブアップ勝ち	マルコ 1R ギブアップ勝ち	本間 2R ギブアップ勝ち	桜庭 1R KO勝ち	引き分け	イズマイウ 3R KO勝ち	グッドリッジ 2R KO勝ち	高田に負けの美学を見せて欲しい
布施鋼治 スポーツライター	ヒクソン 2R TKO勝ち	ウゴ 1R KO勝ち	マルコ 1R 一本勝ち	本間 3R 一本勝ち	桜庭 3R 一本勝ち	菊田 2R 一本勝ち	引き分け	ボブチャンチン 1R KO勝ち	本間の動きに期待。初来日のボブチャンチンにも注目。
本多誠 『格闘技通信』編集長	ヒクソン 1R ギブアップ勝ち	マーク 1R TKO勝ち	マルコ 1R ギブアップ勝ち	本間 2R ギブアップ勝ち	桜庭 3R ギブアップ勝ち	菊田 2R ギブアップ勝ち	引き分け	グッドリッジ 1R ギブアップ勝ち	今回はヒクソンVS高田以外のカードに注目。
木村修 週プロ 編集部	ヒクソン 1R 一本勝ち	マーク 2R TKO勝ち	マルコ 1R 一本勝ち	本間 1R 一本勝ち	桜庭 3R 一本勝ち	菊田 1R 一本勝ち	引き分け	グッドリッジ 3R TKO勝ち	ボブチャンチンとグッドリッジの激闘・連戦に期待。
桐越聡 日刊スポーツ	ヒクソン 3R TKO勝ち	引き分け	マルコ 1R TKO勝ち	本間 3R TKO勝ち	桜庭 3R TKO勝ち	引き分け	小路 2R TKO勝ち	グッドリッジ 1R TKO勝ち	高田のリベンジに期待。
近藤隆夫 スポーツジャーナリスト	ヒクソン 1R ギブアップ勝ち	マーク 2R TKO勝ち	マルコ 1R TKO勝ち	引き分け	桜庭 3R TKO勝ち	引き分け	イズマイウ 3R TKO勝ち	ボブチャンチン 2R TKO勝ち	高田が何を仕掛けるか。冷静さを失ったヒクソンが見たい。
熊久保英幸 『ゴング格闘技』編集長	ヒクソン 1R ギブアップ勝ち	マーク 1R KO勝ち	マルコ 1R ギブアップ勝ち	本間 2R ギブアップ勝ち	桜庭 2R ギブアップ勝ち	菊田 1R ギブアップ勝ち	引き分け	グッドリッジ 1R KO勝ち	完敗した高田が再戦を望む理由をリング上で見せて欲しい
三樹雄一 スポーツニッポン	ヒクソン 3R ギブアップ勝ち	マーク 2R KO勝ち	マルコ 1R TKO勝ち	本間 3R ギブアップ勝ち	桜庭 3R ギブアップ勝ち	松井 3R ギブアップ勝ち	引き分け	グッドリッジ 2RTKO勝ち	円熟味を増した桜庭のグラウンドは一見の価値あり。
三室毅彦 フリーライター	ヒクソン 1R 反則勝ち	マーク 1R TKO勝ち	マルコ 2R ギブアップ勝ち	佐野 3R ギブアップ勝ち	桜庭 3R ギブアップ勝ち	菊田 1R ギブアップ勝ち	引き分け	グッドリッジ 1R TKO勝ち	高田が勝負を度外視した行動に出ることも期待。
宮本久夫 デイリースポーツ	ヒクソン 2R ギブアップ勝ち	マーク 1R TKO勝ち	マルコ 2R ギブアップ勝ち	佐野 2R ギブアップ勝ち	桜庭 1R ギブアップ勝ち	引き分け	イズマイウ 3R ギブアップ勝ち	ボブチャンチン 2R KO勝ち	再アタックする高田のリベンジ魂に期待したいが…
岡本典久 格闘技ジャーナリスト	ヒクソン 2R TKO勝ち	マーク 1R TKO勝ち	マルコ 2R 一本勝ち	本間 1R TKO勝ち	桜庭 2R 反則勝ち	菊田 3R 一本勝ち	引き分け	ボブチャンチン 1R TKO勝ち	メインマッチは勿論、初参戦の選手の戦いぶりにも期待。
大沼孝次 ローリング・ストーン	ヒクソン 1R TKO勝ち	マーク 1R TKO勝ち	マルコ 1R TKO勝ち	佐野 3R TKO勝ち	桜庭 2R 反則勝ち	引き分け	引き分け	グッドリッジ 1R TKO勝ち	マルコ・ファスVSマーク・ケアーの試合に注目したい。
柴田惣一 東京スポーツ	高田 2R KO勝ち	マーク 1R KO勝ち	マルコ 1R KO勝ち	佐野 3R TKO勝ち	桜庭 1R TKO勝ち	引き分け	小路 2R TKO勝ち	グッドリッジ 3RKO勝ち	ヒクソンが高田のファイト人生を無にすることは許されない。
鈴木邦男 格闘技評論家	ヒクソン 1R ギブアップ勝ち	マーク 1R ギブアップ勝ち	マルコ 1R ギブアップ勝ち	本間 2R ギブアップ勝ち	桜庭 1R ギブアップ勝ち	菊田 2R ギブアップ勝ち	引き分け	グッドリッジ 3R KO勝ち	マーク・ケアーがどういう勝ち方をするか興味深い。
高木圭介 東京スポーツ	ヒクソン 1R ギブアップ勝ち	マーク 1R TKO勝ち	マルコ 1R KO勝ち	引き分け	アラン 2R ギブアップ勝ち	菊田 3R ギブアップ勝ち	イズマイウ 2R ギブアップ勝ち	ボブチャンチン 3R TKO勝ち	マルコ・ファスが自分より小さい選手とどう戦うかに注目。
高木裕美 内外タイムス	ヒクソン 1R ギブアップ勝ち	マーク 1R TKO勝ち	マルコ 1R ギブアップ勝ち	引き分け	桜庭 2R ギブアップ勝ち	菊田 2R TKO勝ち	イズマイウ 2R ギブアップ勝ち	グッドリッジ 2R KO勝ち	個人的にはアレクサンダー大塚の戦いぶりに期待。
田中周治 SLAM JAM	ヒクソン 1R ギブアップ勝ち	マーク 1R TKO勝ち	マルコ 1R ギブアップ勝ち	引き分け	桜庭 2R ギブアップ勝ち	菊田 3R ギブアップ勝ち	イズマイウ 3R ギブアップ勝ち	グッドリッジ 3R TKO勝ち	グレイシーへの挑戦者決定戦、マークVSウゴに注目
谷川貞治 格闘技評論家	高田 1R ギブアップ勝ち	マーク 1R ギブアップ勝ち	マルコ 2R TKO勝ち	本間 1R ギブアップ勝ち	引き分け	引き分け	引き分け	ボブチャンチン 1R ギブアップ勝ち	高田選手の何かが炸裂することも期待。
ターザン山本 プロレス大道芸人	ヒクソン 2R ギブアップ勝ち	マーク 1R ギブアップ勝ち	マルコ 1R ギブアップ勝ち	佐野 3R ギブアップ勝ち	アラン 2R ギブアップ勝ち	菊田 2R ギブアップ勝ち	イズマイウ 3R ギブアップ勝ち	グッドリッジ 1R KO勝ち	アレクサンダー大塚の勇気と度胸に期待。
結城正 サンケイスポーツ	高田 2R ギブアップ勝ち	マーク 1R TKO勝ち	マルコ 1R ギブアップ勝ち	本間 1R TKO勝ち	桜庭 3R ギブアップ勝ち	菊田 3R ギブアップ勝ち	イズマイウ 3R ギブアップ勝ち	グッドリッジ 1R TKO勝ち	とにかく高田は勝たないと何も始まらない。

プロレス&格闘技界の識者22人の勝敗予想が掲載されたパンフレットの中の1ページ。ご覧の通り、誰一人としてアレクの勝利を予想する者がいない。この中で何人が生アレクを見ているのだろうか？　教訓としては、「見てない選手の予想はよそう！」な～んつってな、ダハハハ……。さて、元『週刊ゴング』記者で『元ゴング格闘技』編集長の近藤隆夫クン。『PRIDE』オフィシャル・マガジンでは必ずその顔も登場するので要チェック。

山口　結局、『格闘技側』の人間がこういう形で座談会で言われ、結果も出せなくて、こうやって言われたら、「もうプロレス雑誌になんか出るな！」ってなるよね。それはつまんないじゃん。結局元の木阿弥になる。それは、プロ格闘家なんだからさ。今、バーリ・トゥード界で活躍してる桜庭、高阪、アレクって、みんなアマチュアリズム持ってる選手だよね。昔のプロの選手ってアマチュアリズムを捨てたところでプロの幻想作ってたでしょう。いまはプロとアマが接点持ってるんだよね。だからこそプロとアマチュアっていうラインを明確に出さなきゃならない。厳しくなると思うよ。だから『底力』なんですよ。

豪　駄目なプロもいるし、いいアマチュアもいる。だから、格闘技が悪いとかじゃなくて、プロレスラーでも佐野みたいなのはいるし、いい選手も悪い選手もいるって当たり前のことがああいう場では見えるんですよ。みんな同じ土俵に立つと。

山口　いまはリアルだよね。プロでも一流から五流までいるし、アマでも一流から五流までいるし。それがどんどんわかってきちゃう。菊田はアマチュアとして一流かもしれないけど、プロとしては五流ですよ。

豪　佐野はプロとして何流ですかね？

山口　測定不可能！

一同　ガハハハハ！

山口　しかし、ひとつの興行に喜怒哀楽が全部詰まってるから今回『PRIDE．4』はバツグンに面白かった。

豪　桜庭の引き分け、佐野の情けない負け、アレクの勝利、高田の健闘。それがいいバランスで流れたんですよ。

山口　アレクが今回結果出したけど、プロレスファンが考える『プロレス』ってものの最上級のものを見せてくれたよね。

豪　このボクが花道を走って行きましたからね。数日前に編集部に来た時のアレクの話もあるしさ。ジャイ子もいなかったっけ？

ジャイ子　いたもん。最初はジャイ子と二人で話してたんだもん！　ジャイジャイ！

豪　知らねえよ、バカ！（笑）。あれは『PRIDE．4』の3日ぐらい前だよね。ボクはアレクが『PRIDE．4』出ることなんてすっかり忘れてたんだけど。

山口　ひっどい男だなあ（笑）。

豪　いや、あまりにもリラックスしてたから、話してる時にはすっかり頭から抜け落ちてて、いつものようにオモチャの話して。で、今回の号の話になって「表紙もなにも決まってないし、この勝敗如何でマット界が変わる」って言ったら、アレクが一言「じゃあ、ボクが勝てばいいんですね」って。「救世主になります」って言ったんですよ。それが実現した以上、ボクも身体張って答えを出したよ。花道に走って。

山口　アレクに関しては刻一刻の体験にいちいち感動できる能力と体力だね。それを持ってるからプロレスも格闘技も関係なく向かっていける。それがない選手はカラに閉じこもるばかりでつまらない。選手側にもファン側にも「刻一刻の体験にいちいち感動できる能力と体力」が欠けてたってことだね、マット界が盛り上がらないのは。アレクはいい素材だよね。

豪　「アレクが出たんならオレも」みたいなレスラーが出てくると思うんですよ。

山口　どんどんやって欲しいね。臼田（勝美）にも出て欲しいし。

チョロ　宇宙パワーにも出て欲しいですね。

山口　アレクが朝5時からリングを組み立てたとか、ヘタに美談にするわけじゃないけど、U系のレスラーにそんなことできないでしょ。でももうプロレスラーとか、プロ格闘家ってことにアグラをかいてる時代じゃないよ、ホント。だって、パーフェクTVの実況聞いたら、リング屋がたまたまリングに上がったって聞こえるよ。「今日もいつも通り朝5時に来てリングを組み立ててました！」って（笑）。でも、アレクはそれを毎試合やってるわけでしょ。「そういうことをやってきた人間としての底力を見せる」って前号のインタビューで言ってたんですよ。リング屋やることも売りでもなんでもなくて、アレクの底力をたくわえるためのエネルギーなんだよね。

豪　昔からパーマンだし、リング作ってるし、リングの下で寝てたし（笑）。

山口　でも、理不尽なことや不合理なことから逃げるんじゃなくて、それを跳ね返すような精神力の強さを見せたわけじゃん。

豪　コーチした高阪の凄さも見えたし、石川社長のセコンドもよかったですね。「（ヒジで）グリグリいけ！　グリグリ！」って。あそこに猪木イズムというか、ゴッチ、猪木、藤原に流れるものを感じたよね。

ノブ　タイガーマスクもいましたね。

山口　タイガーマスクのセコンドはやっぱり面白かったよね（笑）。『PRIDE』には、あれを許容する幅を持って欲しいよね。痛快に感じたのはそういう部分だし。ふざけたことをやってると見られる人たちの『根っこ』を見極めができるマスコミもファン

やっぱり今回の試合後も一族郎党を引き連れてリング上を占拠したヒクソン。格闘技でビジネスしながら、アパレル業界へも参入、多角経営へと乗り出した。この道の大先輩といえば、そう格闘技の心得もあるミスター多角経営こと全日本女子プロレス・松永高司会長である。グレイシー・ファミリーと松永ファミリーの血の濃さは同じくらいだと思われる。

リング屋をやることもアレクの底力をたくわえるためのエネルギーなんだよね（山口）

前回出場した『PRIDE.2』のホイラー戦同様に相手の土俵にわざわざ飛び込んでしまい、またもや顔面がボコボコになるまで殴られてしまった佐野。負けた瞬間、会場内はタメ息に包まれた。95・10・9新日vsUインターの対抗戦の際、ライガーと対戦。試合で負けたライガーに「佐野さんの人生は偽りの人生。試合に負けたが佐野さんの人生には勝った」というひとことが今になって重くのしかかってきた。

も少なくなってるよ。

豪　ふざけたことの根の深さっていか、「ただふざけてんじゃねえぞ！」っていう。

山口　バトラーツが軽んじられるたびに「世間のレベルって落ちてるんだなぁ」って思うけどね。バカなライターとかいるじゃん。「あんなにふざけてていいんですか？」とか。いわゆる格闘技界もひっくるめて一番元気ありますよ。『格闘探偵団』って名乗ってるけど、ホントにそうでしょ。日高（郁人）だってキングダムには出てるわ、パンクラスの美濃輪（育久）とはやってるわ、みちのくには行ってるわさ。実は一番古くて一番近代的なことをやってるのがバトなんだよね。

豪　芳賀元太まで入れると凄い幅ですよ。初期パンクラスもそういう要素があったから面白かったわけじゃないですか。でも、団体内での闘いに専念したぐらいからダイナミズムが失われ、ボクらには楽しめなくなった。

山口　閉じこもっちゃ面白くないよね。それを象徴してるのが飛び回ってる島田（レフェリー）だよね。でも、世間から見たら「あんな調子のいい男はいない」とかさ（笑）。

豪　「あのレフェリーだけは許さない」とか「アイツの名前だけは忘れないようにしよう」と言われちゃうんですね。

一同　ガハハハ！

豪　でも、アレクの勝利でバトラーツ内部でもああいう純プロレスだけじゃないんだっていうのを見せたいって気持ちは高まってると思うんですよ。だから、これからバトラーツがより面白くなるわけですよね。純プロレス的なことをやりながら、深さの部分もみんな見せたい気持ちもあるから。

山口　両国ではオーソドックスなプロレスを見せてくれると思けど、今オーソドックスなものって少ないからね。

豪　原点回帰で「わざとらしいことがリアル」な世界ですね。芳賀元太風に言えば（笑）。

山口　今、両極端じゃない。バーリ・トゥード方面か、エンターテインメント方面か。ちょうど中心線がないから。いまオレにとってはバトラーツが一番プロレスらしいプロレス団体なんだよね。まあ、スター性あるヤツいないから貧乏くさく見えちゃうけど（笑）。

チョロ　マット界は活性されるじゃないですか。アレクが『PRIDE』に上がったことによって他のインディー団体でもバトラーツより上だと思ってるところはいっぱいあるでしょうから、その結果活性化されて、バトラーツはマット界を盛り上げる立役者になってるとは思いますよ。

狂犬W・イズマイウをパンチでTKOに追い込んだ小路晃。自身の道場もオープンしたばかりで、勢いに乗って怒涛の勝利。「なぁ〜、みんな〜！」と聞く方が脱力する素敵な声で尾崎豊のMCを完全コピーした。

「今年は笑いを取る!」と本誌前号でアピールした高田。入場時、踊りはしなかったが、『PRIDE.3』のガウンをゴージャスにした過激な虎ガウンをまとい、笑顔を浮かべながらリラックス・ムードで入場。館内はそんな高田にどよめきながらも大熱狂した。

ノブ　椎名基樹さんが言ってたんですけど、マルコやウゴは向こうではU系で言うところの前田とか高田なんじゃないかって。要するに全盛期はちょっと過ぎてる。ゴエスとかはブラジリアン柔術の中では桜庭的なポジションで、既にその人たちの時代なんですよ。

山口　リングスで言えばヴォルク・ハンみたいに強い人でも、高阪みたいに新しい技術を学んだ人から見れば古いわけでしょ。それがファンに届ききってないんだよね。そこがまだ、高阪とか、桜庭とかのプロとしての未熟なところ。もっともっと高いレベルを狙える底力を持ってるのに。パンクラスとか、リングスとか、シューティングとか、いろんなところの今27～28歳のヤツが集まって交流戦をやったところで、果たしてマット界が爆発するのかっていったら、それは見えないよね。

豪　爆発はしないよね、単にわかりやすく地続きになるぐらいで。

山口　技術的なレベルは当然上がるだろうけどね。

豪　だから、それの対立概念がなきゃいけないんですよね。

山口　日本が世界に戦争仕掛けて、ブッ潰しゃあいいんですよ！　プロレスも格闘技も壁をとっ払って「強くて、面白くて、凄い」人たちが格闘技世界大戦をやりゃあいいんですよ。

豪　で、やった後で日本の軍団が割れて、口汚く罵り合い、またお互いにぶつけて行けばいいわけよ（笑）。

山口　ハッキリわかったのはヒクソンはブラジルでは強い存在だけども、桜庭が言ってたようにピラミッドの頂点であって、他はたいしたことないってこと。桜庭が言うように下から崩していってるわけだから、残るのはヒクソンなんだよ。じゃあ、そのヒクソンを倒す人が桜庭なり高阪でいいのかっていう問題になると、オレは違うと思う。やっぱり高田の世代が倒さなきゃダメだよね。だから、オレは3度目はアリだと思ってる。興行的にはどうなるかわかんないよ。ファンが興味を持ってくれるかわかんないけど。前田なり、高田なり……。

豪　山ちゃん（山崎一夫）が倒したら泣けますよね！　多分ボクらみんな号泣しますよ。ただ、佐野のセコンドに宮戸がいたのにああなっちゃったっていうのがホント、切ないですよね。

山口　それは宮戸が今の技術が貼りついてないんだよね。Uインターでストップしちゃってるもん。だから、マックでやってるのに、なんであの人たち手書きでやってるの？ってことだよね。効率悪いことやってるんだよ。でも、前田、高田の手書きの原稿の味っていうのは凄いよね。マックでやってるから偉いかっていうとそうでもないだろうし。

豪　ヒクソンなんて日本的な文化に憧れて、墨で原稿書いてるようなもんですよね（笑）。

チョロ　佐山はマック使って(笑)。

豪　それはそれで面白いんですけどね。そういう手書きの概念とコンピューターの概念がグチャグチャになってたのが昔の新日だったんですよ。今それをやってるのがバトラーツで。

山口　猪木さんもそうだよね（笑）。

豪　猪木さんは鉛筆でワープロ打ってるような世代ですよ。
一同　ガハハハハ！
山口　「こっちの方がおもしれえじゃねえか−！」って（笑）。
豪　そういう部分が機械を圧倒すると面白いんですよね。単純にそれが見たいんですよ。機械でホントにもの凄いことをしたらボクらも感動できると思うんですけど、中途半端に機械ならではの凄さを見せつけられても困るから。それがアマチュア格闘家だと思うんですけどね。
ノブ　パンクラスって完全にマックなんですかね？
山口　パンクラスはもうマックでも手書きでもない中途半端な位置にいることが露呈されちゃったじゃない。アレクが勝ったことによって。だってパンクラスは1年2年かけて対外試合やるって言ってるのに、普段リング作りやって、しかもグッズ管理までやってた男が勝っちゃうんだから（笑）。

アレクの勝ちを見て猪木さんが言う「元気が一番」っていう意味がわかったよ（山口）

豪　しかも、高阪に2日教わっただけの男が（笑）。
山口　それがマルコに勝っちゃったんだから。だから、リスクを背負わないで一歩一歩上がっていくっていうパンクラスの方法が時代には合ってないんだよね。元気がないもん。
豪　初期にはアグレッシブに出て行ってたんですよね。
山口　だからパンクラスが早すぎたのか、遅れているのかはわからないけども。
豪　そういう意味では確かにバトラーツはパンクラスの弟なわけですよね。兄貴のいいとこ取りして、そのまた親父の新日のいいとこ取りもして。
山口　そのうち力道山まで取るだろうね（笑）。
豪　多分、ドン荒川を上げてやりますよ、猪木対力道山とか（笑）。
山口　でも、今マット界に求められてるのは力道山時代のエネルギーだよね。やっぱ「元気があればなんでもできる」というか（笑）。アレクの勝ちを見てね、猪木さんが言う「元気が一番！」っていう意味がわかったよ。「元気があればなんでもできる」。
豪　パンクラス、今元気ないですからね。元気になって欲しいな。船木も鈴木も元気なれば、日明兄さんも元気になるし。活性化しますよ。ドン荒川の元気さを見習って欲しいね（笑）。
山口　負けたっていいんだからガンガン出ていきゃあいいんですよ。
豪　やりゃあいいんだ、やりゃあ！　初めから負けることを考えるバカがいるかってことですよ。パンクラスは負けることを考えてるから一歩出れないんですよ！　一歩飛び出せば男になる！
山口　（バシーンとチョロを張り飛ばし）出てけーっっ！

【98年10月16日、ダブルクロスにて収録】

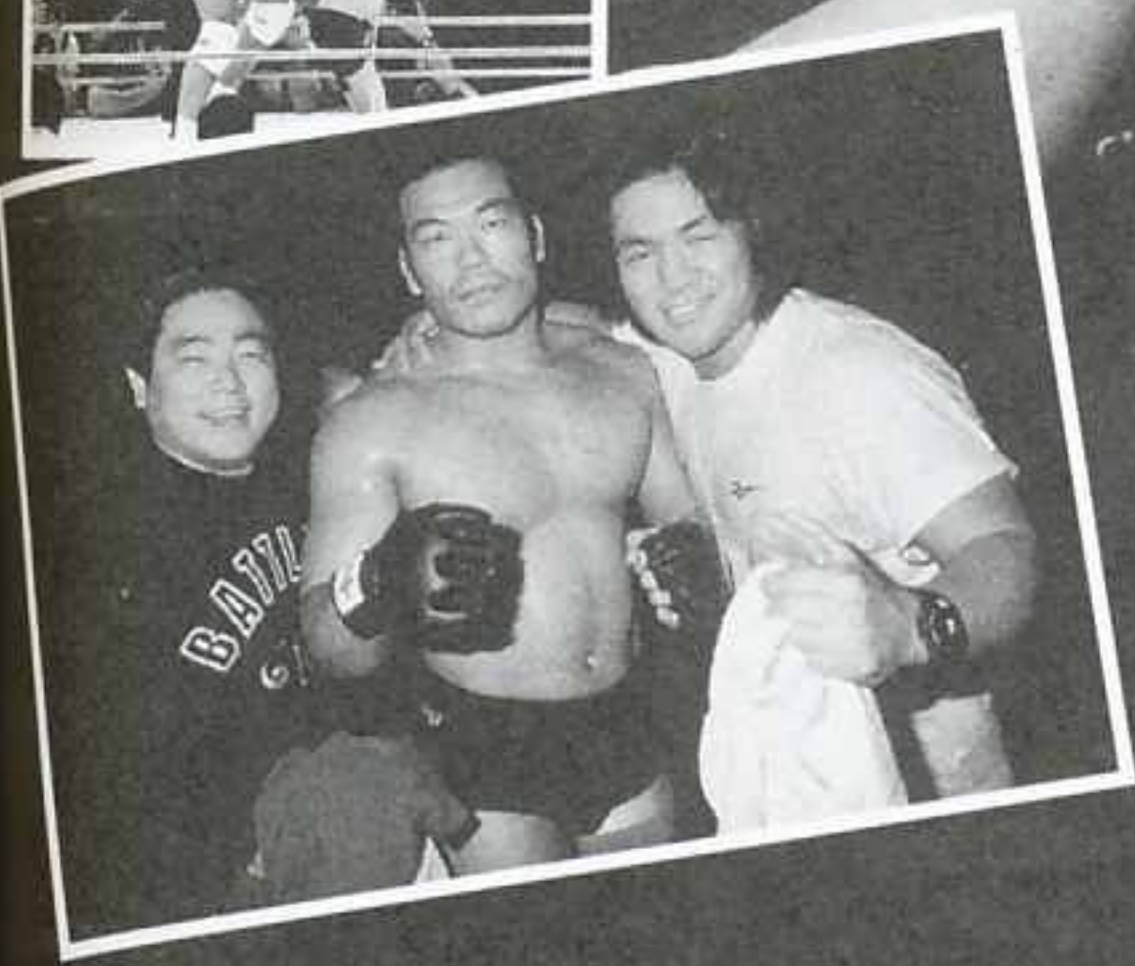
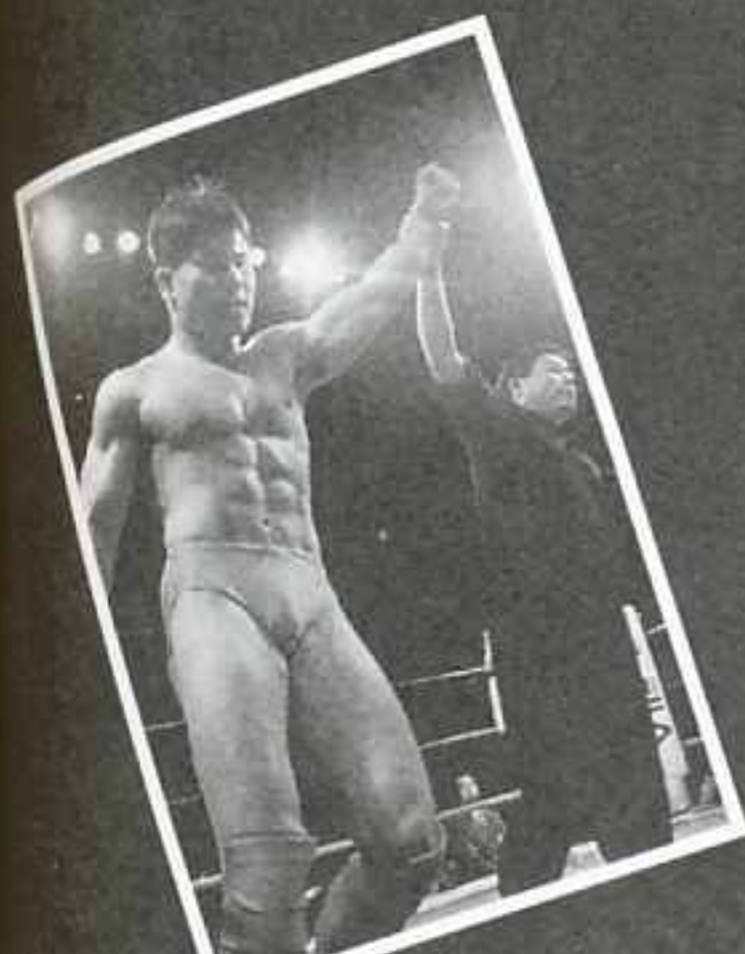
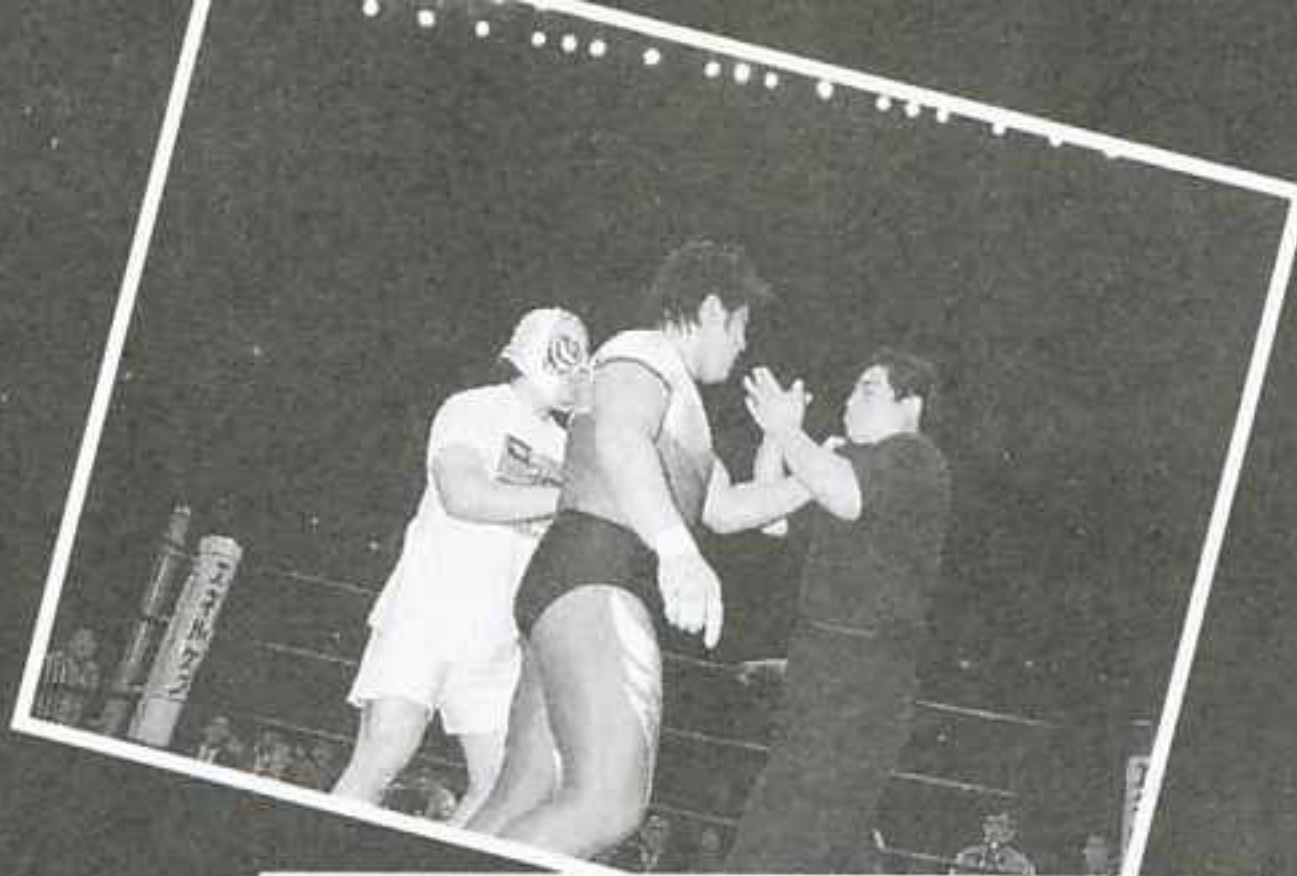
凶敵アラン・ゴエスと一進一退の寝技の攻防を繰り広げた桜庭。寝転がる相手の上で側転してみたり、首を取らせて腕を狙ったりと大健闘したが、ゴエスの防御を起点とした闘い方を崩せなかった。『PRIDE.』シリーズ参戦以降、必ず脱力コメントを残してきた強心臓男も今回ばかりは涙のノーコメントとなった。

ダイエット
ブッチャー
スリムスキン

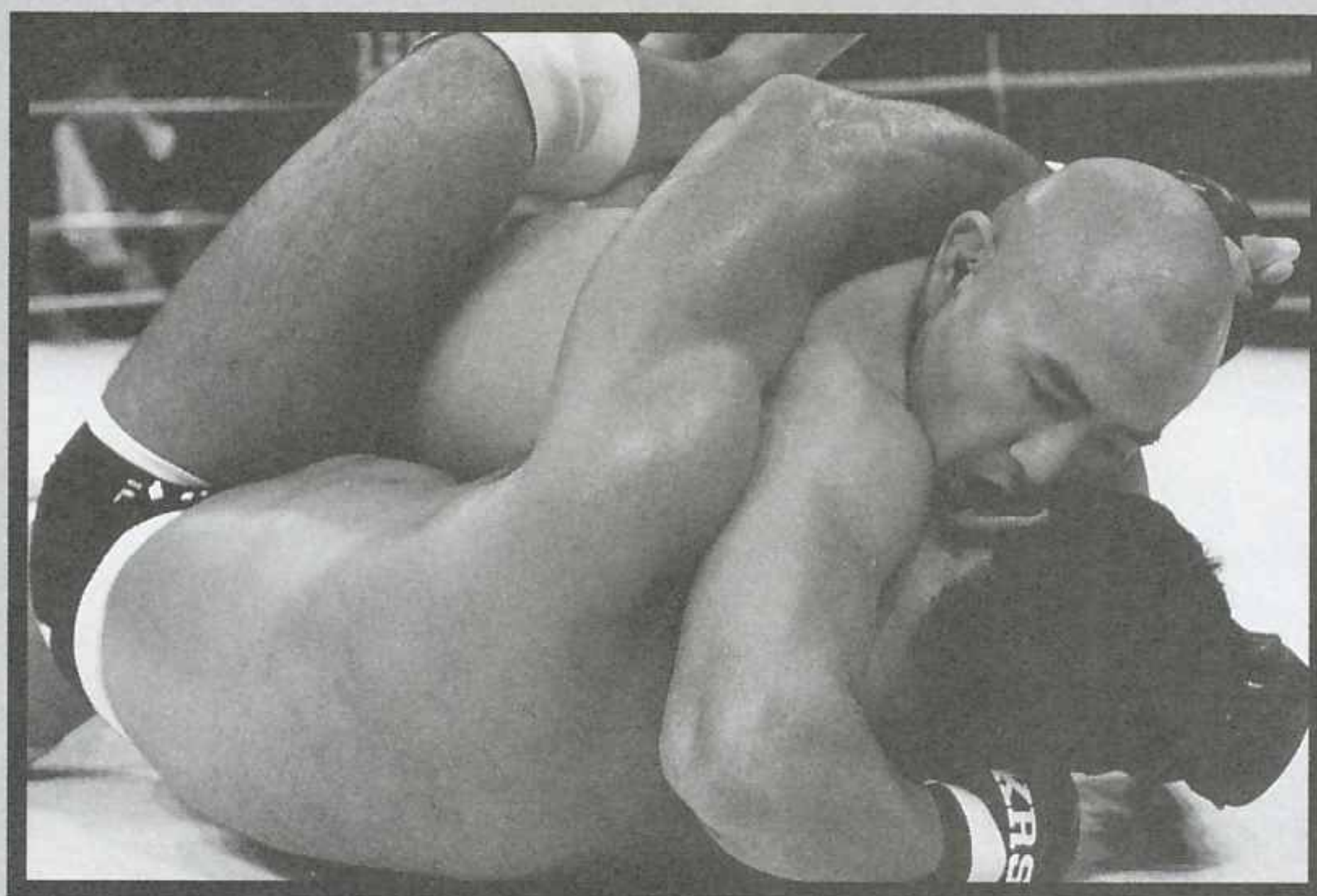
マルコの戦意喪失によって勝利が確定した瞬間からアレクは晴れ晴れとした表情で3万6000人に勝利をアピール。バックステージの通路に戻ってくるなり、「やったー！」と叫び、勝利のパフォーマンスを報道陣の前でも披露。プロだねぇ。

「PRIDE」「K―1」「UFO」に、忘れちゃいけない「バトラーツ」。
世界を股にかけるミスターレフェリング

島田裕二（バトラーツレフェリー）の『オレ様が語る10・11（その他）』

レフェリーにもプロとアマがあるんですよォ、は〜い

アレク完全勝利への道！

いやー、お疲れッシ！ もうアレク最高！ サイキョ！ 完全にサ・ク・セ・ン勝ちですよぉ〜。第2ラウンドにマルコはハーフガードを取ってましたけど、これがもうすでにこっちの術中にはまってるんですよ、は〜い。マルコはあれで安心してるんですよ、マウント取らしてないから。だけどアレクはその時点で殴るポジションを取ってたんですねぇ、実は。コツコツ当てていくってのが作戦だったから、もうそのままですよ。楽勝ですよォ。プロのリングでやってる人間が例え〃路上の王〃とはいえ道端でやってる人間に負けるわけにはいかないんですよ、は〜い。

怖かったのは出会い頭のパンチだけ。パンチを1ラウンドにもらわなかったら勝てると思ってましたよ。GOGO！ アレク!! 上に乗られた時も、八木（土方隆司）にブロックサインで「あ・わ・て・る・な」って言えって本部席からやってましたからね。パッパッパッってね。は〜い。ヒール（ホールド）も怖かったですねぇ〜、早かったから。ホ〜ント、ワセリン塗ってて良かったぁ〜。嘘ですけどね。こういうこと言うとすぐに格闘技マスコミがツッコんできますからね。ロクに取材もできないくせに。チッ！

『格通』の編集長には「ほら、1ラウンドで負けないでしょ！ どう解説するんですか！」って言ってやりましたからね。頬が引きつってましたねェ。ビデオの収録中だったんで悪いことしたなぁ〜、は〜い。

あとはスカイパーフェクTVの解説をやってた近藤隆夫！ 問題ありまよ、ヤツは。格闘技を語るセンスがないですね。解説者なんだから、どっちのいいところも拾ってあげなきゃ。それをアレクが勝って「奇跡ですねぇ」みたいなねぇ。お前は「奇跡」って漢字を書けるのか！ メ●ラのくせに！ 「私も日本人だから、つい応援しちゃいますよ。

プロが道端でやってる人間に負けるわけにはいかないんですよ

アラ、ゴメン。口がすべっちゃいましたぁ」とか言えばね「よしよし」って頭ナデてあげるのにねぇ。コッ!

アレクの試合も見たことない、取材も来ない。そんなヤツらが格闘技を語るな! そんな感じですね~、は~い。なにも勉強してないですから、ヤツらは。格闘技専門でメシを食ってるんだったら、腹切る気持ちで予想しろ! マルコとアレクの闘いをシュミレーションして「マルコのアラはあそこだ」とかね。「あそこを攻めたらアレクが勝つだろう、でも、マルコが勝つだろう」とかね。

ホ~ントッ! 近藤隆夫はダメ人間ですよ! オレ様の顔にバッテンした男ですから。『ヒクソン×高田戦の真実!』って本を見るたびに悔しさがよみがえりますねぇ。チッ! 忘れませんよ、僕は。俺には、この顔でもいいっていう妻がいるんですよォ! あんな髪の毛を染めたアホにバッテンされたくないッスよ、は~い。

これが本文中で島田レフェリーが憤慨していた、問題の『ヒクソン×高田戦の真実』。ものの見事に島田さんの顔が×で隠れてしまっている。このデザインに悪意があるかどうかはシロウト目にも一目瞭然。でしょ?

あの本を見るたびに悔しさがよみがえりますねぇ。チッ!

10・11世紀のリ・マッチ

(高田―ヒクソン戦でなにか気付いたことはないですか?)

やっぱりヒクソンの上になった時の技術は早いですよ。いつもは着でやってるのに、なぜ裸でできるのかっていうのは凄いですね。相当練習してますよ、彼は。だけど、今年の高田さんは良かったですよ。勝てると思いましたけどねぇ。コーナーで結構、ヒザを入れてた時にヒクソンは泣きそうな顔してましたからね。ただ、そのあとにヒクソンがダウン気味に崩れた場面があったでしょ? あれはヒクソンの作戦だったんじゃないかなって気もしますね。効いてたのは確かなんで、致命傷を負わないようにダウンしたような気もしますよ。結果はどうあれ、今年の高田さんは精気がありました。足りなかったのは遊び心。セコンドに橋本真也をつけてほしかったですねぇ。

レフェリーの苦悩、葛藤、慟哭

(ところで向井亜紀さんがあなたのことを恨みに思ってるって知ってます?)

なんで? WHY? どういうこと? 『T多重ウェイブ』って本で向井さんが原稿を書いてる? 何、「当日(去年の10・11)の試合中になっていきなり、レフェリーが(ロープを掴むことを)認めてくれないという、結末をもって(試合を)壊されてしまったのです」「いくら痛飲してもレフェリーの名前だけはチェックしておこうと思ったことを覚えています」……ですかぁ。はぁ~。そんなことぜ~ん然ないですよ。初めからロープは持っちゃいけないルールだったんですよ。これは10秒ルールじゃないんですよ。ただ、ロープを持ってすぐに〝注意〟を取ったら、試合が全部反則で終わっちゃうじゃないですか。持った時のアドバンテージが10秒ってことですよ。

「明らかに〝持った〟場合は一発で取る可能性があるから気をつけてくださいね」って言ったんですよ、ルールミーティングで。それは高田さん側からも、ヒクソン側からも、主催者側からも確認取ってま

「やっぱり高田さんは凄いですよ。スーパースターですよ、は~い。新日本の時から数えたら5回目ですよ、ドームでメインはってるのは。そんなレスラーなんか他に誰一人いないじゃないですか。新日本のレスラーよりも多いんですよ。大したもんですよ、は~い」

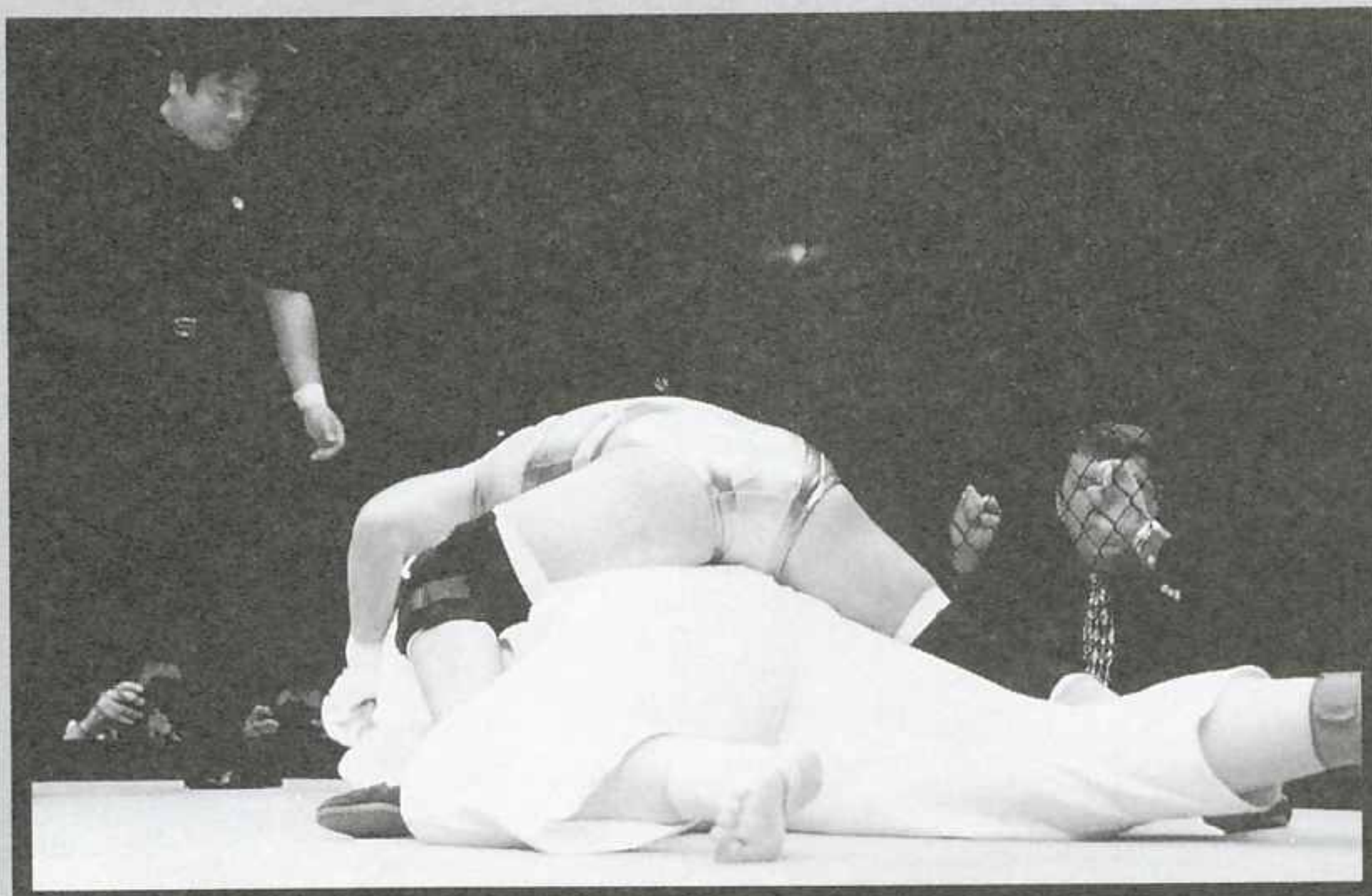
四角いジャングル RADICAL

すから。「ロープを持ってもすぐに注意は取りませんけど手は払う」と。でも、「明らかにやったら取りますよ」って言ったら、どっちも「わかった」って言ったんですから。そういうことでほかの試合も統一してますから。ヘンゾと小路の時は小路は手を放してるじゃないですか。でしょ？　こんなこと言ったらまた恨まれるかもしれないけど向井亜紀さんはルール・ミーティングに出てないんですからね、は〜い。だけど、ボクは向井さんの大ファンですよ。ライセンスナンバー1なんですよ。

だから、レフェリーが手を払ったらロープを放す仕草をしないと。ボクは、あの試合は取って取って、2回言って放さないから、コーションを取ったんですよ。アレを取らなかったらボクはキム夫人に殺されてましたよォ！

（だけど、KRSの最初のリリースには10秒までロープを掴んでいいっていうのがあったんですよ）

それも言ったんですよ。こういう風に書くと問題が出るから、それはルールミーティングでしっかりさせましょうって。高田さんも持つ練習してるんだったら、それは主張した方がいいと思うんですよ。「10秒だからいいだろ、ヒクソン！」って。それは作戦の中の一部じゃないですか。それを言う言わないじゃなくてルールなんですから。

（小路晃に負けたヴァリッジ・イズマイウも試合後に「止めるのが早い」って言ってましたけど？）

10.10、両国国技館。『L-1』での神取vsグンダレンコ戦。裁くレフェリーはもちろん島田裕二。「神取は良かったですねぇ。男泣きしましたよ。ジーンときましたねぇ。ただルールを勉強してないヤツはこういう大会には出てこない方がいいですねぇ。チッ！」

レフェリング技術も学んで欲しいね 格闘技マスコミには。コッ！

あんなにボロボロになっても「まだ闘える」っていうんだったらレフェリーしたくないですね、は〜い。その前のダウンでもうダメだなって思いましたからね。まッ、あそこで止めたのは僕なりの演出ですかね。ダッ、ダメですよ〜、信じちゃ。もうね、元気だからイズマイウも言えるんですよ。去年の（オレッグ・）タクタロフみたいになってたら、誰も何も言えないですよ。そしたら、レフェリーが怒れるじゃないですか。「止めるのが遅い」って。ふざけるなって感じですよ。レフェリング技術も学んでほしいね、格闘技マスコミには。コッ！

プロ・レフェリーの苛酷な道

某団体のレフェリーなんかも選手の目を潰してしまうようなレフェリングしてるじゃないですか。そういうのをもっと糾弾するべきなんですよ、格闘技雑誌は。「どうして2回戦にいかしたの？」って。Pって団体のレフェリーも、盛り上がってるとこで反則を取ったりするじゃないですか。ダメですよ、流れを止めたら。そんなにガチガチのルールでやってたら。観客がいるんだから、パッとアドバンテージを見ないと。サッカーだってラグビーだってアドバンテージは取るんですから。

あとは一回言ったことはサブレフェリーが言ったからって変えちゃダメ。ダウンを取ったらダウンですよ。ダウン、ダウン、ダウ〜ンですよォ！「あとで選手に殴られるかなぁ〜？」それでも「ダウ〜ン！」なんですよォ、お客さんから信用されなくなりますからね。レフェリーにもプロとアマチュアがあると思いますよ。オレはもうお金をもらったら一生懸命仕事しようと思うし。会場に入ってからも、できることはなんかお手伝いしようと思うし。Tシャツとかもらえないかな〜って思うし。いつも考えてますよォ、は〜い。

両国への道

（ということで、両国ではどんなレフェリングを見せてくれるんですか）

押忍！　押忍押忍押忍押忍！　ロードウォリアーズのボディーチェックに期待してください！　トゲトゲの一本一本までチェックしますよぉ〜（笑）。押忍押忍押忍押忍！

四角いジャングル RADICAL

『PRIDE』『K-1』『UFO』に、忘れちゃいけない『バトラーツ』。裁いた団体数知れず、多忙を極めるミラー・オブ・サラリーマン。オレ様が島田裕二だ！

Uの逆襲が

U-DREAM'98

今、始まる

～1st Impact～

1998.12.11 [Fri] 富山市体育館 Open17:30 Start 19:00

安生 洋二　藤原 喜明　中野 龍雄　入江 秀忠 参戦決定

ミスター200%'98 Last Super Fight !!

NOW ON SALE

＜協賛＞ ㈲エンゼル、㈲中部海陸工業、㈲松岡商事 ＜企画＞U-DREAM実行委員会
＜後援＞㈱スキゾノックス、[財]富山市スポーツ振興財団、㈱日本スポーツ出版社『週刊ゴング』
㈱東京スポーツ新聞社 、㈱ダブルクロス『紙のプロレス』
＜チケット料金＞SRS¥30,000（完売御礼）/RS¥15,000/SS¥10,000/S¥7,000/A¥5,000 [In TAX]
＜プレイガイド＞高岡大和百貨店/富山大和百貨店/インフォマート『市民プラザ店・CIC店』/太陽スポーツ各店
マリエとやま/アピア/アピタ富山店/KAKEOパレス 他

Produced by Ken Suzuki

Information：RKエンタ・テイメント Tel 0764-43-4002 [代]

RADICAL Back Number

のお知らせよ♥

時にはキック〈withマルコ〉！
時にはパンチ〈withマルコ〉！

買わないと逮捕しちゃうぞ!!

創刊号
驚天動地！　何だこの表紙!!
が、しかし中身は豪華絢爛
特別インタビュー大満載！
これは買わねば!!

★特集「プロレスラーとは何か！」
「プロレスにプライド持つっていうのを捨て始めたんだよね」**高田延彦**／「UWFはパンクラスだと思った」**船木誠勝**／「綺麗な肌の女の子は内臓も綺麗でしょ」**初代タイガーマスク**／「俺たちはどんなことをやっても美しい!!」**橋本真也**／「いつも心にダイ・ウィズ・ガッツ！」**タイガー・J・シン**／「感動なんてもんじゃなく、感覚が激する！『感激』が大事なんや」**前田日明**などスペシャルインタビュー多数掲載！
◎な、なんと格闘探偵団バトラーツを32ページに渡ってブチ抜き大特集！他じゃ見られないバトラーツの全貌が今此処に明らかにされる！

第2号
ドスを構えた
シリアスバージョンの高田延彦。
ヒクソン戦を控えた高田の心意気は
君の脳髄にもグサッと突き刺さるハズ！

◎読者支持率ナンバーワン！「相手の技が見えるようになっちゃえばおしまいですからね。あとは目を突けるかどうかですよね」男気溢れまくる喧嘩話満載の**佐山聡**インタビュー
★特集「プライドとは何か！」
過激で素敵な脳髄直撃師弟対談
アントニオ猪木vs初代タイガーマスク
◎「真剣勝負で闘ってください」
発言の真意とは何か？　**田村潔司**
◎もはや実現不可能!?　**長州力vsターザン山本**「猪木イズム世界一決定戦」小社発行の『猪木とは何か？キラー編』完全再録！
◎パンクラスとは何だ！ザ・対談編
ターザン山本vs山口昇

第3号
神様的な大反響！　あのカール・ゴッチが
ついにRADICALに降臨!!
OH! MY GOT!!　な発言の連発に
君は耐えられるか!?　迷わず買うべし！

★特集「針の穴にラクダを通せ！」
◎「レスラーとしては、わざとリアリティを売りにしている。だから、ファッションですよ！」
船木誠勝19ページブチ抜きインタビュー
◎「ボコボコのシバキ合いを見せる！」
山本宜久インタビュー
◎世界格闘技連盟とは何か？
猪木の「『LOVE』とかってあるでしょ」という謎かけで終わった師弟対談のパート2
この過激さから目をそらすな!!
アントニオ猪木vs初代タイガーマスク
◎「八百長論議」を忘れるな！闘え！プロレスの敵は世間だ!! プロレス・ファンじゃない500人のアンケート結果を叩き込んだ総力特集！

第4号
マルコ・ファスを敗り、一気にその名を
世界へ轟かせたみんなのアレク！
プロレスラー・アレクサンダー大塚の原点が
ここにある！　必読インタビュー掲載！

◎**神様カール・ゴッチ**大反響インタビュー第2弾・グレイシーからアルティメット、アメプロ、馬場さんまでエアガイツでメッタ切り！
★特集「落とし前」と「世界征服」97
◎「新日本プロレス25周年特別試合」
酒、女、喧嘩、何でもありの超過激対談
藤原喜明vsドン荒川これを読まずに20世紀は終われない。
◎「俺、リングスで一番強いと思ってるからね」
高阪剛インタビュー
◎**プロレスをナメ切った世間に今こそカチ喰らわせ！**
大反響！プロレスファンじゃない500人アンケート第2弾

第5号
打倒ヒクソン・グレイシーに
立ち上がった最後の刺客、高田延彦。
『RADICALはいつだって
高田延彦を応援するぜ!!』

◎猪木、Puffyほか有名人33人が**高田vsヒクソン**を大予想
◎読者人気爆発!!　ストロング・スタイル対ひょうきんプロレスの頂上対決。伏せ字だらけの超過激対談パート2　**ドン荒川vs藤原喜明**
◎全てはここから始まった！開始前から話題騒然の新連載！**前田日明**のウルトラ・メガバトル人生相談『人生は語らず』
◎世界格闘技連盟を語りたおす！食い倒す？『ケーキクェイ』**佐山聡（タイガーキング）**インタビュー
◎“活字プロレスの悪魔（ターザン山本）”が語る**高田vsヒクソン**の意味！「今は高田延彦の方が前田より100倍魅力的ですよォ！」

第6号
「俺たちが世界を支える!!」と
腕組みをしてRADICALに初登場したのが
nWo・蝶野正洋！
プロレス界、『紙プロ』の救世主となってくれ！

★特集「“プロ”と“レス”融合か分裂か！」
◎**前田日明**の人生相談＆パンクラス問題に日明兄さんプチッインタビュー＆前田のイラダチ頂点に達す!! リングス大会終了後の共同会見完全再録
◎ゴリさんこと**アレクサンダー大塚**のみちのくひとり旅日記’97
◎「サスケがダメなのは『紙プロ』と付き合っているからだ！」**TAKAみちのく**毒舌爆発インタビュー
◎**高田×ヒクソン戦**直後、**Puffy**に独占インタビューを敢行！
◎打倒！八百長論議！**ザ・グレート・サスケ**が素人相手にお説教！
◎**井上京子**／**井上貴子**／**角掛留造**／**松永高司**インタビュー

第7号
特集「反骨の剣」
堂々の読者人気1位奪取！
赤いパンツの頑固者・田村潔司
鮮烈ロング・インタビュー

◎読者もシビレまくり！
黒いパンツの心意気・激白 **木村健悟**
◎酒、煙草、男、三禁なんてクソ食らえな大型不良新人！**中原奈々**インタビュー（現在失踪中）「凶器しか使わないプロレスをしたい！」
◎みちプロ経営危機の真実を**ザ・グレート・サスケ**が独占告白！「こんな経営をしていたら50年もつみちプロが5年で潰れてしまう！」
◎……ああ、好評すぎて怖い。
寸止めなしの殺戮連載！**前田日明**の“ワールド”メガバトル人生相談「人生は語らず」
◎祝！復帰記念　**モハメド・ヨネ**インタビュー
◎ラジカル初登場2連発！
冬木弘道／**MEN'Sテイオー**

第8号
「見てみ、この面!!」シリーズ第1弾・
桜庭和志の戦闘スマイル満開ショット
「ヒクソンですか？　いけそうな感じ
するんですけどねぇ」ズバリ永久保存版！

★特集「格闘技世界大戦前夜!!」
◎**アントニオ猪木**
「元気」と「気づき」のロングインタビュー
◎ヒクソンとの再戦が決定！
高田延彦の意気込みを聞け！
◎「プロレスラーはホントは強いんです記念」
格闘家から見たプロレス
エンセン井上／**村浜武洋**ロングインタビュー
◎波動砲！**前田日明**の人生相談
『人生は語らず』
◎必読！黒いパンツの心意気PART2　猪木を裏切らなかったもうひとりの男**木村健悟**が猪木、坂口から八百長論まで大いに語る！
◎業界内外で話題騒然**吉田豪**の書評の星座PART2

第9号
「見てみ、この面!!」シリーズ第2弾・
高阪剛　この顔はマット界の宝だ！
「ヒクソンに勝つのは自分も自信あるし
誰もが狙ってると思う」もちろん保存版！

★「アントニオ猪木・闘魂連鎖！無礼講大特集!!」
前田日明／**ザ・グレート・サスケ**／**高田文夫**／**春一番**　久々に大炎上！**ターザン山本**／燃える情念！**石川雄規**
◎衝撃のさらばプロレスマスコミ宣言
業界病を吹き飛ばせ!!
◎**前田日明**
ラス前ロングインタビュー＆炸裂人生相談
◎日プロOB**吉村道明＆ユセフトルコ＆遠藤幸吉＆駿河海**
◎各方面で大反響!!［格闘家からみたプロレス！］**朝日昇**
◎大ブレイク**谷津嘉章**最強宣言！「グレイシーよりアマレスの方が強い！」ハッキリ言ってこれを読まなきゃプロレスファンとはいえない！

第10号
「驚愕の表紙」シリーズ第1弾・
前田日明vsエンセン井上
各方面に波紋を投げ掛けたスクープ対談が
ここに実現!!　まさにプロレス者必携の一冊

★特集「灼熱の地殻変動'98」
大和魂は連鎖する!!
◎とにかく元気！**高田延彦**ロングインタビュー
◎「タイガーマスクのマスク取れって言ったの、俺じゃん？」等々またまた大爆発！
衝撃の**谷津嘉章**インタビューPART2
◎社長＆会長対談
ザ・グレート・サスケvs松永高司全女会長
◎『紙のプレイボーイ』発進!! **ダイアナ＆宮内美穂**
◎大噴火!! **ターザン山本**の
プロレスマスコミ表紙批評!!
◎『紙のプロレス』スーパースター列伝**北沢幹之**
◎**冬木弘道**（**金村ゆきひろ＆伊藤豪**）
ロングインタビュー

第11号
「驚愕の表紙」シリーズ第2弾・
格闘Viagra'98
高田延彦vsエンセン井上烈談!!
こんな対談が出来るのは本誌だけ！お買得にもほどがある一冊

◎前田日明引退記念特集＆
ラストマッチ後・初インタビュー　**前田日明**
◎良くも悪くも大反響！
ターザン山本のプロレスマスコミ表紙批評！
◎「格闘か？芸術か？それとも格闘芸術か!?」
佐山聡／**スーパー宇宙パワー（木村浩一郎）**／**福田雅一**インタビュー
◎**ザ・グレート・カブキ**／**ダンプ松本**インタビュー
◎バトラーツ両国進出記念特集
石川雄規／**トンパチ・マシンガンズ（折原＆小野）**／**岡本衛**／**マッハ純二**／**土方隆司**
◎SWSの真実がいま初めて語られる！
「S多重アリバイ」**アポロ菅原**
◎他じゃできない！UFO大特集!!
&Mr・ウォーリーピンナップ

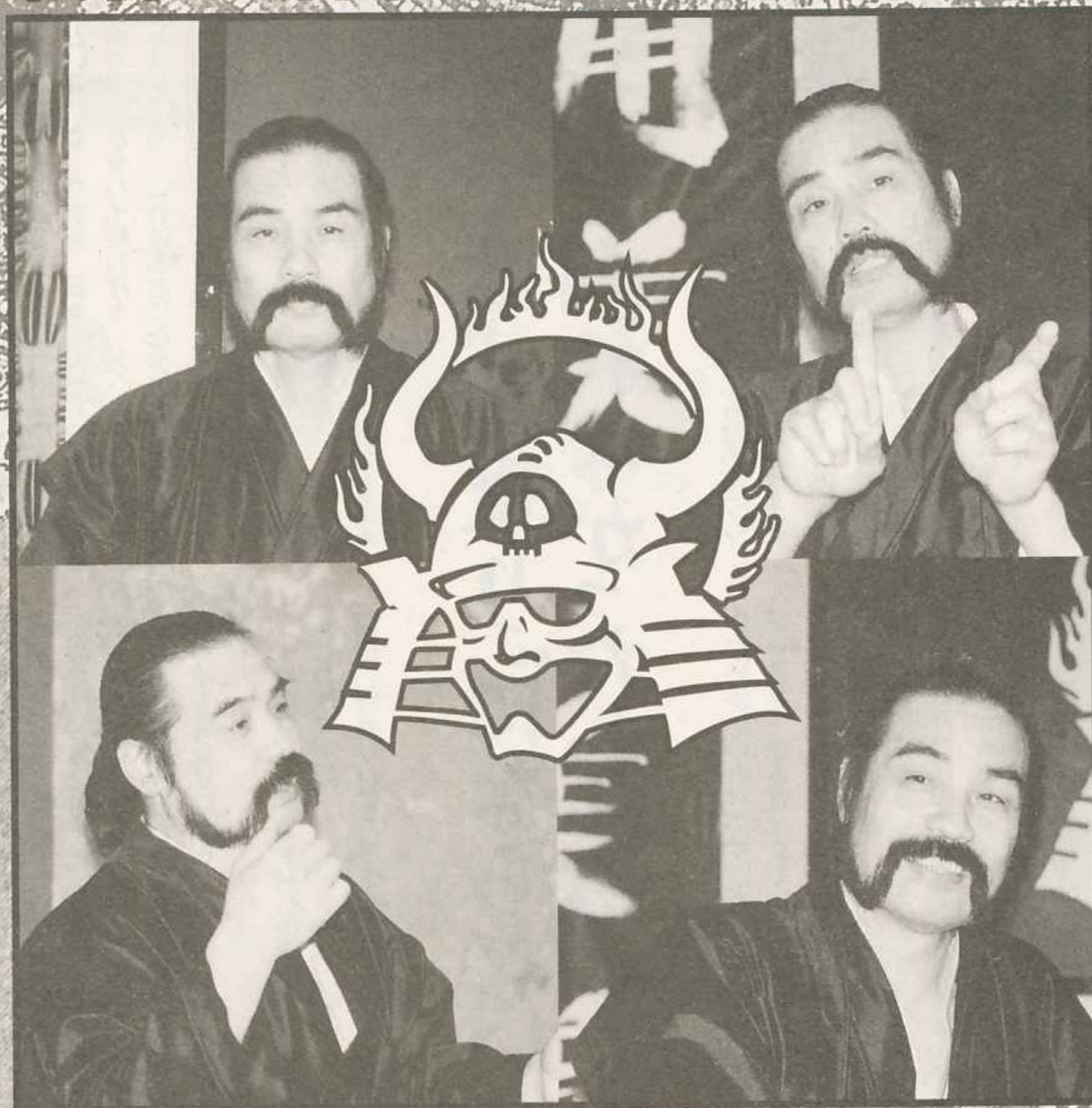
第12号
10・11「PRIDE.4」マルコ・ファスに
激勝した、我らがアレクサンダー大塚！
マット界の救世主アレクのマルコ戦直前の
声を聴け！　そして感じろ!!

★特集「格闘TEPODON!!　'98」
◎ヒクソン戦直前！
なにかが違う**高田延彦**暴走ロングインタビュー
◎「プロレスファンよ踊れ！祭り囃子を鳴らせ!!」
浅草キッド登場
◎人気大炸裂！「S多重アリバイ」第2弾
アポロ菅原インタビュー
◎**桜庭和志**／**アレクサンダー大塚**／**山本健一**／**神取＆北尾**／**八木淳子**／**ダンプ松本**／**志生野温夫**インタビュー
◎猪木イズム世界一決定戦
石川雄規＆ザ・グレート・サスケ
◎格闘王から相談王へ**前田日明**人生相談
「人生は語らず」堂々復活!!
◎話題騒然!! What is プロ格闘家？
菊田早苗&郷野聡寛インタビュー

【購入方法よ♥】
●現金書留と郵便振替の2種類があるの（バックナンバーは通販でしか扱ってません。書店では買えないわよ）
●現金書留の場合
〒151―0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3―11―3―702（株）ダブルクロス『RADICAL通販』係まで送ってね♥
●郵便振替の場合は用紙裏面の通信欄に希望号数を明記し、
00130―3―769154（株）ダブルクロスまで。
代金は創刊号=610円　2号=660円　3号〜10号=680円　11〜12号=780円　送料1冊=310円
2冊=340円　3冊〜4冊=450円　5冊=520円　6冊以上=700円（創刊号〜3号までは残りわずか！　急げ!!）

驚愕！
世紀末の
大発見！

マウント・ポジションの起源は、この国の戦国時代にあった！

戦慄の活字98手インタビュー

日本武道傳骨法創始師範

堀辺正史

「喧嘩芸」から「日本武道傳」に名称を変えた骨法。95年8月バーリ・トゥードで苦杯を舐めた骨法。取り巻く状況は変わっても、闘いの原点を見つめ、危険を顧みない過激な姿勢は現在でも変わりないようだ。ある日、その骨法の創始師範であり武道研究家の側面も持つ堀辺正史氏が、マウント・ポジションに関する世紀の大発見をしたと風の便りに聞いた。これは聞かねば！「狂ってますかーッ」!!

聞き手／山口日昇
interview by Noboru Yamaguchi

撮影／ハドドゥ
photographs by Hadodo

戦（いくさ）では"馬乗り"にならないと首を刈れなかったわけです!!

――お久しぶりです。今日突然うかがったのは、11月28日に披露されるという"武者相撲"。実は、この"武者相撲"という言葉の響きについつい惹かれて来てしまったというわけなんです（笑）。

堀辺　なるほどォ！　武者というのは、武者修行とか武者ぶるいとか、日本人に馴染みの風味がある言葉だからじゃないかな。

――馴染みの風味！　そう言われると、なんとなくそんな気がしてくるから不思議です（笑）。その"武者"と、これまた伝統的な"相撲"という言葉がくっついたわけですけど、"武者相撲"というのはズバリ言ってどんなものですか？

堀辺　まず、武者相撲の特色というのは"極め技"がないということなんですよ！

――ゲ！　極め技がない!!

堀辺　だから特殊な格闘技になるわけ。首を絞めるとか、関節を取るとかはもちろんないし、投げ技も柔道の一本とは違う。柔道の投げ技というのは、あれ自体で極め技、畳がなければ気絶するでしょ。だけど、武者相撲の場合は、倒して相手の上になるための手段としての投げ技だから極め技じゃない。関節技もないわけだから、つまり、極め技がないということですね。

――じゃあ、いままでの骨法のベクトルとは違うということですね。

堀辺　これはもう、全然違う方向ですね。

――実際にはどういう形で行われるわけですか。

堀辺　簡単に言うと、最初の取っ組み合い部分は相撲と似てます。自分が好きなように組んで、相手を倒して、最終的にはいま流行りのマウント・ポジションを取らないと一本勝ちにならない。だから簡単に言っちゃうと、武者相撲の一本勝ちというのは、マウントを取れるか取れないかということなんですよ。

――はっはー。マウントを取るまでの攻防が焦点ということですか。

堀辺　そういうことです！　馬乗りにならない限りは一本勝ちはない！　そういう競技なんです!!　（資料を取り出して）これをちょっと見てもらいたい。これは戦国時代末期の戦の絵ですね（図1）。これは鎧を着てますけど、実際は命がけの闘いですよ。こういった戦（いくさ）の中でも、いわゆるマウント・ポジションを取ってるわけ。これを伝統的用語では"組み敷き"、逆マウントは"組み伏せ"というわけです。つまり、日本人はマウント・ポジションを……。

――大昔からやっていたわけですね！

堀辺　しかも400年前にね（笑）。だから、マウント・ポジションの起源というのは、実は江戸時代の前になる約400年前なんです。この時代に武家相撲というものがあったわけ。これは武士がやる相撲なんだけど、いまの相撲と違うのは、まず土俵がないってことと寝技ありということ。だから、我々は相撲といえば、土俵から出たらハイ終わり！　というイメージでしょ。でも、これはあとになって出てきた新しい相撲の形態なんですよ。

――スポーツ相撲ですね（笑）。

堀辺　そうそう（笑）。でも、武士がやってた相撲は寝技があって、この"組み敷き"と"組み伏せ"。二つの状態に行くまでは勝ちを認めなかったわけです。たとえ投げても他のポジションを取っても勝ちにならない。普段からそれで訓練してたわけですよ、屋敷の中とかで。

――これはもう青春の大発見……いや、青春は関係ないですね（笑）。世紀末の大発見ですよ！

堀辺　これは意外とみんな知ってたようで、明確には気づかないで来ちゃったってことなんですよ。

――なぜこの頃の日本人は、その"組み敷き"と"組み伏せ"に価値観を置いたわけですか？

堀辺　実にいいことを聞いてくれた！　なぜこういう場面に価値を置いたかというと、日本の鎧というのは中国の鎧とは違ってたわけです。中国の鎧は皮製なんですよ。だから、凄い武器を持ってきて闘うと、け～っこう殺せるんだよね。

――け～っこう殺せますか（笑）。刀が通りやすいってことですね？

堀辺　刀が通る！　ヤリも通る!!　でも、日本の鎧はもの凄く発達してて、ヤリとか刀とかナギナタで突いてもなかなか死なない。そうすると最後は、組み合って倒して相手の首を刺さないと殺せない。そのような状況に、この鎧がさせてたわけですよ!!

――鎧が相手の首を刈らさせた！（笑）。でも実際これを見ると、トドメを刺すには首しか空いてないわけですからね。

堀辺　そして、柔道でいう横四方固めとか袈裟固めでは、自分の手が不自由になる。手を放したら相手が動いちゃいます。だから、最後に自分の手で刀を取って相手の首を刺すためには、いわゆる馬乗りにならないとできないわけですよ！

――馬乗りがトドメを刺しやすいポジショニングなわけですね。

堀辺　馬乗りが首を掻ききるっていうポジションに一番いいわけです。だから、武家相撲では組み敷き、組み伏せまでいく勝ち方を普段からやっていた。これを詰め勝ちっていうんですよ。

――詰め勝ち！　理詰めで相手を殺す過程ですか。物騒ですねぇ。

堀辺　江戸時代の小栗流柔術の巻物なんかを見ても、ハッキリ言ってグレイシーなんかが絶対に使ってないような馬乗りの種類がある。パターンも現在よりも豊富ですよ。

――面白いですね～、それは。

堀辺　しかも400年前ですよ（笑）。

――それをなぜ日本人が忘れていったかっていうのが問題ですね（笑）。

堀辺　柔術は、武家相撲のあと、つまり戦乱が終わったあとに生まれてきたわけです。で、いまの柔道の起源になった起倒流とかは、この鎧組み打ちの系統を引いてる。古式の型といって講道館が大きな大会で演武する時には、鎧を着

図1

●戦国時代には、刀を通さない鎧を全身に着けていたため、相手を倒し馬乗りになって、唯一空いている首を刈るのが常道だったという。いまでも数多くの図版も残されている。そして、合戦を想定した武家相撲では、"組み敷き"（マウント）、"組み伏せ"（逆マウント）の状態に持っていけば勝ちというルールだったという。実に驚きではないか

てる時のことを想定してやる。つまりそれは、武家相撲とか鎧組み打ちとかの系統を引いたものということなんです。だから、柔道には寝技があるわけですよ。その歴史を日本人が忘れてしまったってことですね。いずれにしてもマウントっていうのはこういうところに起源があるんですよ！ 柔道に上四方固めという馬乗りとほとんど同じものが残っているのも、そういう歴史を汲んでいるからですね。

——そうすると日本人が首を刈るという概念を400年間忘れていたってことも言えるわけですね（笑）。

堀辺 日本人はもともと首刈り族だからね（笑）。我々は特殊な偉い民族だと思ってるけど、アフリカの首刈り族と同じなんですよ。勝った場合には必ず首を切り落として、それを持っていくということが戦績証明書になるわけでしょう。いまはチャンピオン・ベルトが認定書の代わりになってますけど、昔は首を切って持っていくと、殿様が「確かにお前は何人殺してきた」と誉めてくれるわけね。だから、ハッキリ言ってナマ首をどれだけ持ってきたかということですから（笑）。

——ナマ首！ 生々しいけど、それが勲章ですからね。

堀辺 そう。その勲章を得るためには、馬乗りにならないと相手の首を切り落とすことができなかったわけです！

——なるほど勲章を得るためにはマウント・ポジションを取らなければならなかったわけだ。じゃあ、グレイシーがマウントパンチから裏返してチョーク・スリーパーにいくというのは、この頃の命がけの戦のなごりがあるということになりますね。

堀辺 首を切り落とす代わりに、手で首を絞めるという形に変化したわけです。これは江戸時代にそうなった。

——具体的には江戸時代ですか！ 実戦性がよりグレイシーに見えるというのも、そういう原点があるからですね。

堀辺 だから、極めてるところだけを見たら柔道もプロレスもサンボも柔術もみんな同じに見えるはずですよ。ただ、問題はそこまでに行く過程が違う。その過程は、実は400年もやっていた武家相撲が一番究極のところまでいけるようにしていた。そこが凄い。素晴らしい知恵なんですよ！ それを現代に復活させてやった方が、より早く強くなれるということです！ それが武者相撲誕生秘話のようなものだね。

——それが11月28日に披露されるってことですね。それは、武者相撲という言葉の響きのみならず、実に興味が湧きますよ。この〝横馬の図〟（図2参照）っていうのは、マウントに入る前のニー・オン・ザ・ベリーってやつですね。

堀辺 これもね、ニー・オン・ザ・ベリーなんて、いまはわけのわからない横文字で新しげなことを言ってるけどね。

——わけのわからない横文字（笑）。

堀辺 〝横馬〟って言葉を昔は使っていたんですよ。こういう図もいっぱい残ってますよ。で、なぜこれが武者相撲では技ありになるかと言えば、こっからブン殴りやすいんですよ！ 昔だったら、完全に馬乗りにならなくてもノドを刺したりできる体勢だったんです。

——はっはー。トドメを刺しやすい体勢だから、技ありを取ると。あと、武者相撲では場外に出した時も技ありとなってますが（図2参照）、これはなんでですか？

堀辺 これは要するに、ストリート・ファイトというのは、相手にキックやパンチをもらうよりも、もっと怖いのは、段差があるところで突き飛ばされるのが一番怖い！ 例えば、駅のホームで喧嘩をしたとする。そのホームからバー

天神真楊流柔術の『柔術極意教授図解』（明治26年刊）には、現在のガード・ポジションの原型となる「胴〆之図」という図版が書かれている。他にもマウントから絞めに入る技などもあり非常に興味深い。当時の柔術は、こうした技が乱取りで行われていたというから誠に驚きだ

図2

[武者相撲の決まり手]

11月28日後楽園ホールで、武家相撲を現代に蘇らせた「武者相撲」が披露される。「一本勝ち」は、“組み敷き”と“組み伏せ”。つまり、マウントか逆マウントを取った場合。“立ち技で投げた場合”は「技あり」になるが、柔道の投げのようなものではなく、いわゆるタックルだ。ニー・イン・ザ・ベリーも「技あり」になる。戦国時代の武家相撲でも、すでにこういうことが行われていたのだから、ブラジルにお株を奪われている場合ではないぞ、ニッポン！

ンッと落とされたら、後頭部を打って死ぬかもしれない。あるいはビルの屋上でも橋の上でも同じでしょ。その落とされるというのはヘタに人間の力で暴力を加えられるよりも、遥かに恐ろしい必殺の状況なんですね。だから、これは技ありと。

——実戦ではポジショニングと同時にタイミングも大事な要素になるというわけですか。

堀辺　そういうことです！

——人生で大事なものは、タイミングにC調に無責任っていうクレージー・キャッツの歌がありましたけど、まさに実戦ではタイミングが大事になるわけですね（笑）。

堀辺　ワッハッハッハ！　だから、武者相撲をやっていくと、どんな危険な状態になっても自分の身を守れる能力が身に付くんですよ。相手に勝つことよりも、どんな状況になっても負けない状況を作り出すことができるようになること。これが一番大事なんですね。

——つまり対応力ですね。

堀辺　さらに、これを修得したあとで、我々は〝骨法98手〟というのをやるんです！　この98手というのはどういうことかというと、98年に生まれたから98手なんですよ。

——へ、98年に生まれたから98手なんですか！

堀辺　内容から言うと、全局面打撃制ということなんです。全局面っていうのはパンチを喰らって倒れても、スリップダウンして倒れても攻撃は続行される。離れても組んでも倒れても打撃があるということですよ。だから、どんな戦局になっても、これは危ないからといってルールで禁止しないということです。それが骨法98手というわけです。

——そうすると勝負はどういう風に決まるわけですか。

堀辺　勝負は立ち技でノビて完全にイッちゃうか、審判がストップするか！　10カウントは取るけども、まだちょっとフラフラとしてる場合とかはカウントは取らない（笑）。

——ゲ！　そんな嬉しそうに言われても（笑）。

堀辺　選手がグラグラってなっている状態でも続行できる。非常に危険なわけですねぇ（笑）。

——いや、だからそんな嬉しそうに言われても困るんですけど（笑）。ズバリ言って非常に危険ですよね。

堀辺　危険！　危険なんですよォ!!　普通はそこでストップしますよね。だけどストップがないわけです。ただし、競技者は自分で〝これは危ないな〟って思った時は指を一本伸ばして回せば「参った」ができるわけです。

——自分から負けを認める勇気も試される。

堀辺　認めることが可能なわけです。でも、いままでやってきてる中では、ほとんどの選手がちょっとしたことぐらいでは指を上げない。だから、どういう戦況になってもルールでカットしないで、選手の格闘能力で闘わせるというね。

——それはセーフガードはするんですか？

堀辺　いやぁ〜、しない！　金的カップだけ（笑）。

——ムチャですねぇ。まるで喧嘩芸骨法に戻ったようですね。

堀辺　いや。それを我々はズッと追究してるわけですから。だから、これをルール上で聞くと非常に危険。ま〜ったく危険なんです！

——危険なのは十分わかりました（笑）。

堀辺　でも、この武者相撲をやってると、その高度な実戦性によって自分の身を守りながら闘えるようになってしまう。こ・こ・が、ミソなんですよ！

——理詰めで喧嘩ができるようになる（笑）。

堀辺　そういうことです（笑）。

——理詰めで喧嘩ができるってことはある意味で格闘家の理想ですよね。

堀辺　理想です。それを可能にするのが、この武者相撲なんです。だから骨法98手という、かなり過激なルールを実際にやっても、そんなに危険がなく行えるようになるのは、この武者相撲を通過してきた人間だけに許される世界だからなんですよ。素人が98手をやったら、もうハッキリ言ってそいつは半殺しにされますよ！

——素人はやらないと思いますけどね（笑）。そうすると、先に武者相撲ありきということなわけですね。

堀辺　そう。武者相撲をやってないと98手は無理です。危険でやらせられないですね、このルールでは。だから、いままでの格闘技ではやってないわけです（笑）。

——なるほど。じゃあ、11月28日にはその二段階まで見せていただけると。

堀辺　やるわけです。それで三段階目というのが、〝骨法柔術〟といって絞め技と関節技が加わるわけですね。

——三段階目もあるんですか！

堀辺　そう。で、いままでの柔術系と一つだけ違うのは、立ち関節があるということと、手首の関節が寝技で多用されることです。普通は十字固めとか肘関節が多いですよね。それプラス手首の関節が加わる。サンボのヒール・ホールドとかと同じように細い関節っていうのは弱いわけです。肘より弱い手首の逆を取っていくことで勝つ確率は高くなる。これはほかの競技では、まだほとんどやってない未開拓の分野なんです。

——大槻ケンヂが、プロレスラーや格闘技者とテレビ番組で一緒になると、時々技をかけてもらう場面がありますよね。

堀辺　ええ。

——そういった中で一番痛かったのが、先生に手首を極められた時だって言ってましたよ（笑）。

堀辺　ワッハッハッハ！　そうですか（笑）。その手首の関節技が入る。あのね、いままではそれを試合の中で磨いてきた競技がなかったので十分な使い方がわからなかった。でも、我々はこの5年間の間にいろいろやってきて、いままでの関節技とコンビネーションにすることによって十分に使えるようにしたんです。だから、三種目三段階の競技を今度やるわけです。そしてそのあとに禁じ手なしの本当の武道の試合をやるという予定です。

——え！　じゃあ、全部で四種目四段階あるんですか!?

堀辺　そうです。弱い奴が強くならないと武道の価値はないんで、この三種目が生まれたわけです。この専門分化した競技を段階的にやっていけば穴のない競技ができるということですね。つまり、バーリトゥードに行った時にここは得意だけど、ここは不得意だっていう部分がなくなる。だから、11月28日には最終的な〝武道制試合〟ってのがあるんです。これはルール的には、目つき、噛みつき以外はすべて許される。あと独特なものもあるんだけど、まあ、簡単に言ってしまうと第3回アルティメットまでのルールと同じです。

——いまやお目にかかれないルールですよね。

堀辺　いまはバーリトゥードっていっても、時間制限があったり、アレしちゃいけないコレしちゃいけないってあるでしょ。

——スポーツ・バーリトゥードになってますね。

堀辺　そう。だけど、骨法ではそうじゃないってことですね（微笑）。

——はっはー。実に面白そうですね。

堀辺　これは98手が特に面白いですよ。ボッコボコに殴り合いますからねぇ〜（笑）。

——ガハハハハ！　先生、そう嬉しそうに言われても困るんですけど。

堀辺　金的は凄いよ！（立ち上がって実演が始まる）金的蹴りが入ってバーンッと倒れる。そうすると普通にしゃべれる状態でも、立とうとしたら腰が抜けちゃう。ひどいのになると自分では歩けないから人に立たせてもらう。立っても腰から下が痺れちゃう。そういう状況が起きるんですね（笑）。

——いやぁ、プロレスにしても空手にしても、

顔面パンチの脅威に直面してるわけですけど、骨法は金的の脅威に晒されるわけですか。

堀辺 我々は馬乗り金的ってのをやるわけですよ！ そういう技術をいまやってるんです！ 顔面をポコポコってやってて振り向きざまにキンタマをバシャー!!ってやるわけ（笑）。

――うっわぁ〜。聞いてるこっちが痛くなりますね。

堀辺（興奮して立ち上がり）だから、ガード・ポジションっていっても、足をヘタに開けとくと、金的に上からボコッて入れられちゃうんですよ。だから、技術がいろんな意味で変わってくる、金的ありだと（笑）。相手の胴に足で絡んでいても、金的が開いてると顔面を殴られる前に、金的めがけてボコッて入れられちゃうわけです！ だから、闘い方が変わっちゃうわけですよ!!

――いやもう、変わりすぎというか（笑）。

堀辺 いままでは なんでもあり っていってても顔面の方ばっかりに意識がいってるでしょ。ところが金的にボコボコに入れられるから、選手はいままでの技術じゃ通用しないんですよ。

――でも、いまのバーリトゥードでは金的は禁止じゃないですか。

堀辺 いまのバーリトゥードではね。だから、我々の試合が想定してるのは、究極の試合ってものがどういうものかっていうことと、日本人がやってきた武道の価値観。例えば、武道とバーリトゥードのどこが違うんだって言われれば、バーリトゥードはオクタゴンの中に入るでしょ。でも、あれはリモート・コントロールで闘ってるんですよ。

――リモート・コントロールですか？

堀辺 例えばホイラー・グレイシーと佐野（友飛）選手が3月に試合しましたよね。でも、ホイラーにはヒクソンがセコンドについてる。そうすると闘ってる選手がわけわかんなくても、いいセコンドがついて、その指示通りにやると勝っちゃう場合がある。ということはチームプレイになってるってことだよね。

――チームプレイっていうのは、実にやっかいですね。

堀辺 武道っていうのは、チームプレイじゃない。ハッキリ言ってセコンドの指示なんかがあっちゃいけないのが武道なんですよ。試合場に入って、セコンドが「ああしろこうしろ」と技術指導をした場合には、我々の試合では反則になります！ 声援はいいですけどね。なぜかというと、一人の男と一人の男が現時点でどっちが強いかを競い合う以上は第三者の技術指導があったらホントの強さが見えないってことですよ。だから、バーリトゥードと武道の試合の違いっていうのは、そこから出てくる。

――はっはあ〜。

堀辺 だって考えてみてよ。例えば徳川将軍の前で御前試合をやる。そこで「後ろに下がって下がって」とか「いまだチャンスだ、突っ込め」とかね、そんなことは昔の侍は絶対に言わないでしょ。厳流島の決戦だって「小次郎、その構えじゃダメだ」とか言わないでしょ（笑）。なぜかといったら、それをやったらホントの実力で勝負が決まらないっていうことを侍は知ってたからですよ。

格闘技から喧嘩を切り離してしまったら、ただの競技でしょ

――佐々木小次郎にまさかセコンドはいないですよね（笑）。

堀辺 いないいない（笑）。だから、我々の武道の考えからするとセコンドがいるなんてのは不愉快なわけですよ。格闘技は一対一で雌雄を決するものですから。ほかにも価値観の違いってある。例えばね、宮本武蔵が小次郎に勝った時、「勝った勝った」って櫂を振り回して万歳したりはしないでしょ？ ガッツポーズなんかしないですよね。

――しないでしょうね。してたら面白いですけど（笑）。

堀辺 それは一歩間違えば自分が死ぬ側になるってことを侍はよく理解してるからですよ。勝負は時の運もある。武蔵はヘタしたら自分が負けるってことをよく理解してるわけ。ところがどうですか、いまのバーリトゥードは。敗者に対する思いやりなんてまったくない！ そういう試合の風景っていうのは骨法としてはハッキリ言って好きじゃないですね。

――日本人の精神に反するわけですね。

堀辺 だから、武道制試合はそういうスポーツ的なバーリトゥードの価値観と日本人の価値観の違いを明確にしていくようなね、まさにこれは武士の闘いだと思わしめるような試合制度を作っていくわけですよ。バーリトゥードで一番怖いことは首を絞められるとか関節を極められるとかっていうことじゃない。何が怖いかと言ったら、ボコボコに殴られるってことが怖いんですよ。だからこの98手がうまくなったらノールールの重要な部分は完全にマスターしたと見ていいわけですよ。

――打撃革命ですね。

堀辺 その上に相手を殴りにいって逆関節を取られたり、絞められたりしないように我々は柔術を学ぶわけです。だから、柔術的な技で勝つっていうよりも、最初から殴って蹴って。特にキ・ン・タ・マを狙っていくわけですよぉ（笑）。

――ガハハハハハ！ ヒドイ。

堀辺 だから、骨法の歌にあるでしょ。「喧嘩だ、喧嘩だ、喧嘩芸だ、骨法！ 顔面金的不動打ち」っていうのが入ってるんですよ。顔面とキ・ン・テ・キなんですよぉ〜（笑）。

――ガハハハハ！ 面白いです（笑）。

堀辺 だから、いまの総合系っていうのは絞めとか関節技に頼り過ぎて、闘いの原点ってものがちょっと見えなくなってきてるんじゃないかなっていうね。それは技術的なものは認めますよ。だけど男が雌雄を決するっていうのは、ボコボコにブン殴りあうということなんですね。我々は闘いの原点っていうものを追究していくというか。だって格闘技から喧嘩を切り離してしまったら、ただの競技になってしまうでしょ。

――そうですね。競技化という方向はプロスポーツや安全性という意味ではまったく正しいけども、格闘技に人々が求めるのは本能を揺さぶる闘いですからね。去年、ヒクソンに高田選手が敗れた時に、ファンが、なぜ前田日明に出ていってほしいと思ったかというと、やっぱりそこですよね。

堀辺 やっぱり、ヒクソンの上に馬乗りになって顔面にパンチを落として、ボコボコにしてほしいってことでしょ。コテンパンにしてほしいわけでしょ（笑）。

――そういうことです（笑）。

堀辺 だから、あくまでも我々が競技化するっていうのは選手を育てる方法論として競技を設定したってことなんですね。しかし、究極の闘いは競技のための競技、試合のための試合じゃないということですね。

――その先にあるもの、ということですね。

"骨法98手" という競技は全局面打撃制。"馬乗り金的" もありという過激なルールだ！「喧嘩芸骨法」の頃の精神はいまでも生き続けているということだ

武道の根本というのは、危険とどれだけ直面してるかなんです

堀辺　そうですそうです。試合を超えた部分っていうものに、いつも肉薄していくという姿勢がないと格闘技っていうのは面白くない、ハッキリ言うと！

――まさにその通りです。だから、空手にしてもプロレスにしても、そういう部分にファンは幻想を見てるんですよね。実際にはルールがあるから、試合では立ち現れてこないかもしれない部分。そこをファンの視線は捉えてるんですよ。ルール内の闘いの先にあるものが立ち昇ってこないと本能に引っかからないですからね。

堀辺　そうですね。だから、ハッキリ言ってルールなんて破っちゃっていいから、勝てばいいってことですよね。単純明快に言うとそういうことでしょうね、ファンが求めているのは。去年の高田vsヒクソン戦でも、別にルールを破ったからって「高田、お前は悪いゾ」っていう人は誰もいないと思う。

――ところがやる側もマスコミも、それが悪いという方向ばっかりにいってるんですね。競技者として良くないとか、スポーツマンとして良くないとか。それはもうフザケンナですね、正論だけじゃ何も動かないですよね（笑）。

堀辺　だから、侍を自称するヒクソンがルールを破られた時にどういう態度を取るかというね。

――ああ、その興味もありますね。それは実に見たいですね。

堀辺　それがあるんですね。勝ってる時にはイイ格好もできるわけですよ。逆に負けに追い込まれた時にどういう精神状態が闘いの中で見られるのかっていうね。

――負けた時にこそ、追い込まれた時にこそ、その人の人間性も出ますよね。

堀辺　人間性っていうのは勝ってる時には出ないですよ。

――だから、ヒクソンっていうのは選手としても技術という部分でも尊敬できますけど、人間性を見せないという部分では非常に演出がうまいなって気がしますね。

堀辺　だから強いことは認めるけれども、彼が最近、自分のことを「侍だ」とか言うことに関しては、ハッキリ言わせてもらえば不愉快です！

――不愉快！　いいですねぇ（笑）。

堀辺　なぜかっていうと、ホントに侍精神を持ってるって言うんだったら、1億円だかいくらだか知らないけど、もらったギャラの8割ぐらいは日本の交通遺児のために寄付するとかね。ね？（笑）。そういうことをしたんだったら、私は「これは本当の侍だ」って認めることもやぶさかではない。

――恵まれない会社のウチにでも寄付してくれたら、何度でも「ビバ、サムライ！」と言ってあげるんですけど（笑）。

堀辺　ハッハッハ。でも、キム夫人に渡ってしまって「私には、ギャラをどういう風に使ったのかは知りません」っていうような答えしか出てこないんだったら、私は侍として認められないね。自分を犠牲にしても公のために尽くす精神っていうのを侍精神というのだからね。

――誰かのために、何かのために、ということですね。

堀辺　そう。だから、キリスト教の殉教者みたいなものが武士道の中にあるわけで、ただキム夫人とか、ホクソン君だか知らないけれども、家族のためだけに働いて1億円近い金が入っているのだったならば、それは侍とは呼べないと思うね。

――目からウロコが落ちますね（笑）。

堀辺　だから、ヒクソンが「私は侍だ」ということに対しては、ハッキリ言って「待った！」をかけておきたいですね。それは「ちょっと待て！」と言いたい。

――だから〝侍〟を非常に都合良く解釈して使ってますね、ヒクソンの場合は。そこに違和感を感じないマスコミもおかしいんですよ。マット界やマスコミすら踊らされてる。

堀辺　おかしい！　私なんか非常に腹が立ってますよ、そのことに関しては。そういう意味ではヒクソンっていうのはプロレスラー的ですよね。ある種プロレスラーよりうまいですね、見せ方が。だから、非常に頭がいいんでしょうね、ヒクソンっていうのは。それに加えて試合に勝ってきた実績があるんで、彼の演出っていうのがより真実味を帯びてくるんだろうけどもね。でも、彼の中にある〝侍〟っていうのはちょっと違うんじゃないかなっていう気がしますね。

――なるほど。それはマルコ・ファス選手も言ってましたね。だから、ホントはプロレスラーがやらなきゃいけないことをヒクソンにやられちゃってますよね。

堀辺　確かにプロレスラーがお株を取られてるんじゃないですか。この際、今年の高田選手は反則犯してでもいくってことが大切ですね。

――そういうことですね。だから、去年高田選手がロープを掴んでレフェリーに止められた時に、あれで離しちゃったことが良くなかったですね（笑）。

堀辺　まずはレフェリーからブン殴らないといけないです!!

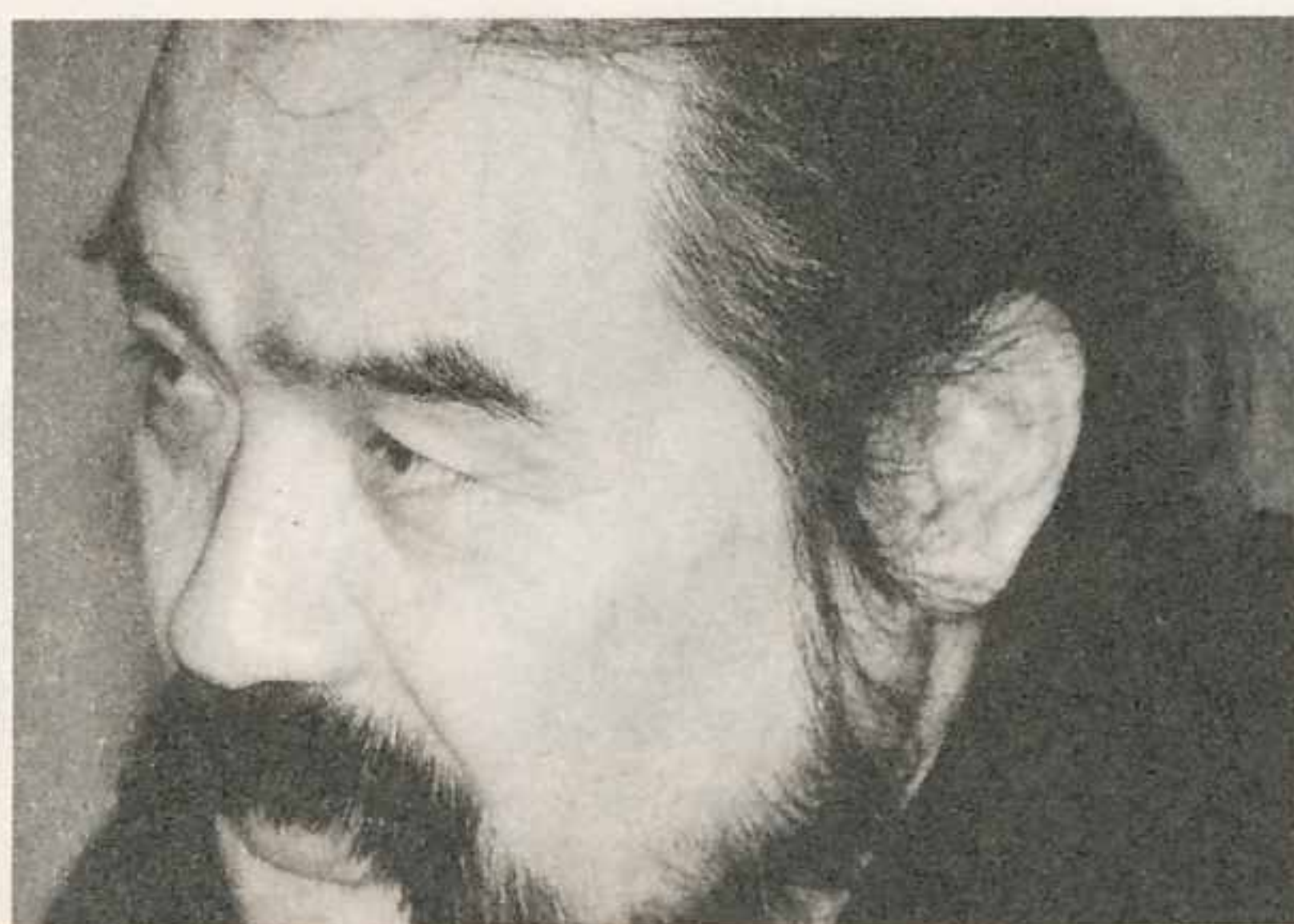
――ガハハハハハ！　ブン殴りますか！

堀辺　レフェリーがいたらまた反則を取られますからね。まず、ああいう場合の闘いの常道としてはまずレフェリーをいなくさせることですから。レフェリーをリング下に突き落としておいて、レフェリー不在の中で反則を働けば、プロレスの常道通りにいくんですよ。そのくらい自由な気持ちっていうのが高田選手には必要ですね。そして、それが許させるんですね、今回は。

――許される？　それはどういうことですか。

堀辺　簡単ですよ。ヒクソンが侍だと言ってるからです。侍だと言ってるっていうことは「俺はいつ死んでもいい、いかなる闘いでも引き受ける」っていうことがその裏にはあるわけでしょ。だから反則を犯してもいい権利が高田選手にはある。ヒクソンが侍を自称している限りはね。反則犯されたからってあとになってブーブー言うんだったら、それは侍じゃない！　それはプロスポーツ格闘家です。反則犯された時にブーブー言うんだったら侍を名乗る資格はない！

――そういったことも想定して金的OKということになるわけですね（笑）。

堀辺　そうなんです。それにもつながるんですね、当然。だから、うちの大原（学）と（ペドロ・）オタービオがやった時（95・8・4UVF）、ノーブレイクのルールだったはずなのに、小さい大原が上になっているのにブレイクされて、大原が下になっちゃったでしょ。これは大きいですよね。でも、うちは文句は言わないですよ、そんなものは。だって相手がどんな卑怯なことをしてきても「リングに上がる以上は」っていう気持ちで上がらなきゃいけないわけですからね。

――つまりはそういう覚悟が、さっき言ってた試合や競技の先にあるものということですね。

堀辺　そういうことです。だから、大原は立派だったじゃないですか。バーリトゥード史上で、200発以上のパンチが出たことってないじゃないですか。最近は5、6発マウントパンチが出ればレフェリーは止めますよ。それが200発ですよ！　でも本人は怒ってましたよ、「な

んで止めるんだ」って。延長戦になれば彼はまだやりましたよ。それが我々の言う武道精神なんです。

――まいったはしてないと。

堀辺　なんでタオルを投入しないんだって批判もされましたけど、我々からすれば、「ああいうところに出ていく以上は簡単な気持ちじゃやらないよ」ってことですよ。負けるんだったらボコボコになって負けてもいいと。その代わり勝つ時はボコボコにするよ、というね。だから、ボコボコにされるか、されないかは紙一重で、そこで運命共同体だっていう意識があるから、さっき言った話じゃないけど、相手に礼を尽くすという意識が生まれてくるわけですよ。だから最近のアルティメットは覚悟しなくていけるようなルールになっちゃった。安全性ばかりに目を向けすぎて普通の競技とあんまり違わなくなっちゃったんですね。

――しかし、どうして先生はそういう危険な方向、危険な方向に行くんでしょうか（笑）。

堀辺　こォ～れは、もうイイことを聞いてくれたッ！　やっぱりプロレスの達人は違いますねぇ（笑）。意味わかる？『プロレスの達人』じゃなくて、「プロレス」の達人ね（笑）。

「ガード・ポジションっていっても、足をヘタに開けると金的にボコッと上から入れられちゃうんですす！」――常に究極の闘いを想定する堀辺師範が実演を交えながら説明してくれた。確かに金的ありを頭に入れるのと入れないのとでは、闘い方も変わってくるというのがわかった

――いえいえ（笑）。

堀辺　なんで危険な方向に行くかというと、武道の根本というのは、危険とどれだけ直面していくかってことに尽きるんです！　その危険な中で度胸をつけるってことなんです、簡単に言っちゃうと。「こんなことできねえよなぁ」ってことをやせ我慢してね。でも、そのやせ我慢っていうのが男には必要なんですよ。

――よくわかります。

堀辺　苦しいことだとか、辛いことに耐えていく力が、やっぱりね、男がこの世の中を生きていく時に一番頼りになるものなんです。何事にも動じない精神と何回やられたってもう一回立ち上がるっていう精神さえあれば、この世は貧乏だって生きていけるんですよ。だから簡単に言って、そういう肝の力っていうか度胸を作るっていうことですね。

――肝っ玉ですね（笑）。

堀辺　そう、肝っ玉なんです。でも、肝っ玉かあさんはいるけど、肝っ玉オヤジっていうのが、いまいなくなっちゃった。

――とんと見かけませんねぇ。

堀辺　なんで肝っ玉オヤジがいないのか？　それは武道がないからです。危険な中でやらないとハッキリ言って修行にならないってことですよ。安全な中だったら誰でもできるんですよ！

――先生の言う武道精神を僕なりに拡大解釈して考えると、プロレスにもプロレス道精神ってものがもはやないんです。いまの選手は技術レベルは上がってても、まがまがしさというか、どんな状況にも屈しないエネルギーというのが薄れてる気がするんですよね。

堀辺　人間はそういう非日常が見たいわけ。非日常状態で耐えられる肉体を持ってるか、精神を持ってるかってことを見たいんであって、なにも日常と同じふやけた精神力しか出てこないんだったら、なにも金を払ってまでわざわざ見に行きたくないでしょう。それはプロレスも格闘技も共通してることなんじゃないですか。

――そういうことですね。だから、人間力というか底力というか、精神の部分が見えなかったら格闘技でもなんでもないですね。

堀辺　だから武者相撲にもルールがあるんです。殴ろうと思ったら殴ってもいいんだけど、一応競技の中では極め技を使っちゃいけないとかあるわけですね。だけど、我々はこの競技をやるために、これをやってるわけじゃない。

――その先にあるものを見ろ、ということですね。

堀辺　先に行くためにです。そういうことが誰でもできるようになるための競技化をしただけであって、競技化が最終目標じゃあない。

――ところで高田選手が去年負けて思いきり叩かれましたよね。あの叩かれたという状況が、これまた非常に重要だと思うんですね。

堀辺　まあ、人間としてしんどいよね。スターだった人間があぁいう形になって、口には出せないくらいの葛藤があったんじゃないですか。私は彼の辛さが凄くよくわかる。

――だからある意味で骨法もバーリトゥードで結果を出せなくて、同じような状況になった時もあったわけですよね。

堀辺　同じですね。勝負というのはヤル側から言わしてもらうと負ける時もあるし、勝つ時もある。だから、1回負けたから2回負けたから云々じゃなくて、大切なのはそれを続行するという覚悟が必要なんですよ。

――「前田日明だったらヒクソンに負けない」って言われるのは、技術的な部分だけではなくて、そういう底力の部分を指してのものでしょうね。

堀辺　期待感ですね。やっぱりそれは不良少年あがりのいいところじゃないですか（笑）。度胸とフテ腐れとね。前田日明は噛みつきますしね。凄いですよ、彼は。マスコミに対しても「誰が食わしてると思ってるんや」っていうのは。アレを言われたら黙らざるえないですよ（笑）。

――ボクも前田日明のそういうところは覚悟と純粋さが見えてゾクゾクくるんですけど、世間からみると、前田日明の言葉というのは下品に聞こえるんでしょうね。

堀辺　前田日明の「どうってことねえよ」っていう気持ちは、ある種、禅僧の悟りと同じ境地ですからね。上品でも下品でも内容は同じようなもんですよ。場合によったら坊主のすました顔よりも遥かに実行力があるときがありますからね、下品に見える人の方が。

――坊主はなにもやらないですからね（笑）。

堀辺　やらない（笑）。

――いいんでしょうか、こんなことを言っていて（笑）。

堀辺　いいと思う。『紙プロ』に合ってると思いますよ（笑）。

――ガハハハハハ！　うちは下品な雑誌ですからね。

堀辺　ええ（笑）。

――いや先生、そこでうなずかないでください（笑）。

堀辺　いやぁ、声を大にして「ええ」って言っときますよ（笑）。

――上品と下品は背中合わせ。下品も極めれば上品になるということですよね。

堀辺　そう。だから前田日明にはそれを貫いてほしいですよ。変に文化人みたいになってほしくないですね。

――前田さんの場合はなりようがないでしょうけど、いい意味で（笑）。今日はマウント・ポジションの起源から前田日明の話まで、面白い話をありがとうございます。

堀辺　いえいえ。ところで、これは『プロレスの達人』という雑誌でしょ？（笑）。

【10月8日／東中野・日本武道傳骨法會にて収録】

RADICAL Back Number

日本武道傳骨法

骨法完成

「武者相撲」「骨法98手」
武道の試合とはいかなるものか！

11月28日(土)

開場 午後6時
開始 午後6時30分
主催 日本武道傳骨法會

後楽園ホール

<チケット>
S席／7000円
A席／5000円
B席／3000円
立見／2000円

※送料500円（２枚以上の方は送料無料、現金書留のみでお願いします。先着順にお席を用意します。席種、枚数、氏名、電話住所を明記したメモを同封して下さい。）

※チケット発送・・１０月中旬予定
チケット売場・・日本武道傳骨法會(現金書留)
後楽園ホール、書泉ブックマート

お問合せ先
日本武道傳骨法會 電話03・3362・0010 午前10時～午後10時 月曜休館

四角いジャングル RADICAL

賢い野蛮人の10・11観戦記

エンセン井上、怒る!?

本誌11号で、高田延彦と対談して、熱いエールを送り合ったエンセン井上。当然のように10・11も東京ドームへ足を運び高田の一年越しの復讐戦を見届けた。その2日後、復活したキングダムに弟子が出るということでエンセンに世田谷区下北沢の会場で話を聞いた。10・25に『バーリ・トゥード・ジャパン』を控え、目下特訓中ということもあり、じつに充実した表情だった。そこで、エンセンに『PRIDE.4』の感想である。そこで、エンセンは開口一番言い放った。この日の話題は「高田さんの試合を見てムカついた!」

どうしたんだ、エンセン? 飲み屋でのケンカが再燃したのか? それともまた負けたから怒っているのか? あんなに仲良く表紙を飾ったじゃないか!

真相が知りたければ、とにかく急いでページをめくれ!

高田さんの試合を見てムカついたよ!!

聞き手&撮影/坂井ノブ
Interview & Photographs by Nobu Sakai

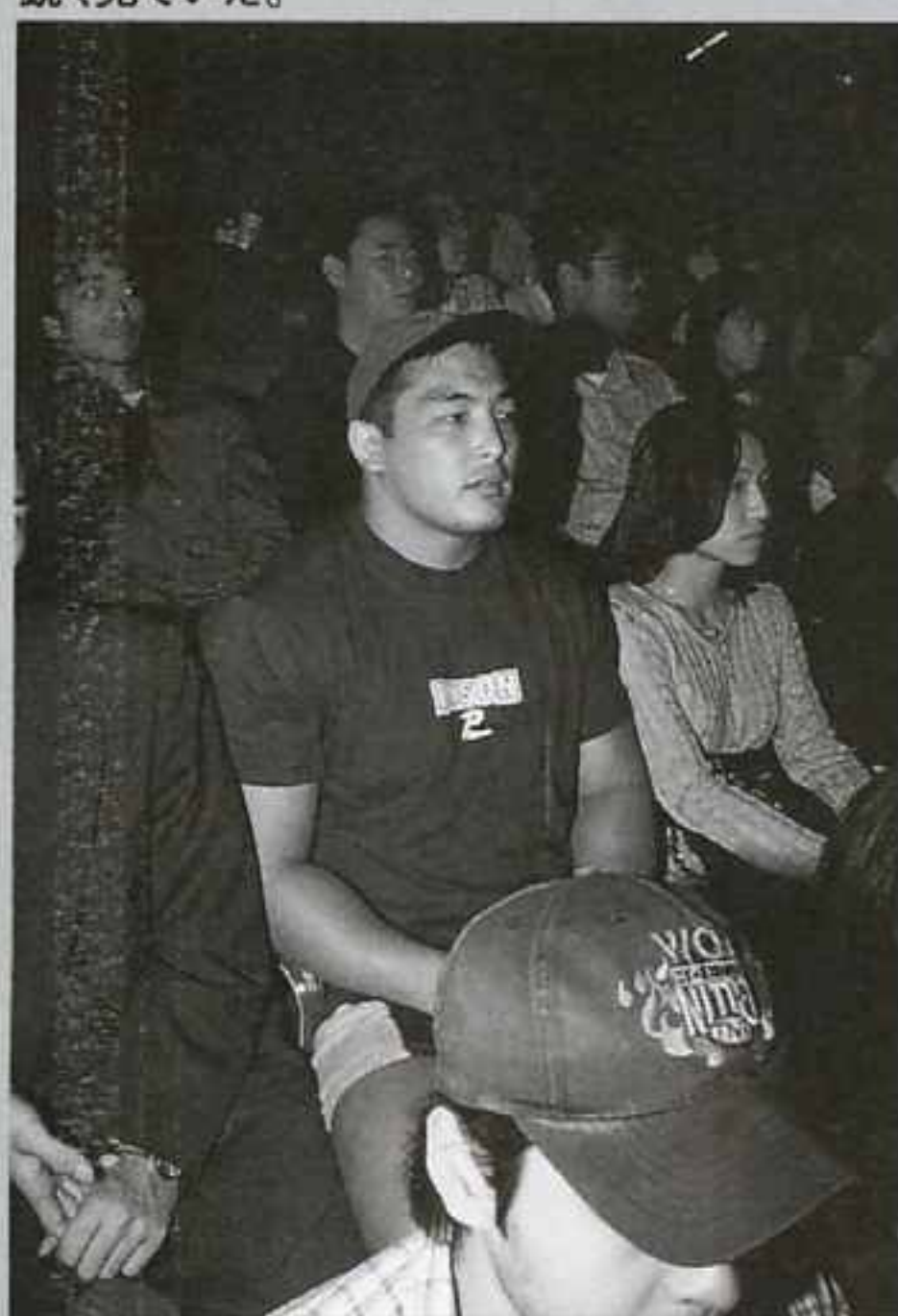
髙田さん、勝てたヨ!! 勝てる試合で勝てなかったからムカついたネ!!

エンセンは3塁側のスタンドから世紀の一戦を鋭く見ていた。

——前々号でエンセンさんと対談した髙田さん、負けてしまいましたね。

エンセン　**かなりガッカリしたネ。**あと試合見て、**もう、イライラした。ムカついたヨ！**

——ムカついた⁉　いったい、どうしちゃったんですか？

エンセン　**髙田さん、あの試合は勝ってたヨ。**でも、ミスなのか何なのか勝てなかったヨ！　髙田さんにガッカリのところ、3つあったネ。髙田さんは最初の6分で、**世界中にヒクソンが人間なのを見せたヨ。**ヒクソンの顔も心配な顔になった。ヒクソンは負けることなんて全然考えないで行ったけど、途中でかなり心配してたでしょ。

——弱気になってましたよね。

エンセン　どんな作戦があったかわかんないけど、ヒクソンがメチャクチャ弱いところを広めたネ。なのにそこからグランドにいっちゃった。それでイライラしたんだヨ。**なんでチャンスあったのに、その通りに行かない？**　スタンドで行けば髙田さん、全然大丈夫だった。ヒクソンなにもできなかったネ。山本（宜久）戦でも同じだった。

——でも、そのときはロープを掴んでもいいルールでしたよね。今回ロープ掴んじゃいけないのに、ヒクソンはなにもできなかった。

エンセン　**髙田さんの組技が9でヒクソンが1って感じで、それぐらい髙田さんは強かった。**だからあのままで寝技を避けて行けばよかった。でも、彼が自分から倒して……アレッ？って思ったヨ。**力だけ見せて、また離れて勝負したらいいと思った。だけど、なんで寝技で攻めに行った？**　これが1つ目のガッカリ。**アキレス腱で極めるのもいいんだけど、やっぱり考えれば離れて行けば絶対髙田さんが勝ってたと思う。**それ、2つ目のガッカリね。3つ目のガッカリは、**マウントのディフェンスがなかったみたいなところ。**ヒクソンのマウントからうまく逃げたのに、また簡単に2秒でヒクソンがマウント取っちゃう。あれはビックリした。

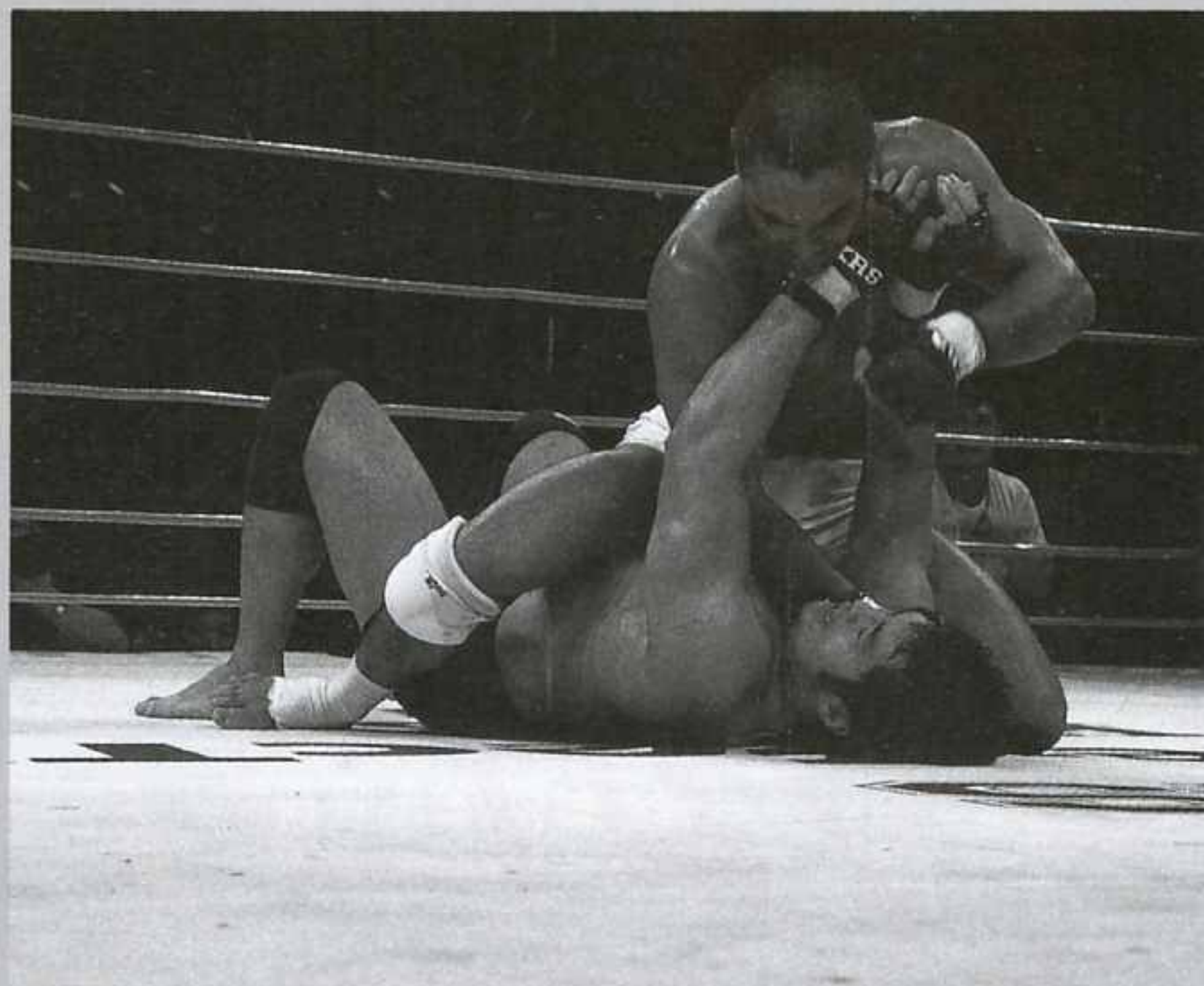
——それはヒクソンがうまいってことなんですか？

エンセン　それより、髙田さんがそこまで力がないわけじゃないんだから。パニックかショックかわかんないけど、それはもったいなかった。**残り30秒で一番いけなかったのが腕を伸ばしたことネ。**ヒクソンは1ラウンドで極めるんだったらそれしかなかった。オレだったら、腰を押すか、抱きしめるか、顔ディフェンスする。**オレは顔ディフェンスしなくても30秒なら我慢できるヨ。**

——ガハハハ！　いくら打たれても全然平気！　すごい大和魂ですね。

エンセン　いいヨ、いいヨ。2ラウンドいったらヒクソンかなりスタミナ切れちゃうんだから。ヒクソンがイライラしたから、勝てる道が見えたネ。

——髙田さんが勝てるのに勝てなかったのがムカついたんですね。

いちいちうなずくしかない的確な解説を繰り広げるエンセン。この写真のように腕を伸ばしたことが敗因だという。エンセンがセコンドにいれば勝敗は入れ換わっていたかもしれない。ジーザス・クライスト！

エンセン　そう。最初は、勝てる道は見えなかった。でも、髙田さんの6分のうまい闘いで勝てる道も見えてきた。で、俺もすごいエキサイトしてきちゃった。行けー！って（笑）。でも、髙田さんのミスはやっぱり寝技に行ったこと。下になったこととかいろんなミスもあったんだけど。ヒクソンが上になると、誰でもパニックになるネ。髙田さんは勝ってないけど、ヒクソンが人間だってことを世界に見せたネ。**神様じゃないことを見せたヨ。**

——勝てなかったにせよ、その功績ってもの凄いですよね。

エンセン　髙田さんが頑張ってヒクソンのウィークポイントを引き出したから、世界中の格闘家とかファンがビデオ見たら、**「ヒクソンたいしたことない」**と思

四角いジャングル RADICAL

うはずだヨ。これからヒクソンに対してうまい作戦立てられるネ。だからヒクソンがマーク・ケアーと闘ったらメチャクチャ大変だと思うヨ。オレ、**帰り道も「高田さん勝てたのに」って考えると、なんかイヤ〜な感じだったヨ。**高田さんにイヤな感じじゃなくって、**運命にイヤ**だった。なんで高田さんはあそこまでウマくいったのに神様は勝たせてくれないのかって。

——エンセンさんはイヤな感じになってるときに、試合後の高田さんは御機嫌だったんですよ。

エンセン ん？ ゴキゲンってなに？

——御機嫌は、ハッピーかな？ 悔しそうだったけど、笑顔でまたやりたいって言ってましたよ。

エンセン でもヒクソンはやらないと思うヨ。オレもヒクソンと闘うチャンスはないと思う。ヒクソン、絶対闘わないヨ。オレも前にヒクソンと闘いたいって言ってたけど、どうして闘いたかったかっていうと、ヒクソンが素晴らしすぎて、そういう神様みたいな人と闘ってみたいな、と思ったから。でも、あの試合見たら、神様じゃない。**弱いヨ**。弱いとこある！ オレが闘うならヒクソンよりもマーク・ケアーがいいと思う。神様に近いヨ。

——神様に近い（笑）。もう、神様いなくなっちゃったんですね。

エンセン そうネ。マーク・ケアーは全てが最高の選手だと思うよ。ハート、スタミナ、技術。ファンに対しても考えてるヨ、彼は。感情も野蛮人過ぎないし。かっこいい。でも、高田さんがあそこまでやったから。ヒクソンに対していま思うのは、**高田さんともう一回闘って欲しいってこと**。オレは『PRIDE』でヒクソンとやりたいと思ってたけど、オレはもういい。高田さんともう一回闘って欲しい。

——いまヘビー級でヒクソンと闘える高田以外の日本人選手って、前田、船木、エンセンさんの3人だけだとボクは思うんですよ。エンセンさは乗り気じゃないんですか？

エンセン ホントに話がきたら、じゃあ、**日本のために倒しに行くヨ。**自分のために闘うんだったら、**ケアーと闘った方が勉強になる。**ヒクソンが一番闘いたい人じゃなくなっちゃったネ。オレと闘うより高田さんともう一度やってください（笑）。

——是非、高田さんが決着つけるところを見たいですね。

エンセン 今度、高田さんがヒクソンと闘ったらこっちから高田さんのとこに行くヨ。話と練習しに行くヨ。絶対勝てる！ ヒクソンの倒し方が見える。**高田さんはオレの手伝いが欲しくなくても、桜庭に話して無理矢理押し掛けるネ**（笑）。

——ガハハハハ！

エンセン できればセコンドも付く！

——いいですねぇ、夢がありますねぇ。その桜庭さんもいい試合だったんですけど、試合後に泣いてたの知ってますか？

エンセン え〜？ 知らなかった！ どういう意味？

——ノーコメントだったから詳しくはわからないですけど、ファンに見せるような試合じゃなかったということだと思うんですよ。ゴエスに逃げられてましたからね。

エンセン そうねェ。ファンに対しては一番面白くない試合かもしれないけど、**技術がわかる人に対しては二人ともうまくてよかったと思う。**ホント、ゴエスうまいヨ！ 桜庭が悔しいのはわかるネ。お互いに同じぐらいのレベルで、高田さんみたいに勝てる道があったのに勝てなかった。桜庭は試合中にそれがわかったから悔しかった。高田さんはいまハッピーでも、ビデオ見たら悔しくなると思うヨ。

細かい技術を散りばめながら
ゴエスは徹底的に寝続けた。

——ゴエスは後半逃げようとしてましたけど。

エンセン ゴエスのタイプはそうネ。守りながらミスがあれば取りに行くっていう。ゴエスの方が桜庭のうまさに困ってたヨ。いや〜、**いま桜庭が悔しがってたって聞いたら、彼がもっと尊敬できた。**素晴らしいヨ、負けてないのに。そういう選手は**もっと強くなる。**

——さすが、エンセンさんの友達ですね（笑）。エンセンさんは、「桜庭に足りないのは相手を殺す気持ち」って以前言ってましたよね。

エンセン いや〜、ゴエス戦見たら、桜庭は足りてたヨ。前はなかったけど、**格闘技の試合の経験増えて気持ちが格闘家になってるネ。**

——エンセンさんの気持ちに近いんですかね。

エンセン あ、それいいネ。うん、近くなってる。でも、彼はジェントルマンだから、そんな野蛮人にならないと思うヨ。彼がもう少し野蛮人になって、オレがもう少しジェントルマンになったら最高ネ。ハハハハハ！

——二人合わせてちょうどいい（笑）。桜庭さんっていまプロレス界の期待を一身に背負ってるんですよね。

エンセン 桜庭が勝つからプロレスラーが強いってわけじゃないヨ。桜庭が強い。その桜庭がプロレスやってる。だか

技術は誰でも学べるけど、心は学べない。松井さんは目の中に心が見えるヨ!!

ら、**プロレスが強いっていうのはおかしいし、逆に弱いっていうのもよくない。**あの日は桜庭とアレクが強かった。佐野は負けたけどプロレスが弱いわけではないネ。

――そうですね。で、もう一人プロレスラーのアレクですけど、あの試合後、プロレス関係者の間じゃ、会う人、会う人「アレクが良かったね」って話から始まるんですよ。

エンセン　あの試合見ると、1ラウンドと2ラウンドじゃ2人が全然違う選手みたいな感じだったネ。簡単に言うと、技術的にはファスの方が全然強かったと思う。心とスタミナはアレクが強かった。格闘技で『PRIDE』のリングみたいなとこはすべて関係あるネ。

――すべてっていうのは心技体すべて揃わないとダメっていうことですか。

エンセン　うん。ファスは技術だけがうまい。3の中に1だけ。でも、**スタミナないと技術出せない。ハートがないとスタミナを超えたファイトができない。**だから、アレクの方が色々な作戦と、必要なことをファスより持ってたネ。プロレスとか格闘技だとかは関係なくて、その日、その試合はアレクの方がいいこと持ってた。スタミナはかなり大きいヨ。

――やっぱり、心、技、体ですね。

エンセン　ホントに大和魂みたいなプライドがあれば死ぬまで闘うヨ。頑張らないとね。**ウゴとファスが試合終わって自分の力で歩いて帰ったの信じられない。**そこまでスタミナ切れてたら歩けないヨ。その歩く力を試合で出せばよかった。

――あれがブラジリアン魂なんですかね。これは大和魂の勝利ですよ。

エンセン　そうだヨ！　アレクの攻めに対してもファスは思ったよりスタミナ使っちゃったかもしれないネ。

――ちなみにアレクがバトラーツでやってる試合って見たことありますか?

エンセン　アレクの試合は『トーナメント・オブ・J』と、リングスは見たヨ。

――リングスで坂田選手に勝った試合ですね。

エンセン　そう、その試合見た。強い選手とは思った。だけど、ファスの方が全然強いと思った。

――エンセンさんは見たことないだろうから、アレクはプロレスのリングでどういうことやってるかちょっとお見せしますね。(アレクのパーマン姿の写真を見せる)こんなことやってるんですよ。

エンセン　何これ?　見たことないヨ。うわーっ、すごい、すご〜い！(笑)。

――アレクも、エンセンさんが「オレはいつも大和魂を持ってる」って言ってるみたいに、「オレは全身すべて心だ」っていつも言ってるんですよ。

エンセン　こないだの試合はそのとおりネ。**ホントにがんばったヨ、彼。**試合見たら、ホントに攻撃しにいって、1ラウンドはファスの方が技術は上だったけど、逃げてない。彼も疲れたけど、気持ちでカバーしたヨ。だから、**アレクに技術を教えたい。彼にはハートがあるからネ。**

――高田道場の松井選手と菊田選手の試合はどうでしたか?

エンセン　松井さんはまだこれからの感じ。でも松井さん、最初から心と根性いいよ、好き。オレ、金原さんにも言ってたヨ。**「オレが松井さん1ヶ月だけ毎日教えたら絶対オマエを極めるよ」**って。それぐらいオレ、松井のこと思ってるヨ。

――松井さんは入場のときもいい表情してましたね。

エンセン　彼は目の中に心が見えるヨ。いい心してるネ。松井さんはスゴイ奴。**技術は誰でも学べるけど、心は学べない。**心は持ってるか、持ってないか。

――『PRIDE.4』では全体的に日本人の健闘が目立ちましたよね。いままではグレイシー最強、日本人最弱なんて話もありましたけど。

エンセン　もうそんなことないヨ。桜庭と高田さんの頑張りで。この日は小路も頑張ったネ。すごいヨ。面白かった。

――最近、ではプロレス側からもジムを作る選手も増えて、日本に総合格闘技が根付いてきましたけど、エンセンさんが日本にきたっていうのも少なからず影響してるんでしょうね。

前号で掲載した菊田早苗のインタビュー中で「柔道は弱いでしょうね」と言われてしまった松井。その試合では気合いの入りまくった熱い表情で入場し、観客に「プロ」の存在感を見せつけた。

四角いジャングル RADICAL

エンセン　オレがシューティング入ったばっかりのときと大分変わったね。総合格闘技の国になったって感じネ。嬉しいヨ。**よかったのは、佐山先生がシューティングのフリースタイルを作ったこと**ネ、ブレイクなしの。一番バーリ・トゥードに近いルール。全部オレのためだったネ。

——ある意味、エンセンさんと佐山さんでつくったんですよね。

エンセン　そうね。

——そういえば最近、佐山さんなにやってるか御存知ですか？

エンセン　**なんか、宇宙人追っかけてるみたい（笑）**。よくわからないよ、オレ。火星に行きたいみたい。**飛んでるネ（笑）**。アルファ、オメガ出れるネ（笑）。**宇宙人に強い奴いるかもしれないヨ**。

——ガハハハ！　そういえば対談したとき意気投合してましたけど、前田選手とは話してますか？

エンセン　電話がきたね。1月か2月**デートしましょう**って。**オレも彼から電話がくると喜ぶヨ、試合出たいから**。でも、今は次の試合（10・25ＶＴＪ）が決まってるでしょ？　**死ぬかもしれないから先の話しないネ**。それ終わったら話す。でも、前田さんとずっと前から約束したのは違うこと。若い女の子紹介してもらうって言ってたのに、試合の話しかしてこないね。

——ガハハハ！

エンセン　ヤマケンのジムのオープンのときにも「若いオネーチャン紹介してネ」って言ったのに、違う話ばっかりだよ！　お願いしますヨ、ホントに！　約束どおりにして欲しいヨ！

——ガハハハ！　わかりました。誌面を通じてアピールしましょう（笑）。あと、前田さんといえばアレクサンダー・カレリンと試合が決まりました。

エンセン　スゴイよ！　**呼んだこともスゴイし、ああいう化け物と闘うのスゴイと思うヨ**。彼はクラッチ得意でアバラ折れそうになる。痛くて自分から上がって投げられちゃうんだヨ。カレリンズ・リフトって技ネ。オレ、有名人に「サイン下さい」とか言わないヨ。マイク・タイソンでもそこまでならないネ。でも、カレリンは会いたい！　世界に会いたい人っていうとね、あとは……。

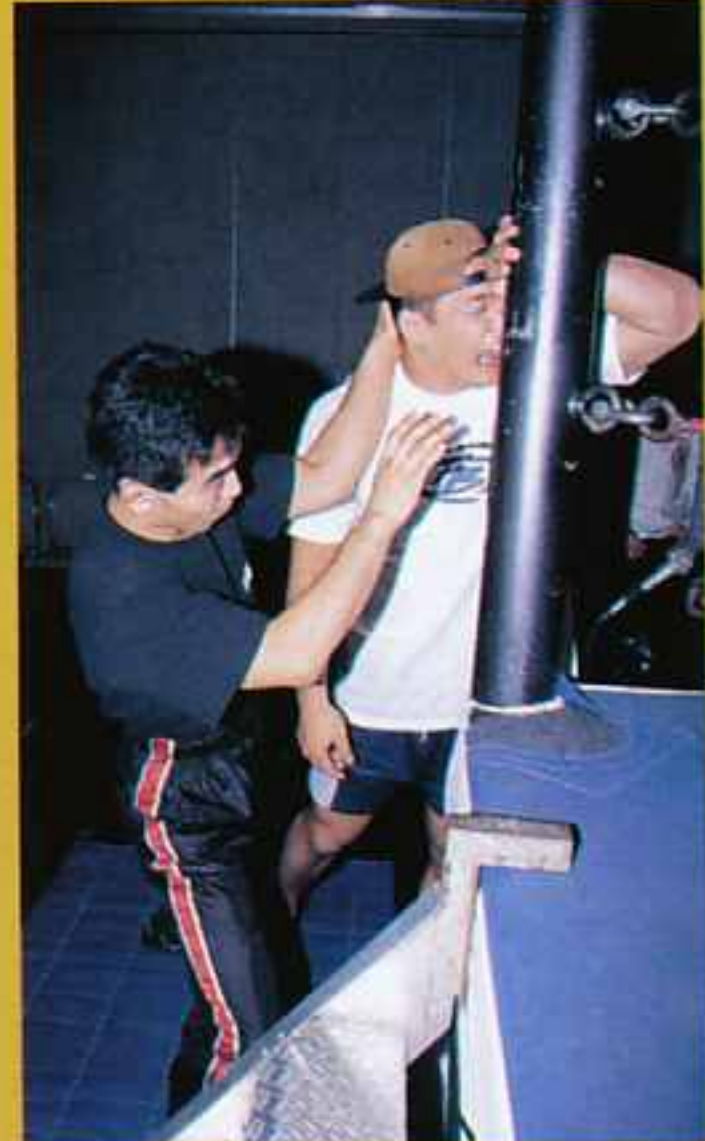
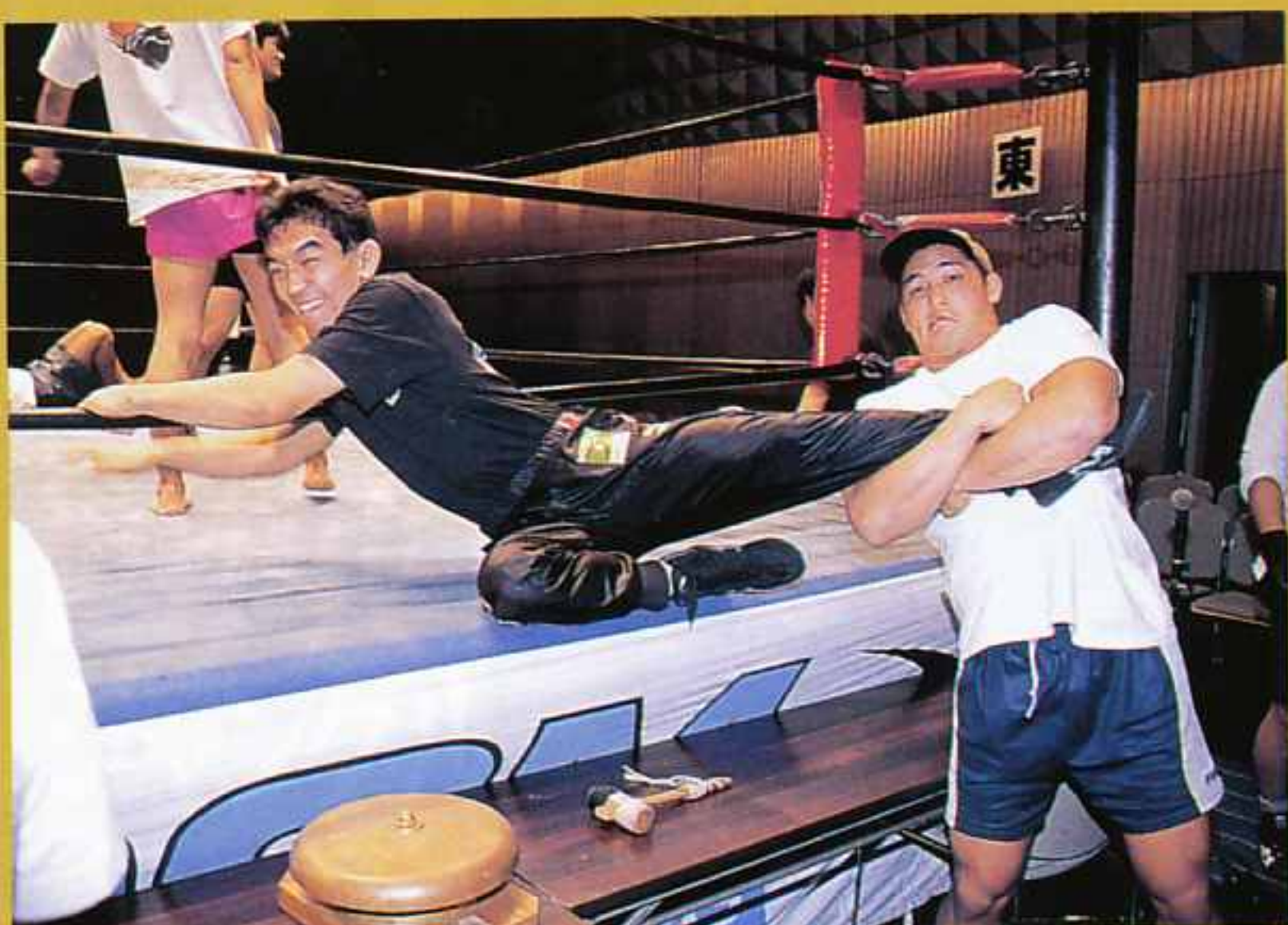
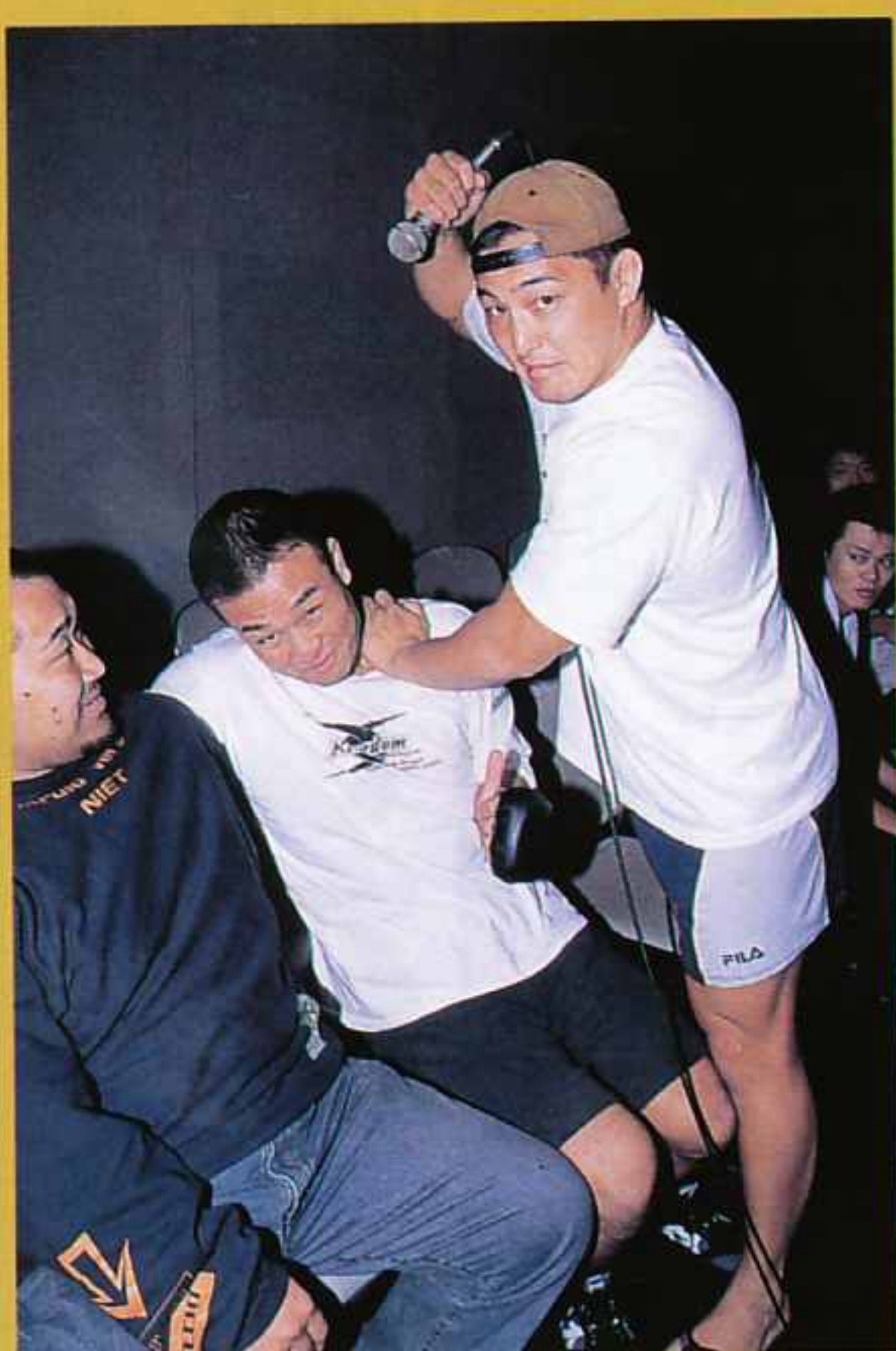
——誰かいますか？

エンセン　西田ひかる！

——なんで！（笑）。そういえば前田さんも西田ひかるお気に入りらしいですよ。

エンセン　え？　ちょっと待ってもらえる？　**オレは闘うよ！　オレ、デビュー戦から西田ひかる気になってたよ！**　アイドルなんていっぱいいるのに！　**西田ひかるだけちょうだいヨ！**

——ガハハハ！　ちょうだいヨって。じゃあ、それも誌面を通じてアピールしておきましょう（笑）。

【98年10月13日、世田谷区・北沢タウンホールのロビーにて収録】

キングダムとはゆかりの深いエンセン。修斗よりも細かいルールが多いので試合に出なくてもルール・ミーティングに聞き入る表情は鋭い。が、それが終わった途端にボウジャクブジンの暴れぶりを発揮。この号が出る頃には終わっているが、10・25のＶＴＪはどうなったか？　目の離せない男である。

連載開始前から驚異的大反響！『紙のプロレス RADICAL』ご意見番

超大型連載 第1弾

谷津嘉章の マット界、目えつぶって30秒!!

構成&撮影／チョロ
Text & Photographs by Choro

PRIDE.4 編

アマレス時代は日本史上最強のヘビー級レスラーと言われ、プロレス界参入後も数々の実績を残している、谷津嘉章。得意のタックルと同じく、切れ味鋭いその毒舌評論は、聞く人に抜群の説得力と壮快感を与えてくれる。連載１回目の今回は、谷津さんに『PRIDE.4』をズバリと一刀両断してもらいました。オリャ！ オリャ！ オリャ！

グレイシーはハッキリ言って実力的に衰退したな！

まあ俺は、今日は評論家として言うんだけどな、評論家としては、今日出てた選手はみんな一生懸命やってたよな。もうちょっとショー化してると思ってたんだけどな。そういう余裕が選手にないっていうのかさぁ。

まあ全体的に言えるのは、自己満足の世界だよな。前半なんか見てても眠くなっちゃう試合ばっかりでな。なぁんか、おかまがさぁエッチしてるような感じでさぁ（笑）。

試合展開が今日みたい（膠着状態、猪木vsアリ戦の体勢になった試合のことを指し）になったってことは、地味になればなるほど、作られたモンじゃないってことなんだよ！ わかる？

逆に言うとね、派手になればなるほど、作られたモノなんだよ。なッ！ っていうことは、全部真剣なんだよ、今日やった試合は。アマレスの大会見に行ったような空気なんだよなぁ。ってことは、アマレスだって、まだ客が入る可能性があんじゃないかと思うんだけど、そうでもないんだよなぁ。

その違いは何かっていったら、メディアが付いてるか付いてないかの違いなんだよな。メディアってヒーロー作るのうまいじゃん。わかるよなッ。

今回で言えば、それが高田だよなッ。メインの試合のテンションと盛り上がり方っていうのは、要するに高田っていうプロレス的な空気が入ってきて初めて出てくるわけよ。だろッ。それまでの試合ってのは、見ててやっぱりアマチュアなんだよな、空気が。なッ！

俺は今日は評論家として言うんだけどな、評論家として見れば『PRIDE』のルールに問題があるな。1ラウンド10分の3ラウンドっていうのは長すぎなんだよ。全部で30分あるでしょ。こりゃ見てる方はつまんないわ、やっぱり。観客を楽しませるためにはな、15分、20分一本勝負にしちゃった方が面白いからな。一発技を掛けて、例えば、逆十字失敗した、スリーパー失敗した、そしたらスタンドから再開しなきゃ！ ガキの喧嘩じゃないんだから。なぁ！

あのルールだと膠着しちゃったらそのまま続いちゃうんだよな（苦笑）。技掛けて失敗したら、スッポ抜けたら、またスタンディングから始めりゃあいいんだよ。もうちょっと近代ルールに近いルールの方がいいと思うんだよ。

そういう意味では、ラウンド制じゃなく、続行して、お客さんが一貫して見れるようにした方がいいんじゃないかな。「あっ、極まった」って思ったら、ゴングがカーンって鳴ったら「アレッ？ 今どっちが勝ったの？」ってそういう話になるでしょ。なッ！

例えば、なんだ？ オクタコス？ あぁオクタゴンっつうのか（苦笑）。そうオクタゴンなッ。アレなんかは続行するじゃん、アルティメットとかな。ああいう風にやんないとわかんないよなぁ。

あと今日なんか見てると、ロープブレイクってルールにないんだけど、ロープの外に選手が出ちゃうじゃん。ああなってくると、あのロープが邪魔なんだよな。選手にとってみれば視界を遮っちゃってるよね。邪魔でしょ！

格闘技っていうのは四方から見るもんだから。これから、だんだんだんだん……やってるうちにね、相撲の土俵も丸、アマレスのマットも丸、柔道なんかも丸になるかならないか揉めてるわけだよ。知ってるかぁ！

俺たちはプロレスやってるから、（突然ロープワークの動作をする谷津親分）こうやって走らなくちゃいけないからなぁ（笑）。今日みたいな試合はロープ走んないんだから、逆に丸にしちゃった方が見やすいんだよなっ。俺たちは（再びロープワークの動作を始める谷津親分）コレしなかったら仕事になんないんだけどさぁ。なぁ（笑）。

それと今日はグレイシーの一派が、弟子からなにから全部来たよな。グレイシー（ブラジリアン柔術勢も含む）はハッキリ言って実力的に衰退したな！ 何故かってったら、もうわかっちゃってんだよ、技から、なにから。

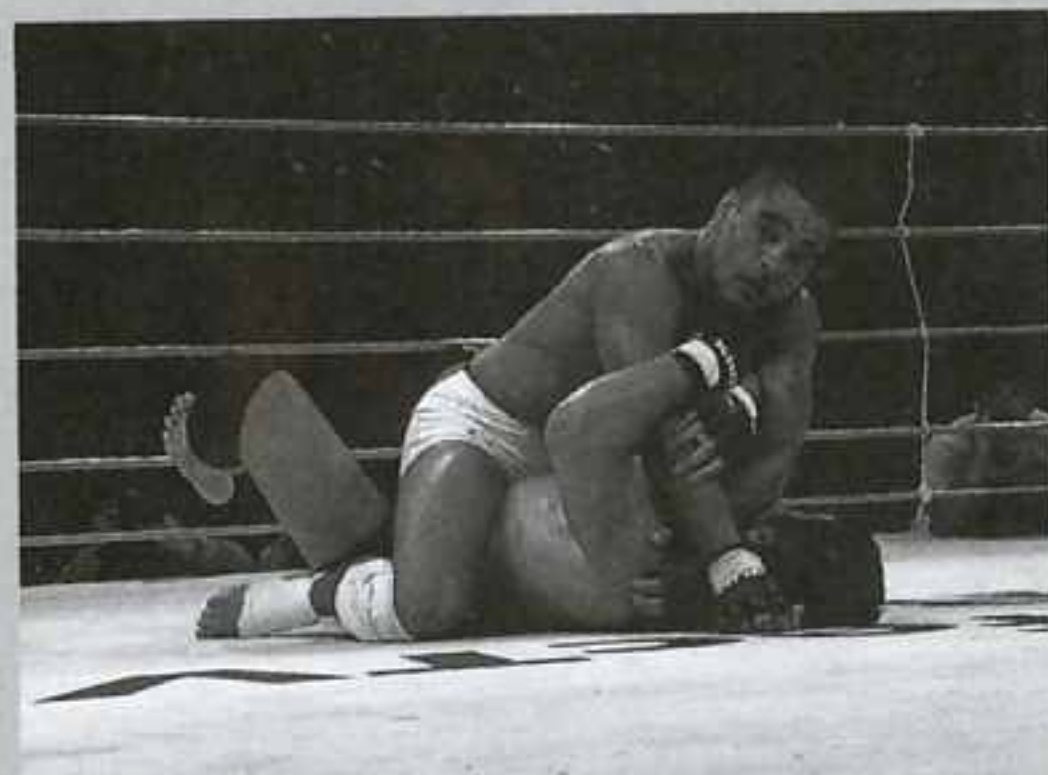
だから結局アントニオ猪木のあんなスタイル（vsモハメド・アリ戦での猪木がとった戦法）しかできないんだよ、みんな。あれじゃあよぉ、お客さん見ててフラストレーションたまるんだよ。グレイシーがあの体勢とったらよぉ、「バッカヤロー俺は付き合わない！」って、こっち（ロープに寄り掛かり、くつろいで見せる谷津親分）で待

知ってる？ ヒクソンって時計見ながら試合してんだよなッ

ってたらどうすんだアイツらは、なっ！　俺だったら、こう（再びロープに寄り掛かり頭をボリボリ掻く谷津親分）やってやるよ。俺はずっとそう思ってたわけ。そうしたら初めてそれやってくれたんだよ（満足げな表情を浮かべ）マーク・ケアーが。良かったよなぁ！　俺だってそうするからな。

グレイシーの奴等はさ、道衣着てナンボなんだから、アイツらは。裸でやったらアマレスの方が強いんだよ、絶対！　アレクサンダーなんかも、あえて坊主にしてたワケだけどさ、ホントはもっと剃ってスキンにすれば、頭攻められても、滑って技も極まりにくくなるんだけどな。

ああいう若い連中は、俺たちの用語でトンパチって言うんだけど、トンパチで恐れを知らないでやってるけどな。いずれあの連中も恐れを知る時があるんだよ。俺の後輩の髙橋（義生・日大レスリング部出身・現パンクラス）もさっき（会場で）あったけどさ、目に指入れられちゃって手術しないとダメだって言われたらしいんだよ。「お前気を付けろよぉ！　いつまでもそんなバカやってても続かないぞぉ！」って。だけどああいう（スタイル）のが好きなんだわな（苦笑）。

例えば今日、高田は負けたよね。ヒクソンは二回も日本で儲けさせてもらってるんだよ。やればいつでも勝てるんだから。知ってる？　ヒクソンって時計見ながら試合してんだよなッ。セコンドと話しながらやってるんだから。そんだけの余裕があんだよ。それで、あそこまでいって最後の最後でスパッと極めちゃうだろ。なッ！

ヒクソンは確かにバランスはいいんだけど、あの中（出場全選手）で一番怖かったのはなッ、誰だかわかるか？　それはな、マーク・ケアーだよ（キッパリ）。アイツと俺一回やってみたいと思うよ。アレはいいよな！

格闘家ってのは一回見れば、どれくらい強いかってわかるの。フィーリングでわかるんだよ。俺がこの目で見て、一番殺気があって強いなって感じたのは、マーク・ケアーなんだよ。

俺は比較して見るんだよ、自分の戦力と向こうの戦力とを。パンチでは俺は負けてる。打撃も俺が負けてる。だけどアマレスだったら俺が勝つかもしれない。グラウンドとかの取り合いだったらな。アイツに勝てるのは、もうスリーパーしかないんだよ。俺が勝てるとしたらタックル入ってからスリーパーだよな。打撃でやったら絶対俺が負ける（キッパリ）。

マルコ・ファスってのもなぁ、グレイシーと同じくらい強いって言われてるんだけどなぁ、大したことないわな、俺が見た限りでは。ただアレクサンダーってのはよぉ、徳島の高校でレスリングやってたんだよ。アレはいい選手だよな。ただ俺は（レスリングで）最高学歴まで行ってるんだから。なッ。

それと高田。アレは間違いなく引退するな。高田はヒクソンに2回負けちゃったワケだからな。高田は、もうそのくらいの財も組織も築いちゃったからな。スポーツライターでもなんでもやれるし、食っていける。高田道場っていう道場も持ってるわけだしね。

高田がもしね、例えば桜庭ぐらいの実力があって、あるいは桜庭が高田ぐらいのネームバリューがあれば、絶対ヒクソン苦戦するよ、間違いない。でも桜庭っていったってなぁ、俺の後輩だぞぉ。太田（章）が今日解説かなんかやってたけど、こんなヒゲはやしてさ（笑）。俺は太田の1個上だからな。

俺が思うに、桜庭とヒクソンがやっても今日みたいに客が入んないと思うんだよな。高田だからあれだけの客を呼べるわけ。高田はスターだからな。

例えば高田対ヒクソンなら見たいなって言うのがあるでしょ。桜庭対ヒクソンって言ってもピンとこないでしょ、みんな。俺が言ってるのは、桜庭ってのはこれから認知されてく段階の選手でしょ。ある方面では知ってるけど、一般的に認知されてないじゃん！　この業界の中の、プロレス・格闘技ファンの中の人気であってさ、でしょ。もっと縮小すれば、U系の連中の中の人気であってさ。じゃあプロ野球ファンが桜庭のこと知ってる？　でも高田のことは知ってるぞ、やっぱり！　その差なんだよ。だからヒクソンはこれで終わりだな。多分もう来ない！

でも佐野は可哀想だったなぁ。アイツは向いてないんだよ。プロレスやってりゃよかったんだよ。打撃でいっちゃったでしょ。相手は空手だろ。柔術とかもやってんだろ。佐野のタックルはプロレス的なタックルだから取れないし、一緒のスタンスになっちゃえば殴られちゃうしさ。負けんのは目に見えてるんだよ！

まあプロレスラーっていってもさ、タックルも、プロレス的なタックルと、我々みたいな実戦向きのタックルとは違うからな。本間っていうのは、柔術とかコンタクト系の組み合う格闘技もやってるよな、佐野にタックル取らせなかったもんな。だろッ？　だけど佐野のタックルじゃ取れなくて当たり前だけどな。同じ間合いになっちゃってるんだもん。殴られるのは時間の問題だったからな。相手が打撃できたら、自分は

四角いジャングル
RADICAL

ホント、バーリ・トゥードとかの話があれば出てくから、俺も！

四角いジャングル RADICAL

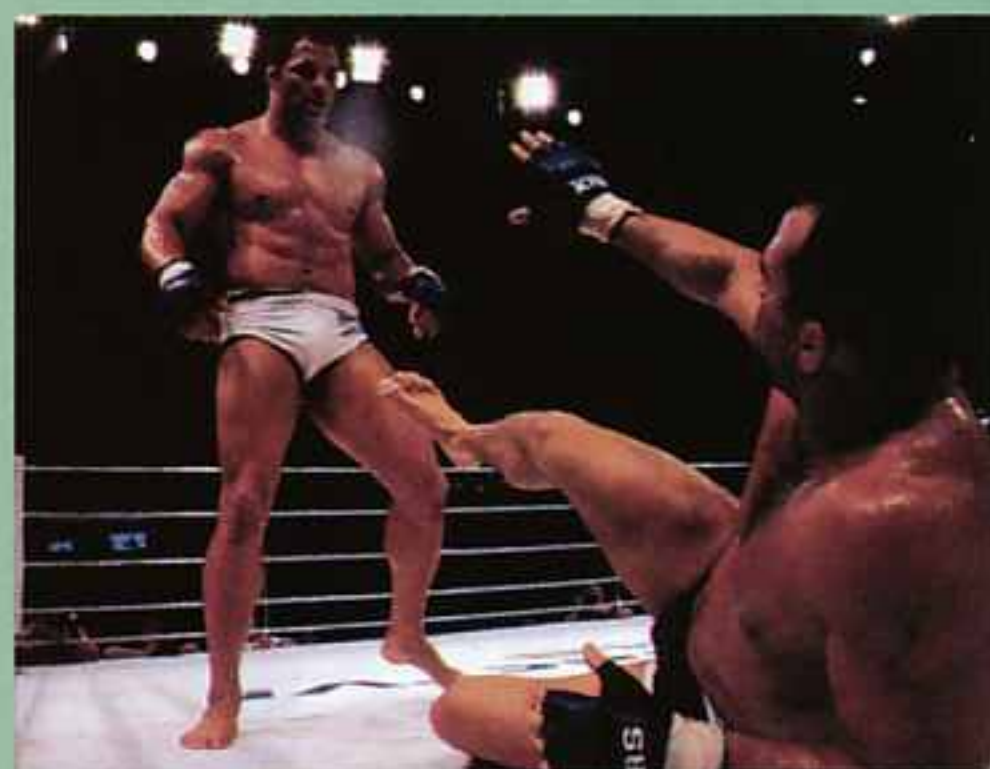
マット界、目えつぶって30秒!!

コンタクトで行かないと。

もう頭がテンパっちゃってるから。パニクッちゃってるんだ、頭の中が。例えれば、鑑賞魚とね、泥の中に入ってるフナみたいなモンなんだよ。鑑賞魚はあくまでも金魚なんだから。金魚は金魚の生き方があるじゃんよ。泥ゴイは泥ゴイの生き方があるんだよ。今日の試合で勝った奴はみんな泥ゴイでしょ。俺は強いっていう、向こう気が強いトンパチな奴ばっかりだもんな。

佐野はプロレスだったら大成するよ。高田もそれに近いとこあるな。プロレス上手いよな。またスターっていうのは、スターらしい顔を持ってるんだよな。高田はそのルッキンを持ってるんだよ。ルッキン持ってるだろッ。

桜庭は、その点技を持ってるから見てて楽しいよな。結構強いし、頭いいからなアイツは。それに余裕があるから。何故かっていうと、格闘技を知ってるから余裕があんだよ。こいつヤバイなって思ったら、例えばクリンチするとかさ、殴ってきたとこを腕取ってみるとかさ、そういう工夫するでしょ。

でもホントにマーク・ケアーは強いなぁ（しみじみ）。すっごいパンチだもんなぁ。あれはK—1でもやらせてみたいよなぁ。ノンコンタクトで。キックだけやっても勝てるよアレは、多分だけどなッ。アイツはズバ抜けてはいないけど、ボクシングも強いしね、多分ムエタイかなんかもやってたと思うんだよ。カンフーかテッコンドーかなんか。それにアマレスの防御もできるから、トータル的にもアイツが一番強いな。マーク・ケアーだったらヒクソンも受けないだろうなぁ。

ただヒクソンも超一流のモノを持ってるよな。でも弟子とか門下がだらしないよなぁ。ブラジリアンはいろいろ仲悪いらしいけど、流派が違ってもブラジル人はみんな同じだよな。顔見たらみんな同じじゃん（笑）。

俺は今日は評論家として言ってきたけどな、総評としては、みんな一生懸命やってるなと。それは言えるよな。アレはフェイクじゃないと。真剣勝負だから地味になっちゃうんだよ。

ただ今日の試合だったらな、修斗の方がまだ面白いぞ。修斗見てるか？

修斗は技術持ってるからな。みんな軽量級だけどな。あの連中はね、みんなプロレスラーになりたかったんだよ。ところが成れないモンだからああいう形になったんだよ。佐藤ルミナだってそうだろ。日体大のレスリング部いたんだからアイツは。知ってんだよ。

その点マーク・ケアーは爆発力が凄いじゃない？ 百メーターダッシュみたいな選手じゃない？ ああいうのとやるとな、グレイシーは戦意喪失しちゃうんだよ。フニャっときちゃうからな。ああいうのに弱いんだよ。イランの（アマレス）選手みたいなモンだよ、グレイシーは。セコイんだよ。

その点、マーク・ケアーなんてさ、王道いってるよな。王道やって、王道で負けんだったらいいじゃんか別にな。マークみたいのを見ると俺もちょっと自信なくしちゃうな。アレは人間ステロイド？ ステロイドじゃないわな（笑）。人間ニトログリセンだよな、人間グリセリンな（笑）。なぁ。

でもマーク・ケアーに一発ワンパンチもらったら気持ちいいだろうなぁ（笑）。やるんだったらマーク・ケアーよりヒクソンとかの方が楽そうな感じだな。同じコンタクト系だから、やりにくさはあるんだけどな！

まあ俺も言うだけだとよぉ、「じゃあ、お前がやってみろ！」ってなるかもしれないけどさぁ、俺もマーク・ケアーとか見てたら、（シュートサインを出し）こっちの方の闘いもやってみたくなったなぁ。ホント話があれば出てくから、俺も。ただああいうスタイルの試合をするからには、それ用の練習を何ヵ月かビシッとやってな。出るからには負けられないからな。そうだろッ！ まぁ今回はそんなとこだな。

俺は、黙ってられないぞぉ！

【SPWF情報コーナー】

『S.P.W.F. 革命 維.新.伝.心. part1』

■今回のシリーズ中に、先シリーズのタッグリーグ戦において谷津選手と組んで優勝した高智政光選手の七番勝負を行います。そこで突然ですが、高智選手の対戦者を大募集いたします。「高智？ 誰それ？ よーし、俺が一丁もんでやっか！」「ＳＰＷＦの若い選手ってどの程度のモンなんだよ！」「高智？ やっちゃうぞ、バカヤロー！」等、どのような考えでも構いません。高智選手に胸を貸してやってもいいぞ、もしくは興味のあるという、プロレス団体、及びフリー選手は迷わず、ＳＰＷＦまでご連絡ください。

【問い合わせ】SPWF　03・3814・6371

（表示のない会場はすべてPM6：30）

日付	会場
11月 8日(日)	八王子マルチパーパスプラザ(開幕戦)　PM1：00
11月18日(水)	六日町スポーツコミュニティーセンター
11月19日(木)	新潟フェイズ
11月20日(金)	柏崎市総合体育館
11月21日(土)	長岡市厚生会館
11月22日(日)	若美町総合体育館
11月24日(火)	米沢市営体育館
11月25日(水)	七ヶ浜町民体育館
11月26日(水)	仙台ワッセ
11月27日(金)	滑川市総合体育センター
12月 1日(火)	栃木・烏山町体育館
12月 2日(水)	群馬・前橋群馬アリーナ
12月 3日(木)	茨城・笠間市民体育館
12月 4日(金)	千葉・茂原市民体育館

※尚、上記すべての会場のチケットは当日会場にて販売します
（発売時間は試合開始の1時間前です）

浅草キッド
が見た
10・11「PRIDE.4」

聞き手＆撮影／チョロ
interview &photographs by Choro
試合写真／松永源さん
photographs by Gensan Matsunaga
試合写真／斉藤ユーリ
photographs by Yuri Saito

心にねじり鉢巻き！
唇に軍艦マーチ！
祭り囃子も鳴り響く！

もうギンギンに
勃起したよ!!

そして、
TPG（たけしプロレス軍団）
バトラーツに宣戦布告!!

プラス
ファンから見た
「PRIDE.4」
怒涛の300人アンケート！
結果発表させてよ！'98

コレが本文中でキッドが指摘している東京スポーツ（10／13）。他にも東スポ「マシン眼」の「高田よ『格好良く』引退しろ」という記事にもご立腹。そんな浅草キッドの毎週月曜掲載、東スポ「ステ看板ニュース」はプロレスファン必見！

ハードパンチャー同士の対決として注目されていた、ゲーリー・グッドリッジVSイゴール・ボブチャンチン。流血したチャンチンだったが強烈な左フックでグッドリッチからダウンを奪い、レフェリーストップで勝利を収めた。

日本人で唯一『PRIDE』シリーズ全戦出場中の小路晃。今回の相手は［狂犬］ヴァリッジ・イズマイウ。2ラウンドに入ると小路はイズマイウに顔面パンチを浴びせ続け、最後はレフェリーストップで勝利。そしてマイクを握り……。

試合前に行われた引田天功スーパーイリュージョン。海外ではプリンセステンコーとして活躍する天功が、グッドリッジ、ボブチャンチンと共に入場してきただけで、ドームは不思議な幻想に包まれた。天功の連続参戦希望！

博士　今回はね、テレビの仕事は全部断ったんですよ。自分らが発狂してる姿を見られたくなくて。ホントに無名で見たかったんだよ。

――今回の『PRIDE.4』は興行的に見て大満足ですよね、もちろん。

博士&玉袋（声を揃えて）大満足ですよォォォ！　なにの不満があるよ！

――スポーツ新聞も三社が一面でしたからね。『東スポ』は違いましたけど。

博士『東スポ』にモノ凄い腹立ってるんですけどね。（持参の東スポを広げ）一面じゃないでしょ。

――一面は「長嶋監督を〝蹴撃〟した川相反乱が原因」でしたね（笑）。

博士『東スポ』だったらね、ここに「巨人、オリックス解雇される高田捕手獲得へ」ってあるでしょ。「高田引退、巨人入り！」って見出しに出来たんですよ。

――ガハハハハ！　『東スポ』的には断然そっちですよね。もったいない。

博士　そんな猪木的な謎かけ、『東スポ』的なダイナミックな仕掛けが出来たのにね。あとはこの「高田また惨敗!! 復讐に名乗り出た格闘家」ってね、オレてっきり骨法の堀辺（正史）先生かと思って。ついに立ち上がったか！　と思ったら橋本（真也）だったんだよ。…………いやぁ、まだ整理出来てないんですよね。あんなゴージャスな興行見ちゃって。じゃあ、一試合目から。

玉袋　いってみっか。まあ引田天功は良かったよ。ショボくなるのかと思ったら、手品と登場する選手を交えての、巻き込んでの。で、檻から出てきたのが（ゲーリー・）グッドリッジと（イゴール・）ボブチャンチンっていうのが見事にはまったねぇ。

博士　ちゃんと『美女と野獣』ってショーになってたしね。

――で、このグッドリッジvsボブチャンチンですけど。

博士　オレらは『保険金殺人マッチ』って呼んでたんだけどね。どっちも殺人級の打撃を持ってるから。どっちが死んでも大差ないっていう。でもグッドリッジはもったいないよね。あのパンチの戦慄！『PRIDE』シリーズの中で、もの凄く印象に残ってる選手だからね。あそこまで人間の顔めがけて腕振りおろせる奴いないと思うよ。

玉袋　石切場のオヤジだってあんなに強くハンマー落とさないよ。

――ガハハハ！　ボブチャンチンはいかがでしたか？

玉袋　チャンチンは良かったねぇ。

博士　ボブチャンチンは『格通』とかで見てた時から日本に呼んでくれって言ってたんだよ。で、たまたま石井館長と会った時にその話したら「キッドもいいとこ目ぇつけてるね」って。

――次が小路（晃）vs（ヴァリッジ・）イズマイウなんですけど、いい試合だったんだ

PRIDE.4 試合直前

【ノー問題300人アンケート】

Q1.今日の全8試合の勝敗予想をしてください。また、あなたが興味を持っている試合を3試合挙げてください。

［第1試合］
■イゴール・ボブチャンチン――112票
■ゲーリー・グッドリッジ――180票
■その他――8票

［第2試合］
■ヴァリッジ・イズマイウ――154票
■小路晃――138票
■その他――8票

［第3試合］
■菊田早苗――136票
■松井駿介――154票
■その他――10票

［第4試合］
■アラン・ゴエス――56票
■桜庭和志――232票
■その他――12票

［第5試合］
■佐野友飛――192票
■本間聡――97票
■その他――11票

［第6試合］
■アレクサンダー大塚――32票
■マルコ・ファス――258票
■その他――10票

［第7試合］
■マーク・ケアー――254票
■ウゴ・デュアルチ――36票
■その他――10票

［第8試合］
■ヒクソン・グレイシー――116票
■高田延彦――172票
■その他――12票

▲圧倒的な得票差が付いたのは、第6試合のマルコvsアレク戦と第7試合のマークvsウゴ戦。これまでのマルコのイメージ（高田の師匠、ヒクソンが対戦を避けている男、路上の王、等々）を考えると、この結果も仕方がないのかもしれませんね。ただマークvsウゴ戦がこれだけの得票差がでたのは正直驚きでした。結果的には第7試合と、引き分けに終わった第3、4試合を除くと、得票が多かった方の選手が負けてしまうという結果になりました。

［興味があるカード］

1位■ヒクソン・グレイシーvs高田延彦284票
2位■アラン・ゴエスvs桜庭和志148票
3位■アレクサンダー大塚vsマルコ・ファス79票
4位■マーク・ケアーvsウゴ・デュアルチ75票
5位■佐野友飛vs本間聡64票
6位■ヴァリッジ・イズマイウvs小路晃53票
7位■イゴール・ボブチャンチンvsゲーリー・グッドリッジ50票
8位■菊田早苗vs松井駿介39票

▲まあ予想通りというか、一番興味がある試合は高田vsヒクソン戦という結果がでました。魔の10・11から丸一年、今年の高田は何かしでかしてくれるという期待感がドーム周辺にはムンムン充満していました。2位となったゴエスvs桜庭戦は、これまでの『PRIDE』シリーズで超一流のテクニックを魅せてくれた桜庭が、暴れん坊青年［コスタメサの喧嘩屋？］アラン・ゴエスと闘うことによって、そのナマの感情が見られるのでは、という声が多かったです。ちなみに「ボブチャンチンはよく知らないけど名前が気に入った」と言う人が多かったです（同様ウゴ）。

［喧嘩屋］アラン・ゴエスと対戦した桜庭和志。桜庭は得意のグラウンドで優位に試合を運びながらも、最後まで極めきれず痛恨のドロー。悔し涙を見せた桜庭はタオルで顔を覆い、コメントルームにも顔を出すことはなかった。

互いに２度目の『PRIDE』参戦となる菊田早苗と松井駿介。グラウンドでの膠着状態が続いた試合展開に、観客からはブーイングの声も聞かれた。結局、最後まで両者とも決め手に欠け、3ラウンド時間切れ引き分けに終わった。

Q.2　今日、試合に出場する16選手の中で一番強いのは誰だと思いますか？　また一番弱いのは誰だと思いますか？

［一番強いと思うヤツ］

順位	選手	票数
1位	ヒクソン・グレイシー	127票
2位	高田延彦	95票
3位	マーク・ケアー	39票
4位	桜庭和志	17票
5位	マルコ・ファス	12票

▲予想通りヒクソン・グレイシーが１番強いヤツという結果になりました。ドームクラスの大会場になると［400戦無敗］というイメージが強烈にインプットされているファンがまだまだ多いんでしょう。［400戦無敗］っていったって、日明兄さんは［2000戦無敗］ということだし、ノブ兄さんだってストリートファイトも入れたら、400戦なんて余裕で突破してるハズなんですけどね、最強！

［一番弱いと思うヤツ］

順位	選手	票数
1位	アレクサンダー大塚	50票
2位	松井駿介	42票
3位	小路晃	36票
4位	佐野友飛	34票
5位	菊田早苗	24票
5位	イゴール・ボブチャンチン	24票

▲見てみぃ、この結果！　ファンが試合前の時点で一番弱いヤツと思っていたのは、アレクということでした。まあこのように思っていたファンが多かったからこそ、あの大盛り上がりになったんでしょう。世紀の大番狂わせに乾杯！（番狂わせじゃないんだけどね）

Q.3　PRIDEに出したい選手を一人だけ挙げてください。

順位	選手	票数
1位	船木誠勝	28票
2位	前田日明	22票
3位	アントニオ猪木	12票
4位	橋本真也	10票
4位	ホイス・グレイシー	10票
4位	田村潔司	10票
4位	バス・ルッテン	10票
5位	エンセン井上	9票
5位	高阪剛	9票
5位	ジャイアント馬場	9票
5位	アレキサンダー・カレリン	9票

▲やはりというか、プロレスラーがズラリと並ぶ結果となりました。打倒ヒクソンの１番手として船木誠勝の名がファンから数多く挙がりました。かねてから公言していた船木のバーリ・トゥード参戦は一体いつになるのでしょうか？　船木vsヒクソンが実現すれば東京ドームも満員となるでしょう。前田vsヒクソンなら超満員となることでしょう。田上明、安田忠夫、プリンス・トンガなど相撲出身レスラーのPRIDE参戦も是非見たいところだ。

Q.4　あなたが最強だと思うプロレスラー＆格闘家＆団体は何ですか？　それぞれひとつずつ挙げてください。

［最強だと思うプロレスラー］

順位	選手	票数
1位	アントニオ猪木	42票
2位	高田延彦	28票
3位	橋本真也	25票
4位	船木誠勝	22票
5位	前田日明	20票
6位	三沢光晴	18票
7位	長州力	13票
8位	ジャンボ鶴田	11票
9位	武藤敬司	7票
10位	ジャイアント馬場	5票

▲引退しようが、ミスター・ウォーリーになろうが、いつだって猪木は最強だぜ！　という意見が多かったです。猪木さんが『ＰＲＩＤＥ』のリングに上がるなら誰とやっても必見です。それからジャンボ鶴田vsヒクソン・グレイシーなら１０万払ってでも行きます。持ってないけど。

四角いジャングル RADICAL

鈴木（みのる）vs小路が実現したら若者の魂を揺さぶるよな（筋太郎）

けど、あとの試合で印象が消されちゃった部分がありますよね。

博士　小路は、あとの試合っていうよりマイクパフォーマンスで全てを消していくからね。

玉袋　だけど、これはオレらの飲み屋での結論なんだけど、いくら1回ダメでも10回続けりゃ芸になるっていう。

博士　続けていきゃあね、鈴木みのるを超えられるよ。

玉袋　若者の魂を揺さぶるよな（笑）。

博士　鈴木vs小路の試合なんてメチャメチャ見たいじゃないですか。

――ガハハハハ！　見たいですねぇ。

玉袋　どっちが感動させられるか。そりゃあ、最初はね、「何クサイこと言ってんだ」ってなったけど、アレを10回続けりゃあ、試合後必ずマイクコール掛かるようになるよ。だって島田レフェリーが試合後すぐ「マイク、マイク」って言ってたでしょ。

――今回は尾崎（豊）ネタでしたね。ボク的にはすでにOKなんですけど。

博士　どんどんダサくなってくるじゃないですか。「なあ、みんなぁ」って。（笑）アレ、わざとかなぁ？

――だとしたら計算高いですよね。恐るべし、慧舟會って感じですね。高瀬（大樹）選手もいることだし。

玉袋　イズマイウは、オレね、ホントに埼玉のラドンセンターのそば屋で割り込まれてるから。小路がやってくれるのを期待してたから、嬉しかったッスよ。この試合はどうでしたか博士？

博士　良かったよ。小路の実力を証明したと思うよ。それから菊田（早苗）vs松井（駿介）か。菊田は、「観客を喜ばせますよ。30分なら自信あります」って『紙プロ』（『紙のプロレスRADICAL』12号）であれだけ言ってね。……でも悪くいうのは気が引けるよな。こういうリングに出てくる人のこと悪く言えないよ。

玉袋　今回出た人は全て立派ですよ。

博士　試合前から感情が高ぶっちゃってて、こういうクールダウンする試合が必要だったからあれは良かったですよ。

――予想では菊田選手の勝利っていう声が多かったですけど、松井選手も相当強い選手ですよね。

玉袋　強いよぉ〜。

博士　頑張ったよねぇ。

――試合後、リング上で菊田選手が「もう一回やろう」って言ったらしいんですけど、松井選手は、「菊田選手は『松井は弱い』とか言ってて、もう一回やろうって言われても、やりたくないですね！」って言ってましたね。

玉袋　面白いねぇ。まあ菊田は結果を出せばよかったんだよね。それだけの問題だよ。その分菊田もリスク背負ってるんだけどね。一発勝負でね。

――リスクしかないですからね。

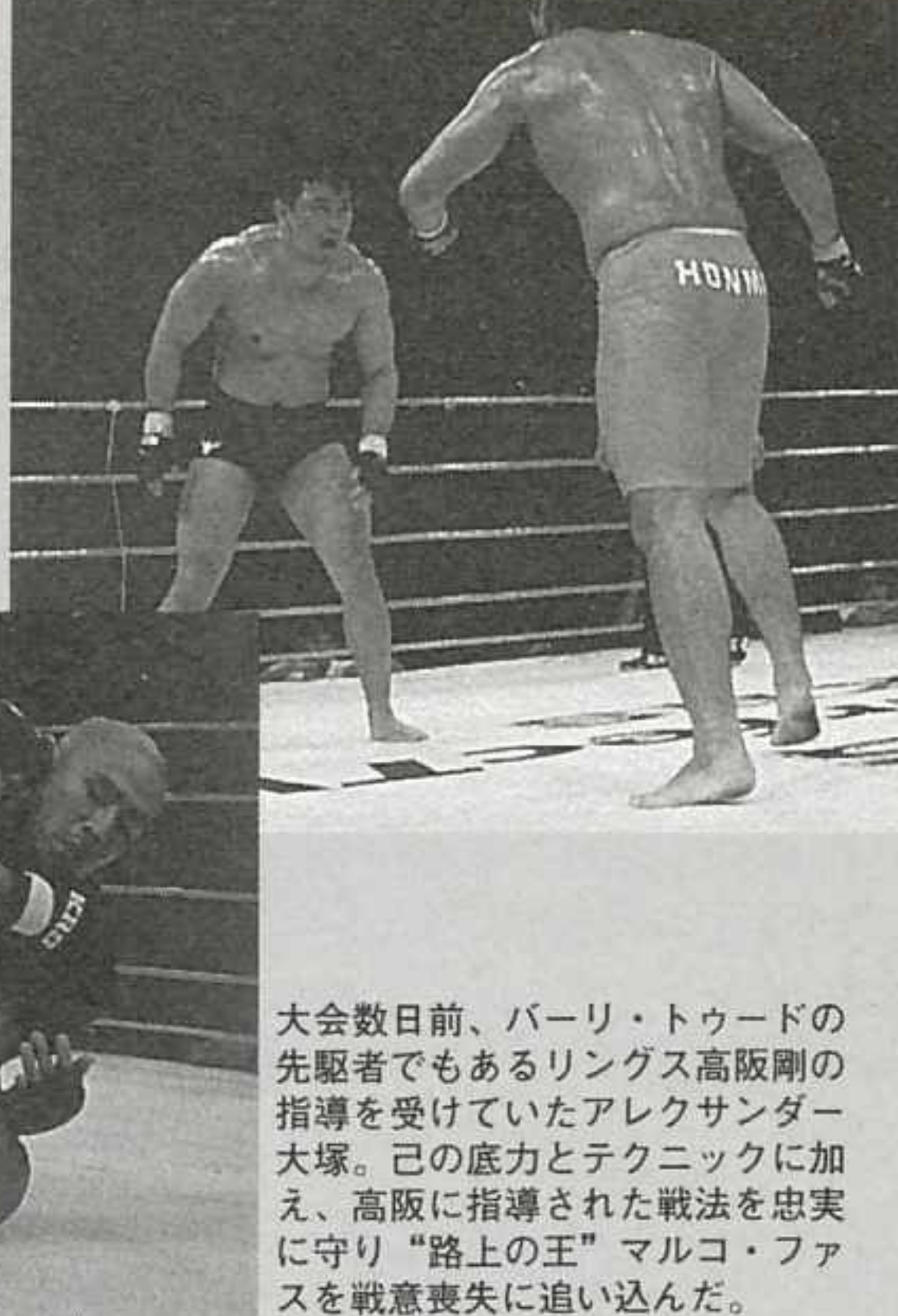
博士　メリットなんかないもんね。

――で、桜庭（和志）vs（アラン・）ゴエスですけど。

博士　桜庭、泣いたらしいですね。桜庭が泣くとは思わなかった。

――相当悔しかったんでしょうね。押してたのに極められなかったから。

玉袋　でもゴエスも強いよ。ゴエスがこれだけ強かったら、ヒクソンってメチャクチャ強いんだろうなって話になったんだよなっ、博士。それで、もうメインにならないでくれ、あと2時間後には全部結果が出てるんだって。もうヤダヤダって思ってた。試合後の桜庭のシュンとした顔見たら。

佐野友飛のセコンドには田村潔司と宮戸優光がつき、Uインター時代を思い起こさせた。佐野は本間聡のパンチを浴びまくり、気が付くとホイラー・グレイシー戦に続き、その顔は血塗れとなっていた。最後はパンチでTKO負けを喫した。

大会数日前、バーリ・トゥードの先駆者でもあるリングス高阪剛の指導を受けていたアレクサンダー大塚。己の底力とテクニックに加え、高阪に指導された戦法を忠実に守り"路上の王"マルコ・ファスを戦意喪失に追い込んだ。

『PRIDE.1』でネイサン・ジョーンズを破り、その巨体を何度も宙に浮かせドーム級の喜びを見せたPRIDE戦士・北尾光司。東京ドームでのビガロ戦でデビューした北尾。場所も同じく東京ドームで惜しまれながらも引退式を行った。

博士　桜庭がこれだけ攻めあえぐんだったら、ヒクソンっていうのはどんなに強いんだって。

玉袋　滅入ってったな。

――猪木vs（モハメド・）アリ戦みたいな状態になって。ゴエスは相当足癖悪かったですけど、それに対する桜庭選手の、イラついた表情も非常に印象的でしたね。

博士　それで今回の『PRIDE』を見るにあたって、『猪木ーアリ戦の真実』を読んだんだけど、アリキックの戦法を考えたのがイワン・ゴメスだっていうのが出てきて……。

玉袋　繋がるんだな。

――昔からブラジリアン柔術はああいう体勢の練習もしてたと。

博士　だからこのアリキックなんて猪木vsアリで猪木に教えたのがイワン・ゴメスだっていうところからみると、20何年間の謎が解明していきますね。ああいう闘い方っていうのがそんな昔からブラジル柔術界にあるんだっていうのがね。すごく理に適った闘い方なんだなって思いましたよね。桜庭が入って行けない感じっていうのがね。

玉袋　それがさ、見てる方からブーイングが飛ぶような状況もあるんだけど。だけど、そりゃ戦法だよ。ウゴ（・デュアルチ）がやった戦法とは違うよ。ウゴの寝っ転がり方とは違うよ。ウゴはただの駄々っ子。

博士　……まあ、そこでオレらは落ち込んだ訳ですよ、ボクらは。

玉袋　そこで休憩があって北尾（光司）の引退声明。ドームに始まりドームに終わった北尾の人生。アレも良かった。

――真樹（日佐夫）先生も格好よかったですね。

玉袋　今回はあれだけでもかなりの価値はあったと思うよ。真樹先生が『PRIDE』のリングに上がったっていうのはね。それから佐野vs本間か。これね、ホントに怖がってたことが実際起きたから、もの凄いイヤだった。

――10・11の直前に宮戸（優光）さんがウチの編集長をつかまえて、「みんな『高田vsヒクソン』とか言ってるけど、本当に注目しなきゃいけないのは『松井vs菊田』と『佐野vs本間』の2試合なんだ」って言ってたんですよ。

玉袋　絶対本間の方が食って来るもん。いいカモにされたとしか思えねえよ。もう、可哀想でしょうがねえよ。

博士　でも、佐野って不思議ですよね。

玉袋　いい人なんですよ、多分。

博士　いや、あの戦法で来る理由がわからないんですよ。前の試合（vsホイラー・グレイシー）もそうだったし。なんでだろうって思いますよねぇ。

――佐野選手の『PRIDE』での肩書は『ザ・プロレスラー』ですから、受けの凄味を見せつけようとしたんじゃないかって話もありますけど。

玉袋　だって無防備だもん。食ってく方が強いよ。本間の方が貪欲だよ。食ってく方が強いよ。佐野は、なんでもっと徹底的にそういう気持ちで行かなかったんだろう。オレ、絶対食われると思った。

――プロレスファンが一番恐れていたことが現実に起こっちゃいましたね。

博士　日本人同士でさ、本間選手のビデオとかもあるわけだし、どういう闘い方をしてくるかとか、なにが得意かってわかってるはずなのに、それでもああいう風になんであそこまで無策で行くのかって。不思議だよね。それにあれだけセコンドがいて、それでもよしとしてるのがわかんない。

――セコンドがオーロラビジョンに映った時は期待できたんですけどね。宮戸さんがいて、田村（潔司）選手も付いて。

博士　でも不思議じゃないですか？　田村選手や宮戸さんがいてああいう試合っていうのは。

――セコンドのアドバイスが聞こえてなかったのかもしれないですね。

玉袋　『PRIDE』のリングって腹減ってる奴の前に一個のアンパンを置いてそれを奪い合ってどっちが食うかってことでしょ？　佐野は一個のアンパンを分けようとしたんだよ。分けちゃいけねんだよ。本間が全部食べちゃって、エネルギーにしちゃったよ。

――ほんとプロレスファンには切ない試合でしたよね。

[最強だと思う格闘家]

順位	名前	票数
1位	ヒクソン・グレイシー	76票
2位	前田日明	32票
3位	高田延彦	22票
4位	アントニオ猪木	17票
5位	船木誠勝	13票
6位	マーク・ケアー	10票
7位	アレクサンダー・カレリン	8票
8位	大山倍達	6票
9位	田村潔司	5票
9位	エンセン井上	4票
10位	貴ノ花	4票
10位	フランシスコ・フィリョ	4票

▲日明兄さんに2倍以上の差をつけ、見事1位の座を獲得したのはヒクソン・グレイシー。しかし、ストリートファイトでなら、ノー問題で日明兄さんの完全勝利との声も多く聞かれました。

[最強だと思う団体]

順位	団体	票数
1位	新日本プロレス	74票
2位	リングス	48票
3位	パンクラス	38票
4位	全日本プロレス	29票
5位	シューティング	25票
6位	グレイシー柔術	14票
7位	極真会館	10票
8位	UFO	8票
9位	高田道場	5票
9位	NWO	5票
10位	日本相撲協会	3票
10位	日本プロレス	3票
10位	フリー	3票

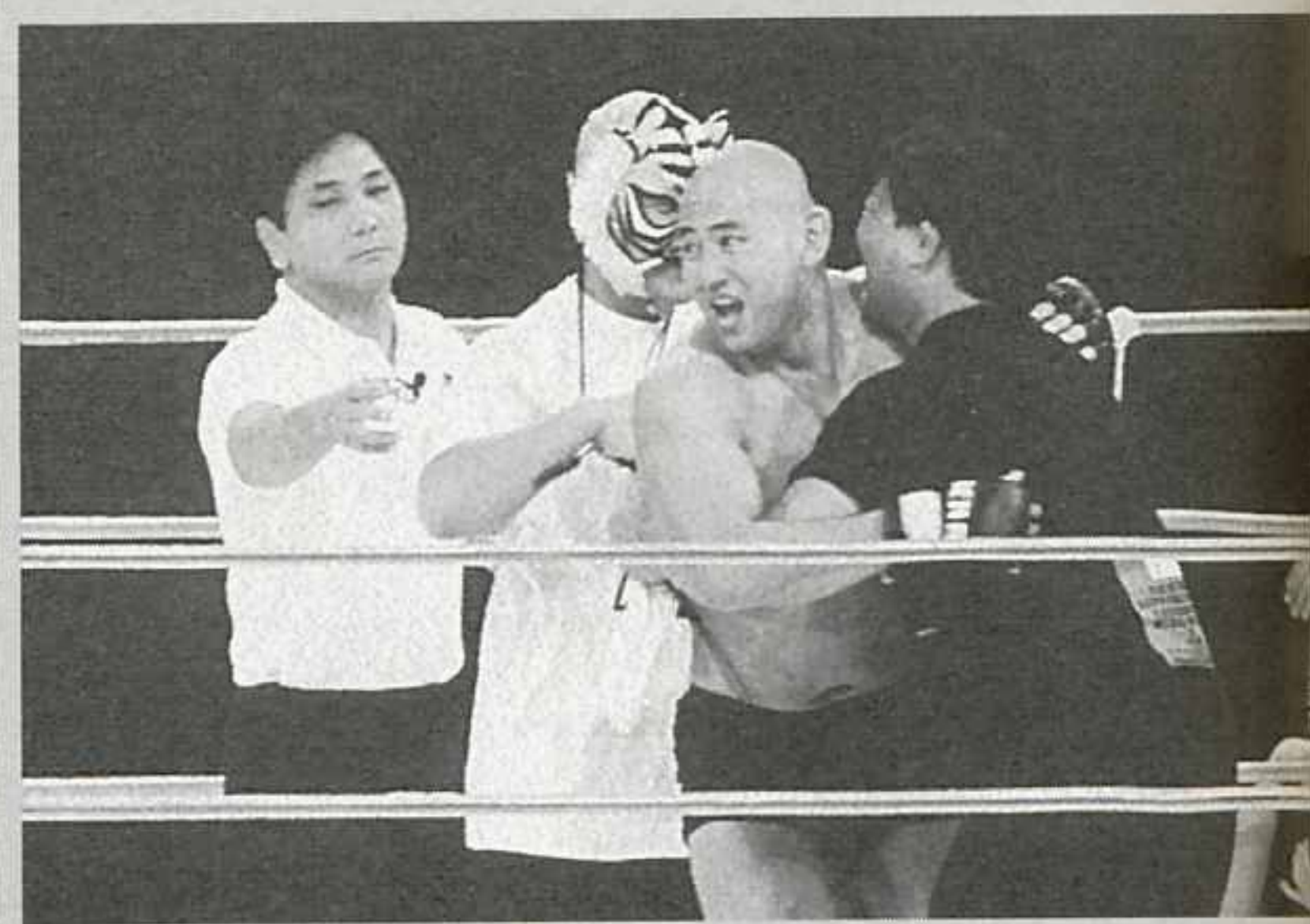
▲リングス、パンクラスといった、俗にU系と言われる団体を押さえ、最強だと思う団体NO1に選ばれたのが新日本プロレス。確かに2位以降の団体と、なんらかの形で関わり合いがある新日本は、組織も、選手層も、最強と言えるのかもしれません。そういう意味で最強の団体が日本プロレスという回答も的を得てると言えますね。

Q.5　今日のPRIDE.4に、あなたは何を期待していますか？

- **実は誕生日（本当）なのでリアルなファイトをプレゼントして欲しいです。（井上リエ／23歳／フリーター）**
- **高田の秘めた憤り（タカザキ／25歳／会社員）**
- **NWOの選手が来ること（平子友一／25歳／フリーター）**
- **明日学校があるので、なるべく早く終わるようにしてもらいたい（中西大／17歳／高2）**
- **心のさけび（クボタ／26歳／サラリー）**
- **タレントの来場（大内勝輝／24歳／会社員）**
- **ヒクソン見てぇ（小森典夫／24歳／大学院生）**
- **ときめき（佐藤伸吉／22歳／会社員）**
- **北尾が引退メッセージで何を言うか？（大塚穣／28歳／会社員）**
- **期待の超新星　本間聡選手の動き（本間洋子／21歳／会社員）**
- **高田の成長（中島／18歳／電気屋）**
- **プロレスの一般世間にも伝わる宣伝、知名度のアップ（増田健一郎／22歳／会社員）**
- **谷津のプライドシリーズ参戦発表（野本浩介／21歳／大学生）**
- **プロレスラーの逆襲（鈴木義明／17歳／考え中）**

▲『PRIDE.4』に集まったファンの中で圧倒的に多かったのが「高田の勝利！」「ヒクソンの敗北！」という回答。そしてみんなやたらと熱い! やはり大部分のファンは高田の勝利を望んでいたということだ。もちろん東京ドームという大会場での試合だけに一見さんも多数足を運んでいたようで、「タレントの来場」、「なるべく早く終わるようにしてもらいたい」を期待するという発言が出るのも無理のない話だろう。「NWO選手が来ること」を期待するって、残念だったね平子さん。橋本は来ただけだよね。「期待の超新星本間聡選手の動き」と答えてくれた本間洋子さんって本間選手の妹か？

当日の大会パンフレット内での勝利者予想でアレクサンダー大塚の勝利と予想した人は22人中、何と0人。つまり誰一人としてアレクの勝利を予想した人はいなかったのだ。アレクの勝利が告げられた瞬間、ドームは大興奮の渦に包まれた。戦前の予想を覆し、勝利を収めたアレクは、マイクをつかむと「11月23日、バトラーツ両国大会。モハメドと一緒にロード・ウォリアーズと闘います!!」と力強く宣言。この勝利によってアレクは一気にマット界の救世主となった。

四角いジャングル RADICAL

玉袋　そこでオレらも意気消沈よぉ。「ハァ～」と。……それでこれよ。アレクサンダー大塚の入場ですよぉ。

博士　試合前に会場で山口編集長に会って、第一声が「アレク、本当に朝5時からリング設営したよ」って。あの時の呆れた笑顔っていうのがねぇ。

玉袋　バカよのぉ～。大バカよのぉ～。

博士　大バカだなぁって思ってね。嬉しくなりましたよ。だからオレはね、ホームページ上に『紙プロ』のアレクのインタビュー（『紙のプロレスRADICAL』12号）を再録しようと思って。それを知ってこの試合を見たときの感動はないじゃない。

玉袋　アレクの入場テーマをリングスで聞いてね、クセえ歌だなぁって思ったんだけど、いやぁ～、それがあんな名曲になるとは思わなかったねぇ。

——ウチの編集部の人間はアレで全員泣きましたね（除・ノブ）。ドームにミスマッチでありながらあんなにハマった曲っていうのはないですよね。

玉袋　う～ん、凄い！

博士　オレら初めてアレクに会ったときにね、テレビの収録だったんだけど、まだ藤原組にいたときだな。誰に憧れてレスラーになったか聞いたら、「いや、プロレスラーっていうか、ボクは『1、2の三四郎』なんですよ』って。

玉袋　そんときオオォッッッ！って。

マンガがリアルファイトに勝った瞬間だったねぇ（博士）

博士　で、試合のときにセコンドに（モハメド・）ヨネと（四代目）タイガーマスクとずらっと並んでの3ショット。もうホント、『1、2の三四郎』の世界じゃないですか!!

玉袋　のものもは志乃なんですよぉ。

——ガハハハハ！　石川社長も横にいて。

博士　マンガがリアルファイトに勝った瞬間だったねぇ。

——また入場で着てたTシャツが『ダイエットブッチャースリムスキン』。

玉袋　あの格好よさってなかったじゃない。それで勝っちゃったじゃん。いやぁ～、あれはよかった。ホントよかったよぉ。

博士　試合の途中、ちょっと複雑な心境になったんですよ。アレクがマルコに勝ってしまうと、この後の試合に対する気分の持っていき方が難しいっていうのがあって。

玉袋　高田の師匠ですもんねぇ。

博士　でもホント、勝った瞬間凄かったな。

玉袋　スリーパー極められたときなんて、もうダメかと思ったけど、ゴングが鳴ってねぇ。でもアレも見事だよ。神があの一瞬を用意したねぇ。

博士　プロレス的な記憶で言うと、高田vs北尾戦以来ですよ、イスから飛び上がって喜んだのは。人生的な記憶で言うと、『浅ヤン』の『江頭グラン・ブルー』で、エガちゃんが4回負けてずっとスランプだったんだけど……。

玉袋　オレたちに内緒でエントリーして、4分14秒潜って、死にそうになって、気絶しながら水から上がって来た、あんときぐらいの感動だったなぁ。

——アレも感動しましたよねぇ。

玉袋　あの日、オレたちも凄くいい夜だったけど、バトラーツはもっといい夜だっただろうなぁ。神風が吹く瞬間っていうのはああいうことなんだよ、ホントに。神風吹きまくったよぉぉ。

博士　このぐらいの番狂わせって記憶にないんだけどな。

玉袋　ホント、下手すりゃジャイアント・スウィングまでやる男だったぞ。

博士　オレの同居人で鈴木っていうのがいて、そいつ無毛症なんで、藤波さんの無我にならって『無毛(むげ)鈴木』って芸名だったんですけど、10・11を機会に『アレクサンダー鈴木』に替えたんですよ。で、相棒は芸名なかったんですけど、そいつは『のもののも』に替えたんですよ。人生すらも変えましたからね。ちなみにコンビ名は『王様と私』なんですけどね。アレクはまさに王様だよ。路上の王様に勝ちましたからね。キング・オブ・プロレスラーですよ。

——アレク選手、本当に冷静で、スリーパー掛けられたときもセコンドの声もちゃんと聞こえてて、「もう少し我慢すれば」って、「我慢するのはプロレスラーの意地ですよ！」って。

玉袋　憎いねぇ。もう抱きしめたいよ。

博士　そこで11・23（バトラーツ両国大会）の話をするところなんか、シビレたね。

——知らない人が聞いたら、「モハメドと組んで」なんて言われてもなにかと思うでしょうからね。

博士　なんであの試合が感動出来たかっていうと、やっぱり『紙プロ』読んでないとダメですよねぇ。あの日の夜、オレ、アレクの話出来なかったもん。

玉袋　泣いちまうからね。

博士　…………（感極まり、話しが出来なくなる博士）ちょっとすいません、オレや

四角いジャングル RADICAL

『PRIDE.3』のカイル・ストゥージョン戦ですっかりお馴染みとなった、黒いマウスピースを口にくわえる高田。そのガウンの脱ぎっぷりひとつとってもふてぶてしく、今年はなにかやってくれそうな予感がビンビンに感じられた。

高田が花道に登場すると、ドームには嵐のような高田コールが巻き起こった。吉川晃司作曲の新しいテーマ曲に乗って入場してきた高田は笑みを浮かべ、観客にアピールしながら悠々とリングに向かっていった。VIVA高田!!

ある意味、高田VSヒクソン戦より注目されていた、ウゴ・デュアルチとマーク・ケアーの対戦。しかしマーク・ケアーのタックルからの鉄拳制裁に怯んだウゴが戦意喪失してしまったため、全く期待はずれの試合となってしまった。

っぱりアレクの話ダメだ（涙ぐみ、トイレに駆け込む博士）。

玉袋 アレクの話ダメなんだよ、本当にきちゃって。ジンジンきちゃう。ホンッットいい男だよ、アレクは！

――この試合を見た観客を両国大会に引っ張れりゃ言うことないですね。三万六千人の大行列ですよ。

玉袋 来るよ！ オレらがそこで旗振るよ！ でも今オレたちのどんな言葉よりもアレクの一言の方が重いね。オレね、こういう闘いに出撃する人のインタビューって本当に締め付けられるような気持ちで読むんですよ。死にに行くようなもんだから。それでアレクの話なんて特にジンジン来てたな。

博士 アレキサンダー・カレリンから名前取ったんだけどっていうのがあるじゃないですか。だけど、一気に世界のアレクサンダー大塚になりましたよね。その10時間ぐらい前には、他の出場選手にとってはリング屋ぐらいでしかなかったのがね。

玉袋 この『PRIDE』シリーズに出る人たちって、結果如何ではとんでもない重いものをしょい込む可能性があるんですよ。去年の高田選手の十字架のように。それぐらいの覚悟の人がリングなんて作んねえって！ だけどだよ、そんな覚悟をしょい込まなきゃいけなくなるかもしれないのにもかかわらず、みんなより早く来てリング作って、重い鉄柱をしょい込んでたっていうね、あぁ、もうたまんねえなぁ。芸人になる奴にも全部読めって言ってるもん、アレクのインタビューを。

博士 「リングを自ら作り」って言う一行ぐらいじゃ伝わらないですよね。

玉袋 だって、自分が血まみれで横たわるかもしれないリング作ってる人どこにいるよ。自分で棺桶作った人だよ、荒野のガンマンですよ。棺桶引きずりながら歩いてた男ですよ、アレクは。

博士 もう、この試合終わった時点でもう放心状態で……。

玉袋 もう会場出ようって。

博士 この時点でオレ、気が触れてたから、高田が勝ったら高田に飛びついてリングに上がっちゃうと思って。

――ガハハ！ 他にも確実にいますよね。もう無礼講、無礼講。ノー問題！

博士 いや、4万人上がると思ってたね。「イナバの物置」状態になると。

――ガハハハハハ！ さすがに4万人乗ったら大丈夫じゃないですよね。

玉袋 客席もアレク戦の後変わったでしょ、一体感が出て。会場を一つにしたのは、間違いなくアレクですよ。

――その余韻も醒めやらないうちに始まったケアーvsウゴですけど、戦前は大注目されてたじゃないですか。

博士 前田日明の引退試合に指名したいとまで思わせてたウゴなのにね。

玉袋 幻想はあったね。タンク・アボットに敗れ、ミソついて。で、今度はこれでクソついて。

――ガハハハ！ ミソクソ！ ウゴもだいぶ株落としちゃいましたね。

玉袋 ウゴは、やってくれるかと思ったのにな。マーク・ケアーってのは確かに素晴らしい選手で、アメリカのヒーローって感じがするんだけど、オレん中では、ちょっと脆いとこがあるんじゃねえかと思って。ホラー映画に出てくる筋肉マンってさ、コイツが絶対ヒロインを助けてくれるだろうと思っても、後ろからナタ振られちゃうってイメージがあるんだよね。そういうイメージあるんだよな、マーク・ケアーって。今回、それが見れるんじゃないかと思ったんだけどな。

博士 いい休憩になっちゃたよな。

玉袋 だって、オレらはメインで射精しようとしてるんだからな。

――アレクの試合後、すぐ高田vsヒクソンが始まったら、もうすぐ出ちゃいますよね。ウッ、我慢できないって。

玉袋 おう、出ちゃう、出ちゃうよ。

――今回の高田選手は、入場時から表情も全然違いましたからね、去年とは。

博士 笑いかけたりしてたもんね。

玉袋 気になった新テーマ曲もね、『モニカ』がかかると思ってたから。

――ガハハハ！ 吉川晃司といえば！

PRIDE.4 試合直後
【ノー問題300人アンケート】

Q.1 今日の全8試合のうちからベストマッチを3試合挙げてください。

順位	試合	票数
1位	アレクサンダー大塚vsマルコ・ファス	196票
2位	ヒクソン・グレイシーvs高田延彦	178票
3位	ヴァリッジ・イズマイウvs小路晃	77票
4位	佐野友飛vs本間聡	51票
5位	アラン・ゴエスvs桜庭和志	48票
6位	マーク・ケアーvsウゴ・デュアルチ	34票
7位	イゴール・ボブチャンチンvsゲーリー・グッドリッジ	27票
8位	菊田早苗vs松井駿介	13票

▲膠着状態が続いた菊田vs松井戦、レフェリーストップが早すぎたとの声も多かったボブチャンチンvsグッドリッジ戦はさすがに票数は伸びなかった。その一方で、大外から一気にベストバウトをカッさらっていったアレクサンダー大塚こそ、真（心）の意味でのプロレスラーと言えるだろう。

Q.2 今日、試合をした選手を採点してください。10点満点です。（有効投票数246票）

順位	選手	合計	平均点
1位	アレクサンダー大塚	(2307点)	平均点9.4
2位	ヒクソン・グレイシー	(2079点)	平均点8.5
3位	マーク・ケアー	(1785点)	平均点7.3
4位	小路晃	(1764点)	平均点7.2
5位	高田延彦	(1719点)	平均点7.0
6位	本間聡	(1644点)	平均点6.7
7位	桜庭和志	(1620点)	平均点6.6
8位	イゴール・ボブチャンチン	(1377点)	平均点5.6
9位	松井俊介	(1200点)	平均点4.9
10位	マルコ・ファス	(1182点)	平均点4.8
11位	アラン・ゴエス	(1146点)	平均点4.7
12位	ゲーリー・グッドリッジ	(1071点)	平均点4.4
13位	ヴァリッジ・イズマイウ	(1023点)	平均点4.2
14位	菊田早苗	(981点)	平均点4.0
15位	ウゴ・デュアルチ	(783点)	平均点3.2
16位	佐野友飛	(747点)	平均点3.0

▲ここでもヒクソンを押さえて1位に輝いたアレク。初めてアレクを見たファンの心にも、確実にアレクサンダー大塚の名を刻み込んだことだろう。

Q.3 今日、試合をした選手の中で一番強いのは誰だと思いますか？ また、一番弱いのは誰だと思いますか？

[一番強いのは]

順位	選手	票数
1位	ヒクソン・グレイシー	128票
2位	アレクサンダー大塚	74票
3位	マーク・ケアー	34票
4位	高田延彦	28票
5位	桜庭和志	9票
6位	イゴール・ボブチャンチン	6票
7位	小路晃	3票

▲メインで勝利を飾ったヒクソン・グレイシーが文句なしの1位。試合で敗れはしたものの、高田もランクイン。

[一番弱いのは]

順位	選手	票数
1位	佐野友飛	96票
2位	ウゴ・デュアルチ	85票
3位	菊田早苗	20票
4位	マルコ・ファス	17票
5位	高田延彦	15票
6位	松井駿介	12票
7位	ヴァリッジ・イズマイウ	6票
8位	ヒクソン・グレイシー	5票
8位	アラン・ゴエス	5票

▲不名誉にも1位に選ばれたのが佐野友飛。『PRIDE. 2』でのホイラー・グレイシー戦に続き、血まみれとなり敗れてしまった佐野。3度目はあるのかな？

Q.4 今日の大会を見終わった上で、あなたが見たいカードを挙げてください。この大会に出ていない選手を組み込んでもOKです。

●アレクサンダー大塚vsヒクソン・グレイシー（オクダサトシ／32歳／アートレスラー）
●田上明vsヒクソン・グレイシー（吉岡隆二／21歳／会社員）
●石川雄規vs高田延彦（井上雅博／26歳／自営業）
●前田日明vsヒクソン・グレイシー（大西ナホ／24歳／女の子）
●マーク・ケアーvsヒカルド・モラエス（宮田俊二郎／30歳・酒呑み）
●グラジエーターvsヒクソン・グレイシー（今田誠二／23歳／サラリー）
●佐藤ルミナvsゲーリー・グッドリッジ（横須賀奈美／22歳／病死もとい美容師）
●田村潔司vs石沢常光（新山達樹／26歳／家庭教師）
●スーパー宇宙パワーvsホイス・グレイシー（赤井慎二／27歳／配管工）
●谷津嘉章vs小路晃（大関武史／34歳／サラリーマン）
●プリンセス・テンコーvsキム・グレイシー（折坂源一郎／17歳／少林寺に燃える高校生）
●桜庭和志vs高阪剛（飯塚聖香／20歳／居眠り）
●金原弘光vsヘンゾ・グレイシー（高橋正芳／29歳／バイト）
●エンセン井上vsドン・フライ（斎木あやか／18歳／学生）
●Mr・ウォーリーvsセッド・ジニアス（玉手箱はじめ／33歳／手品師）
●アレクサンダー大塚vsアレキサンダー・カレリン（船越信人／19歳／大学生）
●船木誠勝vsホイス・グレイシー（岡田ちあき／25歳／販売員）
●高田延彦vs菊田早苗（河合芳也／26歳／ツアコン）
●谷津嘉章vsウゴ・デュアルチ（徳永誠／19歳／コック）

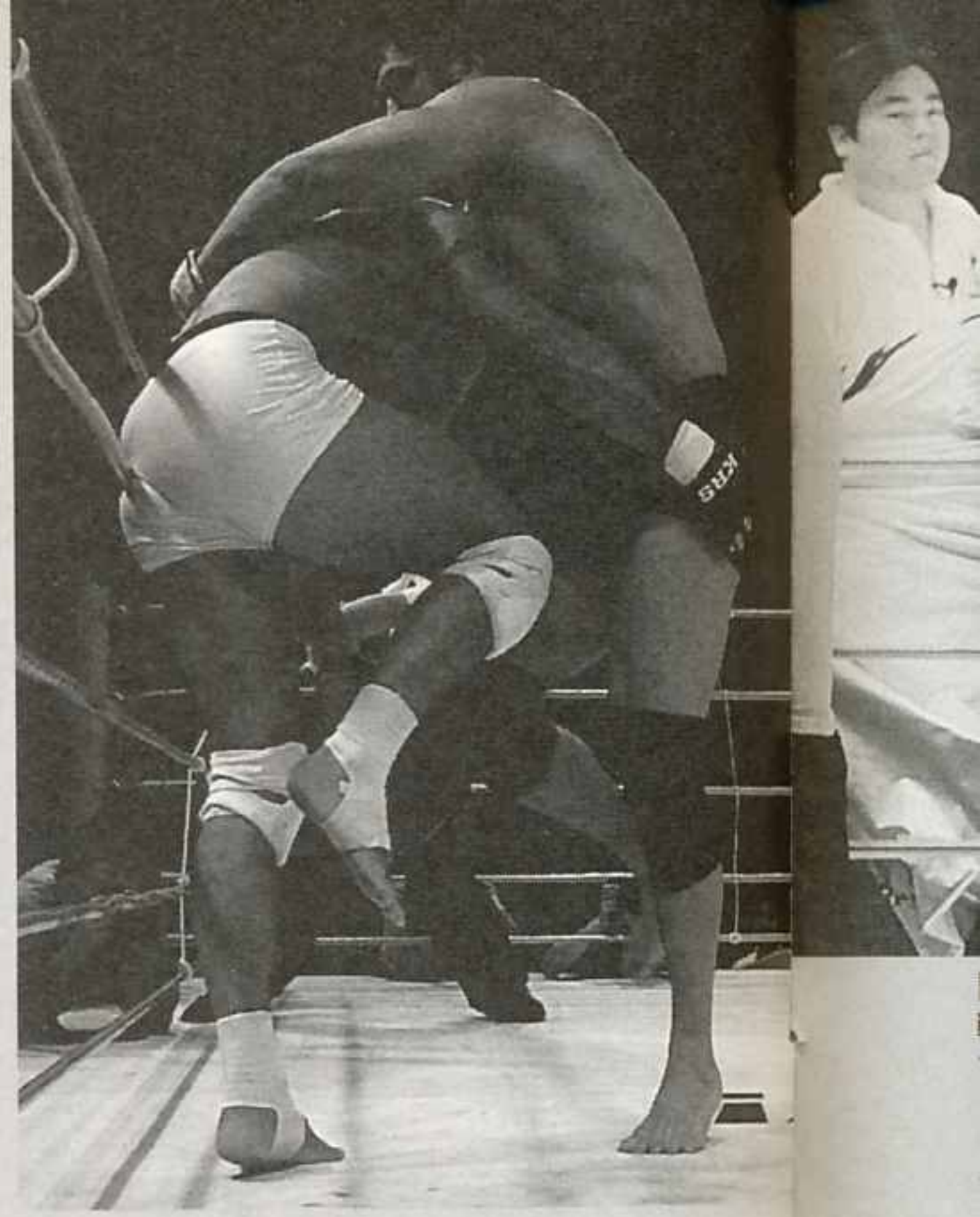
▲アレクサンダー大塚の勝利で、大興奮、大感動、大勃起した観客から出てくる名前はアレク、アレク、アレクのオンパレード。その中でも、高田を返り討ちにしたヒクソンとの対戦を望むか声が非常に多かった。試合前の、一番弱い奴というイメージを一夜にして覆し、一躍マット界の救世主となった感があるアレク。それ以外では、いわゆるU系、シューティング勢の名前が多く挙がった。もちろん谷津嘉章のバーリ・トゥード参戦を望む声は未だ根強いものがある。さて『PRIDE.5』は開催されるのか？　それが問題だ！　何度でも見たい！

Q.5 今日の大会を振り返ってひとこと。

●日本人対決はやめろ！　つまらんし、おうえんできない。（矢谷亮平／22歳／サラリーマン）
●山あり、谷あり。しかし、高田＆ヒクソンおもしろかったよ。プロレス＆格闘技を知らない私にも。（辰巳理香／23歳／販売員）
●やさしさにかける（佐藤伸道／26歳／自営業）
●アレクがプロレスラーらしい勝ち方をしてよかった。特にヒジのグリグリがよかった。本間のカクトウギのテーマがよかった。（荒井ノブオ／27歳／パチンコメーカー）
●アレクサンダー大塚やったぞ！　これぞ実写版「1、2の三四郎」だ。この試合に備えて、特別なことをしないで勝ったのがすごい。「また明日生きるぞ！」と言わず、両国の宣伝マイク良かったです。のものもによろしく！（田中竹彦／31歳／団体職員）
●ファンタジーとリアリズムを同じ茶わんにもって納豆とコーラであえたようなヘヴィなハードコアティックな大会でした。（及川ヨシヤ／26歳／印刷屋）
●おもしろ悲しかった。（西内太志朗／18歳／学生）
●あっさり風味（山口哲央／23歳／学生）
●今回ほど残念な大会はありませんでした。せっかくヒコーキ代払って、博多から来たのに！　頑張れ、プロレス！　燃えろ！　プロレスラー諸君!!（井上雅博／26歳／自営業）
●アレク、高田、ヒクソン、宮戸、血、田村、プライド（勝俣拓郎／20歳／販売業）

▲『紙プロ』編集部及び関係者の間では、早くも今年度NO.1プロレス興行との声も挙がっているが、ファンの声に耳を傾けると、実に様々な感想を投げ掛けた興行だったという事がわかるだろう。果たして高田延彦VSヒクソン・グレイシー！　3度目はあるか？

試合後ヒクソンは、高田の「3度目の正直ということでもう一回」との再戦要望を伝え聞くと「もし、次に高田とやるとしても、彼には今の100倍練習して、もっと勝つ体験をしてからの方がいいだろう」との彼らしい発言。

今年の高田は昨年とは違い、ヒクソンの足関節を取りにいったり、コーナーに詰めて足踏み、ヒザ蹴りを連発させるなどし、積極果敢に攻めていった。ヒザ蹴りを喰らったヒクソンは実に頼りなさそうなハの字眉毛になるほどだった。

芸人にも全部読めって言ってるもん、アレクのインタビュー（筋太郎）

博士　ボクら的に言うと、去年の高田選手の試合っていうのは、ヒクソンの巨大な男根、巨根幻想に負けて、立派なハズの男のシンボルを、内股で前を恥ずかしそうに隠したままで、すごすごと負けていったってのがあったけど、今回は、ブラリと、フリチンでね。

——ガハハハハハ！　ぶらり一人旅。

博士　もう入場からフリチンで来たっていうのがね、凄いですよね。

玉袋　灼熱地獄にね。

博士　（ヒクソンと）向かい合ったときにちゃんと仁王立ちしてたもんね。立派ですよ。やっぱり日本代表だから。

玉袋　『祭り囃子は聞こえたか』と。

博士　聞こえましたよぉ！

玉袋　『軍艦マーチ』も聞こえたし。

——唇に軍艦マーチ！　会場はとにかく大騒ぎでしたからね。

博士　心にねじり鉢巻きをみんなしてたねぇ。良かったねぇ。

玉袋　今までドーム興行でアレだけのコールと熱気はなかったよな。去年はアレをさせてくれなかったもんな。

——去年は、全体的にどんよりとした感じのまま、高田vsヒクソン戦が始まったって感じでしたよね。

博士　今回はアレクの試合があったもんなぁ。

玉袋　あんな晴れ男がいると思わなかったからなぁ。

博士　それで高田が勝ったらどうなる？

玉袋　去年はホント、雲行きが怪しくなったところでやったようなもんだけど、今年はアレクが全部雲をどかしてくれたよね。今年は晴れた空の下でやったような気がするな。

——高田選手が敗れたショックは確かにありましたけど、前回みたいなショックじゃないですよね、今回は。

博士　じゃないでしょ。印象的だったのは、テリー（伊藤）さんがラジオで「プロレスファンっていうのは結果を問わねえっていうのは。優しすぎる」って怒ってたけど、それは違うと思うけどな。球技じゃねえんだって。リングに上がった時点で責任を取ってるんだよ。

玉袋　そうだよ、全選手な。死にに行くのは自分らだもんな。

——最後は腕ひしぎでタップしちゃいましたけど、あの瞬間っていうのはどうでした？

博士　『タップが早い』って言ってる人多いですよね。何故あそこで耐えられないのかって。でもそんなの誰がわかるんだよ。腕ひしぎの痛みや、これまで背負ってきたものの痛みがな。

——テメエがやってみろって感じですよね。この試合はショックもあったけど、メチャメチャ面白かったですね。

博士　面白かったよね。高田は試合の勝ち負けの結果を引き受けてるわけじゃねえって気もしたけどな。それまでの過程でね。

玉袋　十分でしょう！

博士　射精するのに一番良かったのは、一年間生殺しで、耐えに耐えてきて、それまで勃起不全だった奴が3万6千人もいたわけじゃない。それが全員勃起してるんだよ。もうギンギンで！

——もう完全勃起してましたね（笑）。

博士　それで最後の最後で、その濃い精液、男の汁を射精出来てたら、ホンットにもう何人かは死んでたよ！

玉袋　死んでる、死んでるよぉ！

——ベイスターズが優勝して、川に飛び込んで死んだ人もいましたからね。高田選手が勝ってたら……。

玉袋　こっちは東京ドームの屋根登っちゃうよぉぉぉ！

博士　射精までいかなかったのは残念っちゃあ残念だけどね、それまでのギンギンぶりで十分だよな。

玉袋　だけど、勃起することはしたんだからさ。射精するよりもそっちだよな、問題は。

博士　でもヒクソン・グレイシーのパンツの中身がまだわからなかった。まだ、デカイっていう幻想だけがあって、実はまだパンツを脱がしてないよね。

——でも、だいぶ横からはみ出して来てはいますよね。

博士　はみ出して来てるけど、形状自体が普通じゃねえんじゃねえかって気がしたじゃないですか。

玉袋　真珠？　真珠はないですよ。たぶん、ねじれてるな。

博士　もっと柔らかい勃ち方をするのかって気はしたね。これは男のシンボルの闘いなんですよ。男のシンボルを見せられるかどうかで高田は見せれたから、偉いって話ですよ。去年は前を隠したからダメだったんですよ。

玉袋　あと、ヒクソンがデカイと思い過ぎたってことですよ。

博士　そう、そう。そのヒクソンは本当にデカイのかどうかっていうのはまだわからないよ。

玉袋　ちょっと、ブラリと影は見えたけどね。チラリズムはあったな。

博士　オレらはこういう闘いに勃起したチンコを見たくて行ってるけど、ヒクソンは「そういうモノは役に立たないんだよ」って言ってるような、やっぱり違う形状してるんだよ。デカイとかじゃないんじゃないかって気がしてきたよ。

玉袋　やっぱり、一子相伝っていうぐらいだから相当なモノだよ。

——今年の高田選手はフリチンでブラリと見せながら……。

博士　しかも仁王立ち！

玉袋　見てるこっちも仁王立ちだよ！

——ドーム全体が仁王立ち！　こんな素晴らしい興行はないですよね。

博士　高田vsヒクソンだけじゃなく、アレクの試合があったから、猪木引退試合より凄かったですよね。

玉袋　ほんっと面白かった。ベスト1の興行かも知れないな。

博士　一年待たせてくれた結果、『誰も未だ見ぬ猪木』と『モハメド・アリ　かけがえのない日々』を立て続けに見たんだけど、猪木と高田がロスで会ったときに、高田が、猪木から『道』をもらってたじゃないですか。あのときに猪木が「元気ですかーッ！」って入ってって、その後何を話したんだろうって考えたら、やっぱアリ戦のことじゃないかと思って。「ヒクソン戦でお前が失ったものっていうのはオレがアリ戦で失ったものに比べればまだちいせえよ！」って言ったような気がすんだよなぁ～。

玉袋　そうするとスゲエ肩の荷が降りるけどなぁ。

博士　当時の金で30億ぐらい？　借金背負い込んで、一般紙からなにから、世界中で笑い者になって。

玉袋　それでも猪木は前隠さないで来たわけじゃない。

博士　その話聞いたら楽になると思うけどなぁ～。

——その説は十分有り得ますね。それで吹っ切れたのかもしれないですね。

博士　なかったかもしれないけど、高田選手がそこまで思いを馳せさせたっていうかさ、20何年前の試合までをオレらに見せてくれたっていうのと、師弟の絆みたいなものをもう一回見せてもらえたっていうのも嬉しいし、そこにモハメド・アリまで入って来てくれたところもね。ホント嬉しいよ。

玉袋　いや～ほんとウマイ酒飲ませてもらったよ。でもアレクが勝ったことによって、これからメジャーの奴なんかもう一切言えなくなるだろうね。出てない奴らが『PRIDE』について語るなんておかしな話だからな。

——試合前と試合後にアンケート取ったんですけど、試合前に聞いた「一番弱いと思う選手は？」って項目ではアレクがトップだったんですよ。

玉袋　ホント、ざまあみろ！　だよね。

——土下座しろって感じですね（笑）。

博士　アレクサンダー大塚がやってくれたことによって、石川雄規と山口編集長の「芯がしっかりしてりゃぁ、あとはどんなにグニャグニャでも構わない」っていう名言は証明できたよね。それでプロレスの魅力が保たれた。その『芯』が今まで不明確だったからオレらは不安だっただけで、アレクは、その『芯』を見せてくれましたよね。

玉袋　去年のプロレスファンが受けたショックをさ、こう、パーンと飛ばしてくれたのは他のどのレスラーでもない、アレクサンダー大塚ですよ。ホント救世主ですよ。

博士　あえてアレクサンダー大塚vs前田日明の引退試合をここで提案（笑）。

玉袋　これでアレクの首にメチャクチャ賞金懸かっちゃうよな。

博士　石川社長の「もう『PRIDE』のリングには上がらせない、一億出したら出してやってもいい」って、ほんっとに気持ちいいよね。オレ、『PRIDE』シリーズは『プロレス』って言ってるんだけどね。『格闘技』って呼び方はやめてるの。『PRIDE.4』はプロレス会場だよ。昔のいいときのプロレス会場の雰囲気があるよね。

玉袋　バトラーツの両国大会は満員にするよぉ！

——キッドさんは行かれるんですか？

玉袋　絶対行くよ！　もうスケジュール空けたもん！　あんないいモン見せてもらったんだからな。

博士　バトラーツでTPGをもう一回！

玉袋　オレら、挑戦するから。ヨイショばっかりしないよぉ。オレらだってTPGなんだから。

博士　ビッグ・バン・ベイダーいつ連れて行くかわかんないよ～。

博士＆玉袋　石川雄規及びにバトラーツ全レスラーに告ぐ！**「まだまだTPGには隠し玉がいる。オマエらが猪木イズムの残党であるなら、オレ達のTPGも猪木イズムの残党である。ここに犯行を声明しておく！　首洗って待ってろ!!」**

【『PRIDE.4』の興奮冷めやらぬ10・13／浅草キッド御用達／新中野・喫茶店ういすぱーにて収録】

浅草キッド直筆!! 頭にねじりハチマキを巻けた幸運なヤツら!!

前号のキッドインタビュー時、撮影に使用したキッド直筆限定２本の貴重なハチマキプレゼント！抽選の結果、幸運にも当選したのは、堀江将司さんと井田健吾さんの２名。堀江さんは偶然、会場の外でキッドとばったり遭遇。記念に一枚。一方の井田さんは、数年前までキッドのラジオ番組でハガキ職人として活躍していた人だ。記念に小さなガッツポーズ！　何年か振りの再会に、試合終了後、朝まで酒を酌み交わしたそうだ。良かった！

バトラーツの両国大会は満員にするよぉ！（筋太郎）

前田日明の
ノンプレゼンテーション人生相談

第8回

人生は語らず

読み切るには3万3千光年！
長めの相談祭り

生きるのに疲れ果てたときや、ものごとに行き詰まったとき。そして人間が愚かに見えるとき、なにもかもがイヤになったときは、自分の生活している星のことを考えよう。

地球は時速1400km／hで太陽のまわりの軌道を回る。
太陽こそはパワーの源。
天の川と呼ばれる銀河系の螺旋状の腕の中で、太陽もボクもキミも目に映る星も、1日に1600万km移動している。

銀河系には千億の星がある。
端から端までは10万光年。
中心の厚さは1万6千光年。
地球のある位置から銀河の端までは3千光年。
地球は銀河の中心から3万3千光年。
銀河は2億年周期で回っている。
我々の銀河系は宇宙のいくつもの銀河のひとつ。
宇宙はいま現在もどんどん広がっている。
あらゆる方向へと。
光りの速度は分速1900万km。
それはこの世の最高の速さ。
だから、自分が小さく見えるときは、生まれたときの不思議を思い、くだらないことにかまわずに、地球から振り落とされないように、二本の自分の足でシッカリ立とう。
しかし……この場合は、よけいなものは立てないように——!?

構成／山口日昇
text by Noboru Yamaguchi
撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

前田さん、こんにちは。ボクには、自分でいうのも恥ずかしいほどにうまくいっている彼女がいます。ゆくゆくは結婚します。でも、その彼女のことでちょっと悩み事があります。

実は、ある日うちに遊びに来た彼女がちょっと出かけた際に、興味本位で彼女のバッグをのぞいてしまったんです。すると、驚くべきものが出てきたのです！

財布の中にハンカチで何かをくるんだものがあるので、なんの気なしに開けてみると、なんだか木のクズのようなものがボロボロと出てきたんです。「なんだろう？」とジーーーッと観察していると、どうやらそれは人間の鼻クソでした（ホントです！）。

え？ 鼻クソ？ 誰の？ どこで？ ハンカチにくるんでるのはナゼ？ それを財布の中に入れてるのはナゼ？ 変態？ 本物？ ナゼナゼナゼナゼナゼナゼナゼナゼ？ ボクの頭の中では「ナゼナゼナゼナゼ」という文字が何百万回グルグルとリフレインしました。

その後、彼女に言い出したくても言えない日々が続きました。でも、どうにも我慢できなくなって、"モノ"を見つけてから1週間後くらいに問いただしました。

「あれ、どういうこと？」

すると彼女はいつも通りの明るい態度で（ちょっと恥ずかしそうだったが）、こう答えました。

「あれは、あなたの身体の一部をいつも肌身離さず持ち歩いていたかったから……」

前田さん、彼女はフザけているわけでもなく変態なわけでもなく、本当に"ボクの一部といつも一緒にいたい"という理由から、いまでもボクの鼻クソを持ち歩いているのです。

ボクは彼女のことを自信を持っていまでも好きと言えます。そんなことで関係にヒビが入るような仲ではないんです。

……しかし、彼女の財布の中にはハンカチにくるまれた、ボクの鼻クソが入っているのです。それも愛といっちゃえばそれまでなのですが、なんとなく"角度"が違うような……。

前田さん、こういう時は「そんなのやめて、違うものにしてくれ」とキッパリ言うべきなのでしょうか？ コトが大きいのか小さいのかわからないので、何か余計に悩んでしまいます。どうか、スッキリするアドバイスをお願いします。

（広島県・トーキョーボンクラス・22歳・大学生・男）

鼻くそね……。でも、これは別にどおってことないで。あのね、勝新（勝新太郎）の映画で『兵隊やくざ』っていうのがあってね。勝新演じるところの主人公が、間違いなく戦死するだろうという戦場に行くことになった。その時に惚れた看護婦に「アソコの毛をお守りにくれ」とかなんとか言う場面があるんだよ。それで、戦場でその子のことを思い出すたびにお守りからアソコの毛を出して、匂いを嗅いだりナメたりする。それが逆になっただけの話や。

問題があるとしたら、「私はあなたが好きなんじゃなくて、あなたの鼻くそが好きなの」って言われた時くらいやろ。そうじゃないんだから、何も悩む必要はない。

それに、鼻くそは意外に活用法があるかもわからへんで。丸めて飛ばしたりできるし、妙に愛嬌のあるところもあるしな。その他にも、例えばキミがこの彼女と結婚して、ほかの女もツマむようになって外泊するようになったとしよう。で、「どうして帰ってこないの？」とか彼女が言い出す。そうなったら、鼻くそを彼女の手に付けて、「おまえは、"俺の一部といつも一緒にいたい"と言うとったやろ。この鼻くそを俺だと思って、寂しい時はこれでもナメていてくれ」と言えば丸く収まる。

まあ、でも、鼻くそか……クックック……難しいよなぁ。人それぞれに感性とか感覚があって、ズレがあるから人間っていうのは面白いわけでしょ。女でもどの男からどんな体位を教わったとか、ほかの男から何を教わったとか全部わかってしまったら神秘性のかけらもないよ。割れ鍋に閉じ蓋じゃないけど、お互いに自分にないもの、足りないものがあるから男と女はつきあってて面白いわけや。だからその意味では、彼女は彼を驚かしたという部分で神秘性を保ったと。

だけど、ちょっと神秘性ありすぎるよなぁ、鼻くそは。今度、なんで鼻くそにしたのかって聞いてみるといいよ。そこに彼女のパーソナリティーとか、全人格にかかわるような秘密が隠されてるはずや。この件に関しては俺も興味あるし、詳しく精神分析してあげるから、ぜひ、もう1回調べてから投稿してきなさい。鼻くそは同封しなくてええで。

僕の友人のことについて相談があります（仮にその友人をA君と呼びます）。A君とは、僕が友人の家にいたとき、A君が遊びに来たのがきっかけで知り合いました。彼とは音楽のセンスがよく合い、すぐ仲良くなりました。彼は僕の趣味である、中古CD・レコード漁り（300〜500円のゴミの山から宝を探す）にも嫌な顔ひとつせずに付き合ってくれたり、なにより彼の独特の考え方に心酔し、彼のことを「親友」と感じるようになりました。

しかしある日、彼を知るきっかけとなった友人としゃべっていると、実は彼は同性愛者で、しかも僕のことを恋愛の対象として見ているというのです。僕自身、ホモセクシャルの人にまったく偏見などないと思っていたのですが、対象が僕、しかも相手がA君という、まったく考えもしなかった事実をいきなり知らされ、むちゃくちゃショックを受けています。

僕は彼のことを「親友」として見ておりますが、恋愛の対象としては成りえません。僕は彼と「親友」として、いまの関係を続けていきたいと思っています。

しかし、もし彼が僕に告白などしてきたら、僕はいままで通りの関係を続ける自信がありません（告白されても断るつもりでいます）。

いま、僕はそのことを知らないフリをして彼と付き合っています。でも心の奥で、どこか彼を避けている自分がいて、そんな自分が嫌でたまりません。

僕はこれからA君とどのように接し、もし告白されたらどのように対処していけばよいのでしょうか？ 日明兄さん、良きアドバイスをお願いします。

（埼玉県・KILL THE ヤスカク同盟・25歳・アルバイト・男）

これは共通の友人っていうのも悪いね。その彼が同性愛者だとしても、あくまでも当事者同士の問題でしょ。それを第三者が「あいつはオカマだから気をつけろよ」みたいなチャチャを入れるのはどうかと思うね。男らしくない。

それに同性愛者っていっても二つあって、そういう趣味のない子を引きずりこんででもやろうとするのがいるかと思えば、自分が好きな男を耽美的、ロマン的に捉えて自分が作った偶像に対して恋愛感情を持つっていう奴もおるからね。だから、彼が実際どっちの同性愛者なのかってことにもよるでしょう。案外、その彼が思う"25歳の健康的な男性像"とこの子が合致しただけかもしれないし、"現実的にこれはいけそうだ"ってなったのかもわかんないし。いずれにしても、引き込まれるか、引き込まれないかっていうのは本人次第だからね。別にいま心配することはない。

で、「彼独特の考えに心酔し」ってこの子は書いてるけど、それは当たり前の話。"第三の性"といって、男性性器と女性性器を共有している"フタナリ"っていうのがあってさ。つまり、両性具有者やね。それがインドの社会では"第三の性"として認められているんだよ。神に仕える身分として。両性を持つ感覚は性別を超えた神に近いものであるということで、人々の崇拝を集めるわけや。だからそういった部分の彼の独特の感性と才能に心酔して、この子は彼を親友と感じるようになったわけでしょ。

"美しい"とか"醜い"ってことは微妙なことでね。ジョルジュ・バタイユっていう

前田日明の
ノンプレゼンテーション人生相談
人生は語らず

現代思想家がいて、その人は生と死を結びつけるものとは何かといったらエロチシズムだと言うわけや。そのエロチシズムを思想的に昇華した人なんだけど、その人の言った言葉に面白いものがある。

「花は確かに美しいには違いない。しかし、それは本来からして美しいのではない。だが、それがそうあるべき姿。つまり、人間の理想と合致しているからに過ぎない。その証拠が落花で、それによって花の雌雄の生殖器が露になる。それは毛むくじゃらで、したがって醜いものだ。花びらの散ったバラは『見るからに汚い毛の密生』以外の何者でもない。到達できない大空と大地との間にあって、『蛆虫の如くおぞましい裸の根』によって、花はその儚い美しさを『下肥の悪臭』から吸い取っている。この悪臭こそ、いつかは朽ち果てる花の宿命を物語る。衰えてしまうと、誰しも美しいと言っていたその姿から、『ボロボロになった空の堆肥』に変わってしまうからだ。愛の象徴である花も結局は死の匂いがする」

欲望も愛も理想的な美を衰えさせること以外には、その美は無関係と言っている。

それとまったく同じでさ、何によって美しいとか汚いだとかが決まるのかと考えると、その人の脳が持ってる理想像で決まるわけや。

この子は、この子の脳で〝親友の理想像〟をイメージするんだけど、実際には絶対にズレがあるんだよね。大事なのはそのズレを発見する過程で自分っていうものがわかるということ。人間っていうのは自己認識の過程で必ずそういうものに出くわすし、そういうものの積み重ねで自分っていうものの認識ができるんだよね。

「人生とは解決する問題ではなくて、経験する現実である」って言葉がある。

この子は、同性愛者かもしれない人と出会ったことによって一つの経験を積むんだよね。それによって自分の中の何かを作るんだよ。人間としての何かを。

だから、俺がもしアドバイスできるとしたら〝逃げ出さない〟ってことだね。ホントに彼を親友だと思うんだったら逃げ出しちゃあかん。「友」に「親」がつくんだったら、普通の友情じゃないんだから。友情っていうものは、この部分には友情を持てるけど、この部分には持てないっていうもんじゃないからね。イヤだったらイヤだって言えばいいし、かといって同性愛者に友情を持った瞬間に自分も同性愛者にならなければいけないとかそういうもんでもない。

相手の個性も認め、自分の個性も認めさせる。そういった深い部分のつきあいができるかどうかが、25歳の1人の人間にとって大事なことなんだよ。

だけど、逃げ出さないようにっていってても、ある日気がついたら酒に酔い潰れてオカマを掘られて、病院行ったら大ごとになってました、ってことにならないように。それだけは気をつけるこっちゃね。

AKIRA MAEDA

Q 私は家庭もあり、会社も経営している身ですが、1回ホテトル嬢を呼んでしまいました。「1回ものの試しに……」という軽い気持ちで呼んだのですが、見事にハマってしまい、とうとう1泊2日20万で愛人契約をしてしまいました。

この不景気の中、当たり前のことですが、近頃はどうやってもお金が回りません。でも私はその娘とのいまの関係を壊したくありません。しかし、友人に相談しても「お前はアホか!」で済まされてしまいます。

ハッキリ言って、いま私とその娘を繋いでいるのはお金です。ですが、困ったことにどんなに借金してでも関係を続けたい、その娘を手放したくないという気持ちにも嘘はないんです。お金が切れたら関係も終わるのは目に見えているのですが、どうにも、もう止まりません。〝人生蟻地獄〟という感じですが、それでもいいという自分がいます。前田さん、同年代として聞きます。私はこのまま破滅まで突っ走るべきなのでしょうか? それともいまのうちに手を打つべきなのでしょうか?

(東京都・タコならぬイカ社長・36歳・会社経営者・男)

A なに? 1泊2日で20万? それはハッキリ言って高い! どんな女か1回見てみたいね。縛ってオ●ン●ンに針を刺してもらうとか、ムチでシバくとか、その女が特殊技能を持ってるっていうんなら別だけどね。そういうことでもない限り、信用できない金額やろう。20万という金額は。逆に考えると、こんなに高い金額を言うってことは、この女に嫌がられてるんだね、このオッサンは。「なんで俺が20万も出さなきゃならんのじゃ」って蹴り出すくらいの気迫がないからナメられるんだよ。

まあ、36歳で会社経営までしてるオッサンがそんなのにはまってしまうっていうこと自体が哀れやね。俺が知ってる50代の金持ち連中なんか凄いよ。女をとっかえひっかえ。おぞましいのは、男同士では友達と称していながら、誰かと切れた女に他のヤツがピラニアみたいに「今度は俺とつきあおう」とかバンバンいくからね。だけど、かえってそういう図太さを持った方がいい。そうじゃないと、これからの世の中は生きていけません。

でも、こういうのは1回行くとこまで行かないと目が覚めないんだよ。会社を潰して一家も離散してってならないと気がつかない。

そうなる前に、悪いこと言わないから、インターネットの吉原ソープランド情報で

も見た方がいい。俺も1回ハマったやつだけど、ソープ嬢の写真が並んでて、中には「え！　こんな子が」っていうほどのかわいい子がいっぱいおるねん。そういう女の子のところに通って、友達になったりつきあってる方がまだマシやで。大金積んで女をモノにするのは誰にでもできる。会社経営するような才覚があるんなら、最小限のお金と自分の知識と経験と魅力で何人のプロとつきあえるかにチャレンジしてみた方がオモロイで。ソープ通いでもキャバクラ通いでも、なんでもいいからそっちの方でとことんやってみることやね。それに、いろんなタイプの女の子と会って、いろんなコミュニケーションを取る方が自分の見聞も広がるし、対応力も身につく。同じ金を使うんでも、1人のわけわからん女に貢ぐよりそっちの方が数倍マシっちゅーこっちゃ。以上！

Q 私はいまＯＬをしています。でも、昔から画家になりたくて、その夢をあきらめたくありません。思いきって、来年美大を受けようと決心してみても、画家になるには医者の次にお金がかかるなんていわれてるくらいですから、すごくお金がかかります。そんなお金どこにもありません。でも、どうしても美大に行って勉強したいのです。だけど、親にもそんなお金は無いし、私がバイトしてなんとかなるものでもないし、現実的には難しいというより、ハッキリいって、私のまわりの状況をみれば無理なことがわかります。でも、絶対に夢はあきらめたくはありません。前田さん、こういう場合、どういうふうにフンギリをつけたらいいんでしょうか？

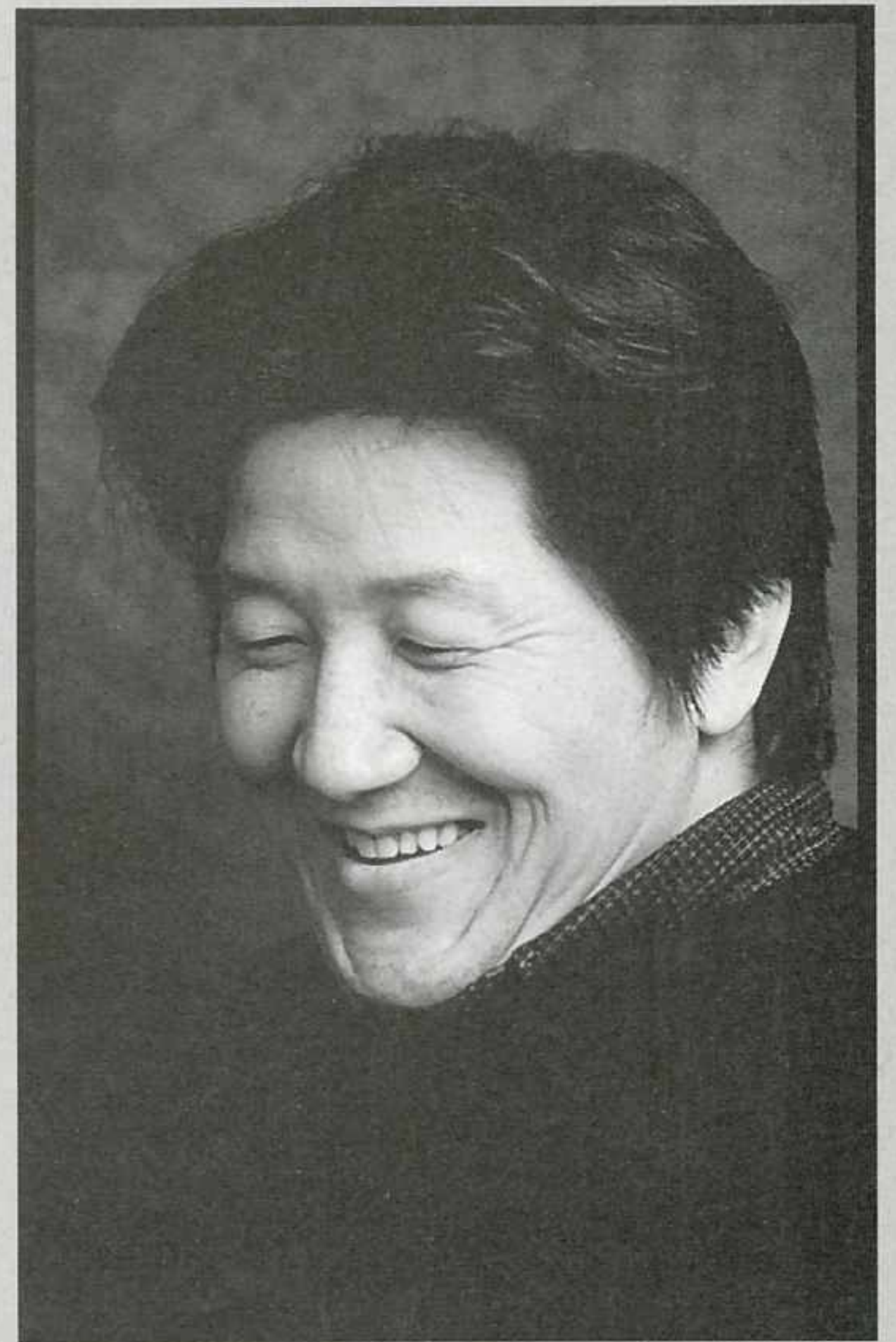
（神奈川県・トコナッツミルク・24歳・ＯＬ）

A こんなん簡単や。海外行けばええやんけ。アメリカなんか、芸術家と称するわけのわからんヤツがいっぱいおるやん。現代アートと称してドアに糸くずつけて何十万で売ってるバカとかさ。だから画家と称して好きなことやって芽を出せばいいことや。

「外国まで行くのはちょっと」って思うんだったら、最初からパッションが足りないということでしょう。「どうしてもなりたい」と思うんだったら自分でシコシコやって二科展に応募し続けたりするもんやろ。『紙のプロレス』っていう雑誌があるんやけど、そこの編集長なんて中卒やで、中卒。中卒っていったら世間的にはヘタ打つと、相当アホ扱いやで。それでも大卒揃いの出版界の荒波を乗り越えて編集長やってるんだから、美大に行かずに画家になることだってできないことはない。

それから、ホントに画家になりたいのかどうか、もう一度よ～く自問自答してみるこっちゃ。

金がかかるとか、美大に行かなきゃなれないっていうのは、最初から他人に頼ってるわけでしょ。根本からおかしい。一番大切なのは才能があるかないか。でも、そんな根性だったら得てして才能もないはずやねん。

だから、「骨を埋むは彼に墳墓の地のみならんや」やね。自分の骨を埋めるのは、墓場だけではない。人間、どこでも死ねるんもんや。人間（じんかん）至るところに青山あり。理想と空想は違う。理想っていうのは、いつも現実の延長線上にあって、理想と現実をクロスさせながら、少しずつそのクロスラインを理想に近づけ現実と同一にさせられること。それが本当の理想という。空想っていうのは「美大に行けなかったら画家になれない」「お金がなければなれない」とかいうふうに、金とかまわりのせいにして、自分の努力もせず、頭も使えずにわめいている奴に多い。そういうのをノータリン、または空想家という。ホントになりたかったら、金がなくてもなんとかなる。不可能だと思ってもなんとかするものでしょ。

成せばなる、成さねばならぬ。キミに面白い言葉を教えてあげよう。

「才能とは自分自身と自分の力を信じることである」（ゴーリキー）

MAEDA

Q 前田さん、初めまして。私は8月3日に生まれた紅音（あかね）と言います。〝あっちゃん〟って呼んでください。

私のママが前田さんに〝名付け親になって〟と頼んでいたそうですが、いろいろあって、ママたちが結局名前を付けてくれました。次に生まれてくる子が男の子だったら、絶対に名付け親になってもらうんだとパパが言ってますので、その時はよろしくお願いします。

ところで前田さん、「常識」ってなんですか？

ママが高校生の時に「同人誌作りましょう」と誘われたので、原稿を書いて送ったのに、1年くらいしても何の連絡もなかったので、「もうネタも古くなったし、1年も出ないんじゃやる気なくしたので原稿返してください。切手同封しますんで」と、手紙を出したそうです。それでも返事はなく、そんなことはすっかり忘れていた去年の夏、「完成しました」と一冊の本（まぁコピー本なんですけど）が送られてきました。ママは「『返せ』って言われたモノ使って本を出せる勇気にはマイッタよ」とあきれながらも、本のあとがきを読んでいると「原稿返却の危機もあったけど、それを乗り越えて云々」というコメントを見つけました。

「てめェ、返せって言われてんのをわかってて、一度も連絡よこさねェ上に勝手に原稿使っといて『危機を乗り越えた』だと？　フザケんな!!　誰が使っていいって言ったんだよ。切手同封した意味もわかんねぇのか？　てめェには常識ねェんか？あん？」ってカンジでママはキレて、手紙を出しました。

すると、原稿と一緒に「私は原稿を載せることで本が遅くなったお詫びになると思ったから使ったんです。私にだって常識はあります！　謝ってください!!」という逆ギレ的な手紙が返ってきました。

「常識ある人間だったら、返せって言われた時に返すなり、『どーしても使いたいのでもう少し待ってください』ってカンジの手紙くらい送ってくるのが本当だろうが、コラー！」と、ママは怒り爆発でしたが、その手紙をよーく見て、怒りが沈んでしまいました。だって〝前略〟で始めてんのに〝敬具〟で終わってたから。

そんなワケで、ママはその人に謝らなくてはならないのでしょうか？　っていうか、「常識」って何なのでしょうか？　生後1ヶ月の私にはわかりません。前田さん、どうかわかりやすく教えてください。お願いします。

P. S.「あのなー、人に『名付け親になってください』って頼んでおきながら『やっぱり自分らで付けたんでいいです～。また今度ねー、エヘヘ』なんてヌカす方が常識ないっちゅーねん。変な質問すんなボケ!!」的なお答えでしたら、まったくもって正論なので、ママは切腹します。でしょ？

※

あらためまして、前田さん、こんにちわ。NO10で生まれてくる子供の名付け親になってほしい

前田日明の
ノンプレゼンテーション人生相談
人生は語らず

とお願いした22歳のピチピチ（?）ママです。「まずは顔を見ないことにはインスピレーションが湧かないやんけ。だから、生まれたらすぐに写真を送りなさい。顔のアップの写真と、おチンチンかおマ●ンコも入った全身のアップの写真を送ってくるように。あくまでも子供のやで。勘違いして自分の使い古した部分のアップの写真を送ってこないように。それからの話やね。以上!」と前田さんには言われました。

言い訳ですけど、紅音が生まれたら本当にスグに写真を送ろうと考えていたのですが、（中略）本当にすいません。あと、男の子だったら、どーにかしてでも名前付けてもらおうかとしたかもしれません。でも女の子だったので……「ま、いっか」ってカンジなんです。紅音って文字も気に入ってたので。

そんなわけで、ご迷惑おかけしてすみませんでした。お詫びじゃないけど、紅音の写真を同封します（オールヌードはまだ現像してないんです）。

それから、私の〈ピー〉は使い古しじゃなーいっっ!! ダンナしか入れてないし（笑）。でも子供出てきちゃいましたけど（エヘ）。

（藤嶋誠良は胆石で入院中…痛ェ!・22歳ピチピチよ・職業／人妻）

〝前略〟で始まって〝敬具〟で終わったらあかんの? へェ、知らんかった。でも、そういうことを知ってることだけが常識じゃない。常識とは何か!? それは、人に迷惑かけないということ。それだけですよ。で、頭の弱い1人よがりなヒステリーに限ってね、こういう同人誌の編集者みたいなことを言うもんなんや。近頃、こういう輩が多い。

それから、いけしゃあしゃあと子供の語り口を借りて相談してくるということも非常識。正々堂々と自分の言葉で相談してきなさい。頭の堅い明治生まれのオッサンだったら怒るで。それに俺の答えを想像して書いたりしてるけど、それやったら俺いらへんやん。

俺は非常に忙しい。俺をムダに使うな。相談も長すぎる。いっぺんにいくつも聞くな。うまく聞くということは、自ずと答えへの近道だと何度も言っとるやろ。

最後に。たとえダンナしか入れてなくても、何度も何度も出し入れされてる場合、そういうマ●コも立派に〝使い古し〟と言います。これは常識や。

俺に甘えちゃいけないぜ、腐れマ●コのベイビー!

私は高校を今年卒業して、すすき野のキャバクラで短期間バイトしてました。それが親にバレると、とても怒られました。怒られるだけならいいのですが、「売女（ばいた）」呼ばわりされたのはいまでも許せません。キャバクラは親が考えてるほどミダラなとこじゃないし、変なことをした覚えもありません。なのに……。あれはあれでいい社会勉強になったと思うんです、ワタシは。だから、どうしても親のその言葉だけは許せません。日明兄さん、聞く耳を持たない親にはなんて言って説明したらいいんですか?

（札幌市・若よりは貴・大学生・19歳・女）

これは親がかわいそうやね。子供が理想の親を頭で描きながら現実の親を批判するように、親も子供に対して理想を描く。

AKIRA

で、キャバクラというのは、いろんな可能性がある場所で、実際にはワニが口開けて待ってるようなところや。そういう場所で自分のロマンの一端である娘がバイトしていたというのは親としてはショックやで。

たまたまキミが働いていたキャバクラや、着いたお客にそういう危険がなかっただけの話でね。

人生経験になったっていうのは事実だろうから、今回だけにして、今後はもうやめることやね。19歳という年齢じゃ、バイアグラじじいとか、ナンパ小僧とか、女衒野郎とかから自分を守る手段も知恵も度胸も作戦もないはずや。社会勉強になったっていう部分は、「男にはこういう面もある」ってことを知ったということでしょ。だけど、それを知った時には得てして手遅れっていう時が多いからね。それを親は心配してるわけ。水商売は考えてるより厳しい世界で、ある程度、男とか大人ってものをわかってないとできない。

それとね、人の世の常で「あの子はキャバクラでアルバイトやったことあるんだよ」と言われるのと、「そういうことは絶対にありえない子よ」って言われるのとじゃ、全然聞こえが違う。ということは、人の印象の部分において評価が違ってくる。例えばナンパの場面で、1人がキャバクラでバイトしてる子で、もう1人が普通のOLだったら、みんなキャバクラの方にいくで。簡単にヤレしてくれそうというイメージがあるから軽く見られるわけや。

親の心子知らず。19歳の女の子だったら何を言われてもしょうがない。

自分の娘だったら張り倒してるで、このアホンダラ!

この頃、現実とか真実とかいうものにのっかって、いろんな情報が飛びかっている。ただ残念なのは、その聞こえてくるものの中には、プレゼンテーション、つまりCMがのっかっていることが多い。例えば、日本にいる『格闘技ファン』と称する人たち。自分の身近にあるものに対しては、事実のことであってもフィクションだと断言するが、海の向こうから来るものに対しては、コロッと騙されてしまう。どうやら日本人は、この世界でもブランド好きのようだ。

それがここのところ、ファンだけでなく、『現場』にいる人間たちも、ついついそれにのっかって大騒ぎしている。

俺はハッキリ言う。

「おまえたち、何年その世界で生きてるの?」

そういうものは、鎌倉時代の戦場で、「やーやー、我こそは――」に始まる、鎧武者の、自分がいかに素晴らしい武士（もののふ）かという、戦場における仁義として聞いているうちはまだいい。だけど、いろんなものを混同しすぎて、それを真に受けて大騒ぎしているようじゃ笑止千万だ。日本国内にある横の繋がり、または見る人との繋がりにおいて、お互いを侮辱しあったり、傷つけあったりしているのは、みっともない極みだ。いい加減にしろ、この鼻タレ小僧!!

地球から振り落とされたくないキミ
相談受け付けてやってもええで!

自分が小さく思えるときは、現代の武士(もののふ)、日明兄さんに相談しよう。言葉の鎧でキミを守ってくれるはずだ。自分のモノが小さく思えるときでもええで。

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3—11—3—702
(株)ダブルクロス　RADICAL編集部
『日明兄さんの太陽も君も僕もマッハ君』係まで

この表紙が目印やんけ!!

紙のプロレス

紙の 前田日明

インタビューという名の鉄拳史!

ナマの日明、読ませたろか!!

見てみ、これが読者からの称賛の雨あられっちゅうこっちゃ!!

★もっともっと日明兄さんを怒らして笑かしてくれ!!【佐藤智史・男・33歳・坊さんじゃ!】

★おもしろかった。【森博信・男・23歳・会社員】

★ヨイショが少なく、本音に近いところで書いてあるので読んでいて面白い。【佐藤孝市・男・34歳・会社員】

★これ、いつ出したんですか? まったく知りませんでした。5冊買っちゃいました!!【落合興二郎・男・25歳・会社員】

★素顔の前田日明さんを見たようでますます好きになりました。【永見明子・女・24歳・施設指導員】

★言葉の熱い対談ばっかりで本当におもしろかった。引退なんかせんとヒクソンとやって欲しい。【藤後茂夫・男・34歳・会社員】

★「ノーギミック」。すっぴんが伝わってきます。大事に読み返させてもらいます。【小関秀昌・男・37歳・楽器店経営】

★内容が濃い、真に迫ったインタビューが大好きです。【岡野紀子・女・29歳・OL】

★買いそびれた『紙プロ』の記事も載っていて満足。つまらない小細工がない編集もすごく気に入った。【中村輝久・男・28歳・会社員】

★インタビューがとにかくうまい。これからも敵を作る雑誌を作ってくれ。【野村栄二・男・26歳・会社員】

★とても面白く、日明兄さんの歴史がわかり、言葉だけでなく行動しなければダメだと思った。【渡部篤・男・25歳・会社員】

★こういう本が売れる日本というのは、まだまだ捨てたもんじゃない。俺はプロレスファンで本当に良かった。だから、とりあえず刷れや! 100万部! 刷ればわかるさ。【横田賢・男・30歳・牧場勤務】

★ここ1ヶ月間、何回も読み返しました。南十字星の下、前田日明さんという格闘家に出会えて本当に良かったと思いました。【真下純子・28歳・女・子育て係】

★家宝にしたいと思った。【蓑打聡・男・25歳・会社員】

★プロレスラーは一番強くなければならない。だから土俵違いの相手でも闘わなければならない。結局、そこに行き着いてしまうのだと思った。【畑中文治・男・23歳・学生】

★何ページか忘れましたが、「不良の神様の話」が凄く印象に残ってます。それと、マスコミに対しての怒りの記者会見も。今後も前田さんは、こういうピュアな所を大事にしてがんばってください。【小林昌樹・男・24歳・会社員】

★やっと本書が手に入りました(9月中旬)。前田先生引退後の探していた本です。また何か出してほしいと思います。ありがとうございました。【中井信・男・36歳・公務員】

★こんなに読みごたえのあるプロレス本は初めてである。97・10・14共同記者会見は何度読んでもおもしろい! 歴史に残る会見だ!!【田中正・男・31歳・公務員】

★『紙プロ』と前田日明さんとの親密性の変化が読み取れるようで微笑ましい。【賀曽利卓・男・22歳・学生】

★お疲れさまでした。旧ユニバーサルからリングスまで大変な苦労をされたと思うのですが、それを感じさせない下ネタの炸裂、感情の爆発。楽しませてもらいました。これからは自分を見て生きていきます。が、たまには見せてね。あと、サインください。【青木正樹・男・27歳・会社員(心は格闘術使い)】

★再録ものとはいえ、追加している部分が多かったので面白かったです。【木村拓・男・29歳・広告業】

★この本、電車の中で読んでたんですけど、読んでる間ズッとニヤケ顔が止まらなくて、変な女子大生でしたよ(だって面白かったんだもんね)。ウワサになったらどーしよー。え〜ん。【今井麻実・女・22歳・女子大生】

★日明兄さんの発言は一貫しているのがよくわかります。それをまわりがおもしろがったり煙たがったり……。でも佐山聡さんとは何とか和解してほしいですネ。【高橋ゆうじ・男・30歳・クラシック・バレエダンサー】

★前田さんの思想の特徴をよく引き出していたと思う。各インタビューにテーマがあるので、自分の考えと前田さんの考えを照らし合わせてみることもでき、面白く読めました。【神木修・男・21歳・フリーター】

★前田さんのカリスマ性とボケ満載のトーク。とくに何にでも熱中するところ。それでいてエラぶらず、大口を叩かず、それでもキレるとコワイ? やっぱ前田日明が最高!【リングス普及委員会会長・男・30歳・会社員】

★TVで〝のっぽさん〟といっしょに日明兄さんが遊ぶというのはどうでしょう。新しい〝ゴン太くん〟は。視聴率に大きく影響すると思います。【渡辺仁史・男・25歳・公務員】

★あー、これで『紙プロ』のバックナンバーを処分できる。早くいま連載している人生相談の単行本も出してくれ。【池田順・男・28歳・会社員】

★前田という人間に対しての謎が解けたような気がした。大仁田や新日本のことなどは無視すればと思っていたが、本書の氏の人間性を考えると、なるほどと思えた。良い悪いは別として、本音で語られているストレートな前田さんを尊敬しています。【高野研二・男・23歳・会社員】

★大変読みやすく、大変読みごたえもありました。日明兄さんの写真もかっこいいものが多く、買ってよかったデス。RINGS引退試合感激しました。【山口耕司・男・29歳・公務員】

★1日で読むにはパワーがありすぎて、しんどかった。たいていこういう本は読み終わったら捨てるんやけど、これは、とっとこうと思う。【権田和博・男・28歳・会社員】

★私は高校の頃までは、日明兄さんって、読書好きな物静かな青年だと思ってました。でもけっこう荒っぽい人だったんですね。だけど、やっぱり日明兄さんのこと、かっこよくて一直線な感じで好きです。【金森郁美・女・26歳・高校講師】

★読めば読むほどに「日明ワールド」に引き込まれました。【村上健二・男・20歳・学生】

★あのね、こういう感じの本をね、もっとバンバン出していかんとね、マット界本業界全部が地盤沈下でどうすんねん! なあ? どうすんの!【名無しのゴンタ兵衛・男・?歳・職業喧嘩屋?】

★最近のインタビューは『紙プロ』で1回読んだが、まとめて読み返すと読みごたえがあってよい。【鈴木弥・男・26歳・会社員】

★前田さんの「対プロレス」以外の面もおもしろかった。「対プロレス」の話は真剣に読んでしまった。【相原健志・男・27歳・会社員】

★面白かった。前田さんの人柄がよく出てると思う(ちょっと怖い)。【浅田由樹・男・27歳・運送業】

★『紙プロ』を最近買いはじめたので、昔のインタビューが読めて最高! 他の雑誌とは違う、味な質問が笑わせてくれた。【高橋寿・男・21歳・無職】

★読みごたえあったね〜。日明兄さんの歴史がいっぱい詰まった1冊だったよ! お宝本だよ! 兄さん、お疲れさんでした!【松本健・男・29歳・製造業】

★『紙プロ』のバックナンバーも買ったけど、「こういう本を待ってました!!」という感じです。【金子美成・女・28歳・会社員】

★すごく面白かった。1日で読んでしまった。本書には関係ないんだけど、プロレスって、もうあともって10〜15年じゃないの? そうならないように、選手、マスコミ、ファンが努力するべきだと思う。【風車の理論・男・20歳・学生】

★いままで『紙のプロレス』はまったく読んだことなかったが、このインタビュー&対集は、他の前田の本とはひと味違って面白かったと思う。PART2をゼヒ!【佐々木安博・男・42歳・理学療法専従者】

★前田日明の奥深さを知り感激しました。自分自身、知的レベルを上げ、表現、言動を理解し、もっともっと人間・前田日明を知りたいです。燃える心を持てるようになり、張り合いが出ます。ありがとう。【三宅隆之・男・38歳・会社員】

WORLD MEGA BATTLE TOURNAMENT 1998 1ST.ROUND

11.20(FRI.)大阪府立体育館

●OPEN 17:30 | START 18:30●

◉入場料金
ロイヤルリングサイド…￥20,000／アリーナリングサイド…￥15,000
リングサイド…￥10,000／スタンドS…￥7,000
スタンドA…￥5,000／スタンドB…￥3,000
学生特別優待席A…￥2,000／学生特別優待席B…￥1,000

◉発売場所
チケットぴあ大阪 ☎06-363-9999／チケットセゾン大阪 ☎06-232-9999
ローソンチケット ☎06-369-6633(Lコード59605)
リングス大阪インフォメーション ☎06-364-9115／アイドール大阪店 ☎06-641-4685
ビデオショップ・チャンピオン大阪店 ☎06-645-5186／プロレスショップ・バディスラム☎06-645-1378

◉お問い合わせ
リングス大阪インフォメーション ☎06-364-9115 *チケット絶賛発売中!*

C.ヘイズマン D.ヒギンス T.イッテンソン
オーストラリアチーム
VS
グルジアチーム
B.タリエル G.ザザ B.アミラン

N.ズーエフ A.コピィロフ V.クレメンチェフ
ロシアBチーム
VS
ジャパンBチーム
田村潔司 髙阪 剛 成瀬昌由

山本宜久 vs 金原弘光
坂田 亘 vs 山本健一

WORLD MEGA BATTLE TOURNAMENT 1998 SEMI FINAL

12.23(WED.)福岡国際センター

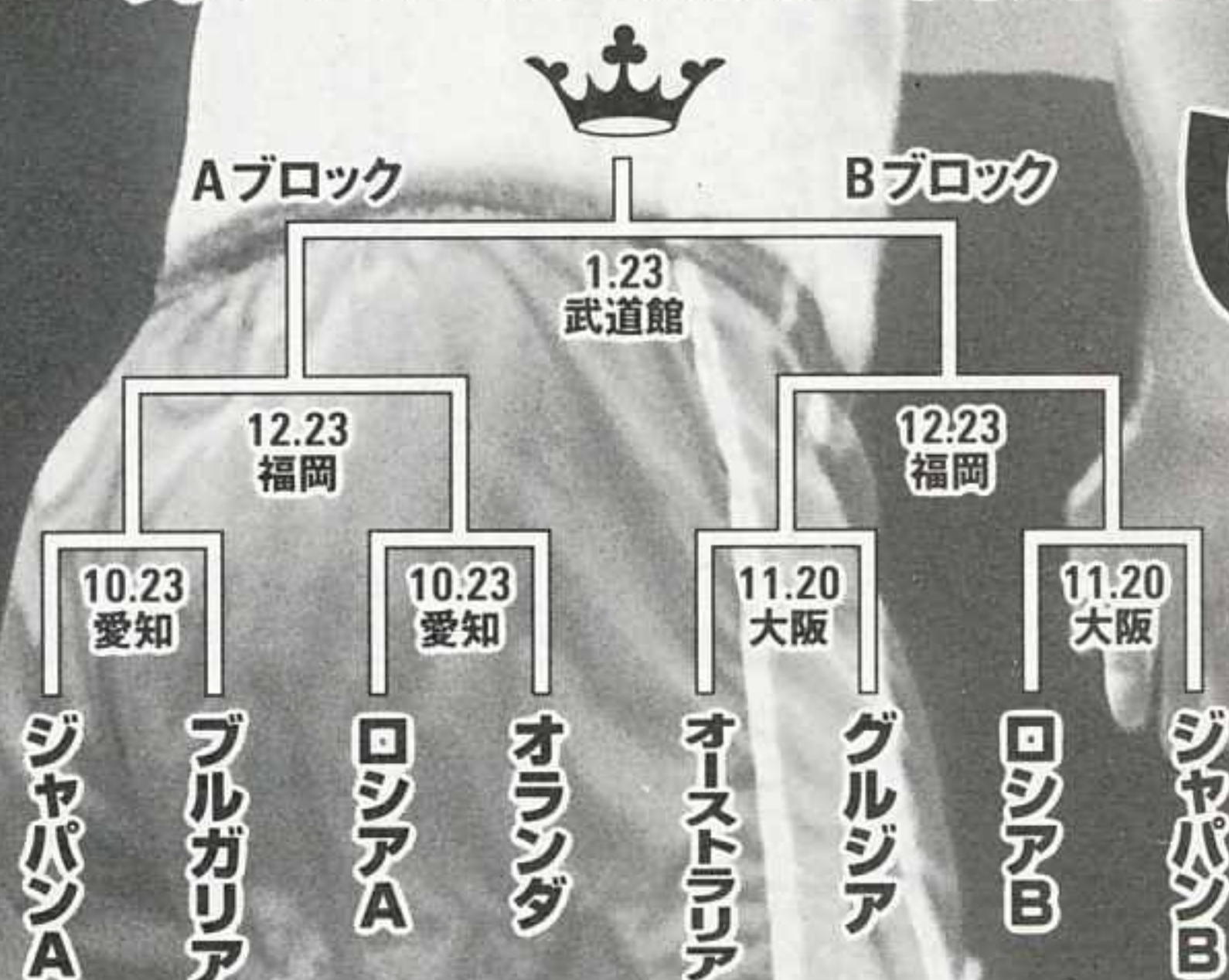
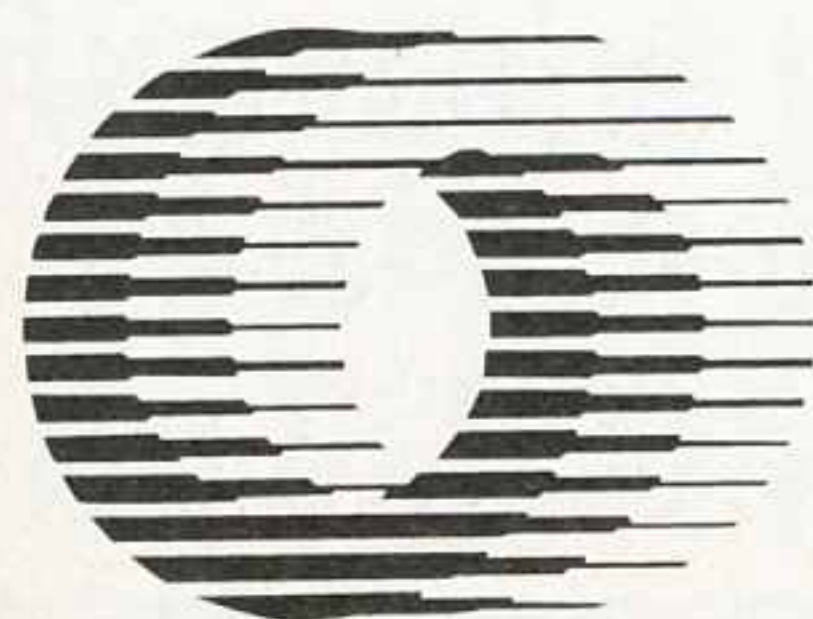
●OPEN 16:00 | START 17:00●

◉入場料金
ロイヤルリングサイド…￥20,000／アリーナリングサイド…￥15,000
リングサイド…￥10,000／アリーナSS…￥6,000／スタンドS…￥7,000
スタンドA…￥5,000／スタンドB…￥3,000
学生特別優待席A…￥2,000／学生特別優待席B…￥1,000

◉発売場所
チケットぴあ ☎092-708-9999
博多スターレーン(店頭販売のみ) ☎092-451-0011
九州・山口地区のローソンチケット

◉お問い合わせ
キョードー西日本 ☎092-714-0159 11月8日(日)チケット発売開始!

ワールド・メガバトル・トーナメント1998
～第1回国別対抗戦・FNRカップ～
いよいよ開幕!!

Aブロック
Bブロック
1.23
武道館
12.23
福岡
12.23
福岡
10.23
愛知
10.23
愛知
11.20
大阪
11.20
大阪
ジャパンA
ブルガリア
ロシアA
オランダ
オーストラリア
グルジア
ロシアB
ジャパンB

一回戦(Bブロック)
11月20日(金)大阪府立体育会館
準決勝戦
12月23日(祝)福岡国際センター
決勝戦 1999年
1月23日(土)東京・日本武道館

FIGHTING NETWORK
RINGS

主催
BS-5ch
WOWOW
FIGHTING NETWORK RINGS

What is L-1?

神取リベンジ達成!! 八木、沖野、快勝!!

しかし本誌はあえて言う!!

L-1よ!! 女グレイシーを倒せ!!

聞き手／坂井ノブ
Interview by Nobu Sakai
撮影／平工幸雄
Photographs by Yukio Hiraku

ト　ゥードの違いをつきつめればそこには何かが見えてきた。

"L-1?"に耳を貸すべき!!

女子プロレスが久々に進出した大場所興行ということで、会場周辺をいまかいまかと試合を待っていた方々に熱い思いを聞いてみた。世紀のビッグマッチだけに期待度の熱のこもり方も半端じゃない！　女子バーリ・トゥードという新しい分野だけに客層も雑多で、あまり焦点が合ってないのだが、その方が生の声に近いと言えるだろう。

独占！ 男女で60人！
試合直前アンケート

Q1 今日のお目当ての対戦カード3つを選んでください

神取vsグンダレンコの因縁の対決がブッちぎりで注目を集める今回のL-1。順調に男っぽい選手のビッグ・ネームが注目を集める中、なぜかヒールの沖野が出場したというのにノーマークなのが不思議。

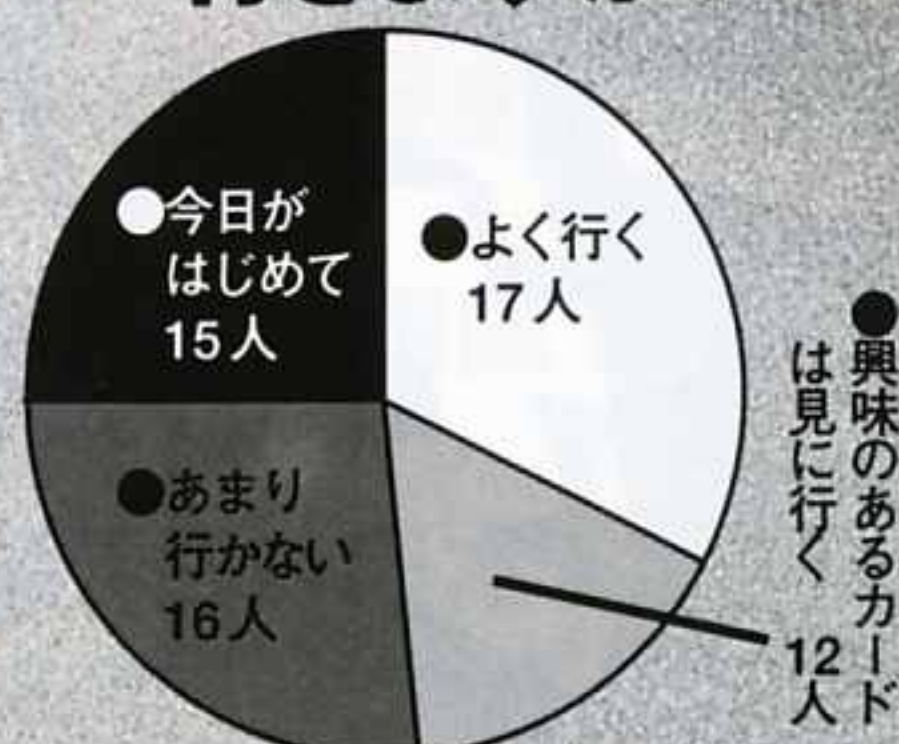
順位	対戦カード	票数
1位	神取忍vsグンダレンコ・スベトラーナ	30票
2位	ライオネス飛鳥vsイルマ・ヘルホーフ	19票
3位	堀田祐美子vsアンジェロ・アムロッソ	19票
4位	八木淳子vsフロアー・ホルマン	17票
5位	高橋洋子vs三井綾	7票
6位	沖野小百合vsリー・ウンジャ	5票
7位	ベッキー・リーバイvsテリー・レボルスキー	1票

Q2 前回のL-1は見ましたか？（雑誌&ビデオも含む）

●見てない 25人
●見た 35人

注目度&衝撃度が抜群だった前回のL-1。女がバーリ・トゥードに挑むという無謀かつ大胆な大会だったのだが、案外見てない人も多かった。3年ひと昔といった具合に時の流れの速さを感じずにはいられない。

Q3 女子プロレスの会場にはよく行きますか？

●今日がはじめて 15人
●よく行く 17人
●興味のあるカードは見に行く 12人
●あまり行かない 16人

コアなファンもいるにはいるが、やはり一見さんをも取り込んだ大きなイベントだったことがうかがえる。会場にはグレイシーのセコンド勢や、パンクラスのケンゴ、ゲーリー・グッドリッジなども来ていたとか。控室にはジャガー横田、井上貴子、前川久美子なども応援に駆けつけ、プチ・オールスターといった感じだった。

Q4 L-1に出したい選手を一人挙げてください

長与、アジャなど純プロレス系に交じって、3位に食い込んだのは浜口京子ちゃん。26歳まではアマレス一本宣言をしたが、プロレスラーとの対決は是非見たい。ついでに言えば池田美憂&山本聖子の姉妹にもL-1に上がってきてほしいところだ。

順位	選手	人数
1位	長与千種	5人
1位	アジャ・コング	5人
3位	浜口京子	4人
4位	イーグル沢井	3人
5位	天野理恵子	2人
5位	田村亮子	2人
5位	ニコル・バス	2人
5位	山田敏代	2人
5位	ダイナマイト関西	2人

Q5 この大会に期待することをド～ンと書いてください！

熱い！　会場に集まったファンは「神取のリベンジ」＝「プロレスのリベンジ」と燃えている。このビッグマッチを見守る目は、とにかく圧倒的に神取に集中していた。バーリトゥードという舞台とグンダレンコという相手と復讐戦というテーマが揃いすぎていたためであろう。裏を返せば、神取人気一本だったとも言える。

- ●女子プロレスの強さを見せつけてくれ！
- ●プロレス界のリベンジ
- ●トーナメントでやってほしい
- ●神取の逆襲が見たい
- ●神取が勝って高田、アレクにつなげてほしい
- ●神取ガンバレ！
- ●女のケンカってどんなん？
- ●毎年やってほしい
- ●徐々に浸透させて、いつの日か年一回開催させるようにがんばれ
- ●もっとオープン化してバーリ・トゥードNO.1を決めるべき
- ●団体の枠を超えるカードを作ってほしい
- ●KOシーン
- ●八木淳子の次のステップ
- ●興奮と感動
- ●プロレスが最強だということを見せて欲しい
- ●もっと多くの人に知らしめて欲しい

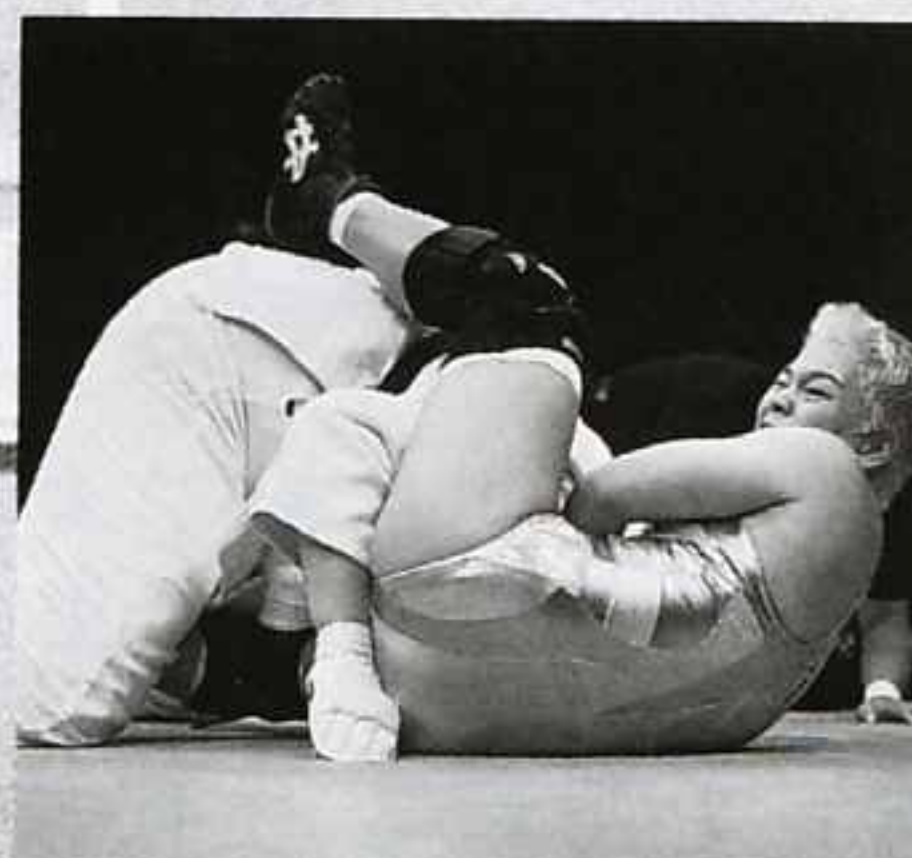
メイン以外は野次の多かったこの大会。男と女のバーリ・ト

観客にとっての“What is

独占！ 男女で60人！ 試合直後アンケート

試合終了、外に出た途端に土砂降りの雨！ ドラマチックな勝利を空までもが演出していた。外に出てくる観客の顔もかなり満足げだった。が、実際にアンケートを見ると興行全体への不満はかなり多かった。過激な技で死にかけたり、歌を歌ったり、選挙出たりと生き様が「何でもあり」な女子プロレスだけに、競技としての「何でもあり」にも期待したい。

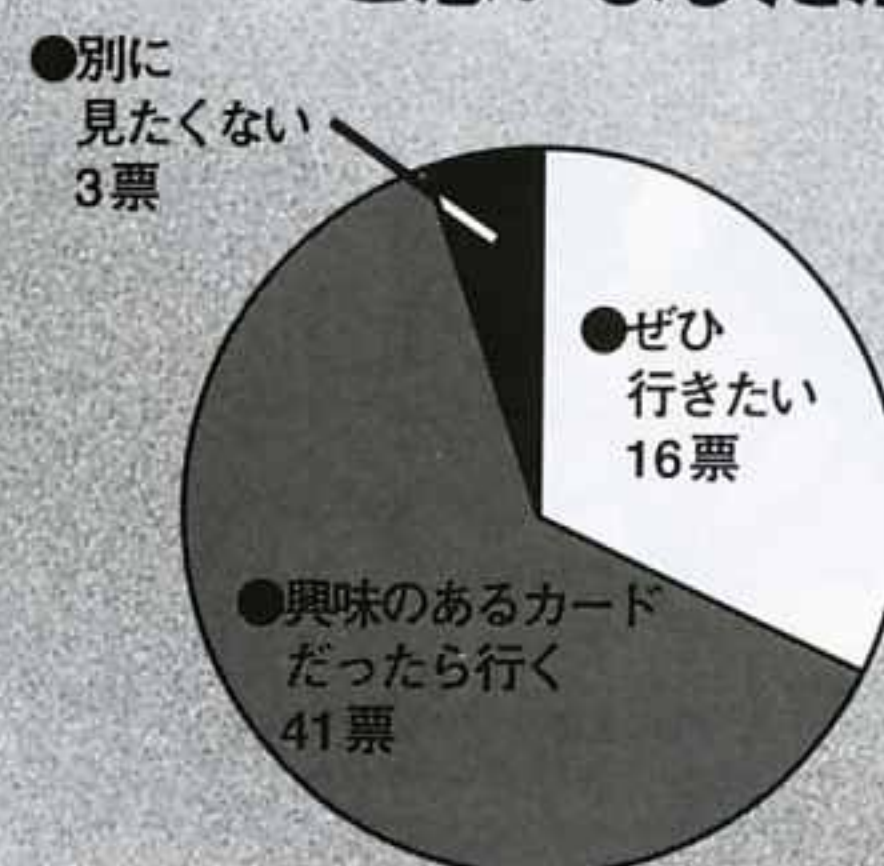
Q1 今日の試合の中からベスト・マッチを選んでください

順位	試合	票数
1位	神取忍vsグンダレンコ・スベトラーナ	58票
2位	沖野小百合vsリー・ウンジャ	37票
3位	堀田祐美子vsアンジェロ・アムロッソ	22票
4位	ライオネス飛鳥vsイルマ・ヘルホーフ	17票
5位	高橋洋子vs三井綾	14票
5位	八木淳子vsフロアー・ホルマン	14票
7位	ベッキー・リーバイvsテリー・レボルスキー	3票

Q2 今日のMVPは誰ですか？

ブッちぎりの1位は神取。見事にリベンジを達成した瞬間のカタルシスに酔ったファンの満足度は非常に高し。意外に苦戦した八木よりも、スパッと勝った沖野の方が票を集めたのも順当な結果だろう。八木も素晴らしかったんだけどね。

順位	選手	票数
1位	神取忍	30票
2位	沖野小百合	18票
3位	八木淳子	3票
3位	グンダレンコ・スベトラーナ	3票

Q3 女子のバーリ・トゥードをまた見たいと思いましたか？

●ぜひ行きたい 16票
●興味のあるカードだったら行く 41票
●別に見たくない 3票

迫力も、技術も、闘いのテーマも男子よりもスケールが落ちる感は否めない。ただ、女のバーリ・トゥードがまったく受け入れられなかったわけではない。むしろ、また目を向けさせたと言っていい上々の反応だと言えよう。

Q4 女子プロレスと女子バーリ・トゥード、どちらの方が面白いと思いますか？

女子プロレス強し！ 「あの胡散臭さがたまらない」「動きがあって華やか」諸々の理由で女子プロレスが完勝！ しかし、女子バーリ・トゥードも捨てたものではない。やりようによっては面白くなるんです！

●女子プロレス 39票
●女子バーリ・トゥード 11票
●その他 10票

Q5 この大会の感想をドド〜ンとぶちまけてください

いろいろ思うところの多い興行だっただけに、好き勝手言ってるファンの声がズバリと核心を突いている。女子の試合が久々に爆発した一方で、いろんな問題点も抱えていたのである。

●沖野が良かった
●外国勢が弱い
●最後だけが楽しかった
●動きがなさすぎ
●日本人だけでL-1をやってほしかった
●神取さん、かっこよかった
●金返せ！
●定期的にやってほしい
●もう少し小さい小屋でやってほしい
●金を払って見に来た甲斐があった。これからもこういう試合をするべきだと思う。女子は特に目標とするものが女子プロレス以外にないのでL-1がK-1のように女の子の目標になればいいと思う。
●メインで盛り上がったのでよかったですが、選手はテイクダウンを取った」後の技のつなぎ方など男の選手のように見せてもらいたいので、次回は内容という点で頑張ってもらいたい。
●是非、3回4回と続けてほしい
●休憩はいらない。パフォーマンスが足りない

今回のL-1には、前回のような凄惨なシーンは少なかった。そのせいか、そのぶんアンダーカードの試合会場内には緩んだ空気が漂っていた。休憩が長い、試合中の膠着状態が長い、レフェリーのストップが早くて不満が残る結末……観客のイライラは、野次となってオクタゴンに降り注いだ。

「つまんねーぞ！」

「レフェリー、続けさせろ！」

「浅草ロック座に行った方がマシだ！」

などなど、散々なものだった。

「女子プロレス＝〝色気〟」という見方は正しい。それを否定する気はサラサラない。

しかし、敢えて〝色気〟の要素を極力排除した女子プロレスラーたちがクラッシュ・ギャルズが出現したあたりから続々と現れた。それが、L-1やU★TOPといった女子バーリ・トゥードの最前線で活躍した神取、飛鳥、堀田たちだった。

「いざとなったら一番強い」

「女子プロ界最強の男」

「男にも勝てる！」

「神取最強幻想」がプロレスファンのみならず一般の人にまで浸透し始めた頃、神取が隠し持ったドスを抜く舞台ができあがった。それが前回のL-1だった。巨大な幻想を背負った神取だったが、195センチ、145キロの巨大な肉体のグンダレンコに押しつぶされて生涯初のギブアップ負けを喫してしまう。神取幻想のリアリティは、グンダレンコの巨体に遮られて客席からは見えなかった。

3年後の今年。神取はリベンジを達成した。今年のL-1では神取幻想のリアリティはしっかり見えた。神取の強さもグンダレンコの強さも見えた。

女子キック界のアイドル・三井綾が、女子総合格闘技界の番長・高橋洋子と対戦。まったくマウント・パンチの対策もないまま、打たれまくり当然のようにレフェリーストップ。泣いて抗議する前に課題は山積みだ。

フロントネックロックで長い間捕まっていた八木だが、力づくでひっこぬいた。この後、パンチや頭突きで相手を圧倒。分厚い背筋で徹底的に相手を押さえ込んだ。表情豊かな身体である。

!! 女グレイシーを倒せ!!

神取vsグンダレンコは、強いもの同士が金網の中で強さをぶつけ合うという非常に男子的な開放感が充満した空間だった。どっちが強いか、という単純だがもっとも根源的なテーマが神取vsグンダレンコにははっきり見えた。

プロレスでもバーリ・トゥードでも、〝テーマなき闘い〟ほどつまらないものはない。大昔から言われていることだが、それはプロレスでもバーリ・トゥードでも同じことなのである。

堀田や飛鳥といった旧世代選手たちの試合が不発に終わった中、まったく新しいところから希望も見えてきた。それが八木淳子と沖野小百合である。今回のL-1の中で〝色気〟の要素を残した2人が非常に光っていた。

八木は気前の良さそうなお姉さん的な風貌と、いるだけの銭の取れるガタイと、強引ながらも相手を叩きのめす強さを一見非常にかったるい試合の中でごちゃ混ぜにして披露した。〝色気〟と強さを同時に感じさせるという、いままでの女子プロレスにはなかった非常に希有な存在である。試合的には地味だったが、底知れぬ強さを感じさせた。

沖野も普段は竹刀やチェーンを振り回すヒールファイトを展開しているが、この日に限っては技術と気迫で見事に結果を出してみせた。試合後のコメントであっけらかんと「頭突きで顔を潰してやろうと思ってました（笑）」と言ってのける、そのナチュラルなヒール根性もステキ。

しかし、〝色気〟がオクタゴンの中で見えたという一方で、どう考えてもこの日のL-1のテーマは見えてこなかった。たしかに、この日は「日本女子プロレス代表vs世界女子格闘技代表」がメイン・テーマだったが、そもそも女子格闘技といった言い方そのものが漠然とし過ぎて曖昧だ。

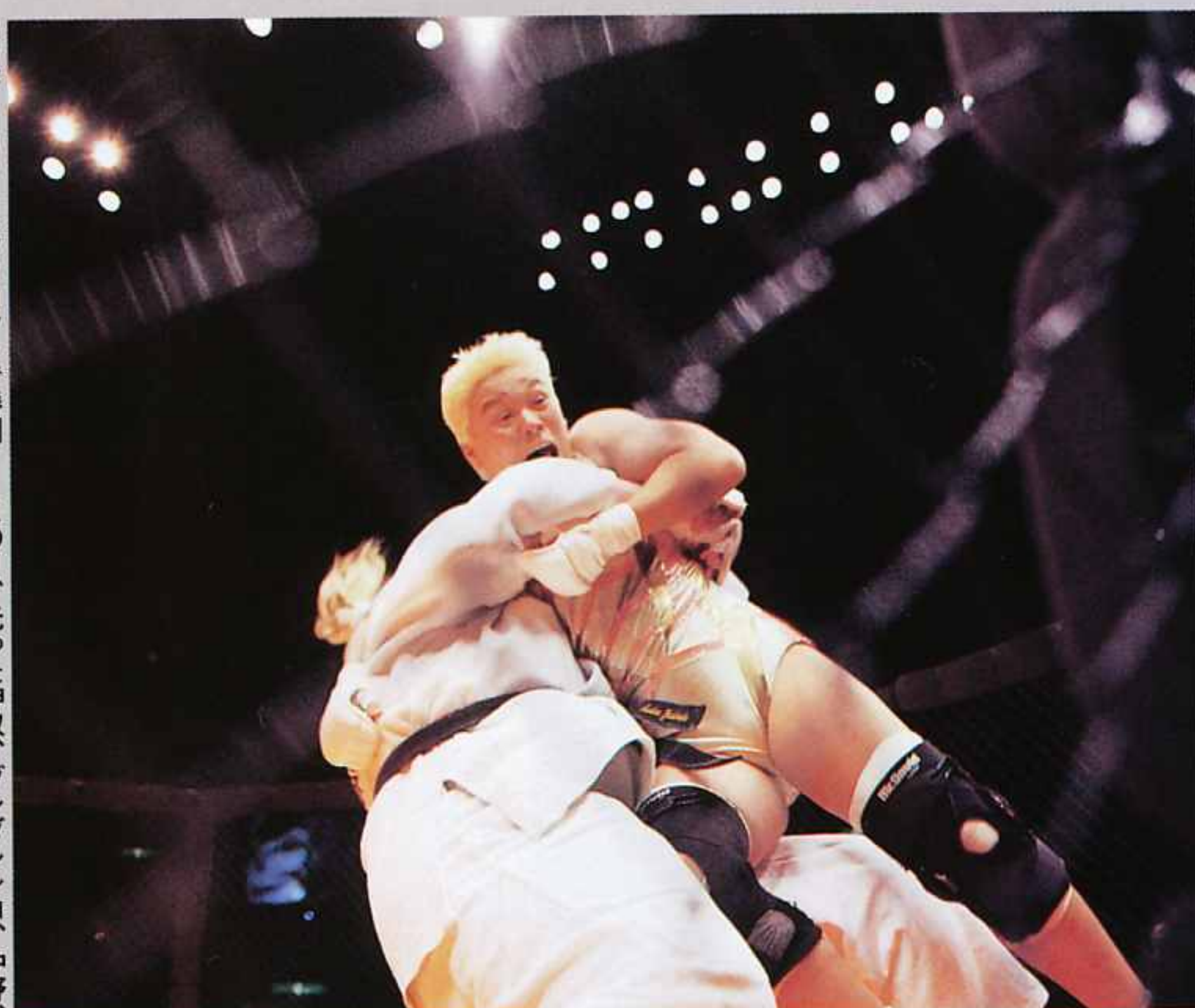
何度も腕関節を取りにいったが、相手も極めさせず。相手の膝蹴りで顔を腫らせながら、だんだん攻撃を強めていく八木。最後には業を煮やしてギロチンチョークで勝利。とにかく地味だったが、八木の強さが光った。

おっとりした八木とは対照的に速攻で相手を攻め落とした沖野。ものすごい勢いでマウント・パンチと頭突きを食らわせてTKO勝ち。ケロッとした表情で「顔を潰してやろうと思ってました」と語る姿は戦慄。

What is L-1?

実際に確立された女子格闘技といえば柔道とアマレスぐらいのもので〝女子プロレス〟といった圧倒的に確立したジャンルの対立概念とは成り得ないのである。「これぞ世界の強豪！」と呼べるのは、ベッキー・リーバイとグンダレンコぐらいのもので、他の選手は、宮戸優光じゃないが、どこの馬の骨ともわからない選手でしかなかった。テーマは悪くなかったが、役者が違うといった感じだ。

そういった背景を考えると今回、衝撃を与えた八木や沖野たちがL-1という場でこれからも面白い闘いを継続していくのは、難しいと言わざるを得ない。実際問題、観客のアンケートを見てもバーリ・トゥードと女子プロレスを比べたら、断然おもしろくないという評価を下されてしまったから困ったものである。みどころはあるだけに、このまま終わらせるのはあまりに惜しい。L-1を単なる異種格闘技戦にしてしまうのは惜しい。また単なるキャット・ファイトにもしてはいけない。〝色気〟漂う総合格闘技が理想である。それにはプロレスだけの閉ざされた場にする必要はない。L-1が浜口京子、池田美憂、山本聖子など強さと〝色気〟を兼ねたスターも闘う場となれば、夢のようだ。

速攻でマウントを取って圧倒した堀田。マウントを取って、余裕のアピール。それだけ力の差もあったのだが、堀田の強さよりも、相手の弱さしか印象に残らなかった。女子格闘技は確立するのか？

神取、フロントネックロックで勝利！　この日、光った神取、グンダレンコ、沖野、八木はいずれも柔道経験者。L-1というよりJ-1といった趣だった。もっと女子プロレスラーに開かれた大会にすべきだろう。

L-1よ!! 女

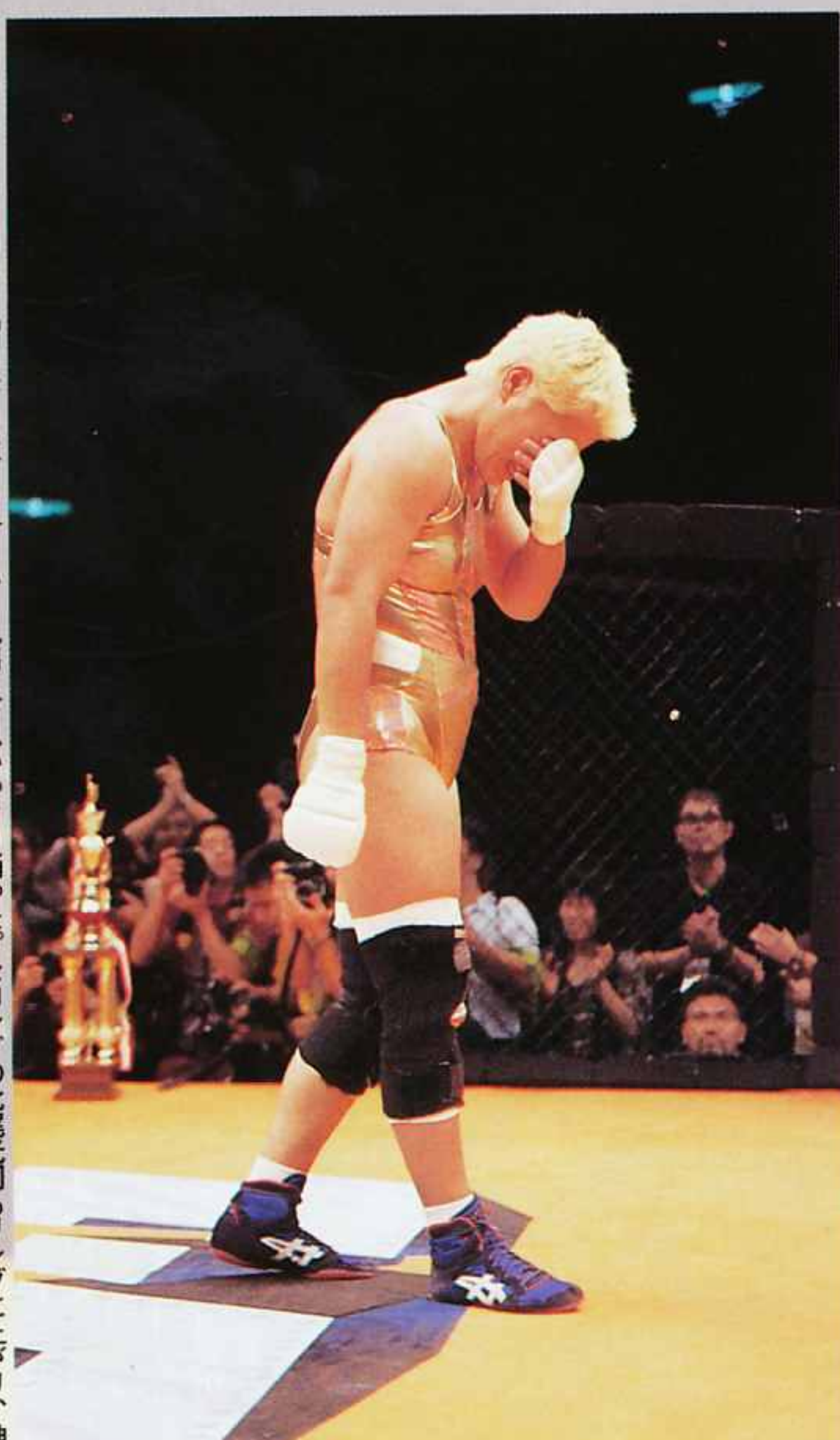
だから敢えて言わせてもらおう、「女グレイシーを倒せ！」と!!

世界女子格闘家代表という、あってないような概念がうまいこと転がらなかった今回の反省を踏まえて、骨のあるまだ見ぬ強豪を連れてくればいい。

と、書いてみて頭にパッと思い浮かんだのは「グレイシー」の5文字だった。そもそも、今回の世界格闘技代表の中にブラジリアンがいないのはおかしい。グレイシー柔術自体が護身術であり、当然そこには女の生徒もいる。女まだ見ぬ強豪もいるはずだ。グレイシーと名の付く柔術家に勝ってしまえば、男子の世界でもいまだに成し遂げられないグレイシー越えを達成出来るのである。

「高田の仇を女子プロレスラーが撃つ！」。こんな痛快なテーマだったら、ドームも埋まる！　たとえ埋まらなくても、ドーム級に大きなテーマに成りうるはずだ。男だろうが女だろうがグレイシーはグレイシー。勝てば官軍、負ければA級戦犯である。

グレイシー一族の出現で、日本で総合格闘技の世界に火が付いたように、女グレイシー一族の登場こそが、停滞しきった女子格闘技に火を付けることは間違いない。

手っ取り早く元プロ・サーファーのキム夫人ことキム・グレイシーでも倒しますかーッ！

翌朝のスポーツ新聞には「神取、男泣き！」という見出しが思いっきり踊った。セコンドの北尾光司もリングに上がり、神取をかつぎ上げて大喜び。打倒グンダレンコの次は、打倒女グレイシーだ！

「♪教えてドキドキ　お願いドキドキ　つらくても負けないわ　お願い教えて〜」(byサウスポー) 女の子にも親切にマット界のことを教えてあげるコーナー！

nちょう(マット界)の出来事！

10・10午後10時。1本の電話が…。「あの〜高田VSヒクソンってどっちが勝ちました?」「ちっと、ちと（元祖）チョロです。1ラウンド腕ひしぎでヒッ、ヒクソンが勝ちましたね」何の迷いもなく去年の結果を教えてしまった。「はぁ、そうですかぁ。ありがとうございますぅ」ガチャ！ 落ち込んでいるようだ。さすがの僕でも、試合前から結果はわからないよ。リー・ウンジャが負けたことなら知ってたんだけどね。コッ！

1998 9.14〜10.12

SEPTEMBER

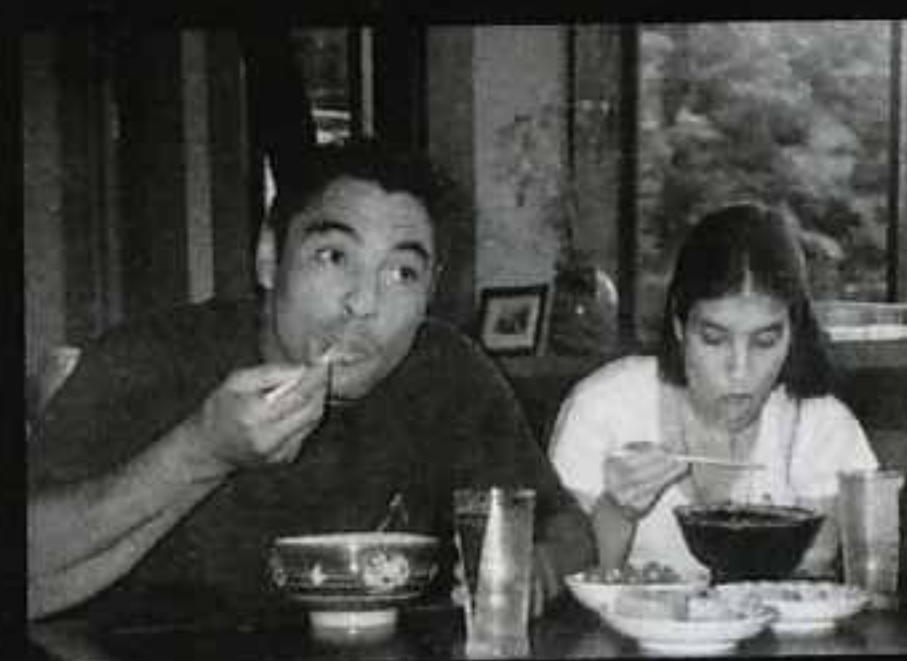
9・14
【パンクラス】／日本武道館■渡部健吾はバス・ルッテンに玉砕するも、その新人離れしたファイトと日本人離れしたボディーとタトゥーには尾崎社長も大満足で、「今日の渡部は五重丸ですね」とすっかり御満悦の様子だった。五重丸って凄いよなぁ五重丸！。

9・13『PRIDE.4』会見。六本木ベルファーレでの会見に参加したアレク。スキンヘッドだけではなく、体も光輝いていたアレク。10・11は何かが起こる。桜庭驚く！

9・22
【KRS】／長野の山中で毎年恒例、ヒクソンの山篭り特訓が行われた。本誌からはヒクソンと同じく山篭りマニアのカタブツ君が電撃参戦。台風で荒れ狂う川に飛び込んだヒクソンを追い、カタブツ君も命懸けの入水。川の流れにも、動じないヒクソンに対し、流れに逆らえず、下流まで流されたカタブツ君が通りすがりに撮った入魂の一枚。

9・22
【RINGS】／東京スポーツ（9／24付）■前田日明RINGS・CEO［チーフエグゼクティブ・オフィサー］がこのまま正式引退となることが濃厚となってきた。最近はリングス外引退マッチを問われると「引退マッチ？　オレは7月に引退したヤロ」と答えるなど、すでに現役生活からフェードアウトする姿勢も見せている。前田の体を管理する野呂田秀夫メディカルアドバイザーも「前田君は、対戦相手がハッキリ決まらないと練習しないタイプ。7月の山本戦以来、水泳とか体調維持程度の練習しかしていないところをみるとまだ、相手は決まらないようだね。あまり、この状態が続くようだと肉体が現役選手ではなくなってしまう。本当に引退試合をやる気なら至急、対戦相手を決めるべき」と提言する。このまま引退試合はなくなってしまうのか。ヒクソン戦は見たいぞ！　カレリンはどうした？

9・15【全女】後楽園ホール。チャンマメルト（松永高司）VSミスター郭（松永健司）の柔拳マッチが行われた。ファイティングポーズで一枚。

9・22【ヒクソン】長野の川／ヒクソンが川で泳ぎ始めるとマスコミ陣は一斉にカメラを向けた。頑張れ、頑張れ、ひくそん。

9・22【ヒクソン】長野のソバ屋／再びヒクソンを発見したカタブツ君（35歳）。そこには、ただひたすらソバを食う、ひくそんがいた。

9・23
【みちのくプロレス】／酒田市営体育館■サスケ&タイガーvsサスケ・ザ・グレート&マスクド・タイガー組との敗者覆面剥ぎマッチが行われ、本物タイガーが偽タイガーを猛虎原爆固めで破りマスクを剥ぐ権利を得た。そこでサスケが不可解な行動にでた。「いい試合をやったんだからマスクを取らなくてもいいじゃないか」とマスク剥ぎを阻止。ファンからは当然のようにサスケに大ブーイング。そこへデルフィンが選手を引き連れてリングに上がりサスケと口論。デルフィンが偽タイガーのマスクを剥ぎ、その正体はなんと小野武志（バトラーツ&トンパチマシンガンズ）と判明したが、サスケはその後もみちプロ勢と乱闘を繰り広げ「みんな変わってしまったよ。わがままになった。選手も、ファンもみんなバカだ！」と吐き捨て、一人会場をあとにした。サスケはこのままヒールへの道を進むのか!?

9・24
【国際レスリング連盟（FILA）】／世界レスリング界を股にかけて争われる『ワールドリーグ戦』の1回戦、日本vsロシア（10・9駒沢体育館）のゲストとしてエキシビジョンマッチへの参加が予定されていた〝人類最強の男〟アレ

9・23【大日本】後楽園ホール／Jr王者・臼田勝美に挑んだ本間朋晃。場外へ臼田が落ちるや否やスピード感溢れるトペコンを決めた本間。その瞬間、一斉にフラッシュが焚かれた。んっ？

キサンダー・カレリン（ロシア）がロシアの政局不安、更には経済破たんのあおりを受けて来日中止となった。ロシアチームは銀行閉鎖によって遠征資金を調達できない理由から、1回戦の棄権を主催の国際レスリング連盟に通達してきたもの。10・9駒沢大会は中止となり、同時に日本チームの不戦勝が決定した。戦わずして、強敵ロシアチームに勝って2回戦進出を決めた日本チームは万々歳だが、カレリン招聘をレスリング人気の起爆剤に考えていた日本レスリング協会は、思わぬ中止にガッカリ。ついでにエキシビジョンでの対戦表明をしていた永田裕志もガッカリ。ラストマッチとしてカレリンの名を挙げていた前田もガッカリ!?

9・26【ZIPANG】リング上で他団体にどんどん出ていくというマイクアピールをしたアジアン・クーガー。まずは打倒海援隊！

9・30

【シュートボクシング】／後楽園飯店■SB11・14の日本武道館大会でおかまムエタイ戦士、パリンヤー・ギアップサバーと対戦する相手がネオ・レディースの井上京子と決まった。異例の公募制で進められたパリンヤーの対戦相手選びは「一番、積極的だった」（シーザー武志SB会長）という井上京子に決定。あまりピンと来ないかもしれないが、おかまVS女子レスラーという異性格闘技戦が実現するのだ。あの"女怪物"ニコル・バスとも対戦済みの京子は性別はあまり気にしていないだろうが「私はプロレス人生で一度だけ、異種格闘技戦をやると心に決めていた。その相手がおかまというのはなんですが、とにかく、プロレスラーとして必ず勝ちます」と言うと、パリンヤーは、この時ばかりは男らしく「井上？　別に何とも思わないわ。いつも筋肉モリモリの男と試合して勝ってるんですもの。このアタシが女に負けるワケないでしょ。失礼しちゃうわ。プンプン！」と京子はパリンヤーに振り回されっぱなしだった。果たして京子はジャイアントスイングでパリンヤーを振り回すことはできるのか？　プロレスファン、格闘技ファン、おかまちゃん必見の好カードだ。

10・4【バトラーツ】ボブの来日記者会見のハズだったが、機内で急病人が出たため、来日できず。代わりに盛り上げてくれたのがサウスポー。しかしマスコミがいない。それでも踊るサウスポー。100点！

9・30

【LLPW】／レディースゴング■本誌前号にも登場したLLPW超大型新人、八木淳子のオフタイムに迫る！「オフの時は、飲みに行ってるか寝てるかですね。お酒は何でも飲みますよ。ウイスキー、焼酎、ビール、日本酒、全部飲みますね。ダメなのは、甘いお酒。飲み始めたのは高校生の頃からですね。気がついたらそばにお酒がありました（笑）。車も欲しいけど、車自体にそんなに興味がないんで、乗れるんだったら軽トラックでもいいです（笑）。それと自分、寝ることが好きなんです。昔は2日間くらいヘッチャラで寝てましたからね。アダ名が"寝虫"だったくらいです」。さすがは超大型新人、寝虫・泣き虫ジャンボ八木。是非、一緒に『つぼっぽ』に行きたい！

OCTOBER

10・1

【リングス】／ビッグコミックスピリッツ『格魂』■前田日明「引退の書」として日明兄さんのロングインタビューが掲載されている。ヒクソンについて聞かれると、「実際の戦績ってのは5戦か6戦やろ？　西（良典・和術慧舟會）やって、ウチの山本とやって、中井（祐樹・シューティング）やって、木村（浩一郎・フリー）……山本なんてデビュー3年目で追い込んだし。高田は、無敗っていうムードに乗せられて、ツブされたような試合だったけど。冷静に研究した実感の中から出てくるヒクソンの実像と闘ってほしい。でも、400戦無敗？　ストリートファイトも入れていいなら、俺なんか『2000戦無敗』くらいいくで、ホンマ」ということだ。『2000戦無敗』とは素晴らしい。まあ細かいことは気にせずに、サスガは日明兄さん、ヒクソンとはスケールが違うね（語呂は悪いけど）。VIVA前田！

10・5【バトラーツ】後楽園ホール。松永から勝利を収めた石川。引き替えに左腕には五寸釘で引き裂かれた大きな傷跡が。石川社長は「いたいよ〜、」と言いながらも満足げな表情を浮かべた。

10・5【KRS】Ringちゃんとケアーちゃんとマルコちゃんの3ショット。

10・6【リングス】前田日明の引退試合の相手が"人類最強の男"アレキサンダー・カレリンと発表された。カレリンは11年間無敗という超怪物レスラー。

10・9【PRIDE.4】記者会見。ヒクソン戦を前に一人物思いに耽る高田。「ヒクソンに勝ったら、なに言おっかなぁ」

10・9【PRIDE.4】記者会見。ご機嫌なファッションに身を包む［ビッグ・ダディ］ゲーリー・グッドリッジ。

10・1

【ECW】／週刊ファイト（10／8号）■良識あるレスラーや関係者がマユをひそめるほどのワイセツ事件が米マットで発生した。なんと日本マットにも数回来日（W★ING、新日本、北尾道場、平成維震軍）している、あのタズマニアック（本名＝ピート・セネルシア）がピッツバーグの路上で自らのイチモツを15歳の少女に見せ、パトカーで駆けつけた警察官に逮捕されたのだ。保釈金を払ったタズはすぐに釈放されたが、地元紙がこの事件を大々的に取り上げたため、アッという間に全米のプロレス関係者に広まった。「レスラーの恥さらし」との声が高まっているだけに米マット永久追放もあり得る。気持ちも分からないでもないが立派な性犯罪。ボクも気を付ける！

10・11【PRIDE.4】豪華絢爛、奇跡的な4ショットが実現。北尾引退式でリングに上がると大声援を浴びていた。

10・11【PRIDE.4】"路上の王"マルコ・ファスに完勝したアレク。試合後、愛娘・愛ちゃんにチュー。

10・12

【全日本】／東京スポーツ（10／14付）■あの田上明がなんとヒクソン狩りに決起した。高田がヒクソンにまたも惨敗したことを知った田上は「オレがヒクソンを止める」と仰天発言。「でもなぁ相撲だぞぉ」と、田上の挑戦は「相撲に限る！」という条件だが「高田は2回負けたがオレは10回やったら10回勝つ」と豪語した。しかし相棒・川田の「北尾だったら？」のツッコミには「10回負ける…」と意気消沈。田上明『PRIDE.5』電撃参戦！　田上明vsウゴ・デュアルチ戦決定！　とかないかな。セコンドは安田忠夫とジャンボ鶴田。

nちょうの出来事!

マット界

UFO編

1998 9.16〜10.21

9・16
【成田空港】／アントニオ猪木（チェアマン）は「ドン・フライの使い方が気に入らない。タッグマッチじゃあ……。場合によってはフライを新日のリングに上げないかもしれない。長州が頑張ってるのはわかるが、もっと冒険をやらなきゃいけない。石沢とか藤田のいい素材を10・24（UFO）旗揚げ戦に上げたい」と、長州及び新日本に対し、冒険のススメを説いた。発売時には既に旗揚げ戦の結果は出ているが、はたしてカ・シンの出場はあるのか？　藤田はどうだ？

9・23
【横浜アリーナ】／ドン・フライの新日参戦にクレームをつけていた小川が、この日遂に爆発！　会場入りしたフライを駐車場で急襲するという事件が勃発した。小川は「ヘイ、ヘイ！　フライ、フライ！　オーライ、オーライ！」と叫びながらフライに詰め寄り「WHY（何故に？）」とフライの真意を問いただした。フライはキッパリ「関係ねえだろ！　すべてマネーのためなんだよ」とニヤリ。その微笑を合図に小川が突進。そしてフライの顔面に張り手を一発。更にアスファルトの上に豪快な払い腰でフライを叩き付けた。エキサイトした2人はもう誰にも止められない！　と、思われたが、たまたま近くで見守っていた佐山、マサ、ゴルドーといった豪華な仲裁陣の前では、さすがの小川とフライもおとなしくするよりなかった。早い時間から会場入りしていたファンにはビッグなプレゼントとなっただろう。

9・27
【ロサンゼルスのUFO本部】／UFO旗揚げ戦の小川直也vsドン・フライの一戦は、反則なしのノールールマッチで決行されることとなった。「何でもあり」がウリのアルティメット大会でも禁止されている目突き、噛み突き、玉突き攻撃まで容認されるというから驚き、桃ノ木。これを見たら今度こそ、もう20世紀は終わってもいい、と言えるだろう。猪木は立会人を務める一方、小川に「精一杯やればそれでいいじゃねえか。あとは死んでこい！」と強烈な一言。

10・7
【UFO旗揚げ戦カード発表】／10・24両国大会、全9試合の対戦カードが発表された。メインのノールールマッチ・小川vsフライ戦に対し猪木は「UFOの原点は俺とマサ（斉藤）の巌流島の決戦にあるというか。さて小川にそれができるかな。ンムフフフ。やるんだったらノーピープルでやりゃあいいんだよ。チケットは払い戻しゃあいいんだよ、オレが赤字になればいいんだろ。それだけの話だろ、どうってことねえよ。ダーッハッハッ！」とかなりご機嫌。なお、注目されていた石沢、藤田ら新日勢の参戦はなくなった。出場を匂わすような発言をしていたカ・シンのみちのくプロレス幕張大会の参戦が発表された。もしかして、OVNI・スペイン語でUFOに参戦するってことだったのか？　パートナーはサスケ・ティガ？

10・13
【猪木事務所】／UFOチェアマンのアントニオ猪木は、旗揚げ戦の試合前、午後5時から6時までの1時間、UFOのリングを関係者及びにファンに開放すると宣言した。「いつ何時、誰の挑戦でも受ける」との猪木イズムを証明してやろうじゃねえかというワケだが、早速、藤原組長、神取らが挑戦を表明しているとの事だが、こんなチャンスに大人しく黙っているのかーッ！　悲しき天才・セッド・ジニアス。今しかないぞ！　フライングしろッ！

10・16
【猪木事務所】／この日、村上一成とともにアメリカ特訓を終え帰国した小川。特訓の成果を猪木に伝えるべく猪木事務所に直行した。猪木を始めとするUFOジャパン勢は19日に、池上本門寺を訪れ、力道山の墓参りをする予定だという。猪木は「力道山から猪木に伝わり、UFOの将来へつなげるものを伝えたい」「何かを変えていくには、決心が必要。それについて、今、あることを考えている」と意味深な発言をすれば、すぐさま小川も「覚悟は出来てます！」と即答。力道山の墓前でなにか猪木流の大仕掛けがあるのは間違いない。旗揚げを目前に控えて、ついに猪木が動き始めた。

10・19
【池上本門寺】／猪木は、佐山、小川、村上らUFO軍団を率いて池上本門時に集結。何かが起こると言われていたが、なんとアントニオ猪木が力道山の墓前で突然、頭を丸め始めたのだ。バリカンを手にした専門家から、そのバリカンを佐山が奪い正面から見事に刈り込んでいった。少しでも佐山が躊躇すると、逆に猪木に気合いを入れられる始末。「迷わずゆけよ、ゆけばわかるさ！」と、猪木は「アリガトーッ!!」と一言。数分後、見事な丸刈りが完成すると、猪木は旗揚げ戦に向け、いよいよ猪木が動き始めた。佐山もそれに続いて頭を丸めた。旗揚げ戦に向け、いよいよ猪木が動き始めた。佐山もそれに続いた。旗揚げまで、あと5日！

UFO旗揚げ戦・全9試合発表
猪木 ルール巡り 佐山と対立

猪木電撃復帰
10・24UFO旗揚げ戦で神取戦実現?!

ロスで非情の道場破り 小川

小川フライを路上急襲 暴拳

力道山の墓前で何かが起きる
猪木が小川に「格闘魂」を伝承

「小川死んでこい」

力道山の墓前で仰天儀式
猪木 決意の丸刈り

断言します! UFO旗揚げ戦、陰のMVPはジョー・チャールズ（10／21現在）

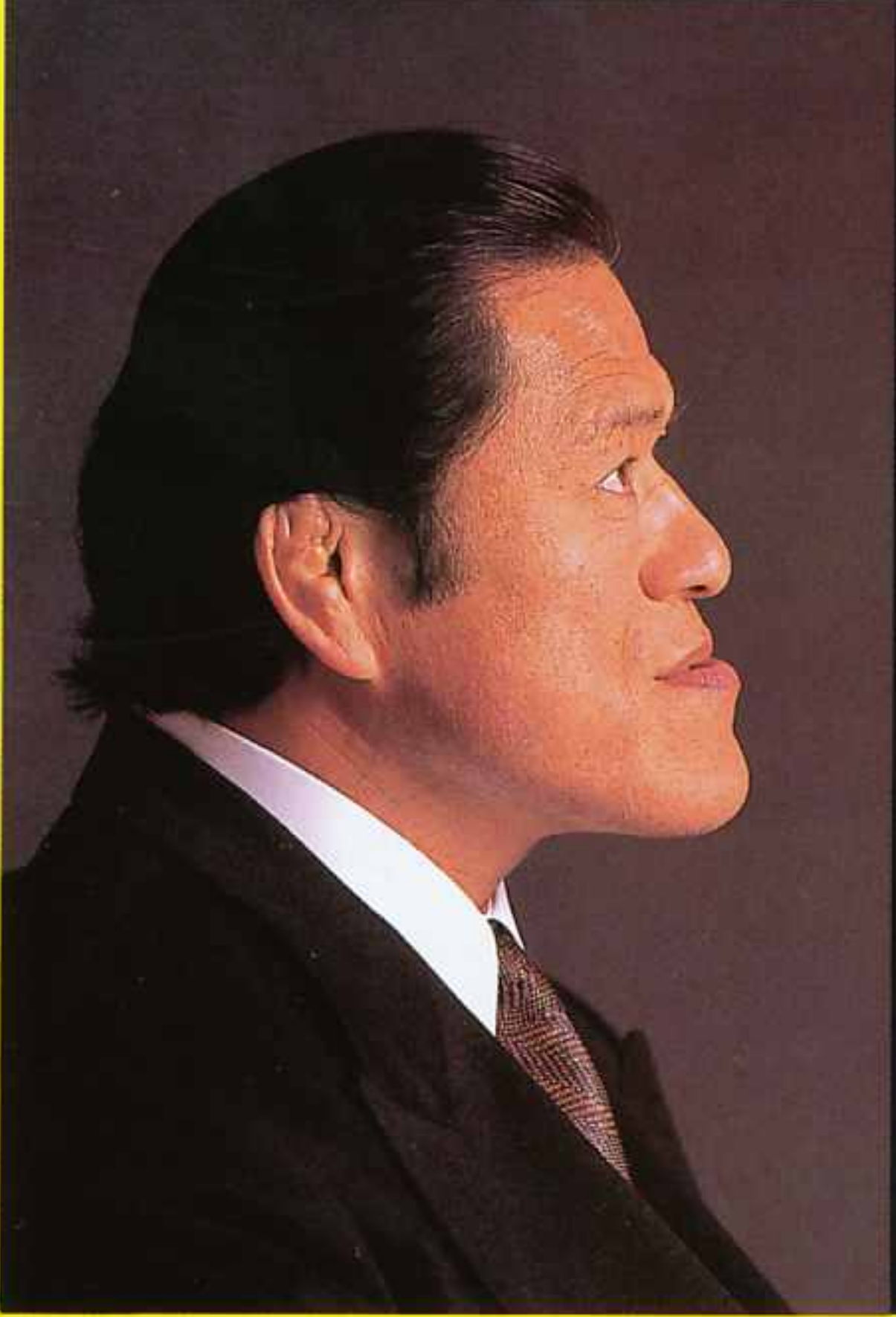
多重アリバイ "S"

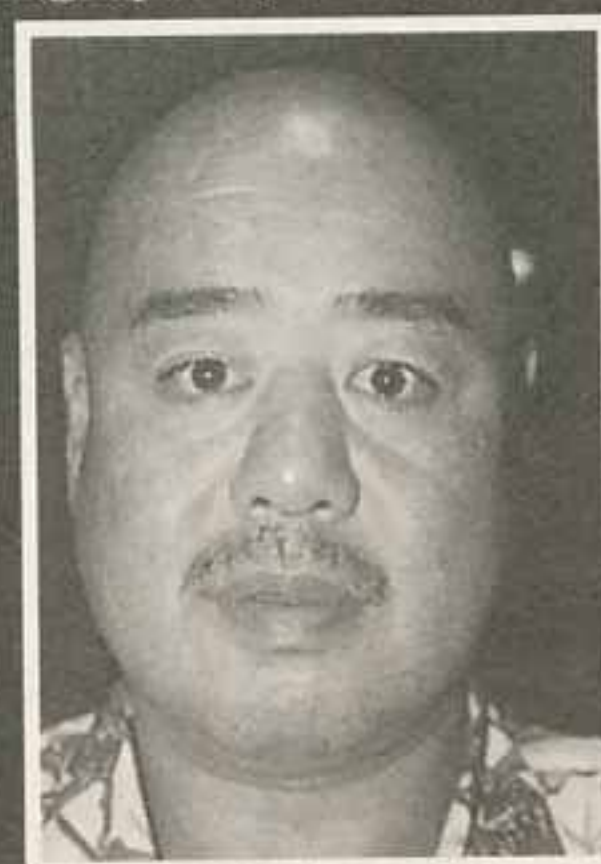
multiple ALIBI "S"

1990.
9.29

1992.
5.22

第3回 ケンドー・ナガサキ

聞き手／吉田豪
Interview by Go Yoshida
撮影／坂井ノブ
Photographs by Nobu Sakai

怒涛の勢いで時代を駆け抜けたバブル団体・SWSの金権プロレスにメスを入れる新連載。つい最近、大日本プロレスを離脱したケンドー・ナガサキが2人目のゲストである。バブル期の莫大な利益を惜しげもなくプロレスにつぎ込んだ驚異の金権プロレスを内側から検証してもらった。長いアメリカマット界生活で培われたシビアなレスリング・ビジネスの観点から語るSWSには、いまのマット界が失った夢を感じずにはいられない。金権プロレスの実態がいま明らかになる!

ちなみにナガサキは、昭和プロレスラーで唯一、バーリ・トゥードに挑んだ男である。肌身で感じたブラジルのバーリ・トゥードと日本のプロレスの違いをざっくばらんに語ってもらった。PRIDE.4以前の発言だが、これを読めばアレクの激勝と高田の健闘の重みが増すこと間違いなし!

俺に田中社長が言ったんだ。「天龍（の引き抜き）を頼む」って

STRAIGHT AND STRONG
SWS

――まずはSWSのお話をうかがいたいんですけど、これはナガサキさんがドラゴン・マスターとしてFMWに出ている頃から、SWSをつくるという話はあったんですか？

ナガサキ　ああ、（将軍KY）ワカマツさんから話を聞いてたんだ。それである人から本格的な話をもらって、アメリカと日本を往復してもいいってことで、決めたんだけどね。

――あっ、そんなに自由な契約だったんですか？　ナガサキさんは「俺は契約第一号だ」って当時のプロレス雑誌でコメントされてましたよね。

ナガサキ　いや、契約はみんな一緒だよ。入ったのは最初だけど、それから色々ひっこ抜いたりしなきゃいけなかったからさ。（田中八郎）社長（現在・会長）に言われたのは、藤波（辰爾）を引き抜こう、と。あの時、藤波は腰痛めてて（89年6月22日、ビッグバン・ベイダー戦でバックドロップを放つ際、腰を負傷。椎間板ヘルニアで歩行困難になってしまう。どんな治療も効果はなかったが、心霊治療などで無事完治。原因はファンの霊だったとか）、静岡の方でキャンプ張っててね。

――ああ、療養を兼ねた。

ナガサキ　そうそう、そこに電話して、会うことになっててね。そしたら社長が「天龍（源一郎の引き抜きを）頼むよ」って言うんだ。だから結局、藤波のところへは行けなかったんだ。天龍が九州に巡業（90年4月、全日本プロレスのチャンピオンカーニバル）で、ワカマツさんと2人で九州まで会いに行って、最初説明したら「やらない」って言うんだよ。（指を3本出しながら）「じゃあ、金をこれくらい払う」って言ったら「300万？」って聞いてきて。「3億だよ、現金で渡すからよォ」って言ったら「なに、そんなにくれんの？　じゃあ、女房に聞くから（キッパリ）」って。

FMWに来日（?）した、ドラゴン・マスターことケンドー・ナガサキ。両メジャー団体を渡り歩いた末、創生期からインディーに身を置いた一人である。

――天龍さんもストレートですねぇ（笑）。そもそもワカマツさんに聞いた最初のプランの段階では、どういう団体になる予定だったんですか？

ナガサキ　まぁ、俺の団体っちゅうか。それから人数が多くなって、やっていけないってことで3つに別れたわけだけど。俺がアメリカ行ってたから、知らない間に人を入れちゃってさ。

――最初の予定とは、どんどん変わってきちゃったわけですね。

ナガサキ　うん、全然違う（笑）。最初は全日本と新日本と闘うより、もっと上まで持っていこうと。でも俺がアメリカに行ってるうちに、天龍は天龍で他の奴入れて、ワカマツさんはワカマツさんで入れるし、入れた奴が他を引っ張ってきて、俺がアメリカから帰って来たときには、もう知らない人が入ってたんだよ。

――最初は武藤（敬司）さんとかを誘う予定だったんですよね。

ナガサキ　そうそう、そのときWCWで俺が武藤と一緒だったの。それで、アトランタにワカマツさんが来て、武藤に話を持ちかけたんだ。武藤は「いいけど、坂口（征二社長）に断ってください」って言ったんだけどね。結局、坂口さんに引き留められちゃってダメになっちゃったんだよね。

――永島勝司さんの『闘魂ふたり旅』という本では、「普通ならとりあえず会社には極秘裡にことを進めるものなのだが、武藤の場合はまったく違っていたのだ。『永島さん、すっげえ大金を積まれたんですけど、俺どうすればいいですかね』。平然と武藤は私に相談してきた」って書いてましたよ（笑）。それで武藤さんのSWS入りが夢になったわけですね。

ナガサキ　でもね、契約の時は凄かったよ。野球選手並みだからね。何千万の契約だから。それで毎月ちゃんと25日に給料入ってるんだからね。

――ボクにはよくわかんないんですけど、それはプロレス界では滅多にないぐらい凄いことなんですか（笑）？

ナガサキ　それが3年契約だから、びっくりしたよ。俺、最初に「あんまり（給料）いらない」って言ったから、俺が一番給料上がったんだ。だいたいみんな5％ぐらいしか上がらないのに俺は25％から30％上がっちゃった（笑）。

――景気のいい話ですねぇ（笑）。ところでSWSの理念っていうのはナガサキさんから見てどうだったんですか？　ボクはやろうとしてたこと自体は無茶苦茶正しいと思うんですけど。

ナガサキ　うん、いまやってたらよかったと思う。

――なにもかも早すぎたんですよね。

ナガサキ　あとお金使ってやるってコトにみんな気にくわなかったんだろうなぁ……。使ったのはね、200億（キッパリ）。

――はぁ……（笑）。スケールがデカすぎますよね。それが3年ぐらいでなくなっちゃうっていうのは、どういうわけだったんですか。

ナガサキ　そもそもメガネスーパーがあの当時、株で儲けたから「じゃあ、これをなにに使おうか？」っていうことになって、それでSWSはできたんだよね。

――ダハハハ！　そんな軽い気持ちだったわけですか（笑）。

ナガサキ　一応、プロレスの会社だから。その前にも、高田に金出したりとか、前田に金出したりとかしてたから。

――ああ、UWFの興行も手掛けてましたよね。

ナガサキ　金出してたんですよ。で、出すのがもったいないから自分でやっちゃおうってことで、SWSが出来たの。

――金が有り余ってたんですね。

多重アリバイS

multiple ALIBI "S"

ナガサキ　全部でどれくらい損したか、どれくらい儲かったか全部書いてある紙を見たことがあるんだけどさ、やっぱり損してるもん！　だって一回の興行の舞台装置とかで300万ぐらいかかるんだよ。

——確かに経費も無茶苦茶かけてましたもんね。レーザー光線とか使って（なお旗揚げ戦では、入り口にはローマの城壁をイメージした『勇者たちのフラッグス』なる旗を飾り、開演前には『光のコリドー』なるライトショーを行い、それが終わると、『瞑想のパオ』なる巨大な白い天幕の中から『闘会のコロッセオ』なるリングが出現して『闘会の同士たち』なる観客を出迎えるという趣向であった）。

ナガサキ　舞台装置に300万じゃ利益出ないよね。電気とか使って。それで朝の7時頃から作るんだもん。全部ひっくるめたら莫大な金額になるよ。

——舞台装置に金かけて、いい外人呼んで、日本人にいい金払って。それって理想的な団体ではありますよね。

ナガサキ　俺は言ったんだよね。2週間にいっぺん会議があるから「ちょっと金かけすぎですよ」って。だけど、「SWSは損してもいいんだ」ってことでね。

——損してもいいんだ！　それは男らしい姿勢ですねえ。

ナガサキ　レスラーはそのギャラで、あちこちジムを作ったり家買ったりしてたよ。

——道場も立派でしたもんね。

ナガサキ　それにリングも五つも六つも買ったでしょ。

——5つも6つも（笑）。いまじゃリングのない団体が多いっていうのに。

ナガサキ　500万か700万するんだよ。それもスゲエ頑丈なリングだよ。あと、道場は月100万ぐらいかかってたんだよ、家賃。

——まあ、横浜の一等地ですからね。

ナガサキ　とにかく金はかかってたよ。

——スタートの時点から、ワカマツさんと天龍さんの間で行き違いみたいなものがあったって聞いてますけど。

ナガサキ　2人は、あんまり話さないんだ。俺はどっちとも話してたけど。

——ナガサキさんは最初から「俺は天龍と若松の橋渡し役」だって言われてましたよね。

ナガサキ　合わないんだよ、向こう（天龍側）と。会議があると、向こう側が一人少ないんだよ。4対3になるの。こっちが（ジョージ）高野と俺と谷津（嘉章）、ワカマツの4人でしょ。向こうが天龍、（ザ・グレート）カブキ、石川(敬士)。それでなんかの議題で多数決をやると。いっつも向こうが負けるんだ。

——ダハハハハハハ！　多数決（笑）。

ナガサキ　ある時なんか、「フランス料理食いに行こう」なんてね。

——えっ、会議の後でですか？

ナガサキ　そう、フランス料理屋に何十人かで。そこでもステーキお替わりしたりね。そんなことやってたよ。

——ダハハハハハハ！　そのメンツでフランス料理って、いいですね。テーブルマナーなんかわかりゃしないでしょ？　それにしても面白い世界ですね。

ナガサキ　俺も社長から小遣い2～3回もらってるけど、すごいよ。財布の中から厚い札束を掴んで、いつも70万ぐらいあるんだよ。

——うわ～っ！　それは本当にうらやましい限りですよね（笑）。

ナガサキ　でもさあ、厳しいことは厳しかったよ（しみじみ）。

——当時は『寄せ集め』とか言われてましたけど、いま考えるといい選手が集まってるんですよね。

ナガサキ　集まってたよね。

——まあ、ソリが合わなかったっていうのはあるんでしょうけど。

ナガサキ　う～ん、黙ってやってりゃあ、みんな給料もらえてたんだけどね。一生懸命やってりゃよかったんだけど…
…馬鹿だよね。

——ガハハハハ！　馬鹿ですか（笑）。

ナガサキ　だってさ、今となっては、みんな給料もらえてないじゃない。

——天龍さん、ナガサキさん、谷津さん、（ドン）荒川さんがいるから、ちゃんと道場とかで強いと言われるような人が根っこを支えることもできるし、立派な道場もあるし。

ナガサキ　……だから、あの当時は凄かったなと、俺はいまでも思うよ。

——いまでも思いますか！

ナガサキ　それだけの給料、いまでももらってたら借金なんてすぐ返せるよ！

——ダハハハハハハハ！

ナガサキ　だから、給料なんて25日にちゃんと入ってるでしょ、大変な額だからあとで通帳を見ると凄いんだよ。

——ダハハハ、いま見てもすごい！

ナガサキ　そう。最初、「ギャラいくら欲しい？」って言われて、「いや～、そんなにもらわなくっていいですよ」って言ったんだけど、凄い額だった。でも、いまじゃ借金しちゃったよ、俺。

週刊プロレス　SWS、引き抜きに動く！　7/3　引き抜きはしないというSWSの発言はすべて奇麗事だった　特別定価370円

当時の『週プロ』がいかにSWSを潰しにかかっていたかを物語るいい表紙である。金権プロレスという単語にファンは敏感に拒否反応を示したが、レスラーの側からは「金を出してくれる人を悪く言ったらダメだ」という反発も出た。公平に下の号の表紙では、金で動いたわけではないという天龍の反論も掲載した。この連載でも天龍に話を聞いてみたい。

天龍"本誌に反論"3時間　週刊プロレス　5/22　メガネスーパーが統一のリングを作っても、UWFのスタイルは絶対に守る。たとえ異種格闘技戦でも、それがプロレスのリングだったら、天龍選手とは闘えない（前田日明）　オレは金で動いたんじゃない。オレにはオレのこだわりがあってやったことだ（天龍源一郎）　特別定価370円

右の写真での位置が示すように、ナガサキはSWSの中核に深く関わった。特に天龍とは関わりが長く、大相撲からプロレスに転向する際にも表敬訪問に訪れている。ここに、武藤と藤波が入っていたとしたら、想像するだけで背筋がゾクゾクする闘いのワンダーランドになっていたことだろう。

隣近所から苦情が来たから道場の周りの家を全部買っちゃった

STRAIGHT AND STRONG
SWS

――ああ、NOWを作ってから借金しちゃったって話ですよね。

ナガサキ　あの当時、社長がいなくなっちゃって、俺に3000万のしわ寄せ来ちゃってね。でも、若いのが十何人かいたから見捨てるワケにもいかないしさ、俺も3000万もらって辞めた方がよかったんだよ。

――SWSを辞めたら退職金代わりに3000万円もらえたわけですよね（笑）。

ナガサキ　いま思えば、フリーでチョコチョコっと他団体に出てた方がよかった。結局、合計で7000万ぐらい損しちゃったからね。

――難しい選択があったんですね。それで話を戻すと、SWSはどの辺からギクシャクしてきちゃったんですか？

ナガサキ　う～ん……。辞めようと思ったんだよね、先に。こんなのやってられないと思ってさ。だから、中がグチャグチャしてきたとき、「そんなにまとまらないんじゃ、やってられない！」って怒ったこともあったな。

――結局、大雑把に分けると全日派と新日派みたいな対立が生まれてきちゃったわけですよね。

ナガサキ　そうだね、天龍は自分を支持してる奴をみんな呼んだからね。

――それに比べると、新日派で中心になりうる選手がいなかったっていう感じもするんですけどね。

ナガサキ　それは（ジョージ）高野が入ったから……。

――ダハハハハハハ！　結局、そこに行き着くわけなんですかね（笑）。例えば新日系の選手とかにしてみれば、具体的にSWSでの試合はどうだったんですか？

ナガサキ　文句出たよ。カブキは天龍派でしょ。そうすると彼らが上の方に出るから、新日派はみんな下になるでしょ。だから取り組みに関しては、いっつも揉めた。

――それで取り組みというかマッチメイク担当のカブキさんが神経性脱毛になっちゃったんですよね。

ナガサキ　えっ、そうなの？　俺は辞めるって言ってたんだよ。もうやってらんないって。そしたら常務に怒られたんだけどさ。

――道場でも揉め事は色々あったって、風の噂には聞いてるんですよ。

ナガサキ　練習来ない人は来なかったよ。社長がわざわざ出席簿を付けてね。途中でやめたけどさ。来ない人は来ないから。そういうことをする意味がないんだよ。

――それで高木（功）さんのところが欠席マークだらけだったっていう、もっぱらの噂なんですけど（笑）。

ナガサキ　俺は浅草から川崎まで、毎日行ってたけどね。川崎の道場は凄かったぞ。まず土地買って、地面を掘ってリングを埋める形にしたんだけど、そうすると練習の音が響いてうるさかったんだ。それで隣近所から苦情が来たわけ。それだったらっていうんで、隣近所みんな買っちゃったんだ。

――ダハハハハハハ！　いちいちスケールがデカすぎますね（笑）。

ナガサキ　「うるせー！」って言うから、じゃあ買っちゃおうって（笑）。

――それはSWSの夢が膨らむ素晴らしいエピソードですよね（笑）。

ナガサキ　それで、「住みなさい、アンタたち」なんて言われてさ。

――太っ腹だなあ（笑）。

ナガサキ　レスラーは誰も住まなかったけどね。寮もホテルみたいな凄い設備だったし。

――いいなあ（笑）。それに普通の試合以外でも実験的なことを結構やってたじゃないですか。道場的な試合を客に見せる登竜門マッチとか。いまで言う『秒殺』みたいなモノを平気でやっていたわけなんですよね。

ナガサキ　うん。今で言う『（レッスル）夢ファクトリー』みたいなことやってたんだよね。

――ああ、あれも道場マッチですしね（笑）。だから後にいろんな団体が取り入れるような新しいことをやってきたわけなんですよね。

ナガサキ　そうそう。道場別に対抗戦とかね。だから先行ってたんだよね、考えてみたら。

――そうすると、じゃあ何が悪かったのかってことになりますよね。

ナガサキ　一人一人がワガママだったっていう、それだけだよ（キッパリ）。

――結局、気持ちが通じなければいいプロレスは出来ないと。

ナガサキ　そうそう。金もらってんのにねえ、みんなワガママで。

――そういう反発心が上手くリング上でぶつかり合えばいいんですけどね。

ナガサキ　初めはもう、大変だったんですよ。雑誌に色々と書かれたりしたもんね。

――ああ、『週刊プロレス』ですね（笑）。そこでSWSは取材拒否して。

ナガサキ　そうそう、それで雑誌を買っちゃおうって話になったんだ。

――へ？　「雑誌も買っちゃおう」ですか？　ダハハハハ！

ナガサキ　そうだよ。「じゃあ、めんどくさいから雑誌の会社ごと買っちゃおうか」なんて言ってたからね。

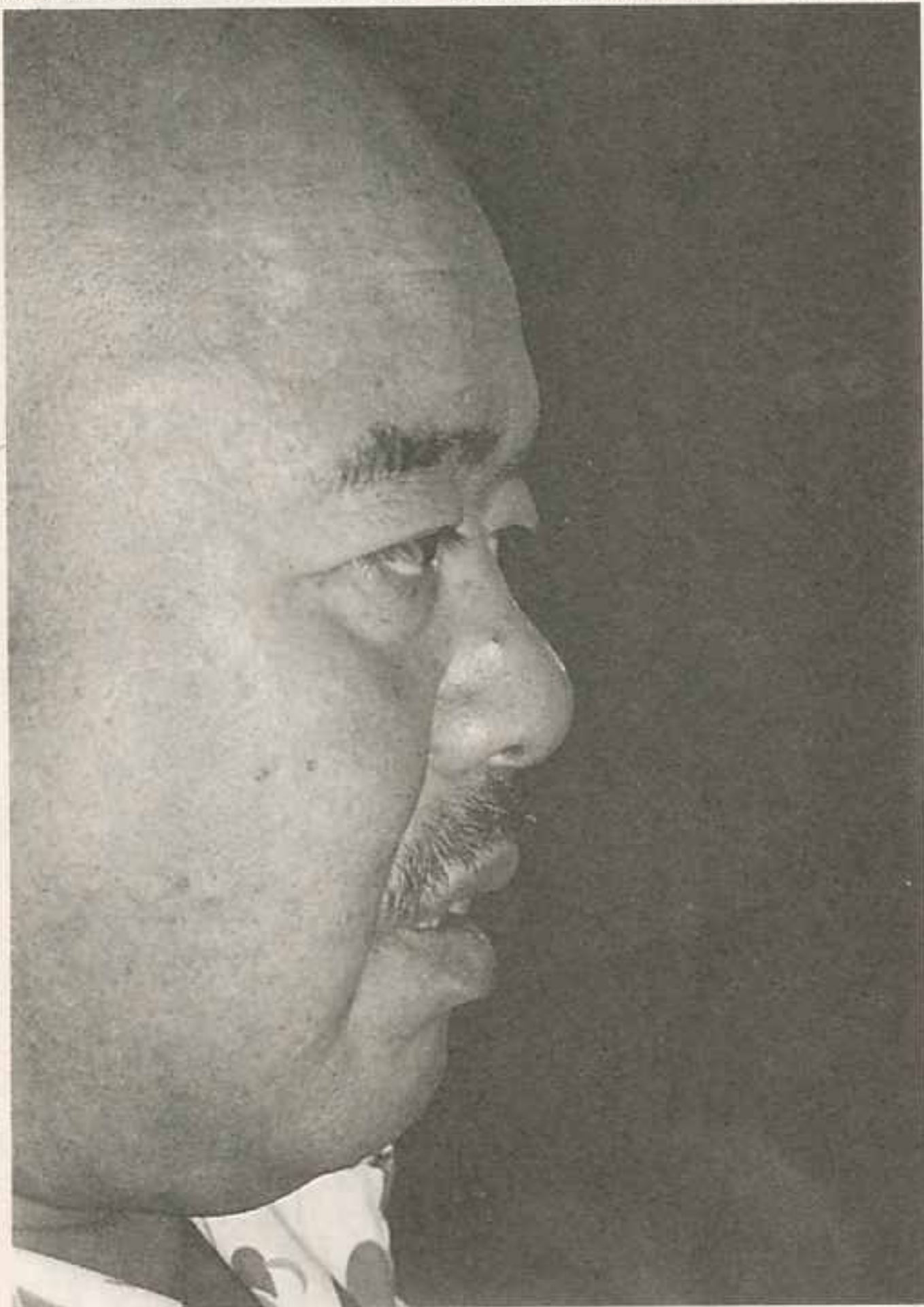
――田中社長はいちいちカッコよすぎますね、考えることが（笑）。

ナガサキ　あと、自分のところで（雑誌を）作ろう、とかね。新日本プロレスを買っちゃおうっていう話もあったんだ。後楽園ホールみたいな体育館も作っちゃえと思って。あちこち物件を見てたんだよ、当時はね。

――物件を探してたんですか？

ナガサキ　バブルがはじける前にいろい

ケンドー・ナガサキPROFILE■本名・桜田一男。昭和23年9月26日、北海道網走市出身。刑務所の看守を父に持ち、正義感の強い男の子に育つ。身体の大きさを見込まれて2年で中学を卒業、即、大相撲立浪部屋に入門。しかし、理不尽なイジメに反発して兄弟子を殴ってしまい、それをたしなめた親方とソリが合わなくなり廃業。その後、日プロ入門。小沢正志（キラー・カーン）が、「顔が面白いから」という理由でいじめられるのを間近に見ながら新弟子時代を過ごす。上田馬之助の付き人として厳しい練習生生活に耐えながら、昭和46年6月27日、茨城県結城市立町広場特設リングにてデビュー。（P93に続く）

崩壊まで日プロに残り、その後は全日本プロレスに吸収される。米国マットでも暴れ、ケンドー・ナガサキの名が知れ渡る。新日や初期FMWにも来日したが、SWSには初期の段階から参画。その後は自らNOWを旗揚げするも、経営不振で崩壊。フリー期間を経て大日本プロレスへ。容赦のないイス攻撃と、必殺のパイル・ドライバーで『ケンカ屋』の異名を取る。ファンの中では、ケンカ最強幻想も根強く残っており、グレート小鹿主導のもと、バーリ・トゥードに参戦、ヒクソンへの挑戦をブチ上げたが未遂に終わる。現在はNEW　NOWの旗揚げ準備とスナック・ケンドーのマスター業に追われる毎日。188センチ、120キロ。

ろ調べてたんだ。メガネスーパーの不動産部門を通じていろいろ動いてたよ。

――はぁ～。じゃあ、上手くいけば現代のリキパレスみたいなものが出来るはずだったんですね（笑）。実現してたら大変なことになってましたよ！

ナガサキ それで、よその会社にも貸してやろうなんてみんなで言ってたんだよ。ただ、場所が見つからなくて実現しなかったんだ。

――それだけなんですか（笑）。で、SWS内部で色々うまくいかなくなってきた頃に北尾（光司）さんが入ってきたあたりで、両者の対立みたいなものが徐々に表面化していきますよね。

ナガサキ 北尾とカブキがマッチメイクで揉めたりしてね。

――その延長で『八百長野郎発言』なんかも出てくる、と。

ナガサキ 神戸だっけ？　あれが決定的だね。みんな金もらってんだから黙ってりゃいいのにさ。だからいま、みんな苦しんでるよ。

――あのとき北尾さんがああいう試合をしたのを見て、ナガサキさんはどんな気持ちだったんですか？

ナガサキ 動けないからね。俺、北尾を教えようと思ってアメリカで待ってたの。ある人に頼まれてね。北尾がプロレスやるっちゅうから、アメリカで教えてくれって言われてたんだよ。でも北尾が立浪部屋の先輩に教わるのは嫌だっていうから流れちゃったんだ。俺に教わってたらもうちょっと変わってたかもね、俺の人生も彼の人生も。

――人生にはいろんな分岐点があるもんですねえ、しかし。それでルー・テーズ道場に北尾さんと一緒に行ったアポロ菅原さんが、その神戸の興行の時に鈴木（みのる）さんと不思議な試合をしたわけなんですけど。

ナガサキ ……ああ、なんかあったね。

――なんかあったって程度ですか（笑）。試合にならなかったんですよね。菅原さんも指を折りにいったりして、最終的には試合放棄っていう展開でしたけど。

ナガサキ そのとき、鈴木みのるは新日だったの？

――当時は藤原組ですね。新日からUWFに行って。

ナガサキ へ～っ、そういうことがあったんだ？

――ナガサキさん的には、そんな程度ですか（笑）。

ナガサキ たしかSから藤原組にも金渡してたよなぁ。

――そうですね。UWFがギクシャクして分裂したのも、結局はその辺に関わってくるんですよね。

ナガサキ SWS始める前にはUWFに金出してるしね。

――だけどああいうイビツな試合が行われるっていうのは、プロレス界において非常に珍しいことですよね。

ナガサキ マイナスだよね。試合しないなんて。

――あの試合は今でも裏ビデオとかで売られてるんですよ。つまり伝説になってはいるんですよね。マイナスといえばマイナスなんでしょうけど。

ナガサキ プロレスラーとしてはマイナスだね。

――まあ、その辺りから崩壊へと向かって行っちゃったわけですからね。じゃあ、NOW設立って最初はそんなに乗り気ではなかったんですか？

ナガサキ そうね。俺は一生懸命克服しようとしてたんだよ。みんな反対してるのに。でも、俺も当時はやっぱり未熟だったんだ。誰かシステムのわかる人が一人いればね、今でも残ってたはずだよ。ホントは最初、NOWはジョージにやらせようと思ったんだよ。そしたらみんなに反対されてさ。もう、やんなっちゃうよ。他人のこと考えないで俺も天龍のとこ（WAR）に行こうと思ったよ（笑）。

――ダハハハハハハ！　NOWに谷津さんは参加しなかったわけですけど、どうしてですか？

ナガサキ あれ？　谷津はどこ行ったんだ？

――どこ行ったんだって（笑）。しばらくブランクを置いてからSPWFを旗揚げするんですよ。

ナガサキ 谷津は（マット界に）いたの？

――谷津さんはSWS終わった時点で一年ぐらいフェードアウトして、業界からいなくなってたんですよ。

ナガサキ そうなんだ？　あのとき、NOWは一年間だけSWSにバックアップしてもらったんだよ。3000万もらったのかな？　もう、前借り、前借りの連続だった。

――ハガミしてたわけですね。

ナガサキ 事務所も俺が見つけて来たんだよね。3階建てに事務所と合宿所と道場作って、家賃が月80万だったんだけど、それを60万にまけてもらって。内装は全部メガネスーパーに直してもらったんだ。

――そういう時期に高野さんが週刊文春で田中社長を契約違反とかでバッシングしたりしちゃったんですよね。

ナガサキ なんかね～。真実がおかしなことになったよね。

――おかしなことに。（笑）裁判までやってましたもんね。ところでナガサキさんは、NOWをどういう団体にしようとしてたわけですか？

ナガサキ みんな本当のレスリングが出来るようにしようと思ってた。だから練習はキツかったよ。全日本とか新日本と同じレベルの教え方してたから。

――今考えると、相撲上がりの維新力さんがいて、馬之助さんがいて、ガイジン呼んでっていう意味で、日本プロレスチックではあるんですよね。

ナガサキ そうそう、知らない間にどんどん無茶な経営して、前借りして。ガイジンにはギャラ払わなきゃなんないでしょ。決算見たら赤字だったな。

――じゃあ、この辺から徐々に辛い思いをしていくわけですね。

ナガサキ 俺がアメリカに行ってるときに給料払えないって電話掛かってきてさあ。それで俺、アメリカから（田中）社長に電話して前借りしたよ。

――そのうちNOWがだんだんうまくいかなくなって、大日本プロレス旗揚げに至るわけですよね。

ナガサキ そうだね。少しの間、フリーでいろんな団体にあがってはいたんだけど、（グレート）小鹿氏に誘われて入ったんだ。

――でも、大日本はデスマッチ路線が主流でしたよね。

ナガサキ 大日本はFMWみたいになんでもやろうってことで始めたんだ。

――ああ、最初からデスマッチとかもありでどんどんやっていこう、と。

ナガサキ そういうスタイルでスタートしたんだけど。

――そんな中で、ナガサキさんがバーリ・トゥード路線を歩み始めますよね。最初はニコ・ゴルドー（ジェラルド・ゴルドーの実兄）選手と大日本のリングで闘いました（95年9月13日、名古屋で行われた『バーリ・トゥード〝ハラキリ〟路線進出シリーズ～激動～』）けど、あの時にはセコンドに谷津さんが付いたんですよね。

ナガサキ ああ、そうそう。谷津、ウチで試合に出てたから。スパーリングも谷津とやってたんだ。

――じゃあ、アマレスっぽいスパーをやってたんですか？

ナガサキ 向こう（ニコ・ゴルドー）はキック・ボクシングの選手でしょ、掴もうと思うとパーンとヒジ打ちが入って来るんだよ。

――それで、なかなか入り込めなかったんですね。谷津さんはスパーリングやってみて実際、どうでした？

ナガサキ 強いよ。

――そうですよね。セコンドとして的確なアドバイスはあったんですか？

ナガサキ うん、まあ、「こう行け、ああ行け」ってね。

――こう行け、ああ行け（笑）。

ナガサキ 下から見てたら、だいたいわかるからね。

『週プロ』を会社ごと買っちゃおうって話もあったね

——それに続いて問題のジーン・フレジャー戦（95年9月28日、駒沢で行われたシューティングの興行『バーリ・トゥード・パーセプション』で対戦）となるわけですけど。試合の記憶は一切ないんですか？

ナガサキ そうだね、わかんなかったもん、全然。倒れてそのまんまだ。

——意識を取り戻した時は、本当に「なにがなんだか」って感じですか？

ジーン・フレジャーに破れた後、ブラジルへバーリ・トゥード修行へ向かったナガサキ。デビュー間もない頃の山川竜司もこのツアーに帯同している。ナガサキに指導するのは、マルコ・ファスのセコンドとしてPRIDE.4にも来日したお爺ちゃんである。ナガサキにとっても、バーリ・トゥードは未知の世界。新しい発見も多かったようである。撮影：長尾迪

ナガサキ なんか、気持ちいいんだよねえ（しみじみ）。

——ダハハハハハハ！ 気持ちいいですか（笑）。でも、その時はやっぱり屈辱を感じましたか？ それとも年齢を感じさせられたとか？

ナガサキ そうだね。35歳ぐらいだったらまだできるだろうけど、スタミナとガッツがなくなってきてるからね。

——ガッツが！ そもそも、なぜバーリ・トゥード路線を歩もうと思ったんですか？

ナガサキ 知らないうちに小鹿氏がそういうプランを持ってきてね。

——へ？ 知らないうちにそうなっちゃったんですか（笑）。

ナガサキ そうそう。ある日さぁ、「おい、試合見に行こう」って言われて。それがK-1でさ。それからスタートしたんだよ。

——それまでK-1に興味とかは？

ナガサキ なかったよ（キッパリ）。

——ダハハハハハハ！ その直後にヒクソン・グレイシーの試合を見に行ったんですよね。『バーリ・トゥード・ジャパン・オープン』（95年4月20日）へ行ったわけですか。

ナガサキ そう、武道館にね。

——RINGSの山本宜久さんとヒクソンが対戦したときですね。

ナガサキ ああ、知らない奴出てるなあと思って。

——ダハハハ！ 知らない奴（笑）。ナガサキさん自身は、そういう方向性に乗り気ではあったわけですか？

ナガサキ まあ、歳も歳だしさ、俺もピーク過ぎちゃったからね。身体が動かないもん。35～36歳のときだったら一番力もあったけどさ。

——最初にヒクソンを見たときに「あれなら勝てる」とか発言してましたよね。

ナガサキ ああ。小さいから、「あっ、勝てるな」と思って。

——ダハハハハハ！ 小さいから（笑）。そりゃそうですけどね。

ナガサキ おお、そう思うよ。だけど、ブラジルの奴って、やってみたら強いんだよ。向こうの奴と道場で何回もやったんだけど、道場だと勝つんだよ。でも上になるとさあ、なんつったっけ、あいつ。マルコ・ポーロだっけ？ 何回もスパーリングやったよ、あいつと。

——ダハハハハハ！ それはおそらくマルコ・ファスですね（笑）。ジーン・フレジャーに敗れてブラジルに行った後のインタビューでも、「マルコは力はないけども、全身のバネは凄い」ってナガサキさんは言われてましたけど。

ナガサキ 技の掛け方がやっぱり巧いよね。なんか、お爺さんがアイデアを出して教えてるらしいけど。

——お爺さんがアイデアを（笑）。要するに、極め方とかを教える人がいるわけですよね。

ナガサキ そうそう。汚い道場だ、あのマルコ・ポーロの道場。

——マルコ・ファスですけどね（笑）。

ナガサキ グレイシーの方がキレイな道場なんですよ。でもね、マルコはいい奴だよ。

——いい奴。（笑）最近、日本でも試合してるのは御存知ですか？

ナガサキ うん、テレビで見たよ。強いでしょ、あいつ。

——ヒクソンを倒せる数少ない男といわれてますからね。ナガサキさんはフレジャー戦後に山川竜司選手とブラジル修行に行かれたんですよね。

ナガサキ ブラジルで週に3～4回練習やってたけどね、向こうは小っちゃい人

STRAIGHT AND STRONG
SWS

ナガサキがブチ上げたヒクソンへの挑戦をあおり続けた『週プロ』が、スナック・ケンドーの店内には飾ってあった。最初、小鹿にバーリトゥード路線の火を付けたのがターザンだったというのは有名な話だ。

多重アリバイ S

multiple ALIBI "S"

も強いよ。山川は、みんなにやられてたもん。俺はやられないけど（キッパリ）。極める練習ばっかりしてたね。

――それで、ようやくヒクソンの強さが見えてきたというか。

ナガサキ　会ったんだよ、俺。ヒクソンが出る興行（95年10月21日にブラジルで開催された『ブラジル・バーリ・トゥード国際トーナメント』）に山川が出てね。山川はすぐ負けたけど（キッパリ）。

――ああ、日本から平直行さん（現・正道会館柔術クラス）とかが出た大会ですよね。

ナガサキ　彼なんか来たんだけど、「怖い、怖い」って言って帰っちゃった。で、興行自体がキャンセルになったんだよ。一試合やって、次の試合やるときに。

――裏じゃ、かなりメチャクチャだったらしいですね。

ナガサキ　そう、メチャクチャ。で、ホテル代出ないとか、ギャラ出ないとかになっちゃって。まあ、俺達はそれ目当てに行ったわけじゃないからいいけどさ。

――練習に行ったついでだから、まだいいんでしょうけどね。

ナガサキ　そのためだけで向こうに来た奴はホント、困ってたよ。

――ボクも平さんから話は聞いたんですけど、大変だったみたいですね。

ナガサキ　平さん、便所行くの怖がってさ、俺一緒に行ったよ。それで金もらえないのわかったら、次の日パッと帰っちゃったよ（笑）。何で怖いんだろう？　俺なんか平気で街歩いてたよ。全然なんともない（キッパリ）。

――ダハハハハハ！　プエルトリコとかで生活してただけあって、物騒な国には慣れてますもんね。

ナガサキ　向こうのホテルでトラブルがあったんだよね。朝、ホテルを出ようとしたら、出してくれないんだ。地元のプロモーターがホテル代を払ってくれなかったからね。山川が一回で負けたから良かったけどさ。タイ人のキックボクサーに負けたんだよ。

――まあ、当時の山川選手はほとんどキャリアを積んでない頃ですからね。

ナガサキ　キャリアなんてないよ。

――それから大日本に戻って、ナガサキさんは若手相手に結構冷たい試合をしたりとかしてたわけですけど。

ナガサキ　そうそうそう。大日本……、いま何年目だ？　4年目か。よくやってるよね。

――そこをつい先日、離脱しましたね。

ナガサキ　まあ、色々あってね。

――ここでは、その一言で終わらせた方がいいですか（笑）。『ファイト』誌上ではいろいろ書かれてましたけど、読まれました？

ナガサキ　面倒だもん、読まないよ。ミスター・ポーゴってまだ大日本に出てるの？　俺は最初、ポーゴが出てるのが嫌だって言ったの。

――ああ、復帰してきたあたりで。

ナガサキ　だから俺だけポーゴと試合で当たらないんだよ（ニヤリ）。

――ダハハハハハ！　それは、何かやっちゃうからなんですかね？

ナガサキ　知らないよ（ニヤリ）。

――まあ、昔からあんまりうまくいってなかったわけですよね。これは海外に行ってる頃からなんですか？

ナガサキ　いや、日本に帰って来てから。新日本時代だね。行くとこ行くとこ来るんだもん、あいつ。

――ダハハハハハ！

ナガサキ　新日本来たらいるでしょ、アメリカでもそうだし。

――FMW行ってもついて来るし（笑）。

ナガサキ　そうそう、俺の後ばっか追っかけて来るんだよ（笑）。あいつとはうまくいかないね。

――そういうわけで、今度はNEW NOW設立となるんですね。

ナガサキ　そう、谷口（裕一）と2人で。いま、強い人がいっぱいいるからね。WARは丁度、日程が合っちゃったんで選手を借りられないけど、IWA（JAPAN）とか、谷津のところ（SPWF）とかに借りてやるんだ。

――これからは地方でちょくちょく興行をやっていくんですか？

ナガサキ　今回ここでやって。12月に九州、四国……、5～6カ所でやると思います。

――しかし、この団体名って凄いですよね、NEW NOWって。同じ言葉重なってるじゃないかっていう（笑）。

ナガサキ　違うよ（キッパリ）。

――違う（笑）。つまり新しい、今のプロレスってことですか？

ナガサキ　ホントは名前占いで付けようと思ってたんだけど、プロレスでそれはおかしいでしょ。ずっと迷って、じゃあ、前の名前にNEW付けて、それにしようってことで。

――ダハハハハハ！　名前がNOWってことは、若手はビシビシ鍛えて以前のNOW路線は継承していくんですか。

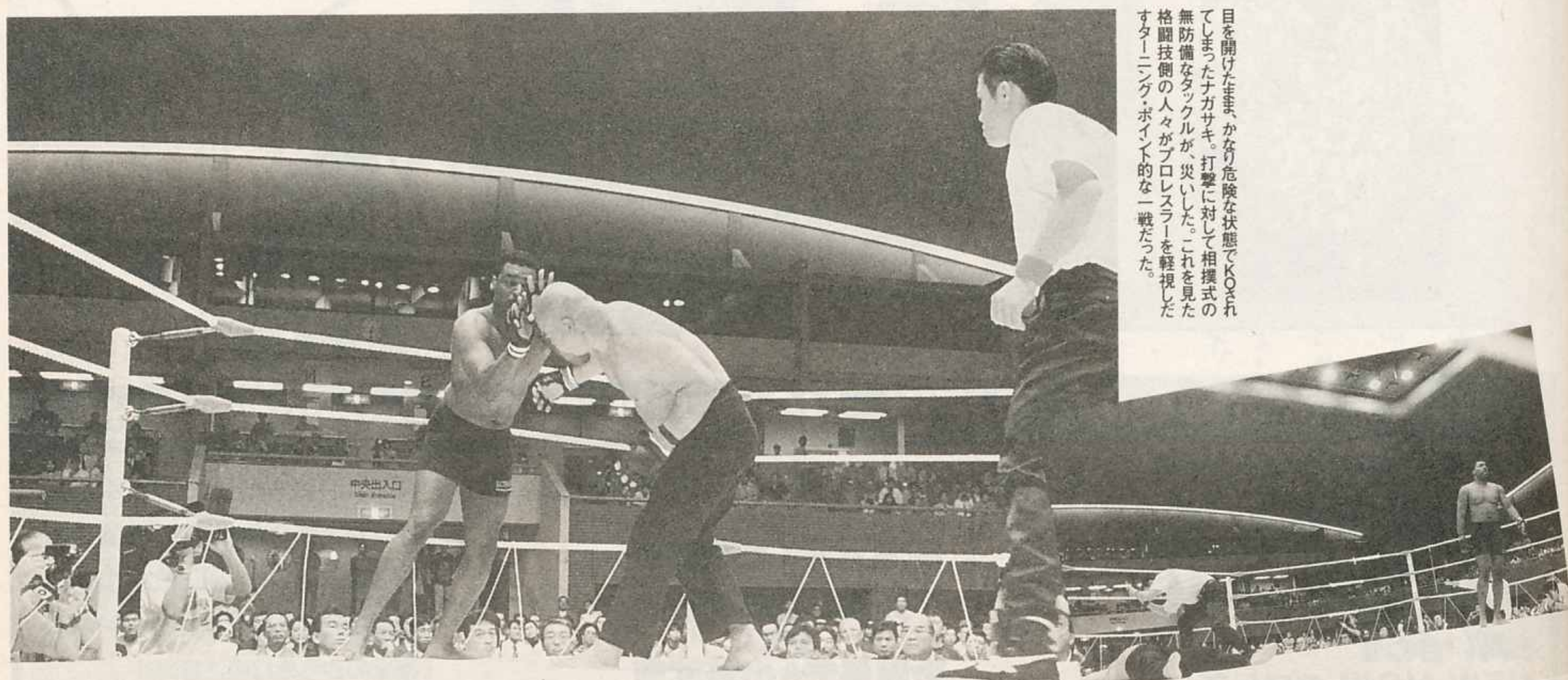
ナガサキ　いや、もう1人しかいないからね。道場もいらないし、ジムに行けばそれで済むし。選手借りてギャラ払えばいいから。この方が気楽だと思うんだよ。今度は小さい会場でしかやらないし。

――堅実に興行をやりつつ、あとはお店で稼いでいく、と（笑）。フリーで他団体には参戦するんですよね。

ナガサキ　そうだね。今はフリーの人いっぱいいるでしょ。

――とりあえず、無駄金はかけない。それがSWSの反省ですか？（笑）。

ナガサキ　そうだね。俺がなぜ東京でやらなかったかというと、小田原の方が知ってる人が多いから。本当は焼き肉屋を

目を開けたまま、かなり危険な状態でKOされてしまったナガサキ。打撃に対して相撲式の無防備なタックルが、災いした。これを見た格闘技側の人々がプロレスラーを軽視しだすターニング・ポイント的な一戦だった。

マルコ・ポーロに勝てるレスラーはアメリカにいるんじゃないかな？

やろうと思ってたんだけど、店作って、維持していくのに経費がかかるからね。

——お店は大日本を離脱する前に始めたんですか？

ナガサキ そう。

——そろそろ大日本辞めようかなという保険でスナックを始めたわけじゃなくて、偶然だったんですか？

ナガサキ 偶然。まあ、色々あってね。

——順調ですか？

ナガサキ まあまあだね。

——料理はご夫婦で作って。

ナガサキ 出来るものはね。ちゃんことかさ。

——やっぱりナガサキさんも唄ったりとかするんですか(笑)？

ナガサキ 歌は毎日練習してる。唄っていくか？

——いやいや(笑)。谷口選手は毎日来てるんですか？

ナガサキ うん、毎日ね。

——じゃあ、ホステスみたいな感じで横に着いたりする、と(笑)。あっ、プロレスちゃんこなんてあるんですか。ちなみにおいくらですか？

ナガサキの妻 予算に合わせてコース組みますよ。

ナガサキ 飯食ってく？

——あっ、恐縮です。最後に、高田選手がマルコ・ファス選手に教わった技術で10月11日にヒクソンと闘うんですけど、結果はどうなると思いますか？

ナガサキ 高田負けるんじゃないかな？すぐには覚えられないよ。試合経験積まないと。

——興味はありますか？

ナガサキ うん、あるよ。こないだテレビ見て知ったんだけどさ。

——それで初めて知りましたか(笑)。

ナガサキ うん。ヒクソンの方が凄くいい環境にいるしね。いいジムも持ってるし、スポンサーもいるし、金も持ってる。マルコの方はホント、きったねえ道場だしね。館長はいい人なんだけど。お爺さんなんだよ。

——たとえば、マルコとかヒクソンに勝てるプロレスラーはいるんですかね。

ナガサキ いるでしょ、アメリカに。

——あっ、日本じゃないんですか？

ナガサキ 日本じゃいない。

——いない(笑)。それは根本的な体力の問題なんですね？

ナガサキ 力が強いから。全然違うよ。

——日本人じゃ駄目なんですね(笑)。どうもありがとうございました。

【98年10月6日、小田原のスナック・ケンドーにて収録】

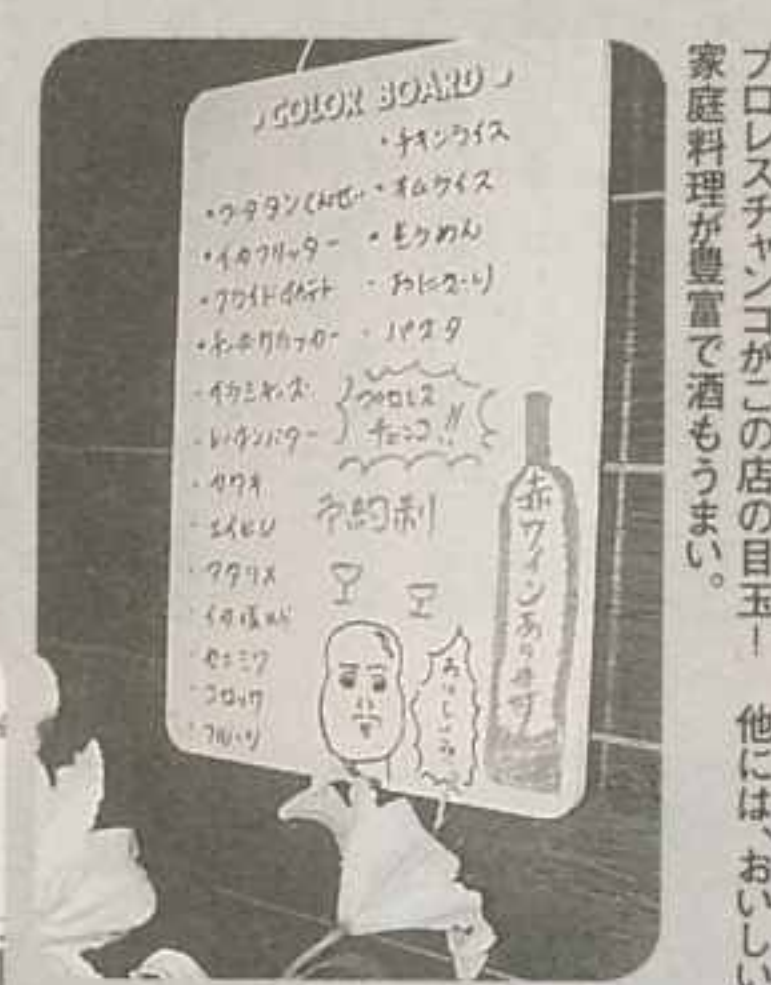
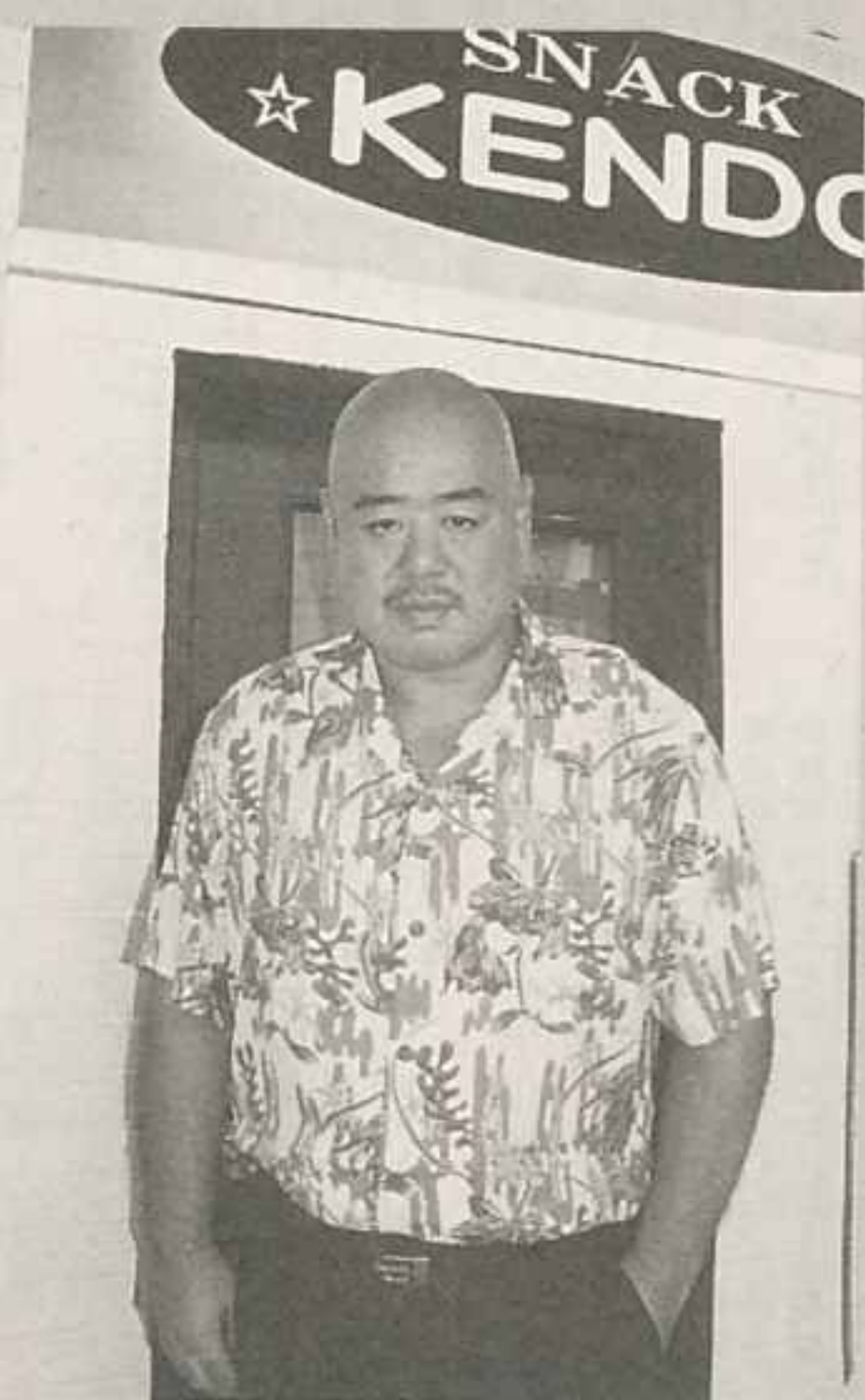
■インタビュー後記：PRIDE.4で、アレクが激勝して日本人でも、おんぼろジムで練習してても、金はなくても、強くなれることを証明した。

スナック・ケンドーへ行こう！

プロレスチャンコがこの店の目玉！　他には、おいしい家庭料理が豊富で酒もうまい。

シェイカーを振るうバーテン小学生・たにぐちゆういちクン。

国道1号線沿いにあるピンク色のこの看板が目印。

店を取り仕切るドラゴン・マスターことケンドー・ナガサキ

【スナック・ケンドー】
神奈川県小田原市城東3-21-16
TEL0426-25-9871
営業時間
19:00〜翌2:00

STRAIGHT AND STRONG
SWS

ケンドー・イズ・バック！　NEW　NOWプロレス旗揚げ興行のお知らせ！

小田原市川東タウンセンター
10月31日(土)
17:00スタート
お問い合わせ
NEW NOW プロレス
044-932-0248

ケンドー・ナガサキ&たにぐちゆういち
vs
谷津嘉章&高智政光
死神&加藤茂郎
vs
折原昌夫&小野武志

その他IWA JAPANの若手精鋭軍団が集結。
この試合が終わったら10月も、もう終わっていい

『紙プロ』読者的にはたまらないメンツが大集合のNEW NOWの旗揚げ戦。ゴツゴツとしたプロレスの原点を見せてくれそうなケンドーvs谷津のからみは要注意だ!! 小田原へレッツ・ゴー！

・みんな、読みづらくってごめんね。実はもうちょっとなんとかするよ。次もやらしてくれるかなぁって。ジャイジャイ。

・[illegible]字らなかったもん。

ジャイジャイ日記

10月4日　今日は、DDTの大田区大会に行きました。「ファン感謝デー」ってコトで入場料も安く、おまけに好カード続出。出し惜しみしないDDTに感謝って、今日はファンがDDTに感謝する日？・
次回は11月17日、北沢タウンホール大会。この日以降、プロレス団体はタウンホール使えなくなっちゃうんだって。格闘技団体ならいいんだって。ヘンなの。せっかく月イチペースのタウンホール大会が浸透してきたのに、ここにきて使えなくなるなんてヒドい!!
でもね、今DDTは頑張って署名を集めてるのでみんなで協力しましょう。
そしてもう一コヒドいことが。何かというと二瓶組!! ジャイ子ね、売店でグッズ買ったんだよ。なのに幻（ニックネーム・マボマボ。193cmの大男）は突然、カカト落しするわ、組長はセクハラするわ何なのよ!! ジャイ子が100円ライター2個しか買わなかったのが気に入らないのかなぁ。あとね、お客さんに「すいません、二瓶組のダイアナさんですか」って聞かれた。確かに可愛いトコは似てるんだけど、ジャイ子の方が大きいもん。ダイアナはもう二瓶組の人じゃないしね。失礼しちゃうよ。ジャイジャイ

二瓶組長（ブート版）
組長はかっこいいスーツいつも着てるの。

こんなダイアナいるかよ
180cm

━今日のベストバウト━
タノムサク鳥羽 vs アジアン・クーガー

10月5日　今日はバトラーツの後楽園大会。ジャイ子は売店で「納プロ」売子係だったの。ジャイ子、売店大好き♥ アイスも大好き♥ 売店にはジャイ子大好きっ子たちが集まってきて、ジャイ子、大忙しだったよ。あとね、コソコソ「ジャイ子だ」って笑ってた女!! 聞こえてんだよ、コラ。

・10月5日の後楽園では、アレクさんにも「調子にのるな」と怒られた。ジャイジャイ

・10月21日A.M4:00 山口昇が突然叫んだ。「今日からオレを機長と呼べ!!」

まあ、その程度のことで怒るような小さいジャイ子じゃないからね。許す。そんな女子も含めてみなさん、11月23日、両国でまた会いましょう。
今日は会場を歩いてたら、小野選手に蹴られちゃった。ジャイ子歩いてただけなのに。さては、ジャイ子にホの字だね？ ジャイジャイ

デンジャー
黒髪バージョン

━今日のベストバウト━
石川雄規 vs 松永光弘（セコンド込）

10月6日　編集部でお留守番してたら、アレクさんが遊びに来てくれた。これからサムライに出るんだって。一緒にたこんがりショコラ（ジャイ子の主食）を食べながらお話ししたよ。
プライドの5日前だっていうのにジャイ子、フライドポテトの話ばっかりしちゃった。だって緊張しちゃうんだもん。
日明兄さんの引退試合の相手がカレリンだと知ったアレクさんは、ちょっとうらやましそうでした。生写真とポスターも欲しがってたし。

・今回は、いつもに増してギリギリの入稿作業。そこで山口昇が思いついたのがこのページ。今日中に作れ!!って言われてもねぇ。ジャイジャイ

●ジャイ子プチ情報・ジャイ子の名付け親は島田レフェリーなんだよ。ジャイジャイ。

●10・11前夜、興奮した山口日昇はジャイ子にお説教。男女の肉体関係について朝7時まで語り続けました。隣にいたカタブツ君はもちろん大はしゃぎ。テープに録音までしてた。

でも、みんなカレリンて知ってた？ジャイ子知らなかったんだけど凄い人だったの。

プチプロフィール
オリンピック3回連続優勝、ヨーロッパ選手権大会10回連続優勝、ロシア人

うちに帰ってテレビつけたら、アレクさんがでてた。なんかインな感じ。

カレリン、ねじれてるよ。

名前がかわいいよね カレリン。ジャイ子リンってどう？

10月7日

アルシオンの後楽園大会に行った。今日からタッグリーグが始まったの。久々に見た矢樹選手(ダンナは結婚して1年で30kg太ったんだって)は、とても楽しそうに試合してたよ。アルシオンのタッグマッチって、カットプレーが禁止なの。でも2人攻撃はOKなの。OKなんだけどレフェリーは注意するの。どうなってんの？・ジャイジャイ。

━今日のベストバウト━
アジャ・コング VS エステル・モレノ

タイガードリームの失敗作

ガオー

決勝は12.7後楽園だガオー

●みんなは初対面の人を蹴りますか？・ジャイ子はそんなことしたことない。でもみーーんなジャイ子のコト、蹴ってる。どうして？・ジャイ子かわいいのに。ジャイジャイ。

10月10日

今日はL-1。試合前後、会場でアンケートを取りました。ジャイ子を励ましてくれる優しい読者の人にも会えたよ。ジャイ子、がんばろう、と思ったら分後、両国のマス席に土足で上がりこんだ坂井ノブにボコボコにされた。ちょっとモノマネしただけじゃん。30発程蹴られたけどガマン。いつか来る復讐のチャンスを待つよ。それまでブクブク太ってろ、ボケ！と、思いつつもノブの後輩のジャイ子は、ノブに従わなきゃならないの。コメントスペースにいたら、どんどん試合が終わっちゃうし。結局、3試合しか見れなかったよ。

━今日のベストバウト━
神取忍 VS グンダレンコ・スベトラーナ

ホントにデカい！

この人、普段も柔道着着てるらしいね。

10月11日

とうとうこの日が来てしまいました。編集部一同興奮してます。今日も、試合前後にアンケートを取りました。協力してくれた人、お手伝いしてくれた人、どうもありがとう。

ジャイ子が会場に入ったら、興奮したノブにボコボコにされた。東京ドームでこんな目にあうなんて。いつか殺す。

それにしても今日のアレクさんはステキだった。こんなにいい時間を過ごさせてくれたアレクサンダー大塚選手に心から感謝します。本当にありがとうございました。

━今日のベストバウト━
アレクサンダー大塚 VS マルコ・ファス

んむはぁ
両国はモハと組んでロードウォリアーズと闘います！

ダイエットブッチャー！

10月13日

浅草キッドの取材に同行。キッド大好きっ子のジャイ子はドキドキ♥ だって、ジャイ子ね、キッドのラジオで「紙プロ」知ったの。いわば恩人なんですよ。もちろん小心者のジャイ子はそんな事キッドに言えなかったけどね。

夜はキングダムの北沢大会へ。身長はジャイ子の半分だけど鈴木健ちゃんとジャイ子はマブダチ。

●ジャイ子の髪型がとっても不評。というワケでジャイ子の新しい髪型を募集します！宛先はプレゼントと一緒。よろしく。ジャイジャイ

小さい会場ながらも無理矢理派手な照明を使うところに鈴木イズムを見たね。マブダチ情報によると、12月11日に富山市体育館で「YDREAM」なるイベントをやるとの事。安生、中野、藤原組長も出るんだって。でも何故富山？。今日も会場で片岡選手(今日は本名で参加のマボマボ)に蹴られ、二瓶組長には、「二瓶組の性処理係をやれ」と言われる。そんな意地悪ばっかしてさ、本当はみんな、ジャイ子に首ったけなんじゃないの？。

マブダチ

富山ってどこにあるの？
何地方？

━今日のベストバウト━
羽鳥誠 vs 山崎りょう

10月16日

山口日昇編集長が、イギリス帰りの日明兄さんの取材に行って、お土産もらってくる。なんとチューリップとクロッカスの球根！。山口日昇はさっそくゆでて食べちゃいました。腹ペコ君だね。日明兄さんの引退試合は、来年の2月中旬なんだって。あとね、リングスの11.20大阪のカードが決まったよ。

●9.30UNW大田区大会のあと、会場近くでスーツ姿の大男に「ジャイ子さんですか」と聞かれた。読者かと思ったら、ジニアスだった。試合後までスーツ着ることないのに!!

WORLDMEGA-BATTLE TOURNAMENT
第1回FNRカップBブロック 1st ROUND

1. 坂田亘 vs 山本喧一

2. 国別対抗トーナメント1回戦(勝ち抜き戦)

・グルジア		・オーストラリア
ビターゼ・タリエル	vs	クリストファー・ヘイズマン
グロム・ザザ		ダニエル・ヒギンズ
ビターゼ・アミラン		トロイ・イッテンソン

3. 山本宜久 vs 金原弘光

4. 国別対抗トーナメント1回戦

・日本B		・ロシアB
田村潔司	vs	ニコライ・ズーエフ
高阪剛		アンドレイ・コピィロフ
成瀬昌由		バロージャ・クレメンチェフ

この表見ると、6人タッグやるのかと思っちゃうよね。せっかくだから6人タッグにすればいいのに。面白いよ」ってうっかり言っちゃったばっかりに、ブチ・ノブ・チョロの3名に腕・足、スリーパー、STFと、フルコースで極められちゃった。でもジャイ子、泣かないよ。ジャイジャイ

10月19日

ジャガー横田の引退試合が12月26日有明コロシアムに決定!!対戦相手はファン投票で決めるんだって。みんながジャイ子に投票したらどうしよう？。

10月21日

緊急情報

11.1みちプロ、幕張大会のカードが発表になったよ。

「みちのくに、まいったか！」
11月1日 14時開始 幕張メッセ イベントホール

● SASUKE
サスケ・ザ・グレート
シーマ・ノブナガ
ジュードー・スワ
スモウ・フジ
vs
スペル・デルフィン
グラン・浜田
黒石・浪花
タイガーマスク
薬師寺正人

● 新崎人生
大森隆男(全日本プロレス)
vs
本田多聞(全日本プロレス)
泉田純(全日本プロレス)

● 星川尚浩 vs ケンドー・カ・シン(新日本プロレス)
ヨネ原人 vs 初代タイガーマスク
瀬野優 vs 小野武志(サスケ組)
ビーフ・ウェリントン vs 岡本博(バトラーツ)

11月29日の全女・横浜アリーナ大会も、カード発表されてないし、もしかして、ジャイ子の出番で？。でもね、協力団体はいっぱいあるの。JWP、LLPW、FMW、アルシオン、Jd'、IWA JAPAN、バトラーツ。試合に参加するかどうかは未定なの。セレモニーにもみんながびっくりするような選手が参加予定。殿堂入りの発表もあるよ。楽しみだね、ジャイジャイ

あと、時間差バトルもあるの。出場選手は、SMレボリューション、月光、ザ・グレート・サスケ・ティが、ザ・コンビクト、獅龍2号、トイレの花子さん、リレー少年、ワイルド・シューター。他にグレートゼブラ、GKファミリーが名乗りを挙げてるんだって。でも小野選手のサスケ組ってちょっとね。もっとかっこいい名前にすればいいのに。ジャイジャイ。

●ジャイ子も ジャイ子組 つくろうかな？ 改名もして。ジャイ子なら漢字にすると、「邪戯呼」いいでしょ。

編集部がP.113の恵美ちゃんのことを書けと言ってるのに頑なに書かず、冷たい戦争を続ける反逆の"アリスト・クリ●リス"ジャイ子の「情報など皆無の情報」ページでした。こんなページは3度目どころか、2度目すらない！(編集部・注)

書評は平和ではない
書評は戦いである
武器のかわりが毒舌であるだけで
それは地上における最も激しい厳しい
自らを捨ててかからねばならない
戦いである――（ネール元インド首相の娘への手紙）

吉田文豪人生劇場

書評の星座 PART2

「『激本』の書評は最高だよ！　吉田君はプロレスのできる男だねえ」と落武者ターザンがなぜか絶賛し、『ダ・ヴィンチ』（メディアファクトリー）に掲載された「使える書評欄ベスト１２」でも、『週刊文春』や『週刊朝日』などの大物と並んで堂々ランクイン。『ダ・ヴィンチ』曰く、「書評家の個性が暴走し、パワー全開」な「独断と偏見に満ちた書評コーナー」。

格魂（小学館）

大御所『ビッグコミックスピリッツ』増刊のコアムックシリーズ第3弾。そのブランドや出ている面子、そして作り自体は結構いいのに、正直言って深みはあまりない。

まあ、この手の本に深みを求める方が酷な話なので、とりあえずはノー問題だろう。**「前田という人間は、家に人が来てもお茶一つ出さないような人間だ」**とターザンに書かれたことをいまも根に持ってたり、**「ヒクソンが400戦無敗？　ストリートファイトも入れていいなら、俺なんか2000戦無敗いくで、ホンマ」**とゴチャゴチャ言い張る前田に関しては抜群に面白いのだから。

ところが、だ。**「僕（Ｓｈｏｗ）」**だの**「著者はＳｈｏｗなる謎の人物」**だのという不快な単語が踊っている辺りから不安感は一気に高まっていくのだが、やっぱりＳｈｏｗ氏がリングス勢とパンクラス勢を取材している部分は問題ありまくりなのである。

たとえば高阪の場合。**「結局、『アメリカで新生"U系"を』と明言はしなかったが、高阪は心の中でそう断言していることは間違いない」**などと本人が口にしてもいないことをインタビューの締めで使うのはどうかと思うね、ボクは。これはＳｈｏｗ氏が『別冊アサヒ芸能』で行った高田インタビューも同様なのだが、こっちの締めは「高田の顔には『20世紀は二度も終わらせられないよ』と書いてあった気がした」なのだ。

ＫＲＳの広告では「この試合を見終わったら20世紀は終わっていい」と書いていただけなのでそこに高田の勝敗は一切関係ないわけだし、そもそも20世紀なんてまだ終わっちゃいねえんですよ、ズバリ言って。

結局、寝言は寝て言え！　なのである。

T多重ウェイブ（Ｓｈｏｗ／スコラ）

そういうわけで、こちらは問題のＳｈｏｗ氏が作った『U多重アリバイ』の第2弾。ヒクソン戦を前にしてすっかり勢いに乗っていた高田（ボクが前号掲載の「馬場は抹殺」インタビューに先駆けて『ｓｍａｒｔ』誌で行ったインタビューでは、「馬場って人間なの？　人類？」とまで言い切った挙げ句、その後は「アッポー」と呼び始める始末。最高）を軸に据えて、猪木や前田との対談まで収録するという誰がやっても確実に面白くなるはずの構成ながらも、やっぱり思いっきり肩すかししてくれる一冊である。

インタビュー中にいきなり鼻歌を歌いだしたり、謎の選挙出馬は悪い方の鈴木健ちゃんと安生のアイディアだったことも告白したりと、高田自身は抜群に面白いのだから、やっぱり問題はＳｈｏｗ氏にあるのだ。

それは『U多重アリバイ』に対して**「それぞれのインタビューなり対談の内容が深くないね。イマイチつまんない」**とズバリ言い切り、**「『料理の鉄人』は料理のバーリ・トゥードだ」**と主張する元・Uインターの頭脳というか現・シェフの宮戸優光氏なら、きっとわかってくれることと思う。

いや、『格魂』での高阪インタビュー同様、「船木と会ったから"U"再編だ」と無闇に浮かれまくるＳｈｏｗ氏に、**「なんで『"U"再編』っていうのかねぇ？　そのいい方はおかしいよ」**とたしなめた高田や、高田と船木のツーショット実現でやっぱり浮かれるＳｈｏｗ氏に**「よくあることじゃないですか」**と答えた桜庭もわかっているはずだ。

Ｓｈｏｗ氏は本書のまえがき部分で**「ドン底からはい上がろうとする姿を、高田延彦だけの問題としてはいけない。日本のマット界は、10・11の敗戦があろうとなかろうと、一度ドン底を見る必要があったのだ」**などと一見、熱いことを書いてはいる。

それは確かに正論なんだが、去年の10・11で高田がリングに向かうだけで思わず泣き、業界的には当然の出来事だった高田の敗戦に心から落ち込んでいたボクや山口日昇に対して、「なんでそんなに落ち込んでるんですか？　こんなの僕の知ってる『紙プロ』じゃないですよ」などと言い放って我々を怒らせているのは誰なのか。え？

そう、Ｓｈｏｗ氏だったのである。

彼氏、今年は高田の敗戦で号泣していたのだが、ボクに言わせりゃ1年遅すぎる。

しかもアレクの試合には全く興味がないのでろくに観ていなかったというからお話にならない。プロレスマスコミ失格である。

その点、高田は**「プロレスファン上がりのプロレスマスコミが、いつのまにかプロレス批判をしだして自分の正当性を主張して、スポーツライターになっていく」**と、非常に素晴らしいことを言っている。

そして、似たようなことを普段は全く熱さを感じさせない二人が熱く語っていたりしているのも、個人的には嬉しい限りだ。

「そういうところにシャシャリ出る格闘技側の発想っていうのは、ボクも一番ムカつくよね！　身も蓋もない世界で高田vsヒクソンを説明するヤツ」（サダハルンバ谷川）

「『格闘技通信』は読者を洗脳してますよね。最初はみんなプロレスファンとして影響を受けたから、この世界に入ったわけでしょう。親に刃物を突き立てているようなものですよね……」（桜庭和志）

これは、かつてパンクラスにしか熱中できず、他団体の話をしていても「あれってシュートじゃないんでしょ？」といったクソくだらない一言で終わらせていたＳｈｏｗ氏にも非常に通じる問題なのだが、どうやら本人はそこに気付いていないようである。

本書によると、Ｓｈｏｗ氏がリングスや高田道場に行くと**「パンクラスの回し者が来た」**と言われるそうだ。そこで**「でも、決してパンクラスでも歓迎されてるわけじゃないですからね。正常なマスコミの人間だと思いますよ。そう考えると、結局はマスコミって団体とか道場に居場所がない人のことを言うんじゃないですか？」**と語るＳｈｏｗの主張もやっぱり正論だが、これは道場でちゃんこを御馳走になったり、パンクラスに50万円払ってジムの永久会員になった男の言うべき台詞ではないだろう。

団体に居場所のないウチと、道場でちゃんこを喰うターザンの影響を受けるのはいいが、どうにも食い合わせが悪すぎるのだ。

確かに高田夫人・向井亜紀の独占手記なんかは最高に面白い。だが、そこでレフェリングやルールミーティングの問題が何度も叩かれているのというのに、島田レフェリーに直接話を聞いて検証しないというのは片手落ちの一言でしかないのである。

それだけではない。よりによって9・14のガイ・メッツァー戦で全く攻めきれず時間切れで判定敗けという試合をしでかしてしまった柳澤のインタビューを、**「俺のルッテン戦くらいインパクトのある試合になるでしょうね。これが最後のチャンスかもしれないですよ」**という船木のコメント付きで最後に載せている構成もまた、どうにも締まりが悪すぎなのだ。

「自信あります」「キッチリしたかたちで勝たないと、KOかギブアップで」「勝った後のスピーチも考えている」と、いま読むのはチトつらい（浜部調）ことを柳澤が豪語しているのを、カラスの勝手とばかりに無視するわけにもいかないのである（浜部調）。

新・馬場派プロレス宣言
（栃内良／小学館文庫）

プロレス界では数少ない、コクがあって読ませる文章の書ける男。それが『週プロ』初期の頃には杉山編集長の代わりに巻頭記事も執筆していたという栃内良先生である。

あの天才・テリー伊藤までもが**「男の人生には、いくら追いかけても追いつけない男が、ひとりくらいはいるものだ。私、テリー伊藤にとって、この文庫の著者・栃内良氏は、間違いなくそんな男と言っていいだろう」**などと本書の解説で最大限の賛辞を送っていることからも、栃内先生の凄さはきっとわかっていただけることと思う。

これは、そんな栃内先生の代表作というべき名著『馬場派プロレス宣言』（白夜書房）と『馬場さんが、目にしみる』（飛鳥新社）をカップリングした文庫版なのだが、テリー伊藤に言わせれば**「これはリンダ・マッカートニーの棺の前で行われたビートルズの再結成に匹敵する歴史的な出来事」**とのこと。それは大袈裟かもしれないが、確かに内容も値段も文句なしの一冊である。

ちなみにカバーイラストは巨匠・河口仁先生だ。わ〜い、わ〜い。プロレスの神様、ありがと〜っ（河口フレーズ二連発）！

闘魂ふたり旅・夢のみちづれ奇跡の真実
（永島勝司／いれぶん社）

イラクとソ連での新日興行をテーマとした『闘魂二人三脚』（朝文社）に、『紙のプロレス』本誌17号掲載の猪木&永島対談やら、引退前後のエピソードやらを大幅に追加収録した、演歌チックなタイトルの一冊。

平成の猪木番・木村光一君の編集によって、対談から「トニー（アントニオ）がホームに行ったらトニー・ホーム！」「アリには非常にアリがとう」「国家コーラ、なんってな、ダハハハハハ！」などの爆発的なアントンギャグが全て抹殺されてしまったのは非常に残念だが、未知の猪木情報が満載されているだけでボクは許すね、実際。

たとえば1978年頃、東スポ記者時代の永島氏は猪木に突然こう言われたという。**「新聞を作らないか？　いや実はかねがね自分で新聞を持ちたいと思っていたんだけど、ちょうどいい話があってね」**、と。

ところが猪木は新聞ではなくアントンハイセルに熱中したため計画はあっさり頓挫してしまったのだが、自分の新聞を持とうとする心意気自体、さすがであろう。結局は新聞ではなく新聞を持つことになるんだが。

それから話は飛んで、引退試合の場合。**「実をいえば、猪木の引退試合の対戦相手として、真っ先に手を挙げたのは藤波辰爾」**だったのだが、キラーモードの**「猪木は即座にきっぱり、ノーと言い切った」**というのだ。永島氏曰く、**「藤波の落胆の様子は忘れられない」**とのことである。それにしても藤波の人生って、つくづくこんなことばかり。「こんな会社、辞めてやる！」と叫びたくなる気持ちもわかるというものだろう。

そうして藤波戦を拒否した猪木が始めたのが世界格闘技連盟UFOというわけなのだが、その理念をキミは御存知だろうか？

先日、『週刊プレイボーイ』誌上で佐山が「ガチガチの真剣勝負とは全然違います」「本当の真剣勝負は興行にすべきではない」「膠着するような試合をする選手は以後リングに上げないという項目もルールに入れる」などと身も蓋もない無茶な説明をしていたものなのだが、真実はこういうことらしい。

「『いつ、なんどき、誰の挑戦でも受ける』という猪木の信念を、新日本プロレスは決して忘れてはいない。だが時代が変わってきていることもまた確かで、のべつまくなしに挑戦を受けるわけにもいかなくなっている。それになにより、長州のポリシーと、プロレスを明るく楽しむようになったファン気質が一致し、磐石ともいえる新日本プロレスの世界が完成していることが大きかった。ならばその一部を取り出し『いつでもやってやる』という組織を作ればいいと猪木は考えた」というのである！

これだけでもUFO幻想が一気に膨らみまくるというものなのだが、個人的に最もファンタジーを感じたのは**「いざというとき頼りになるのがマサ」**なる一言であった。

やっぱりそうだったのか、マサ！

獣神サンダーライガー 肉体改造塾
（獣神サンダーライガー／アスペクト）

旧『紙プロ』的には「番頭さん」名義で活動していた李春成プロデューサーが、「かつてアポロ菅原が菊池孝さんのレスラーの食事に関するレポートを楽しみにしていたように、躰の大きさに悩んでいる子供たちに多少なりとも夢を与えられるのではないか」（本に添付していた手紙より）という思いで作り上げた、ライガー流の肉体改造本。

このジャンルでは**「イギリスでもよくヌンチャクを振り回していた」**（本書より）という『燃えよドラゴン』好きの船木、そして藤波というダブルドラゴンに続いての登場となるわけだが、船木とライガーは骨法繋がり、藤波とライガーはドラゴン・ボンバーズ繋がりなのだから不思議な縁である。

内容的には、船木チックにイギリスでのステロイド経験をカミングアウトしていたりもするのもポイントではあるだろう。

だが、個人的にシビレを感じたのは藤田和之君が頭を打ってレントゲンを撮った際、**「普通の人間よりも頭蓋骨がそうとう厚い」「類人猿の骨と匹敵する厚さ」**だと医者に言われたという夢が膨らみまくるエピソードであった。さすがデビュー二戦目の時点でこのボクが「好きなレスラーは新日の藤田君」と別冊宝島で答えただけの男だろう。

藤田とカ・シンがいる限り、やっぱり新日は永遠にストロング・スタイルなのである。

格闘技&プロレス "栄枯盛衰"物語
（オフサイド・ブックス編集部／彩流社）

これまた『プロレス激本』同様、**「本書はいわゆる業界本ではない」**という外からのスタンスで作られた一冊。ただし『激本』との大きな違いは、向こうが噛み付くために外側に居るとすれば、こっちは外側に居すぎて現実が全く見えていないというか。

要するに、**「80年代まで25歳で引退という不文律が女子プロ界を覆っていたが、ブル中野がその壁を破り活躍しつづけたため、いったん引退したかつての女王たち、ジャガー横田、デビル雅美、長与千種、ライオネス飛鳥らがマットに復帰」**（文／城戸朱理）などのあからさまな事実誤認や、10年ぐらい前の資料で書いてるようなレベルのネタばかりなのである。（ちなみに25歳定年はミミ萩原やダンプ松本などの先輩たちも多数破っているし、デビルは定年直後からフリーとして活動していたのだから、なにもブルに便乗して復帰を決めたわけではない）。

まあ、こういった業界外ならではの情報不足は大目に見るとしよう。しかし、業界内に居ながらもタチの悪いことを書き殴る輩だけは、ちょっと許し難いのである。

それは要するに、熱狂的プロレスファンとして『週刊ゴング』に参加しておきながらも、やがて『ゴング格闘技』へと移動したらすっかり反プロレス野郎になった近藤隆夫君のことに他ならないわけなんだが。

「もっともニュートラルなルールはやはりノールール、つまりはバーリ・トゥードなのだ。プロレスのリングで戦えば……などという戯言はいい加減やめてもらいたい」「たとえれば、『土曜ワイド劇場』が観たいと思えば、プロレス会場へ行けばいい。ノンフィクションを、ドキュメンタリーを観たければおのずとバーリ・トゥード・ファイトを直視することになる」

本書でもこんなことを言い出す近藤君は、まさしく「プロレスファン上がりのプロレスマスコミが、いつのまにかプロレス批判をしだして自分の正当性を主張して、スポーツライターになっていく」という高田の主張通りの洗脳野郎であろう。なにしろコンプレックス丸出しで呑気に**「スポーツジャーナリスト」**を名乗ってるぐらいだし。

ちなみにボクは男として最も潔い肩書「プロレス評論家」を一部雑誌などで勝手に名乗らせていただいているのだが、アレクの劇的勝利にすっかり言葉を失っていたプライド解説者の近藤君には心から「さまあみろ！」（小島聡&石川雄規調）の一言を贈るとしよう。ついでに、「そういうところにシャシャリ出る格闘技側の発想は一番ムカつくよね！」（サダハルンバ谷川調）の一言も。

なお、猪木が引退試合の花道を歩いているときに考えていたのも、『週刊文春』によると「何に対してってわけじゃないけど、ざまあみろ！」だったのだそうだ。石川社長は、やっぱり猪木イズム継承者なのである。

必読連載第11回

石川雄規の『闘いの美術館』

あるいは「プロレスラーになった頃」

地図を片手に東武鉄道浅草駅を降りると、下町独特の人込みと喧噪に包まれた。

浅草は学生時代からとても好きな街だった。隅田川沿いの言問通りには靴問屋が並び、川辺には公園と遊歩道が伸びている。この辺一帯は花川戸という住所で、隅田川の花火大会ではメインとなる場所である。空中氏から渡された住所を頼りに15分程歩くと、小綺麗なマンションにたどり着いた。今戸2丁目。私のプロレスラーとしての第一歩はこの場所から始まった。1991年2月、23歳の誕生日を迎えた直後のことであった。

フロリダ修行から帰ってからの私は空中氏と連絡を取りながら、プロレス入りの機会を窺っていた。空中氏は当時UWFのレフェリーをしており、私にUWF入りを勧めてくださった。ただ、空中氏いわく「もう少し待ってくれ。実は今、UWFは内部でゴチャゴチャしておって大変なんや。多分年明けくらいにはけりがつくとは思うけどな」私には一体何のことなのかわからなかったけれど、とりあえずアルバイトとトレーニングを続け、その〝時〟を待つことにした。

UWF三派分裂。そのショッキングな出来事がプロレス誌面を賑わした頃。空中氏は私を連れて埼玉県川口市の植木屋を訪れていた。行く先を知らされず、ただ指示通りに車を走らせた私は何ゆえ植木屋なのか不思議に思ったのだが、そこにたたずみ植木を物色している大きな人物を見て驚き、そして事の次第を理解した。その人は黒のウインドブレーカーを着ており、その背中に描かれたUWFの文字はマジックで黒く塗りつぶされていた。藤原喜明氏。後の師匠藤原組長との出会いは、なんと植木屋だった。そして組長の家に行き、そこで藤原組の結成を知らされ、新弟子としての入門の内定をもらった。もちろん、後日おこなわれる入門テストに受かったらのことではあったが。

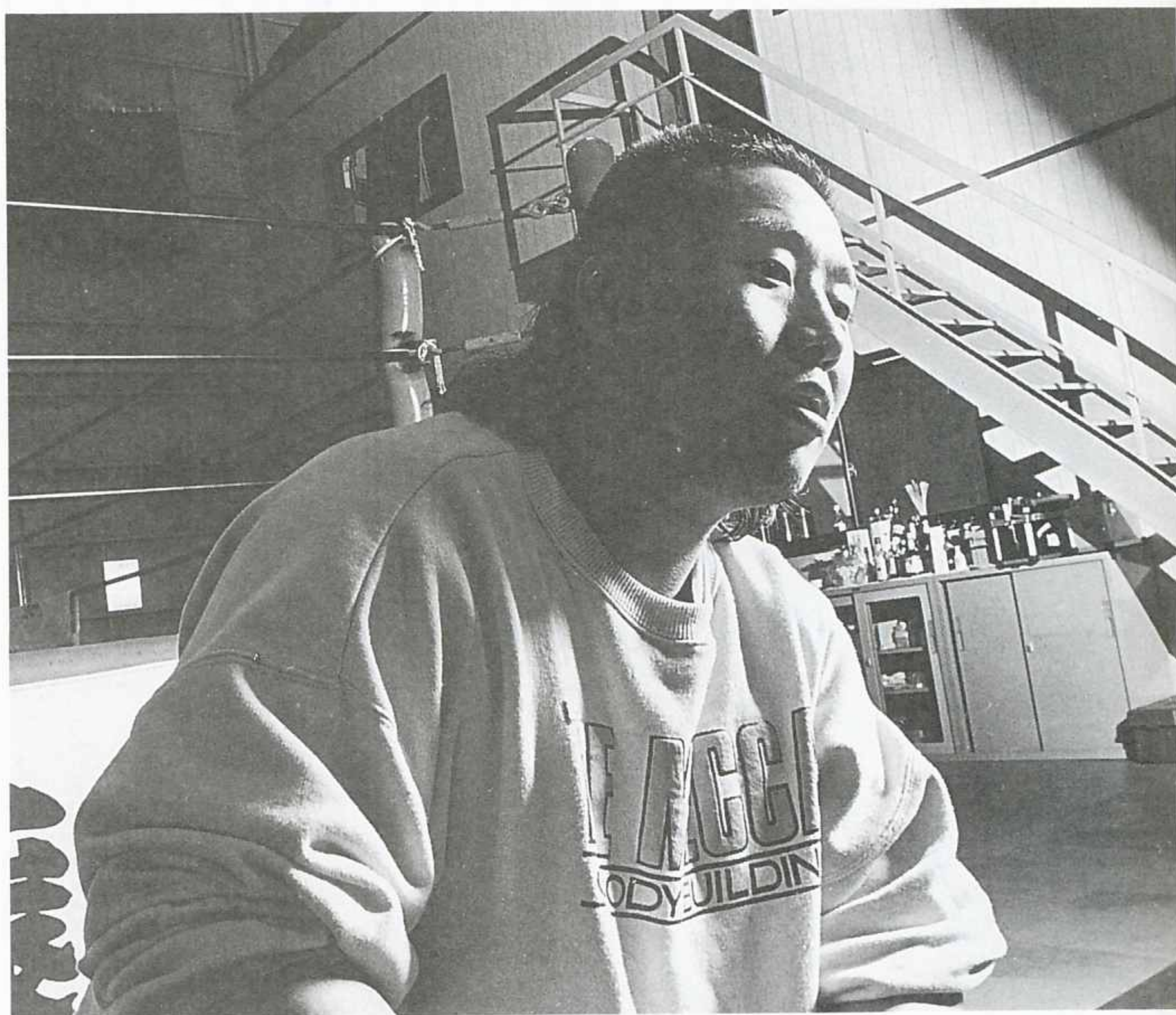
足立区の南花畑にある大きな倉庫がプロフェショナルレスリング藤原組の道場であった。初めて道場を訪れた日、同じ日に臼田（勝美）と内藤（恒仁※）がやはりテストを受けに訪れていた。緊張の中、練習が始まった。テストというよりも、いきなりプロの先輩達との合同練習であった。どうやら練習についてこれるかどうか自体がテストらしい。基礎トレーニングは私の得意とする分野なのでとりあえず無難にクリアした。そしていよいよスパーリングが始まった。私の相手は船木誠勝さんであった。まる1時間、手も足も出ない状態で全身関節技で極められまくった。桁外れの強さに感動と恐怖を感じた。とにかく殺されない為に動かなければならない。動かなければ永遠に地獄の苦しみを味わうことになる。しかし、動き続ける事もまた苛酷な試練であるのだ。

ようやく地獄から解放され、練習は終了した。翌日内藤の姿は無く、臼田と二人で再び練習に参加した。日替わりで藤原組長、船木さん、鈴木みのるさんに稽古をつけて頂いた。1時間のスパーリングは永遠に感じられるほど長く、辛かった。しかし一度もやめようとは思わなかった。なぜなら私は「猪木さんに会う迄は死んでも死にきれない」本気でそう思っていたからである。

2週間程して髙橋和生（現・義生）が大学の卒業を待って入門してきた。日大レスリング部出身の彼は、部活動を引退したブランクで当時体重は100kgを越えていた。しかし、ゴッチ教室でしごかれ減量を果たした後、抜群のレスリングセンス故に、数カ月後、異例のスピードでデビューを果たすのであった。石川、臼田、髙橋に続いて、ある日、学生服を着た長身の高校生が道場にやって来た。格闘技経験なし、ボート部に在籍していたという青森県出身の彼の名は柳澤龍志、当時18歳であった。

藤原組結成当時は、カール・ゴッチさんがコーチとして来日しており、今戸のワンルームマンションで我々新弟子と共に生活をしていた。一緒に銭湯へ通い、ゴッチさんの部屋に集まっては焼酎を呑んだ。そして全身の筋肉痛に悩まされる柳澤は、ほおっておけばいいものを、湿布やらエアーサロンパスやらを全身に塗りたくっては、ゴッチさんに「そんなものをつけるな、くさい、くさい」と言われ、いつもベランダに追い出されていた。そんな柳澤は何故か知らないけれどゴッチさんに〝アジ〟というニックネームをつけられていた。ちなみに髙橋は、あまりに形の良い頭故に〝アップルヘッド（リンゴノアタマ）〟と呼ばれていた。

朝から晩まで練習に明け暮れ、いつもボロボロになった体を引きずりながら帰った浅草の寮。柳澤は入門当初、いつも「もうやめる」と呟いていた。私はやめようとは思わなかったけれど、明日が憂鬱になったことも数知れなかった。臼田は残念ながらやめてしまったけれど、「もう一日、もう一日」そう支え合って暮らした浅草の寮は、我々にとってかけがえのない〝ホーム・スウィート・ホーム〟であった。浅草から足立区の花畑まで、約1時間かけて自転車で通った時期もあった。髙橋は週に一日だけ大学に通い、残りの授業を受けていたので、

「猪木さんに会う迄は死んでも死にきれない」私は本気でそう思っていた

なんと浅草から水道橋、そこから足立区まで自転車で通うという快挙もみせてくれた。辛いけれど、なんとも懐かしく忘れられない思い出の日々であった。

月に一回、外人選手と一緒に日本にやってくる空中さんに会えるのがとても楽しみだった。鞄に一杯バギーパンツをつめて持って来ては、選手に売って商売をしていた。でもたまに「全然売れへんかった……。重いで、コレ……」そう言って在庫を抱えて寂しそうに帰って行くこともあった。空中さんは時差ボケがひどく、いつもつきあわされる。二人で一緒に朝7時前から浅草のデニーズの店の前で開くのを待っていたりするのはいつもの事であった。

「石川、石川……」空中さんは何かにつけて私をかわいがってくれた。日本にいる時はいつも一緒だった。空中さんは組長と若い選手達の意思の疎通の交通整理役であったり、マネージメントであったり、大忙しで動き回っていた。今となっては、当時藤原組が順調に機能したのも、そんな空中さんあってこその事ではないかと思えるのだ。入門から1年2ヶ月が過ぎ、92年4月、東京体育館でデビューが決定した。その頃、マレンコ道場に留学していた島田裕二が、レフェリーとして空中さんに連れられて藤原組にやってきた。結果として、まるでそれが自分の跡継ぎを用意する様な形になったのも、もしかしたら何か運命的な予感があったのであろうか。思えば空中さんの健康状態が目立って悪くなって来たのもちょうどこの頃だった。

空中さんは以前から脳腫瘍のようなものに悩まされていた。昔アメリカで流れ弾を受けてしまい、その破片が体内に残っている為、強力な磁気を使用するMR―I等使えず、充分な検査や治療ができないまま、薬で抑えていた。詳しい事情はわからないけれど、大筋はそんなところらしい。結果的に、私は空中さんに2試合しか見せることができず、島田のレフェリーデビューの時が空中さんの最後の来日となってしまった。

その日の明け方、とても不思議な夢をみた。雲一つない青空に、真っ白な、らせん階段が遥か高い天にむかってずっと伸びている。そして自分はその階段を昇っているのだ。一歩一歩昇っていると、どこからともなく「ほな、おやすみ」という聞き覚えのある大阪弁が聞こえた。私は「えっ？」と言って足をとめて振り返ってみたけれど、そこにはだれもいなかった。「空中さん？」そう思った瞬間、目が覚めた。そして気づくと枕元の電話の呼び出し音が鳴っていた。時計を見ると朝5時、いやな予感を感じつつ受話器をとった。（つづく）

※内藤恒仁。第二次UWFマットに一度だけ上がり、中野龍雄の強烈なシャチホコ固めで破れている。現在はセッド・ジニアス率いるUNWマットに上がり、現代版カール・ゴッチとして活躍している。

最強最後のレスラー降臨!!

本格格闘プロレス小説

無比人

虚構と現実が交錯する

壮大な格闘ロマン

Muhito

Illustration/中川雅博

【前号までのあらすじ】
闘う宿命を背負って生をうけた男・万無比人。その資質に惚れ込んだプロレス専門誌発行人の千堂は、無比人を強引にプロレス界へと引きずり込んだ──。
シュートマッチを含め連戦連勝を続ける無比人は、プロレスの強さを満天下に示すため、新たに異種格闘技戦路線へと狙いを定めた。無比人は、小川直也、マンソン・ギブソン、的場毅一郎、〝プライド3〟でブランコ・シカティックらと闘い戦果を重ねていった。シカティック戦から数週間後、万無比人に宛てて一枚の果たし状が送られてきた──。

(28)

青コーナーからダーク・ジャガーが上がった。

黒豹のマスクに同じ素材のマント、パンツとコーディネートされたさまがなんとも陰鬱で禍々しい。やはり同色のリングシューズを着けていた。

少しの間を置いて、赤コーナーからは〝ダイオキシン〟ことグレート・沖。両者がリング上に見えるのを待って、放送席でアナウンサーがマイクへ顔を寄せ、

「さて本日のセミファイナル！　百戦錬磨の〝ダイオキシン〟グレート・沖の沖真也にデビューのマスクマン、ダーク・ジャガーがどこまで食い下がりますか？」

と打ち上げた。

八月の第二日曜。一年前の旗揚げ戦と同じ代々木第二体育館で夕刻より火蓋が切られた、ニュー東都プロレス結成一周年記念興行──その名も〝二年目突入‼〟。

千堂は青コーナーを左手前に見る最前列の席に真澄といたが、黒豹のマスクで顔を隠した無比人を仰ぎ、なにやら尻の辺りがこそばゆいような妙な気分を拭えなかった。というのも四日前の未明、多摩川の河川敷で三十人余りもの的場塾の塾生たちを物の十分もしないうちに残らず倒してのけた無比人が、──

──誤解のないように言っとくと、今日ここで諸君と野試合をしたのは万無比人に非ず、ニュー東都プロレスじゃ彼とは同期ながら未だデビューも果たしていない黒豹仮面、そう、ダーク・ジャガーだってこと。万無比人がわざわざ出るまでもないと判断し、このダーク・ジャガーが代役を買って出た、よってなお遺恨を曳きずる者がいたら彼ではなくジャガー、ダーク・ジャガーへ向けられたし。そこのところを肝に銘じて置いてもらいたい。

とマスクの下から選挙演説よろしくダーク・ジャガーの名を連呼するのを聞いて、頭隠してなんとやら、ここまで虚仮にされては相手方としても立場がないのでは、と一抹の同情を禁じ得ぬ一方で、待てよ、こいつはいけるかもと職業意識が頭を擡げ、それに衝き動かされて事を運んだせいでもあろうか。

黒豹仮面がデビューがまだなら実現させてみては、そう思い至ると千堂は翌日、

──手薄な選手層を補強するについて、一つ提案があるんだが。

ジムで無比人を掴まえて話を切り出した。

実際人材難は何処も同じで、ニュー東都プロレスにあっても練習生らをグレート嵐や竜村勇などの古参が躍起になって鍛えているにもかかわらず、なかなか有望株は育たずでマッチメークには苦労させられ続けだった。

──提案ねえ、聞かせてもらおうじゃないの。

前の夜に三十人もを敵に回したのが嘘のように、無比人の顔には擦り傷一つなく、常と渝らずあっけらかんとしていた。

──次の興行にマスクマンをデビューさせてはどうかと。

──マスクマンって、誰にどんなお面を被らせるというんだい。

──きみにだよ。

──俺？

無比人は、さすがに少しばかり驚いた表情を見せた。なにかを感じ取った目色であったが、千堂としては最後までとぼけ通すことに決めていた。

──マスクはタイガーマスクやタイガーキングの向こうを張って、豹、黒豹がいいんじゃないかね。ブラックジャガーじゃ、しかし月並みだな。もうひとつ捻ってダーク・ジャガー、リングネームはこれでいくか。

無比人を新宿で初めて見た夜、豹を連想したことがこのとき唐突に脳裡をよぎった。

そこはロッカールームで、無比人は着更えの手を止め上目ごしに千堂を見て物問いたげであったが、ややあって、

──選手層を補強する、というからには万無比人とダーク・ジャガーと二役をこなすってことなんだね、つまり。

表情を戻すと念押しするように言った。

巨匠入魂 第12回

真樹日佐夫

一人二役への興味が他に先行したのが感じられた。

——一日二試合というケースが多くなると思うが、一周年から二周年へ向けさらなる飛躍を期するとなれば、こんな突拍子もない手でも打たんことには。しんどいだろうけど、引き受けてもらえまいか。

——マスクマンっていうと、売りは当然悪役(ヒール)だな。

——そうなるかね、まあ。

相槌を打ちながら千堂は、前夜の無比人のこれまでとは別人のような仮借しない攻め口の数々を想起し、ぞくぞくするような期待感を如何(いかん)ともしかねた。

過去の試合に見る限り、驚異的破壊力を見せつけてKOしたりピンフォールを奪ったりはするものの、それ以上相手をどうにかしようという執拗さは窺えず、それは団体エースとしての矜持のゆえかと思われた。ところが黒豹のマスクで顔を覆った途端、植野を引退に追い込んだ性格面でのあの烈しさが技の一つ一つにも露呈し、次々と斬って取られる的場塾勢の顔は例外なく無惨に血塗られた。

仮面の効用といえようか、ビル・ミラーのミスターX、ディック・ベイヤーのザ・デストロイヤーなどを例に取るまでもなく、素顔を見せないだけで別の人格が前面に押し出される、それを再認識させられたことがダーク・ジャガーのデビューを現実のものとすべく千堂を促したのだ。

無比人は、手を止めたままなにやら思いを巡らすふうであったが、

——了解。

やがて投げ出すように言った。口許に笑みが結ぼれて、

——但し条件が一つ。

——なにかね。

——デビュー戦の相手だけどさ、〝ダイオキシン〟の野郎に交渉してくれない? 中身が俺だってことは勿論伏せて。

——グレート・沖か、しかしそれは。

——新旧悪役対決ってことで煽りゃ面白いじゃないか。デビューの新人に胸を貸すというんであれば、野郎も悪い気はしないだろうしさ。

本格格闘プロレス小説

無比人

——きみ。あれだけやっても、まだ彼のことを……。

ラリアットでリング下へ転落させ、K—1の会場では客席にてフロントスープレックスに運んだ、そこまでしてもなお沖を懲らしめ足りないというのか。驚きを通り越して千堂は、うそ寒いものをおぼえずにはいられなかった。

いつの間にか無比人は茫洋とした掴みどころのない表情に戻っており、

——交渉してくれるの、くれないの。

——当たるだけはしてみるが。

結局、ニュー東都さんとはもう係わり合いたくないと頑(かたく)なな態度を見せる沖真也に予算の倍以上のファイトマネーを積んで、なんとか千堂は懐柔に成功。ダーク・ジャガーの中身については、試合経験のある若手の中の一人ということでぼかしてすませたが、その時点では別段疑う様子も見られなかった——。

リング上に対峙すればしかし忽ち無比人と看破されるのでは、と千堂は不安を打ち消せずにいたが、そんなけぶりもないまま、レフェリーがリング中央に両者を招き寄せ、型通り反則などについての注意を与える段になった。

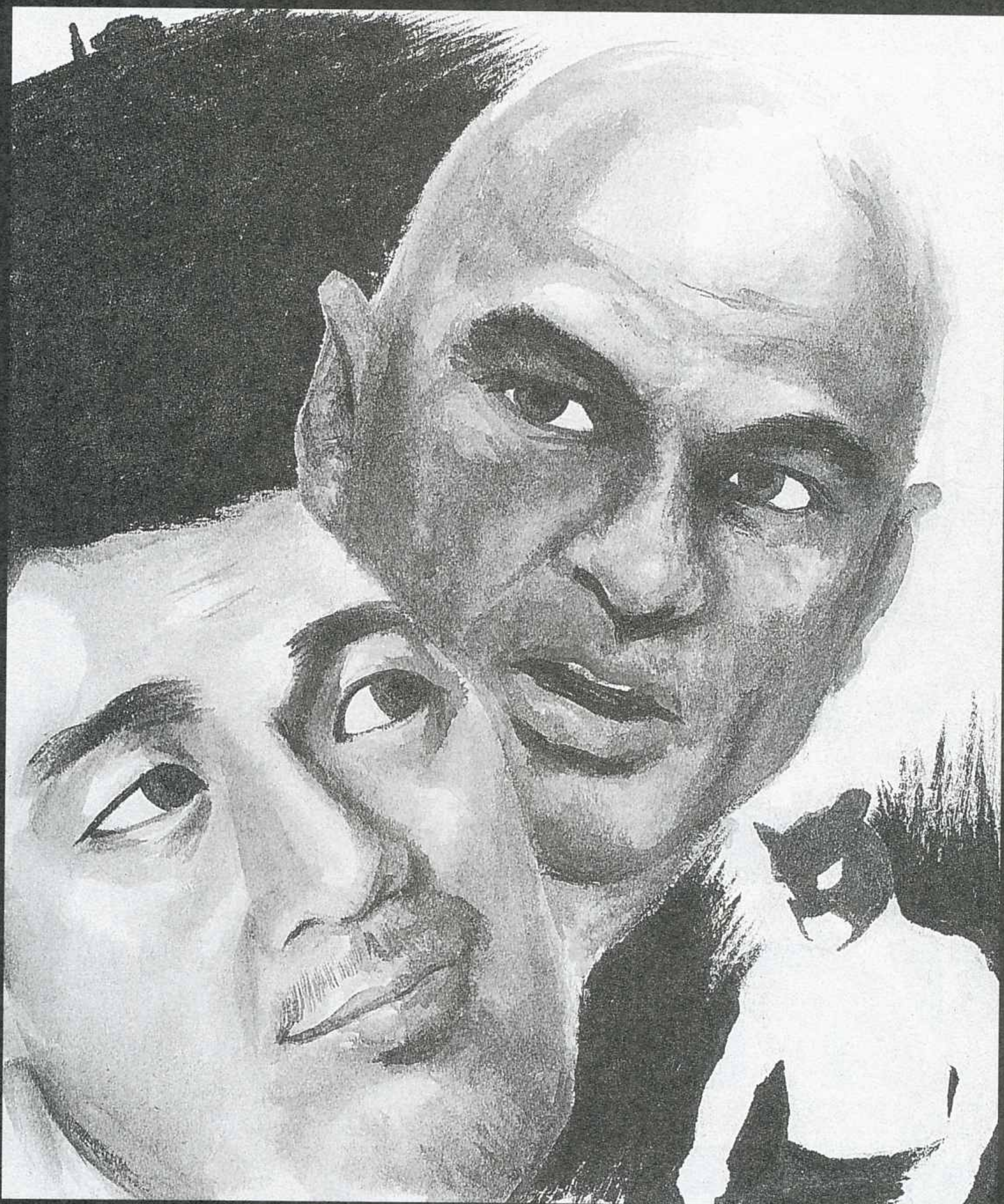
そしてそれを終えての別れ際、黒豹仮面がマントを脱ぐなり沖の頭からおっ被せた。次いでシューズの先で股間を蹴った。

呻いて膝から落ちかかるのを阻止するかのように左の喉輪が入り、ボディへの膝蹴りが右、左、右と続けざまに浴びせられた。

一方ではまた喉輪はそのままに、右手で頭を抱え込んでの噛み付き攻撃が顔面に集中。試合開始のゴングが鳴り、呆然としていたレフェリーが我に返った顔で止めに入

ってもそれを突きのけて、さらにいっとき蹂躙劇は繰り広げられた。
ダーク・ジャガーが満足した様子で手を放すとともにマントを除けると、グレート・沖は泥人形が崩れるようにマットに沈んだ。ギリシャ彫刻を思わす端正なマスクは柘榴と化して血に染まり、そして死んだように動こうとしなかった。
レフェリーがダーク・ジャガーを指さし、負けを宣した。悪役としては栄えある反則負けだった。

（29）

ドアの脇にあるチャイムのボタンを真澄が押した。
二分ほども待たされたろうか、ドアが開いて絹子が顔を覗かせた。ネグリジェの上に薄手のガウンを羽織っていて、
「あら、スミ」
「ご免なさいね、寝んでいたんでしょう」
「いいの、いいの。さあ――ま！」
真澄の背後に立つ千堂を認めると、絹子は頓狂な声を発して胸を両手で押さえるような仕種を見せた。
「すまんねえ、こんな時間に」
氷見子の店を出たのが一時に近く、深夜営業のティールームに寄り道して小一時間を過ごしたため、すでに二時になんなんとしていた。
「なんですの、水臭い。――それにしても何カ月振りかしら、お揃いでお越しいただくのは――」
氷見子と深間に嵌まってからというもの、千堂は、絹子のこのペントハウスへは足を向けていなかった。
リビングルームのソファに三人して腰を落ち着けたところで、
「実は今日、わたしの誕生日で」
と、さっそくに真澄。時間の余裕がそれほどないことは呑み込めているようだ。
「あ、そーか、終戦記念日。ついうっかりしちゃってて、この通りよ、スミ」
絹子は手を合わせて拝む真似をしたが、
「五反田に〈ピンヒール〉というお店があり、招待を受けて行ってきたんだけど、そこのオーナーというのが」
と真澄は構わず先を急いだ。
五十三回目の終戦記念日でもあるこの日、氷見子が昼のうちに千堂に電話を掛けて寄こし、
――氏家さんの誕生日よね。彼女をエスコートして店へきて。
半ば命令口調で告げた。
前年の誕生日にも誘われて断りきれずに真澄をそこへ連れて行き、帰りに絹子の寝込みを襲って3Pプレーに引っ張り込んだ。それら一連のことどもを思い返しつつ、千堂としてはしかし顎を縦に振るよりなかった。
それはいいとして、これで今夜は三度目だというショー・タイムが終わったのを潮

巨匠入魂 第12回

真樹日佐夫

本格格闘プロレス小説

無比人

に送るからと真澄に言って腰を上げ、店を出ようとしたところへ奥へ引っ込んでいた氷見子がピンヒールを鳴らして近づいてきた。そして千堂の耳許に顔を寄せ、こう囁いたのだ。

——一緒にまっすぐ部屋へ戻ってなさい。プレーの出前を誕生日のお祝いに彼女にもプレゼントしたげる。晩くとも四時までには着けるようにするから。

——止めて欲しい、それだけは。

酔いも吹っ飛ぶ思いで言い返したが、氷見子はさっさと踵を回して離れて行ってしまい、頭に靄がかかったような状態のうちに千堂がドアを押して出ると、

——氷見子さんになにを言われたの？

気を利かせた格好で先に出ていた真澄が訊いてきた。

——え？　いや、別に。

——お顔が蒼い、というより、しらちゃけて別の人みたいよ。

——それはだね、ちょっと気分が。

——バースデーに隠し事は哀し過ぎるわ。

張りつめた面持ちで真澄は言った。

その一言が千堂をして決断せしめたといえようか。黙っていても秘密はいずれ真澄の知るところとなろう、あの氷見子がいつまでも口をつぐんでいるとは考え難い。ならば、いっそ……。

駅の近くにネオンを点しているティールームを見つけて入ると、

——隠していて悪かった。恥ずかしくて、どうしても言えなかったんだ。

まずは真澄に頭を下げ、そこで氷見子との秘めてきた関係の一部始終を順を追って千堂は打ち明けた。一切口を濁すことはしなかった。今夜部屋へ同道するよう命じられたことも。

案に相違して、さほど真澄はショックを受けた様子もなく、

——話してくれて有難う。あなたのも含めて、今日方々から頂いたどのプレゼントの品よりも嬉しいわ。

と寧了感動の体で言い、包み込むようなやさしい眼差しをそそいだ。

勇気が湧くとともに、このとき千堂に閃くものがあった。

——今日限り彼女との主従関係は断ち切るよ。ついては手を藉してもらいたいことが。

——喜んで。なにをすればよろしいの。

——言われた通り部屋で彼女を迎え、こっちからプレーを仕掛けるんだ。

——というと、氷見子さんをSの女王さまの座から引きずり下ろすと、つまりそういうこと？

千堂は深く頷き返しながら、これまで逆襲に出ようとの企みが脳裡をよぎらなかったと言えば嘘になるが、女王さまとしての圧倒的威厳の前に実行に移すなどは夢のまた夢と涙を飲むばかりだったというのに一体どうしたわけかと、我が事ながら俄かには信じ難く感じられた。

一つには真澄に告白したことで勇気が得られたためであろうが、プライド3当日、無比人の選手控室へ現れた巻に接する氷見子の物腰から、相手次第ではこの女も結構従順になれるんだ、と新発見したような思いがしたことも無関係ではないのでは。そんな気がしていた。

——それだったら芳賀さんにも声をかける、というのはどうかしら。二つ返事で乗ると思うし、どうせなら3Pよりも4Pの方がもっと刺激があって面白いんじゃなくて？

以上の経過を辿り中目黒へタクシーを飛ばしたのだが、千堂に成り代わっての真澄の話に、

「行きましょ、行きましょ。四十にもなると二十代の女なんて、もうそれだけで敵だもの」

絹子は妖しく目を煌めかせた。

〈以下次号〉

POST CARD
151-0051
渋谷区千駄ヶ谷
3-11-3-702
(株)ダブルクロス
ハガキ道場 ~~様~~ 行
ハガキ道場

SAKAI NOBU

ハガキ道場

3度目はある!!

「ノブ! ノブ? ノブ、よろしく!」と爽やかに握手してくれたおっきなノブ兄さん。ステキな照明が演出する中、前号の表紙を撮影したときに、感動の出会いを果たしたちっちゃいノブが、おっきなノブ兄さんとエネルギーを交換してきました。この原稿を書いている10・8の時点では勝敗はわかりませんが、『紙プロ』読者ハガキのパワーは届けてきたぜ! 読者の祈りが通じれば必勝です! なんでもいいから勝つことを祈りつつ、今号も行ってみよう!

代表=高野拳磁公認座敷犬・SAKAI NOBU

<ハガキ道場システムチャート>

つまらない → おもしろい

呼び方	キッズファイター	シニアファイター	プロフェッショナルファイター
賞品	イージーな粗品	ワンダフルな粗品	トレビア〜ンな粗品
昇段資格	×	20点以上	40点以上

【ルール】

私SAKAI NOBUが道場主を務める投稿コーナー『ハガキ道場』では、世界に通用するハガキファイターを育てるべく、みなさんに頑張って頂きます。当然、ハガキファイターもランク分けします。毎号、面白いハガキを書いてきた人に段位をさしあげます。

●採用されたハガキには、面白さに合わせて 1〜5点差し上げます。どんどんポイントを取って段位を上げましょう。

▽そこそこ面白い人=キッズ・ファイター
▽けっこう面白い人=シニア・ファイター
▽めちゃんこ面白い人=プロフェッショナル・ファイターとなります。

●それぞれ採用されると
◇キッズ・ファイターにはそこそこいい粗品
◇シニア・ファイターにはけっこういい粗品
◇プロフェッショナル・ファイターには超豪華粗品を進呈します。

☆またも月刊ペースゆえ発行でハガキの数は少ないけれど、前号は決戦直前号ということで熱いハガキが多かったぜ! そんな生の声を読んでみてください。

浅草キッドのインタビューが良かった。おかげで読んでてすっかり気分が盛り上がってきた。俺だって10万円払ってでも見に行くぜ!
(東京都 堀江将司・♂・25歳) 3点
☆これを書いてる10・8の時点では、まだ結果はどうなってるかわかりませんが決戦へ向けて気分は盛り上がってきてます! 気合いを入れるために、ちっちゃいノブの異名を持つ筆者も頭丸めました! ヒクソンをぶち壊せ! V-V-A! 大きなノブ!

高田選手は復活しましたね。久々に『ワガママなヒザ小僧』ぶりが炸裂していましたね。
(武蔵野市 荒井康弘・♂・25歳) 2点
☆この元気があれば、10・11はノー問題! 結果が出る前だから何だって書けるし、この場を借りて予想してみると「2R 高田のKO勝ち」ってところで、どうですか! はずれたらなんかあげます。

高田インタビューはスゲー。猪木以外の人間の馬場批判って初めて聞いた。こうなったらヒクソンを泣かした後、三沢とシングルしかないぞ。
(北区 平正一・♂・23歳) 4点
☆高田がいままで使ってなかった部分の脳味噌を使い始めてますね。だから、高田☆勝ちます(「夢☆勝ちます」風)。これが夢にならないことを祈るだけです。

『S多重アリバイ』のアポロ菅原パート2は、アポロの人生の行間

ハガキ道場
SAKAI NOBU

を読めて素晴らしい！　そういえば、SWS新春シリーズの『お楽しみ福袋』はWWFグッズがいっぱいで、まさに脱帽、脱シャツ、脱ソックスだったなあ。
（静岡県　横田賢・♂・30歳）5点

☆谷津に続き、アポロ人気も爆発中！　あの中牧を追っかけていたたにぐちゆういち君改め「スナック・ケンドー」でシェイカーを振るレスラー兼ホスト・谷口裕一選手も、「アポロさんのインタビュー、最高でしたよ！」と感動した模様です。

アポロ菅原のインタビューはオフレコばかりでイライラする。
（田無市　島本直也・♂・28歳）3点

☆こんなハガキも来てました。ちなみにインタビュー後、ボクが最寄りの駅までアポロさんを車でお送りしたんですが、「お前、この際、聞きたいことは全部聞いておけ。なんだ、もっと話を聞きたいだろ？　だったら、このまま次の駅まで送ってくれれば、その間に話してやるよ。なあ？　あれ、もう次の駅？　じゃあ、もう一つ先の駅にしよう」と延々エンドレスで話してくれました。貴重な体験！

菊田と郷野にインタビューしてくれてどうもありがとう。菊田&郷野ファンとしてはうれしい。あの二人の言うことに説得力はあると思うが、高田の言ってることにはないと思う。
（茨城県　武富浩二・♂・26歳）3点

☆特に菊田には賛否両論の嵐が、浴びせられてます。アレクやUインターの先輩宮戸優光氏や某メジャー団体のフロントの方にも「あの内容じゃ、『紙プロ』の取材は受けられません」とハッキリ言われてしまいました。プロレス側からの異論、反論、オブジェクションは凄いです。読者的にも、賛否両論真っ二つです。なあ、どうすんの？　というわけで、こういう問題が噴出したと同時に、本誌は今号からエンターテイメント路線も強化してみました。乞うご期待！　フゥ〜！

最近の坂田亘選手はちょっとイケてるのでインタビューしてほしい。少し載ってたけど、村上一成館長とか高瀬大樹選手とか宇野薫選手とか取り上げてほしーな。シューターは面白い。
（岐阜県　今井麻実・♀・22歳）4点

☆いいですね、今度の10・25のNKホール大会にも出場する注目の宇野薫は、本誌の爆弾小僧・チョロにそっくりともっぱらの噂です。しかし、慧舟會系のどこかブチ切れた選手たちもステキですね。ドンドン出しますよぉ。ってな具合で、「こいつを出せ！」という選手を見つけたらばしばしハガキを書いて送ってください。その一枚がページとなる！

9・14パンクラス5周年記念大会に行ってきました。何が面白かったと言えば、メインのメッツァーVS柳澤の膠着状態にキレた客が「ヤスカク！　どう書く？」とヤジを飛ばしたことです。『週プロ』も『格通』もチェックしたのですが、ヤスカクはあの大会自体に満足したみたいです。ある意味、ヤスカクには文才があるのではと錯覚してしまいました。
（杉並区　高島有治・♂・28歳）5点

☆ホントにあると思いますよ。しかし、試合がつまんないのをライターが突っ込まれるという不思議な構造に首を傾げずにはいられませんね。

多重投稿！

（大阪府　藤本直治・♂・15歳）
いいなあ。おっきなノブ兄さんと感動の対面を果たした男がもうひとりいました。ところで、これって『週プロ』879号に載ってなかったか？　二重投稿だ！　でも、本誌は『週プロ』のあぶもくみたいに、そんなちっぽけなことは気にしません。どんどんどうぞ。

シッシーをGAEAの8・23後楽園大会で発見したので、早速その行動を観察しました。するとシッシーは、まるで幼稚園児ごとく幸せそうにアイスクリームをムシャムシャ食べていました。そんなシッシーを見て、ボクも幸せな気分になりました。
（板橋区　キヨシ軍団練習生・♂・23歳）5点

☆それは何よりです。ボクも幸せな気分になりましたよ。パンクラス武道館大会のペイ・パー・ビューで放送席の真ん中で、気合いが入り過ぎたシッシーの姿には正直、感銘を受けました。「柳澤が勝ったら泣いちゃうかもしれないですね」と発言した際の力の入り具合は、ボクの冷めた心に火を灯してくれました。ありがとう！　そんなシッシーもアイスが好きということで、今度ジャイ子と熱のこもったアイス対談が実現したら、ボクも泣いちゃうかもしれないですね。

PRIDE・4 速報ハガキコーナー
10・11読者のナマ声を聞け！

高田善戦！　アレク激勝！

ヒクソンは強いね。高田も頑張ったね。おめでとうヒクソン。（中略）けどやっぱ前田戦が見たいね。実現したらPRIDEも20世紀も終わっていーっす。ゴチャゴチャ言わんとどっちが強いか決めたらえーんや。
（神奈川県　キャプ夫・♂）

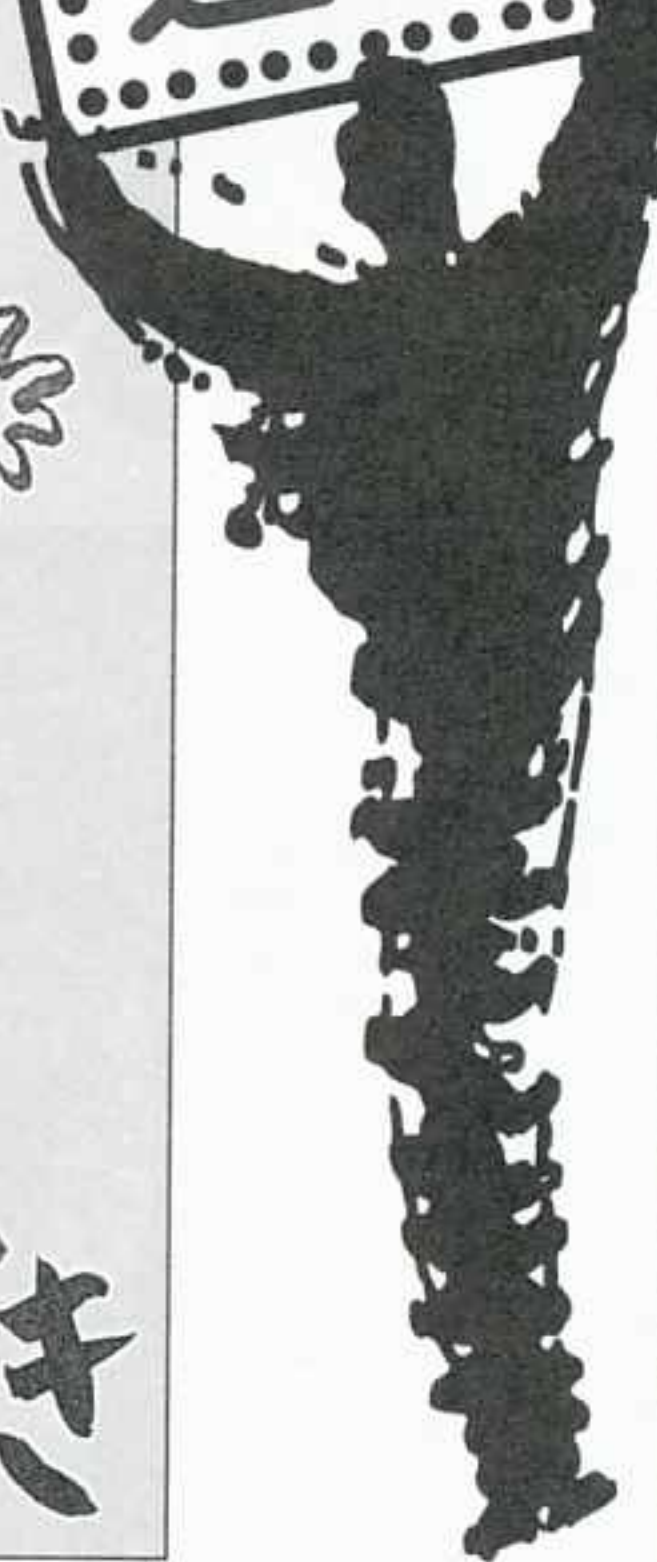
アレク最高！　感動したよ。おめでとう。高田はビバリーヒルズでマルコちゃんと遊んでいるより、アレク大先生のところに弟子入りしてリングスの会場でリング作ったり、バトラーツのチケットを売ったりしてた方が良かったのかも。
（茨城県　武富浩二・♂・26歳）

絵描き道場

今号のお絵かき模範演武

(愛知県　キャプテン名倉・♂・29歳) 5点
きもちいい程に生き恥を晒し続けるブレーキの壊れたバイアグラこと中村カタブツ君(35歳)の汚れ仕事の極北を見事にイラスト化した新星・キャプテン名倉に拍手!『鳥獣戯画』が蘇ったようなイキイキとしたものの け男爵っぷりですね。あれを読んで実際に試した元気な読者がいたら結果報告してください。

(山口県　金持ちケンカせず・♂・18歳) 5点
ブラックジョークな風刺画です。河口仁先生のコーナーには隠れファンも多く、かくいう私もその一人。あのテンションを何年も何年も維持し続ける姿勢こそプロフェッショナルなんです。読者様の投稿をとやかく言う人間として、ああなりたいと常々思います。こんな片隅のコーナーまでもが張り合いだしたら、もっといろんな部分が活性化するんじゃないのかな?

(杉並区　藤根輝久・♂・21歳) 5点
プロレスのリングに上げたい有名人ということでヘーちゃんこと石坂浩二氏を推薦してくれました。WCWでテレビの人気司会者が試合やっちゃうノリだね。ステキだね。

(埼玉県　中川雅博・♂・21歳) 合わせて10点
いまブッちぎりの巧さと強さを発揮する円熟の中川。ちなみに中川画伯のリングス国別対抗戦の予想は、◎グルジア&○オランダということでした。右のイラストも文句なし!! Tシャツのさりげないメッセージに賛同させてよ!

(岐阜県　今井麻実・♀・22歳) 3点
おなじみ、桜庭ばっかり書いてくる麻実ちゃん。かわいさ満点だけど、桜庭がちょっとふけてないか?

The Letter おたより させてよ

鈴木靖 (25歳)

今号はあまりにもひどすぎます。内容も薄いが、それ以上に「人参ジュース」の企画。あれは何ですか? ふざけるのもいい加減にしてください。読者を軽く見過ぎです。プロレスへの愛なんてない、プロレスをバカにして、ふざける、ひねくれたプロレスファンの作った曲がったファン向けの雑誌だとよく分かりました。買わなければよかった。みなさんの売り込んでいる高校生の女の子も悪影響を受けて、徐々に歪んだ考えになっているのが前回と今回の作文でもよく分かります。ふざけた雑誌作りをするのはやめてください。プロレスを侮辱しているようにとられてもおかしくないし、一生懸命やっている人たちに失礼です。真剣に取り組んでいる全日の小橋選手や三沢、秋山、川田選手に取材して少し感銘を受けたらよいのではないですか。それと自分たちの嫌な文章は載せないし、当てる気もないんでしょうが、一応『ハンセンとプロディのTシャツ』希望。ダメなら雑誌代返してほしいぐらいです。

☆久しぶりに真っ向からお叱りを受けたので、正直言って新鮮な気分です。確かに間違っていたみたいです。猪木を見習って元気になろうとしましたが、これからはご指摘頂いた三沢、川田、小橋、秋山の四選手に田上選手を加えた全日の五強を見習わせていただきます。ごめんなさい。と、金返せとまで書いておきながら、応募券を貼ってハガキをよこすキミの心意気に、シャッポを脱いでズラまで脱ぎたい気分です。ジャイ子のサインあげます。

激突 RADICAL版 カウントアップ・グル～ヴ

カウント4.5! 反則ギリギリRADICALランキング
ヒクソンに勝てそうなプロレスラーは?

順位	名前	票数
1位	前田日明	35票
2位	高田延彦	34票
3位	高阪剛	27票
4位	船木誠勝	22票
4位	田村潔司	22票
6位	アントニオ猪木	20票
7位	桜庭和志	14票
8位	谷津嘉章	11票
9位	ビル・ゴールドバーグ	10票
10位	佐山聡	8票

☆ちょっと寝かせてしまいましたが、11号で募集したこのテーマの集計結果を発表しま～す。この原稿を書いている10・8の時点では、まだ結果は出ていませんが、今年に関して言えば、仇を討つという泣ける発言はなし。高田にも、それを見守る周囲にも悲壮感はあまりなかったですね。そして、結果は、遂に個人としての引退試合(vsカレリン戦)を迎えることとなった日明兄さんが堂々のトップ! ヒクソン戦はプロレス・ファンの願いだ! U系を引っ張るトップ・スターに交じって、谷津がランクイン。これは奇跡じゃない。これからの谷津に注目だ!

ハガキ道場

SAKAI NOBU

今号はジャイ子しか出ないので改題します

デカ日誌 RADICAL ×××××××× 女囚ジャイ子大爆走の巻

月刊という普通だったら当たり前のペースで出すことになって、てんやわんやの本誌編集部。そこにのこのこ現れる身長180センチのジャイ子。「このメス犬！」「ブス！」「でかいばっかりで役に立たねえ」などと罵倒を浴びながら、黙々と雑用をこなすというおしんのような毎日を送っている。最近、猪木化した某団体の某バカ社長は、ジャイ子の大股開き写真を見た途端、「パンツ見えないかな？」と一生懸命探したらしい。男としては非常に礼儀正しい当然の行為だと言えよう。そういう意味では、ジャイ子はやっぱり女の子である。「やっぱり」の意味は、ご想像にお任せするとして。

さて、ジャイ子にライバルが現れた。『紙プロ』に入りたい女の子・恵美ちゃんだ。愛読書が『コスモポリタン』と『紙プロ』という新しい波を感じさせる人材である。以前は千葉ロッテ・マリーンズのマスコットガールを勤めたこともあるという、『紙プロ』史上を類を見ない上玉である。当然、それをあの男が放っておくはずがない。そうセクハラ部長・中村カタブツ君（35歳）がここぞとばかりに攻め込む怒涛のセクハラが始まった。「どういう男がタイプなの？」「どんな体位が好きなの？」「いままでした中でいちばん過激なセックスはどんなの？」と次々と質問をエスカレートさせていくカタブツに対して、淡々と笑顔交じりで切り返していくキャバクラ並みの恵美ちゃんトークは、たちまち編集部内で大人気となった。挙げ句の果てには、なぜか彼氏の●●を一年間もタンスの奥にしまっていたというサービス・トークまで披露して、さすがのカタブツ君までもが引いてしまうというツワモノぶりを発揮。ところが、過去の男女関係のことを平気な顔してつらつらと話す恵美ちゃんに対して、一方でジャイ子は本気でライバル心をむき出しにして、「何よ、あの下品な女！」と露骨に嫌な顔をしているのだ。女同士が、というかジャイ子が一方的に嫉妬と憎悪の炎を燃やすので、ここ最近は会社の空気が殺伐とすることもしばしば。「ほんなら、お前はどれだけ上品やねん？」ということで、本誌編集部では実験的にいろいろと下品な罵倒を浴びせながら、その反応を観察してみた。こちらからボールを投げると、帰ってくる反応がいちいち意外でホントに頭が悪いので、そのいくつかを紹介しよう。

●ヒモで本を梱包していた吉田豪に「またアイス食ってる！」と突っ込まれたジャイ子。どうやら「吉田さんは、黙ってヒモで本を縛ってればいいの！」と言いたかったらしいのだが、言葉をはしょり過ぎてしまい、「もう、吉田さん縛って！」とM女志願してしまい、真っ赤になって反省。

●ジャイ子はのものもの大ファン。「お前、レズか？」と中学生レベルのツッコミを入れてみたところ、「むー！ そんなことないもん！ 男大好きだもん！ もう、私やりまくりだもん！」と、ムキになってやりかえしてくれたのだが、見当違いの方向に自滅してるのも気付かず、その直後に恥ずかしさがこみ上げてきて顔を真っ赤に染めるかわいらしい姿にジャイ子の女を見た。ジャイ子がやりまくってないのは、みんなわかったから悲しいウソはつくんじゃない。

●なぜかゴキゲン斜めのジャイ子。「生理？」と軽くジャブを入れてみたところ、「むー、違うもん！ 私は生理になっても全然イライラしないんだもん」と、ムキになって否定。「じゃあ、どうなるの？」と一歩踏み込むと、「血が出るの」だと。お前、自分が何を言ってるのかわかってんのか？ またも真っ赤になって小さくなるジャイ子であった。

●主食であるお菓子を食べていたジャイ子。幸の薄そうなくせに、お菓子を食べているときだけは、なぜかニコニコ。「ジャイ子、幸せ？」と聞くと、元気いっぱい「おかしな気分！」とぬかしやがり、「お菓子？ おかしな気分？ アッハッハッハ！ おかし〜」と一人で大爆笑。あまりに無茶なダジャレの連発に、社内全員であんぐりと口を開けて呆れ返ってるのに気が付いたジャイ子、自分の言ったことに恥ずかしくなったのか大きい身体を小さくして「ホント、恥ずかしいぃぃ（泣）」と涙ながらに反省。何か違うだろ。

という具合で、誰がいちばん下品かと聞かれれば、迷わず筆者は「ジャイ子」と答える。

バトラーツの会場で物販をする際も、「ジャイ子だ！」と言われて、照れるような女の子っぽさは、確かにある。キティちゃんのジャージを買ってきて、「あんじみたいでしょ？」と見せびらかすところまでは、なんとか勘弁してやろう、腹立つけど。それにしても、一度ジャイ子の頭の中にない領域の質問をぶつけると、とんでもない答えが飛び出す。アイスとお菓子ばっかり食ってるし、ジャイ子は子供なのだ。子供なら下品なことを平気で言うのも無理はない。そこには恥も外聞もないからだ。恥はあるみたいなのだが、前号の爆睡写真を載せられて、「もう他殺されたい。あんな写真が載って、自殺したんだと思われるのも恥ずかしい」という、歪んだ恥しか持ってないのであった。

何から何まで正反対のジャイ子と恵美ちゃんのライバル関係はどこまで続くか？ こうご期待！

キティちゃんジャージを着てルンルンのジャイ子（26歳）。しかし、どんなにゴキゲンな格好をしようとも、自分の芸風だけは忘れるなとばかりに、でかさを強調したポーズで写真をパチリ。その翌日、会社に置きっぱなしになったキティちゃんジャージを発見した恵美ちゃん。「これ、かわいいですね〜。外で着て歩けないけど」とジャイ子が聞いたら、また怒りそうなことを言い出した。おもしろいからジャイ子と同じポーズを取ってもらい写真をパチリ。それを知ったジャイ子の目に殺意が宿ったことは言うまでもない。

ドスコイ ハガキ道場番付表

順位	名前	点数	
1位	中川雅博	68点	P
2位	金持ちケンカせず	36点	S
3位	塩本祐介	29点	S
4位	うしえもん	18点	
5位	武田いづみ	14点	
6位	今井麻実	13点	
7位	武富浩二	12点	
8位	サル・ザ・マン	9点	
9位	栗野幸次	8点	

Pはプロフェッショナル・ファイター
Sはシニア・ファイターの略です

むー、ハガキ出してよ！な募集！

ハガキ道場では、いろんなものを募集しま〜す。

- ●本誌へのご意見、ご感想
- ●楽しいイラスト
- ●匿名リサーチ2000XXに聞きたいこと
- ●マヌケなダジャレ
- ●ぜひやってもらいたいカウントアップ・グル〜ヴのテーマ
- ●紹介してほしい同人誌
- ●編集部に遊びに来たい美女

などを送ってください。ちなみに合言葉の
「股ぐらい広げたっていいでしょ〜」を
明記して下さい。宛先は

〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
(株) ダブルクロス「ハガキ道場」係まで

お詫び

『週プロ』編集長の浜部さんが、Show氏制作の『T多重WAVE』の中で業界の鼻つまみ雑誌『紙プロ』についての見解を述べてくれました。せっかくメジャー雑誌が格段とスケールの小さい本誌のことを相手にしてくれたというのに、「カラスの勝手」と知らんぷりを決め込むのも寂しい（浜部風）。というわけで紹介しましょう。本誌編集部の人間はすっかり忘れ去っていた『タカコ・パニック』の嫌いな関係者アンケートを本誌が書評で取り上げたことに関する論争（本誌89号参照）について、初めて本誌の名前を出した上で語ってくれました。曰く「あの書評欄に載せる抽出の仕方も作為的だもんね。平純子（週プロ記者）には『好きだ』っていう欄に5票も入ってたじゃないですか（笑）」という部分です。確かに、平純子記者には5票入っていました。その後のShow氏のセリフ、
「そうなんですか。平ちゃんは人気者だなあ」
というセリフこそが真実。これには全面的に賛同させて頂きます。ああ、「あんまりShowちゃんをなめない方がいいよ」というスコラ氏の言葉が現実のものとなりました。ジーザス・クライスト！ 関係者の皆様には深くお詫び申し上げます。許してチョンマゲ！

読書の秋にぴったりのおすすめバックナンバー

でっかく買おうぜ！シリーズ

このページは『紙のプロレスRADICAL』にジャイ子が出現する以前、小社がこっそり発行している雑誌『紙た世の中とプロレスする雑誌『紙のプロレス』本誌のお知らせです！

みんな私のこと好きでしょ〜？
だったらバックナンバーも買うでしょ〜？ジャイジャイ！

特選！でかい人が出てる『紙のプロレス』BEST4

NO.9

プロレスマスコミの巨人・ターザン山本を多角的に検証！

NO.17

ド迫力の顔で迫るアントニオ猪木の北朝鮮興行！

NO.19

人間バズーカ・高野拳磁さんが大暴れ！

NO.22

プロレス界20世紀最後の巨人・マスカラスのかっこいい表紙！

BIG ビッグ・チャンス！ CHANCE!

いまでっかく3冊以上お買いあげの方にジャイ子の（いろんな意味で）悩殺生ポラ写真を付けちゃいます！ やったね！ジャイジャイ!!

○定価は『紙のプロレス』5、8号は700円、11号〜22号は780円となります。
○『猪木とは何か？』は1320円、『極真とは何か？』は1530円、パンクラス公式読本『矛』『盾』は1260円となります。
○送料は1冊＝310円、2冊＝340円、3冊〜4冊＝450円、5冊＝520円、6冊以上＝700円となります。
＊なお1号〜4号、6号、7号、9号、10号、『大山倍達とは何か？』『猪木とは何か？　キラー編』は完売しました。残念でした。
＊10号、『大山倍達とは何か？』は書店やプロレスショップで探せば若干残っているはずです。頑張りましょう。

〈申し込み方法〉
●現金書留　〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス「2×4・ザ・本誌バックナンバー係」まで
●郵便振替　00130-3-769154　（株）ダブルクロス

紙のプロレス RADICAL
No.13
1998年11月25日発行
定価：本体743円+税

発売元：株式会社ワニマガジン社
〒160-0014　東京都新宿区内藤町一番地
TEL.03-3357-2911（販売・営業）
発行元：株式会社ダブルクロス
〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
TEL.03-3403-5188（編集・制作）
編集兼発行人：山口日昇
編集スタッフ：坂井ノブ／松澤チョロ／吉田豪／八木賢太郎（アレクの勝利で涙が止まらないので非番）
助っ人：寺島ジャイ子／恒遠バカツネ
デザイン：ツー・スリー（出田さん、村松さん、ヒサくん、マツ、出前持ち入江、古川ガルボ）
カメラマン：斉藤ユーリ／松永源さん／戸成ぶつぞう／浜田孝一／遠藤政文／藤見道隆
お勘定：林ヘックション一枝
2×4・ザ・ベリー：中村カタブツ君（35歳）
フィニッシュ：ツー・スリー
印刷：図書印刷株式会社

編集内容等に関するお問い合せは（株）ダブルクロスにしてクリクリ♥

「スポーツの秋だから忙しくてしょうがねえや」な
紙のプロレス RADICAL
No.14は12月下旬発売予定
※地域によっては多少発売が遅れます　許してクリクリ！

突撃!となりのマット界

ヘタに手を出すとヤケドする。過激でムーディーな大人のコラムたち……。

突撃!! となりのマット界

モデル：子供なジャイ子と冷たい戦争を繰り広げる大人な恵美ちゃん。

プロレス村を外から眺めてる鋭角的な執筆陣

花くまゆうさく
「リングの汁」

椎名基樹
「RADICAL KIDS COLLECTION」

時代の先っちょをいく素人投稿ページ
「PRIDE.0」

ジョーダンズ 三又忠久
「芸人は芸人」

せきしろ
「ザ・検証」

花くまゆうさく

リングの汁 RADICAL

30代の昭和者は必見「ブギーナイツ」

『紙プロ』、また今月も発売で元気モリモリ（あえて死語を使う勇気）ですねー。いま、団体・マスコミ・ファンを全部ひっくるめて、マット界でイチバン元気なのは『紙プロ』でしょう。（あと猪木もか）。

谷津からアポロ、郷野＆菊田とここんとこのインタビューの充実ぶりは素晴らしすぎます。前号の高田の暴走インタビューも面白かったです。あれを『週プロ』でしゃべってくれたらマット界は抜群におもしろくなるんだろうになあ……。それにしてもプライド4は、どうなったのでしょうか？（この作文は、大会一週間前に書いています）。

前回、ウワサを書いたのは先に書いてしまえばヤレなくなると思ったからなんですけども……。しかし先走りしてお騒がせしてしまい、すみませんでした。ある人がヒクソンに会ったとき、「いろいろウワサはあるけど、どうなの？」って聞いたら、「そーゆーことはしない」とキッパリ言ってくれたようです。大丈夫でしょ、たぶん。

ところで『ミスターデンジャー』読みましたか、みなさん。あんな正直で面白い本、最近じゃなかったですよ。はじめ知らないで立ち読みしてたんだけど、あまりに面白いのでスグに買ってしまいました。「さん」付けで書いている人と「さん」付けしてない人がいるので、読んで最初は違和感を感じるが読んでくうちにその謎が解けていったり、とにかく正直な本です。前号での高田の馬場に対する正直な思いも面白かったし、いま時代は〝正直〟なのでしょうか。

昔、中学生の時に門茂男氏が書いた『ザ・プロレス365』という日本プロレスのドロドロとした内幕の本を読んで、気持ちよさとダークな気分が両方味わえる不思議な気持ちになりましたが、この『ミスターデンジャー』は『ザ・プロレス365』をジメッとではなくカラッとさせ、さらにエンターテイメントとしても成立させた奇跡の本じゃないでしょうか。（ただ正直に書いただけなのに！）

パンクラス5周年大会はペイパービューで見ました。そこで出た結論はひとつ。パンクラスがつまらなく感じるのは、ルールしだいではないでしょうか。仮にあの日の試合を全部修斗ルールでやっていたら、かなり面白くなるのではないかと。

そうすれば、試合に緊張感が出てきて面白くなるのではないか？　マウント取っても、バック取っても、パスガードしても、会場がウンともスンとも沸かずにシーンとしていることはなくなるのではないのでしょうか？

スタンドでの掌底の打ち合いやハイキックや、グランドではポピュラーな技の体勢になったときだけしか沸かない会場はさびしすぎます。だから、初期の頃はよく勝った選手がモノ凄い形相で体をめいいっぱい使ってウォ〜！とかやって、客に沸かす機会を与えていたのではないでしょうか。

スタンドにしても掌底をぺちぺちやり合うより、グローブのパンチでガツンと殴ったほうが見ていて面白いと思うし、よく見かけるプッシュ気味に倒す変なダウンも少なくなると思うんですよ。

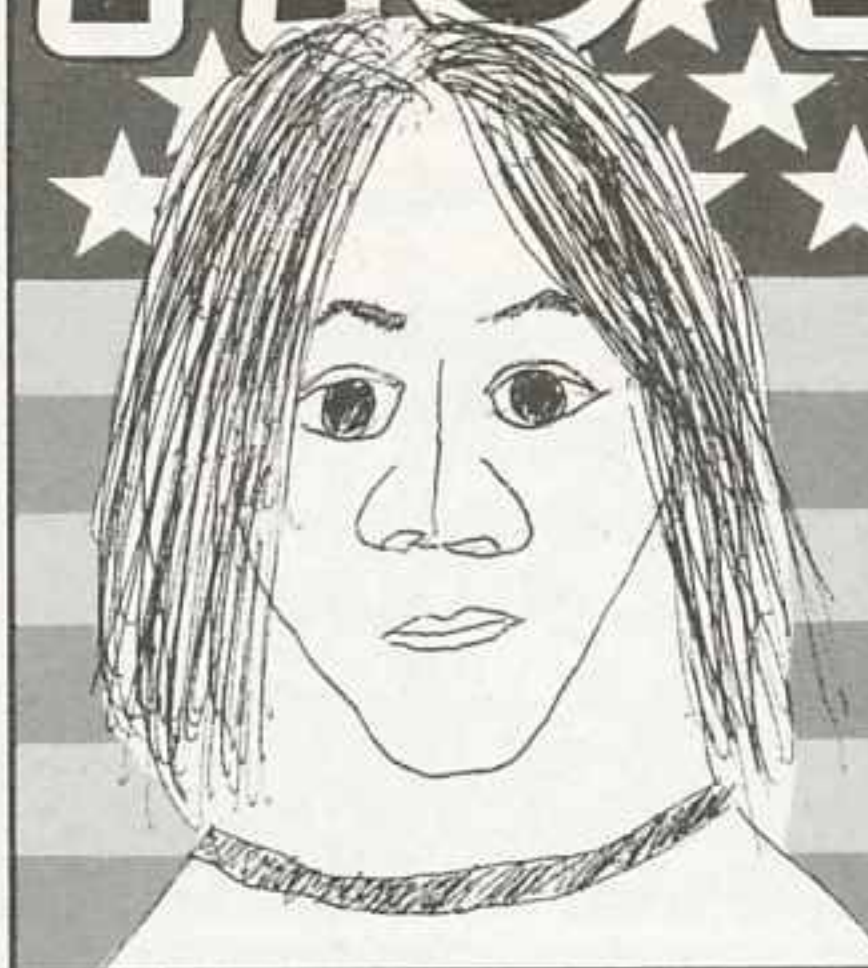
あとヒールホールドはキケンだから禁止とのことだが、かかとつま先を手づかみでムンズと強引にひねる、まったくヒールと同じ原理でヒザを攻める変形足首固めがOKなのも、なにか釈然としないもんがあります。だったらシューズ脱いでヒールOKでいいのではと思ってしまう。

ということで、ハイブリッドグローブもあることだし、パンクラスは修斗ルールでやればいまより全然面白くなるのでは、どうですかみなさん？　選手は揃ってんだからホントにもったいないと思います。まじめな話。

突撃！となりのマット界

花くまゆうさく■最近見たもの買ったもの。ポルノスター、ボーンダディ、東京ダイナマイト『力道山』、大川興業『客差別』、岸和田少年愚連隊望郷、大怪獣東京に現れる、浅草お兄さん会、フラカン『元気ですか』、『じゃりン子チエ』のサントラ、ブギーナイツ。

Pro-Wrestling Column

BY ジョーダンズ 三又忠久

芸人は芸人 GEININs ARE GEININs

初めましてジョーダンズの三又です。金八先生のマネでお馴染みだと思いますが何を隠そう大のプロレスファンなのです。中学生の頃、よく後楽園ホールに密航したり、長州さんの物マネをするときは闘魂ショップでリングシューズをオーダーで作ってもらったり、前田さんがSRSと揉めたときはマネージャーに「前田ファンとして前田さんに筋通すために絶対SRSには出演しない」と宣言したりする、単純かつ熱いプロレスファンなのです。

今回は『リングの魂』の名物企画J-1グランプリについて書いてみたいと思います。題して、

『芸人は芸人』

東京のダウンタウンの四谷にあるスタジオのドレッシングルームに、僕たちJ-1グランプリ出場者が集まってきた。オフィスが用意したランチをパクつきながら、どうしたらオーバーするかを考えたりして、これから始まるシュートファイティングの緊張からエスケープしていると、コミッショナーの南原さんがやって来て「ネオ・レディースの道場で練習したらしいな。アマレスの経験もあるし、本命だな」とさりげなくプレッシャー。

確かにハイスクールのアマレスで新人戦3位になったりしたけれど、もう10数年前のお伽噺の世界の話だし、15歳のときに56キロだったウエイトもいろいろな経験をしまいこんだために90キロを超えている。

リック・フレアーが会場入りするときに持っていてカッコ良かったという理由だけで買ってしまったゼロハリバートンのアタッシュから衣裳を取り出し着替えると、レオン・ホワイトがビッグバン・ベイダーに変身するように、三又忠久も三又・金八・忠久のギミックに体と頭が同化する。

「出番です」と言われてゲートの後ろにスタンバイすると、会場は新日本プロレスのハウスショーみたいな感じに演出されていて、プロレス好きの芸人のやる気をそそる。

ゲートをくぐり僕たちにとってのオクタゴンまで歩いている間に道場で稽古をつけてもらった井上京子選手との苦しい練習を思い出す。スパーリングをするまでにレスリングをやっていたから勝てるかもなんていう考えも開始10秒で打ち砕かれ、3分間で20本位とられて、やっぱりプロレスラーは強いんだと思いながらも俺ってこんなにも弱いんだ、と悲しくなったりしたことを思い出したりしながらマイクをつかみ、マンデーナイトロ気分でお約束という名前のマイクアピールをして試合開始、結局再々延長で判定負けしちゃったけれど終わった瞬間は割と冷静だった。コンチクショーでもなければシマッタでもなかった、自分のワークはしっかりやったという満足感もあるし、対戦相手のゴリ君に友情を感じたし、ちょっぴりセンチメンタルな気分になっていた。

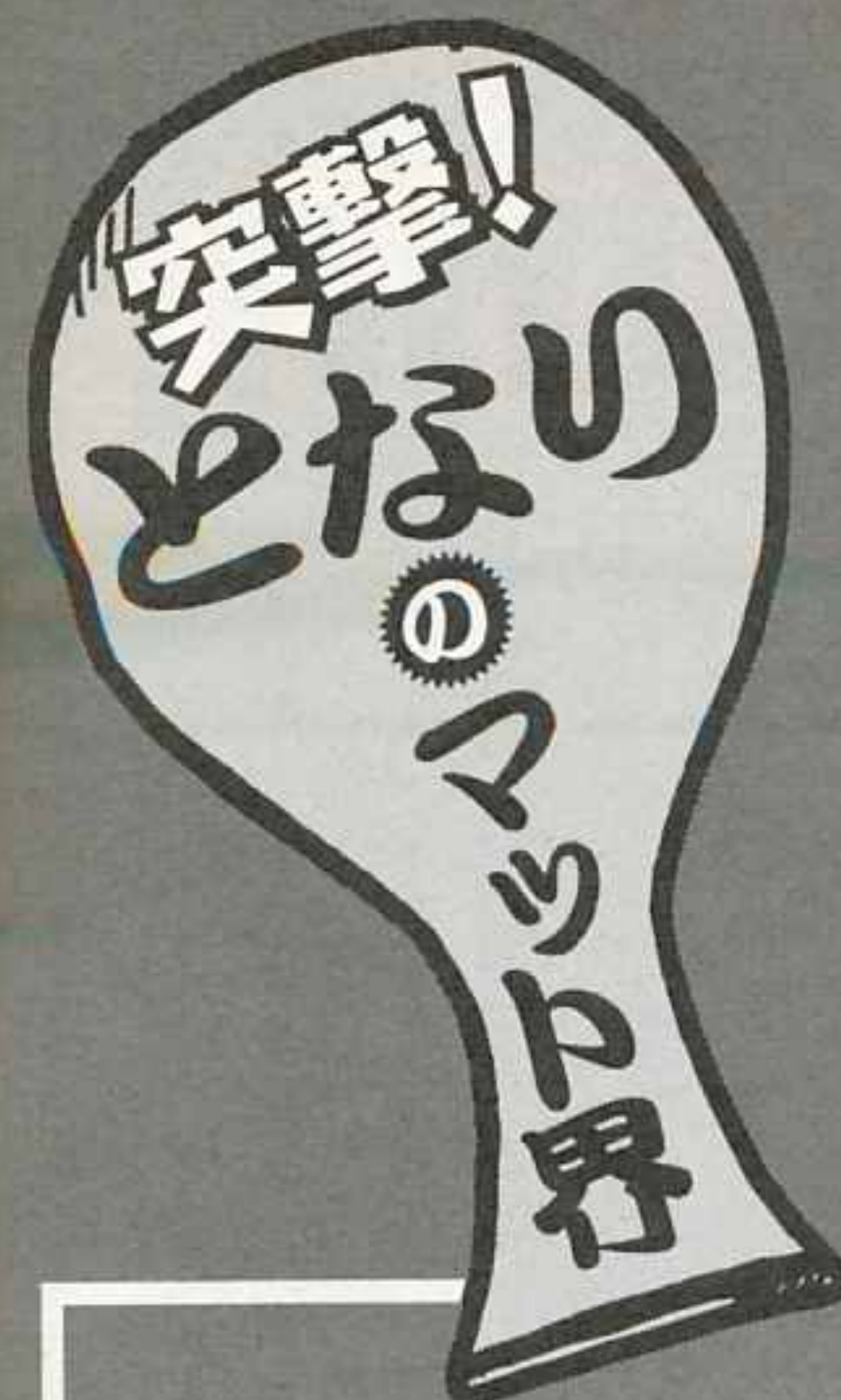
全部の試合が終わって、打ち上げパーティーでは南原さんが「お疲れさん、ゴリにリベンジするチャンスやるからさ、金八五番勝負なんてどうだよ」と声をかけてくれる。イベントを仕切るボスがなにげない会話で気を使ってくれると感激してしまうのも芸人特有のリスペクトを含んだ仲間意識なんだと勝手に考えてしまうのは、ちょっぴり酔っぱらった南原さんの笑顔とアングルのない居酒屋の空間だからかもしれない。

●

以上紙プロテイストで書いた『芸人は芸人』でしたが、僕たち芸人はボーイズと同じ気分で仕事をしているんですよ。特にお笑いとプロレスは共通点が多いと思いますんで、次回は『芸人的視点から見たプロレス考察』を書きたいと思います(笑)。

みまた ただひさ■最近、僕の着ているTシャツの問い合わせが多いけれど下北沢のバンバンビガロで購入しています。

時代の先っちょをいく素人投稿ページ

突撃！となりのマット界

PRIDE.0（ゼロ）

「武田いづみちゃんの使い方」が気に入らない。あんな写真を使われちゃあ……。場合によってはいづみちゃんを『PRIDE.0』のリングに上げないかもしれない。他の投稿者が頑張ってるのはわかるが、もっと冒険をやらなきゃいけないというか。石沢（カ・シン）とか藤田級のいい素材を『PRIDE.0』のリングに上げたい」（アントーニオ猪木・談）というワケでUFOでも話題沸騰、読者投稿選手権『PRIDE.0』始まります。

前号の結果発表！

前々号の最終結果！

■ライセンスナンバー3／武田いづみさん『やさしさともあまさともいう』181票

■ライセンスナンバー6／グレート・ショウゴさん『なにがなにやら、セッド・ジニアス』58票

■ライセンスナンバー7／マスクド・ツネさん『タイガー・ジェット・シンはどこに…』62票

エントリー	得票
ライセンスナンバー3／武田いづみさん『やさしさともあまさともいう』	86票
ライセンスナンバー8／原田幸治さん『松永光弘とは何か？』	40票
ライセンスナンバー1／武上康夫さん『虎の穴とは何か』	42票

今回も締切の都合上、いつもより票数は少ないが、「イヅミチャン、マタ、カッチャッタ（宇宙パワー調）」。「私プロレスの味方ですなんて、使い古された言葉をつかうとこがいい。YOU WIN」（東京都／乾智）「18歳にして判官びいき。素晴らしい♥」（広島県／米原宏美）「佐山以来の天才!!」（千葉県／高橋利幸）「スピードのダンサーに似てる」（豊中市／森敦史）「男の子とふたりでプロレス見に来てた武田いづみさん（行ってません・いづみちゃん談）」（千葉県／尾梶寿一）というわけで、またもや、ブッチぎりのいづみちゃん。今回勝ち抜けば『PRIDE.0』初の5戦勝ち抜きとなり、殿堂入りとなります。水道橋博士も絶賛のいづみちゃん。果たしてこのままいくとこまでいっちゃうのか?

プライド・ゼロも真剣勝負！

4戦勝ち抜き・5戦勝ち抜きまでマジック1

ライセンスナンバー3

『力不足！』

武田いづみ（18歳）

※ほめてもらうのもうれしいけど、つまんないって言われるのも望むところというか。ただ、ほめてくれた人にもつまんないって言った人にも「どうだ！　コノヤロー！」と言えるモノが書けませんでした。力不足!!　あと、かわいいとか書いてよこした人の自宅を一軒、一軒、めぐって目のまわりに木目を描いた上で「ふし穴」と呼びたい気分です。本モノ見に来やがれ！　二度とそんなこと言えなくなるのに。ここまで勝っといてスピード世代（主に中2）に負けるってオチがついてもいたしかたなし!!　ということで穴があったら入りたいと思っていた時、マスクがあったのでかぶったのでした。（写真←）

なんでプロレスと格闘技を区別したがる人が格闘技側には多いんだろうか。キックボクシングと柔術は、やってることが違っても同じ格闘技で、プロレスは「ショーだから」別モノってことがあるのか？　人間同士が闘ってることに違いないのに。

しかし、区別はするが、メジャーなのはどうしてもプロレスの方である。一方でプロレス以外の格闘技は、ジャンルとしてメジャーなプロレスに対してコンプレックスを持ってきたのかもしれない。…って言うと、きっと格闘技やってる読者の人はムカつくんでしょうね。ウフフ。別にいいですぅ。

コンプレックスというのは烈闘…じゃないや、劣等感というような一見ネガティブなものだが、それを持つことは、とてもポジティブな行動だと思う。

現状に満足していないからこそ、コンプレックスを持つのであって、その人の視線は上を向いている。コンプレックスの無い人間の視線は、自分と同じか、自分より下しか見えないのだから、進歩も発展の可能性も始めからない。プロレス以外の格闘技は、このコンプレックスを力にしているのだ。

ではプロレスが今の状況に、あぐらをかいていられるかっつうと、もちろんそんなはずはない。プロレスだって何かにコンプレックスを持つべきだ。

だからと言って、ムリヤリ持てるものでもないが、プロレスが今、コンプレックスの対象にするならK−1がい い。ありきたりでなんだけど。

私は単なるファンなので、ファンのことしかわからないが、例えば「昨日のK−1観たー？」と友達に尋ねたら、誰かしら「観たよ、あの佐竹の試合！」とか答えてくれる。そう答えてくれた人も、特別、格闘技が好きという子じゃなかったりする。

それじゃあ、「昨日のプロレス観たー？」と聞いてみよう。答えは「何？いつやってんの？」である。くやしいのでプロレスについてあれこれ説明しても「ふぅーん」と、またしても引いてしまうのだ。

プロレスを理解しようとしない人間には、からみついてでもわからせろ!!とか自分で言ったくせに、実際、友達の反応全てに強気な態度に出られるようになったかというと、そうでもない。まったく個人的なことだが、私は小学生の頃、ちょっとだけ乱暴者だったので、私にかなわなかった男の子は捨てゼリフとして「女子プロ行け！」と言った。大きくなるにつれて「このままでは恐ろしい女になってしまう」と考えた私は、自分の周りから攻撃というイメージを遠ざけたい、と思うようになった。それ以来プロレスという言葉は私の中でコンプレックスになってしまった。正直、今でも「プロレス」と口に出すのに、少し抵抗がある。ところが遠ざけたいと思ってはいても、気付いたらプロレスファンになってしまっているし、やられたら3倍やりかえす人間に育ってしまった。私にとって、よけいにプロレスであるからこそ、コンプレックスについて考えるのかもしれない。

話を戻そう。「K−1ファンです」と自称する人の中には、他の格闘技の知識がゼロの人もけっこういる。彼らにとってプロレスとかは、好き嫌いの前に「わかんない」のだ

無視されちゃってる。なんかイヤ、その余裕。

ファンじゃなくても観ているくらいの状況なのだから、プロレスファンからもK−1は丸見えだ。

〝隣の芝は青い〟というが、確かに青い。盛り上がり具合がハデだ。せっかくプロレスにこんないい芝が生えているというのに、お隣は、芝が青い上にガーデニングまで施されていてご近所でも評判、という感じだ。

プロレスが今のK−1のようになればいいかというと、ちょっと…。ただ、あれぐらいの勢いに乗れたらいいと思う。大勢の人に訴えかけるには、大勢の人が観ていなければいけない。そのために勢いに乗って上にいるK−1にコンプレックスを持ってほしいのだ。

コンプレックスを持ったら、それを力にしなければいけない。K−1は「素人にもわかりやすい」のがウリの1つなのだから、プロレスはK−1を、ファンじゃない人が格闘技に入ってくる入口として利用しちゃえばいい。

K−1から入ってきた人間をプロレスにひきずり込め!!　同じ格闘技ならできないはずがない。本当にそれができるのはプロレスラーだけである。特にファンはたいしたことはできない。できることと言ったらK−1に対して、あこがれではなくコンプレックスを持ちながら、プロレスを観続けることくらいだ。

がんばれ、プロレスラー!!　ガーンといけえ、カーン（本名・小沢正志）！

♪カレリ〜ン鼻から牛乳（意味なし）

目には目を、歯には歯を、女子高生には女子高生！　地上最強の挑戦者登場!!

ライセンスナンバー 9

『デーブ・スペクターはクセ毛か？』

WCRあまぐり（18歳）

1人で撮るのは最高にカッコ悪いです。しかも意味わからんフレーム……はじめてプロレスTシャツで外に出た…。

プロレスファンは何を想い、何を求めて試合会場に足を運ぶのであろうか。年齢、性別関係なく楽しめるプロレスには、ある種の感性を持った人々が自然と集まってくる。一般人にはなかなか受け入れられなくても、私は自分がプロレスファンであることを誇りに思う。また、他のファンにも誇りを持ってもらいたい。そう考えると、レスラー以上に個性的ではないかと思われる一部ファンにも親しみを感じずにはいられない。ルーズソックスにキティちゃんずくめの男性、一昔前の飯島愛を彷彿とさせる前髪の女性、どう見てもリバース堅気な人……。普通に街中で出会うと怖い人でも、〝プロレス好き〟という共通点があるために愛着さえもわいてしまうのだ。

大阪という土地柄もあるかもしれないが、会場で芸人さんを見かけることは珍しくない。9月21日の新日本・大阪府立体育会館大会では、某芸人さんが試合中にもかかわらず最前列で、「う〜んチュ〜イングボ〜ン！」と御自慢のギャグを自ら披露し、観客を引きまくらせた。なんとも非常識な行為ではあるが、人を笑わせたいという彼の芸人魂を見た（ような気がする）。でも邪魔なので二度とやらないように。

プロレスにはある種の感性を持った人々が集まると冒頭で書いたが、その感性には少なからず〝お笑い〟の要素が含まれる。「松永vsワニ」なんて、プロレスと呼べるかどうかは定かではないけれどおもしろい。自分でやっておきながら、「この試合に意味があるのかどうか……」なんて反省している松永さんがたまらない。でも、「ライオンとスキンシップをとるムツゴロウ氏」と同じくらい意味がわからない試合ではある。それなのに認めてしまうプロレスファンの中には、やはりお笑い感性が存在するのであろう。だから芸人さんにはプロレスファンが多いのだ（違う？）。

世間では肩身の狭い思いをさせられているプロレスファンであるが、裏を返せば、一般人にはない素晴らしい感性を持っていると伝えたかったことを理解していただけたであろうか。某レスラーに、「ファンはバカです」なんていうショックな言葉を頂戴したが、確かに私達にはバカな部分もあるし、レスラーにしてみればファンはうっとうしい存在でしかないのかもしれない。でも、〝ラリアットプロレスを否定する〟のではなく、プロレスにもいろいろな種類があるということをレスラーにも感じてもらいたいと思う。

毎日のようにものすごい試合をし、一般人とは掛け離れた世界で生きているレスラーには、ファン以上に素晴らしい感性が備わっているはず。そうでないとファンがこんなにもプロレスに魅了されるはずがない。高いお金を払ってでも、学校を早退してでも、その感性を感じるために私達は試合会場に足を運んでいるのだから。

※いつもイラストを掲載していただき、本当に感謝しています。ない知恵をしぼり出して「プライド0」の原稿を書いたのですが、やっぱりいづみちゃんには遠く及ばないです…。イラストはこれからもちょくちょく出しますので、よろしくお願いします。

超大物新人（10歳）『PRIDE・0』見参！　10歳が考えるプロレスとは？

ライセンスナンバー 10

『大物新人、武道館見参！』

俺はジャイアンガキ大将（10歳）

「驚異の新人！　武道館に戦慄とどよめき！」

全く末恐ろしい新人である。武道館という大舞台に臆することなく、その見たことのない動きで、観客の眼を自分に引き付けていた。凄い。凄すぎる。今世紀最後の大物新人であることは間違いないだろう。

……さてここで私が絶賛しているこの新人、決してパンクラスの渡部健吾ではない。試合のほとんどが10分勝負。その勝負がダウン一回、ひいてはロープエスケープ一回で終わってしまうなんてつまらないルールを導入する団体、人間に興味はない！

ではこの新人の正体は一体誰なのだ！　他に大物新人なんていたっけなー、なんて考えているようじゃ甘い甘い。キレのいい技と、美声、ニグロ魂全開の男を忘れたとは言わせないぜ！そう正解は、帰ってきた技の貴公子、超大物新人レフェリー、マイティ井上だー！　先日堂々のスーツ姿で引退式をキメた彼は、レフェリーとして9月11日、全日武道館のリングに帰ってきたのだ。やったぜマイティ！

とにかくマイティのレフェリング、既存のレフェリー達のスタイルとはかなり異なる。まずとにかく動かない。リング内で何があろうと、相当なことが無い限りコーナーポストを背にして動かないのである。「アレじゃ案山子だよ」なんて失礼なことを言う輩もいたが、全くわかっとらん！　「寡黙なダンディズム」これがマイティのレフェリースタイルなのだ。動かないマイティが、動き回る選手達よりも気になって仕方がない。すっかり俺は、レフェリーマイティ井上の虜になってしまった。

反則を注意するタイミング、カウントを取りにいく姿勢、マットを叩く仕草…。すべてがマイティ流。う〜ん、カッコイイ！　この日裁いたエース軍vs日本人若手の六人タッグでも、普通ならカウント2・9で試合続行であろうところで、カウント3数え上げ堂々と本部席に試合終了を告げたマイティ。その姿には、「俺がルールだ。俺がマイティだ！」という強い自己主張を感じずにはいられなかった。

そして次のファミリー軍団vs悪役商会の一戦。俺はゴング前からワクワクして仕方がなかった。普段だったら軽く流すであろう休憩前のこの試合が、マイティがレフェリーだということで、俄然入れ込み具合が違ってくるという訳だ。そしてゴングが鳴った。僕の視線はマイティに釘づけ。「一体どこで試合に巻き込まれ、永源にサマーソルトをキメるだろう」そう思うと眼が離せない。今だマイティ、行くんだマイティ！……しかし残念ながら、マイティは試合に巻き込まれることなく、ラッシャーのマイクにも登場することなくリングを下りてしまった。残念無念。しかし次回への楽しみが増えたと思えばこれもまたヨシ。マイティレフェリー、サマーソルトよろしく！

さて、マイティのいないリングで繰り広げられたこの日の後半戦、どうも噛み合わぬ消化不良の試合が多かった（秋山vs小川戦は素晴らしかった）。だからどうしても試合中にマイティのことが頭に浮かんでしまう。「もしもこの試合のレフェリーがマイティだったら…」そう考えるだけで、退屈な試合も楽しくなるから流石マイティ。「今のはマイティならカウント3入ってるよ」「いやいや、3どころか1も入らん」こんな会話を楽しめてしまうのが、マイティの深いところである。

これからもマイティ流のレフェリングで、決して既存のレフェリースタイルに染まることなく「マイティ道」を爆走してください！　マイティ井上レフェリー、最高だ〜!!

私も書くもん！ だって投稿少ないんだもん！ ジャイジャイ。

まだまだ投稿が足りないな〜。愛は足りてるんだけどな。まぁ、そんなことはどうでもいいとして……（よくないけど）。読者の皆さん、今回の三作品はいかがでしたか？　この中から、あなたが一番気に入った作品を一つ選んでクリクリ（応募方法はP144参照）。一番人気の選手は勝ち抜きとなり次号への参戦が自動的に決定します。5戦勝ち抜くと『紙プロ』認定超読者として殿堂入りとなり盛大な表彰式を行います。なお掲載者全員にとってもバーニングなプレゼントを贈呈します。参戦希望選手は、400字詰原稿用紙3〜5枚程度、内容は、プロレス・格闘技に少しでもかかっていればノー問題、ノー問題。住所、氏名、年齢、電話番号を明記し、ついでに顔写真（自分の似顔絵でも可）を同封の上、

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス『紙プロ』編集部「天地にハドドゥッ!!」係まで
●締め切りません。気長に待ってます。（ぴのこ）

RADICAL KIDS COLLECTION

構成／椎名基樹

KRS PRIDE.4 世紀のリマッチ ヒクソン・グレイシー（400戦無敗）vs 高田延彦（チャレンジャー） 他7試合
主催：KRS 後援：SKY PerfecTV!／日刊スポーツ新聞社 協力：メディアファクトリー

KRS PRIDE.4
OCTOBER 11.
闘強導夢

今回で2回目となる『RADICAL KIDS COLLECTION』プロレス&格闘技ファンのファッションをチェックし、大検証しちゃうぞ。今回のターゲット会場は高田延彦vsヒクソン・グレイシー戦が行われた東京ドーム。この試合に思い入れがたっぷりこもった服装が溢れかえっていたよ。

タツ（20）
神奈川県
高田サイン入りキングダムTシャツという、レアかつ複雑な思いを禁じ得ないファッションです。

堀江将司（25）　東京
10年物の第二次UWFTシャツで決めてくれました。ガーゼのように薄くなっていて、高田選手への思い入れが伝わります。

堀篭賢（26）　広島
なんといっても右手のクレープが決まってるよ。道の詩が持つストイックさと正反対で、とってもミスマッチしてるよね。

グレートかぶき者（24）　東京
長そでの上に半そで、ターバン、一松模様の靴というハイセンスなプロレス界のファッションリーダーで～す。

綿引雅行（40）　東京
PRIDE.1の帽子でバッチリと決めたよ。去年の思いを引きずりながらも爽やかなのが大人の証拠。ナイスミドルです。こうして見るとフランスのカフェでのスナップみたいだよ。

斉藤和夫（39）　茨城
ヒクソンポーズを決めてくれました。今日は組合に声をかけて応援に来たそう。赤のウエストポーチがアクセントになってるよね。

伊賀野思唯（23）　大阪
UインターTシャツに、最強・高田復活の願いを込めてくれました。まるでヒップホップの人みたいで決まってるよ!!

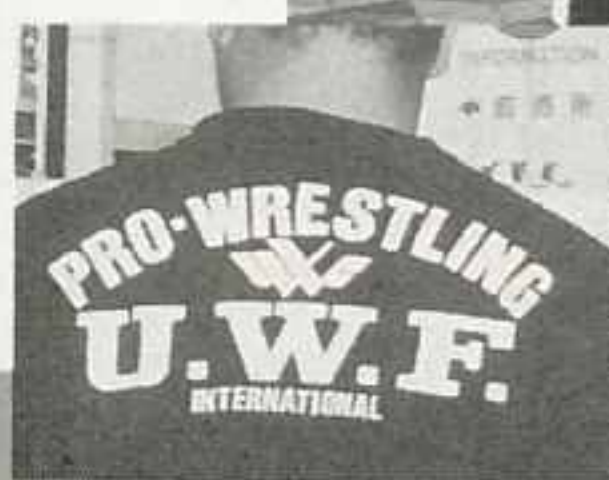
河村貴寿（21）　東京
八木加奈子（21）　東京
彼女の「L・1リストバンド」が素敵。でも、2日続けてケンカ観戦だなんて、血の気が多いカップルだよね～。

PRO-WRESTLING U.W.F. INTERNATIONAL

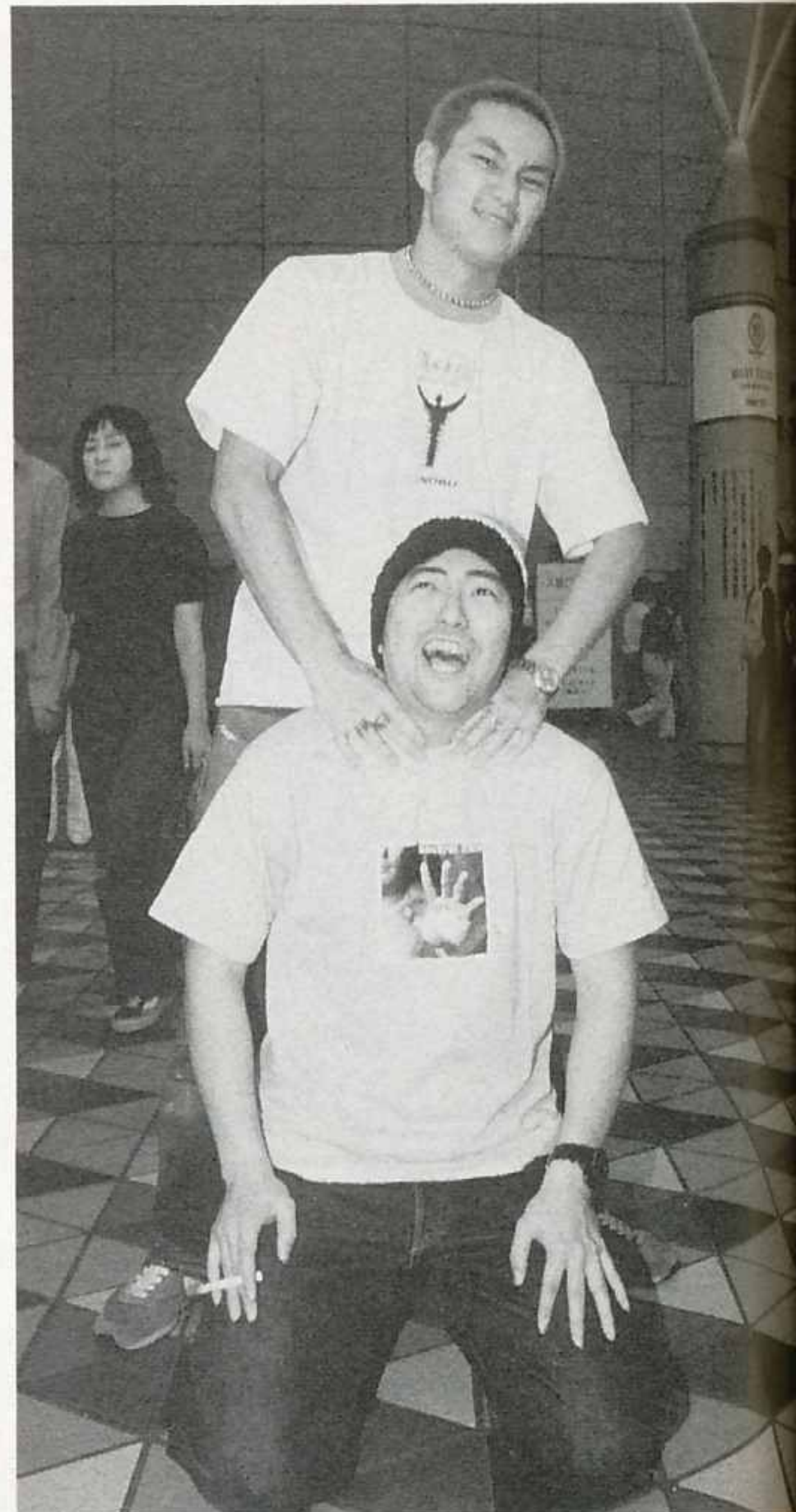
首藤篤(25) 大分
手作りTシャツで決めてくれました。この薄汚さを見て、自分のUWFへの思いの本質を見せられたように思い、ゾクッとしました。

高尾毅一郎(25) 大分
彼も高田への思いをTシャツに託してくれました。でも、黄&黒がちょっと天龍を想像させる仕上がりです。

蓼沼一郎(23) 大阪
リングス・オランダTシャツで、これまたレアに決めてくれました。ズボンの中に入れたのが、カッコ良さを引き立ててました。

S'S(22) 東京
人気の佐藤ルミナTシャツで、カブキの蛇手を決めてくれました。それにしても、この時期に寒くないのでしょうか?

タカハシ・リリアン(19) リオ・デ・ジャネイロ
ヒクソンブランドのジャケットというか、白がとっても似合うカワイ子ちゃん。彼女がいるならヒクソン側に……と秘かに思う……。

上今村歩(25) 神奈川
渡辺友郎(24) 神奈川
高田がエンセンの首を絞める、本誌11号の表紙風に決めてくれました。毛糸の帽子がものすごく似合ってますね。

ハタヤマサトシ(31) 千葉
修斗君Tシャツに、鍵ヒモがシューティング度を増しています。マッチョ・ボディーによく似合うよね。

北村康弘(23) 千葉
ヒクソンキャップに、エンセンTシャツが強そうだね。頭に仙人、胸に野蛮人のコーディネイト。

ベルディ・コルーティマン(23・男)
ナターシャ・コルーティマン(25・女)
リオ・デ・ジャネイロバッドボーイを着込んで、ヒクソンの応援に駆けつけたブラジリアン夫婦。ヒクソン・ポーズに奥さん苦笑い。お幸せに～!!

藤沼秀夫(39) 東京
ゴッチイズムとともに日本プロレス界に息づく伝統精神、テキサス魂で応援です。

ザ・検証 卯木イズム

高田vsヒクソン 商魂伝承10番勝負

構成／せきしろ

卯木とは何か!?

UNOKI DAIHYOU

THE BURNIG SPIRIT

WHAT is UNOKI ?

多くの人によって幾度となく語られてきた「猪木イズム」。一方、誰も語らない、いや語る必要がない、語っても仕方ない、語るにも何を語ったらいいのかわからない、というかイズムそのものがない「卯木イズム」。今回もその「卯木イズム」を大検証。燃える商魂・卯木氏が、時折弱音やインチキ臭い芸能界裏情報を交えながら、まだまだ下半身は現役だと言い張る親戚のおじさんのように語ってくれました。

第1戦★部下にするならどっち？

『ヒクソンかなあ。一度上司と決めたら、忠実にずっと言うことを聞きそうやから。例えば「それは違うやろ」というとヒクソンなら「はい、違います」と言いそうや。飲み屋に「自分の部下や」と連れていったとして、高田選手だったら女を取られそうやもん。男前やからな』

●「飲み屋で自分以上にモテないこと」これが卯木イズムにおける部下選びの鉄則。よってこの勝負は、飲み屋で自分の目当ての女の子をとられそうかどうかが大きなポイントとなった。したがって男前の高田よりも、「あの女を譲れ」と言ったら「はい、譲ります」と言いそうだという卯木氏の想像からヒクソンの勝ちとなった。

第2戦★上司にするならどっち？

『ヒクソンは怖そうやな。不埒なことをしたら許されへん感じがする。高田選手やったら幅があるっていうか、遊びの部分がありそうやろ。冗談も通じそう。プロ野球ニュースもやっとったから、仕事中プロ野球を見ても怒られへんだろうし。高田選手の方がやわらか頭っぽいやろ』

●仕事中にプロ野球を見ても怒らない上司、これが卯木イズムの中の理想の上司像である。この勝負、プロ野球ニュースのキャスター経験のある高田に軍配があがったのも当然であろう。ところで卯木イズムは流行に敏感である。ここでも「やわらか頭」なる新人類の使う言葉で高田を表現している。驚きだ。

第3戦★同僚としてやっていくならどっち？

『アフター５やったらヒクソンの方がええかもしれんな。同僚だとしたらヒクソンの方がいじりやすい。「こいつ、堅物でな」とか言ってな。ヒクソンをいじって、飲み屋の女を引きつけておいて、おもしろさ担当の僕が冗談を言って、「おもしろい人ってええわ」と思わせるんや。その点、高田選手は男前やし、女を喜ばせる冗談も心得てるだろうし、女をとられそうやんか』

●卯木イズムの根底には絶えず、「飲み屋でモテたい」なる願望が存在する。ヒクソン＝堅物といった見た目の印象のみから判断を下したこの勝負、これまたヒクソンの勝ちとなった。ハナキンのアフター５、ヒクソンの顔に「飲み過ぎシール」を貼ってご機嫌な卯木氏の姿と、キレる寸前のヒクソンの姿が想像できるであろう。

第4戦★抱かれたいのはどっち？

『ヒクソンかな。ヒクソンのってどんなやのかなあって思うし、ヒクソンのそういう行為に興味がある。高田選手とするっていったら、何となく想像つくし、その辺は普通の感じがするから』

●卯木イズムでは性欲さえも好奇心優先となるらしい。精通したトム・ソーヤこと卯木氏のいま一番気になることは「ヒクソンはベッドの上でも無敗なのか？」ということ。夜のマウント・ポジション、大人の関節技など、文字どおりの寝技に興味津々。この勝負、ヒクソンの勝ち！

第5戦★抱きたいのはどっち？

『やっぱり興味という点からヒクソンやね。神秘がある。でも、１００点か０点やろうな。全然感じないとか、ものすごい匂いがするとか。高田選手ならそういうハズレはないだろうけど。興味の差やね』

●「危ぶむなかれ、やればわかるさ」の精神にのっとり、卯木イズムでは興味のある女性といつ、何時でも寝てみたいと思うものなのである。したがってこの勝負もヒクソンの勝ち。果たしてヒクソンは１００点か０点か!?

第6戦★卯木監督映画の主演にするならどっち？

『映画の種類もあるやろうけど、日本映画ならヒクソンかなあ。高倉健のような寡黙さがええかも。高田選手は明るいし、男前やし、どっちかというと菅原文太やろ。その手の映画を撮るなら高田選手やな。でもヒクソンの方が使い道がありそう。寡黙な殺人者とか……（以下略）』

●40近いけど、夢は映画監督！　いつまでたっても夢を忘れないことが卯木イズムの良いところでもあり、悪いところでもある。そんな映画大好きな男が選んだのはヒクソンであった。タイムスリップしたサムライ役のヒクソン、ＩＱ＝０でカンニングばかりするヒクソン、ヒクソンはＢカップ!?　様々なヒクソンが卯木氏の頭の中のスクリーンで大暴れしていることであろう。

第7戦★娘さんのお婿さんにするならどっち？

『娘は二人いるから、それぞれ一人ずつでもいいけど、長女の方なら……（この後しばらく考え込む）。まあ、高田選手の方が、親としてとっつき易いやろうな』

●恋人の一人くらいいなきゃダメと娘に言うくせに、娘に男から電話がかかってきたら一番気にする父親、それもまた卯木イズムである。この勝負では高田を選択したが、実際に娘さんが結婚したいという相手を連れてきたら卯木氏はどうするのであろうか？　黙ってしまうのか、取り乱すのか。どちらにしろ寂しそうな卯木氏の背中が想像できるのではないだろうか。

第8戦★ジーンズが似合うのはどっち？

『高田選手はブルージーンズが似合うわな。ヒクソンなら黒いジーンズ、ブラックジーンスかな。ブルージーンズに白いＴシャツという定番が似合うのはどっちやろうなあ。高田選手って、白いＴシャツの上にセーターを羽織ってそうやしな。ちょっとオシャレすぎるなあ。ヒクソンならそのままＴシャツでいきそうやな』

●ファッションにも意外と敏感、これも卯木イズムでは大切である。瞬時にその人に似合うジーンズの色を言ってのけるくらいファッションに敏感な卯木氏の判定は引き分け。しかし、引き分けでは納得いかなかったのか、ジーンズ＋Ｔシャツが似合うのはどっちという延長戦を一人で開始した。その結果はヒクソンの勝ち。猪木イズムが「紙一重の差」ならば、卯木イズムは「セーター一枚の差」なのである。

第9戦★新聞の勧誘に来たらイヤなのはどっち？

『ヒクソンの方が口数が少ないし、なんか不憫になって新聞をとってしまいそうやな。それで「よみうりランドの入場券付けて」とか言ったら、「会社の方に聞いてみます」っていちいち確認するんやで、きっと。ヒクソンの方が粘りそうやしな』

ここでもヒクソン＝堅物という、外見からのイメージのみが勝敗を決めた。ヒクソンは洗剤や遊園地の入場券を付けるときもいちいち会社に確認するほどの堅物と、卯木氏の想像は膨らんでいる。余談だが、この取材中ずっと卯木氏は「ヒクソンって冗談とか言うのかなあ」としきりに気にしていた。

第10戦★父親にするならどっち？

『う〜ん、ヒクソンかなあ……』

●父親という言葉に、なぜか口数が減った卯木氏。そういえば卯木氏も、Jd'代表、おもしろサラリーマンである前に、一人の父親である。何か考えることがあるのであろう。私はそっとしておくことにした。

今回の検証結果

8勝2敗でヒクソンの勝ち！

Uの遺伝子（ＵＮＯＫＩの遺伝子）はヒクソンに受け継がれることになりました。よって、ヒクソンをJd'二代目名誉コミッショナーに勝手に認定します。おめでとう、ヒクソン！

※UNOKI商魂LIVE〜Jd'が女子プロレスのオールスター戦を仕掛ける！　12月26日（土）有明コロシアム（17：00スタート）ジャガー横田の引退試合もありまっせ！

ボブ・バックランド

BOB BACKRUND INTERVIEW

21世紀間近に蘇ったゴールデン・タイム伝説!!

WOW!!

ボブ・コール大爆発!!

聞き手／ノビー
interview by Nobby
撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

10月5日後楽園ホール。プロレスがゴールデン・タイムで放送されていた頃のヒーロー、ボブがバトラーツのリングに久々の来日を果たした。マット界一元気な〝バト魂〟に触れて〝ボブ魂〟が点火！　ボブはメガ元気なファイトでファンを圧倒そして魅了！　元気好きな本誌はトーゼン、ボブ魂の源を探るロング・インタビューをお届けする。ウォウウォウウォウウォウ!!

BOB BACKRUND

日本のファンが私のことを覚えていてくれたということに非常に感銘を受けています！

「ウォウウォウウォウ！」――気がつくと口にしているほど、ボブのファイティング・ボイスは一度耳にすると離れなくなる。それだけボブの存在感が大きかったということだ。

ボブ・バックランド――。74年、全日本プロレスに初来日。それ以降、アントニオ猪木とのWWF王座を巡る闘いを中心にして、ボブの果敢なファイトは、日本全国にゴールデン・タイムで流されていた。

そのボブが10・5後楽園ホール、バトラーツのリングにやってきた！

重心を低くしてお尻をグッと突き出した独特のボブ構えも、ボブ・スマイルも、ハイアングル・アトミックドロップも、キーロックをリフトアップするボブ・リフトも、「ウォウウォウウォウ！」というファイティング・ボイスも、何から何までが健在だった。そして何よりも、ボブは非常に元気でエネルギッシュだった！

まさに、バック・トゥ・ザ・フューチャー。たまらないタイム・スリップの世界が現出する。

ボブのエネルギーに呼応するように、ホールのファンも、正気の沙汰とは思えない「ボブ・コール」で迎えた。しかもノーテンキな○○コールとは違った、カラッと明るくてジワリと重い、非常に不思議な感覚のコールだった。

まさに、現在のファンとゴールデン・タイム伝説が邂逅を果たした瞬間なのである。

その日本のファンのお出迎えに気をよくしたのか、ボブは難敵の池田大輔を下し、8人の男が、いまや死語となったロマンを賭けて争う『B―CUP』準決勝にコマを進めた。

この日のボブのファイトぶりと、存在感を見て確信した。

「B―CUP」の「B」、つまりバトラーツの「B」には、「バトル・アーツ」「バチバチ」「バカ」「バッタもん」など様々な意味あいが込められているが、おそらくこの中には「ボブ」という概念が入るのが運命だったのだ。

「B」――。

おそるべき許容量である。

そういうわけで、グッド・ファイトを見せてくれたボブに後楽園大会終了後に話を聞いてみた。

ゴールデン・タイムの電波にボブ・スマイルが乗っかっていた頃に『紙プロ』は存在しなかった。つまりこれは、『紙プロ』とゴールデン・タイム時代の伝説が一夜の邂逅を果たしたということにもなる。

そうして話を始めたボブの口調は、リングの上のエネルギッシュなイメージとは違い、静かに深く、そしてジワリと熱かった。

これって誰かに似てないか？

ボブは、インテリジェンス溢れる低音の渋いボイスで、しかしときには聞き取れないくらいの小さな声でボソボソブツブツと語りだしたのだった。

ボブ哲学とは何か？　ロング・インタビュー開始である。ウォウ！

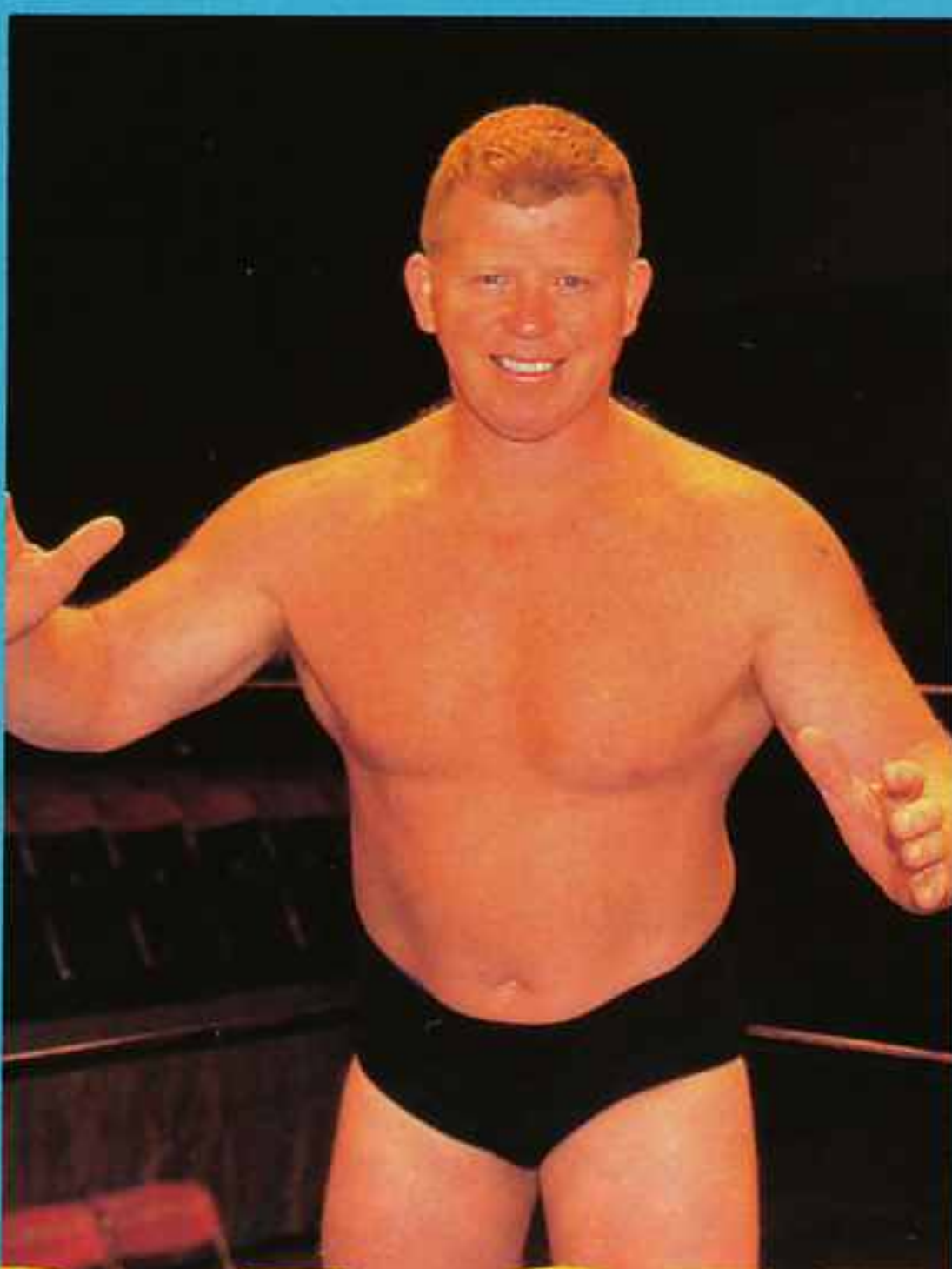
――今日は素晴らしい試合でした。

BOB　そう思っていただけて非常に嬉しい限りであります。あなたのマガジンも、ビューティフル・マガジンですね。

――そう思っていただけて非常に嬉しい限りであります。今日の対戦相手の池田大輔選手については試合後にもでも誉めてましたね。

BOB　非常に尊敬します。ものすごく頭が固かったですね。非常にラフに闘ったのでいまでも頭が痛いです（笑）。あのヘッドバットは効きましたよ。

――今日はすごい歓声でしたね。

BOB　もしかしたら日本のファンは私のことを忘れてしまったのかと思った場面もありましたが、非常に喜びが湧いた試合でした。ファンが私のことを覚えていてくれたということに非常に感銘を受けています。感激しました。

1950年ノースダコタ出身。現在48歳。大学時代にはアマレスでAAU全米選手権4連覇。73年、プロレス・デビュー。74年に初来日。76年にはミズーリ州ヘビー級王座を獲得。カール・ゴッチ、ルー・テーズ、ダニー・ホッジの後を継ぐアメリカン・ストロング・スタイルの申し子として将来を嘱望される。78年、MSGでスーパースター・ビリー・グラハムを破りWWF世界ヘビー級タイトルを獲得。"ニューヨークの帝王"としてその名を全世界に轟かせた。日本では猪木、藤波、高田、船木らと記憶に残る名勝負を演じた。得意技：アトミック・ドロップ、チキンウィング・フェイスロック、キーロックをかけられたままリフトアップする、ボブ・リフト。今回、バトラーツのリングに初登場！

B-CUP 1回戦、池田大輔戦突破！

10・5 久々に来日したBOBの1日!!

1.この日成田空港に降り立ったボブは、会場に着くなりウォーミングアップ開始。ウォウ！
2.プッシュアップの板を使って汗をかきまくるボブ。どんな器具でもトレに応用してしまうのはゴッチ・イズムか
3.試合前に同じくリング上で調整していた石川社長とミニ合同トレ！　運命の出会いだ！
4.いよいよ池田大輔戦に出陣。会場はボブが姿を見せると、正気の沙汰とは思えないボブ・コールを贈った
5.バト両国大会の応援ガールズ、サウスポーから花束を受け取るボブ。この後、トーゼン、ボブ・スマイルからＫＩＳＳを決めた！　ウォウ！
6.アマレス・ウォークを披露したあとも、ボブは鬼元気！　大ちゃんとファンを圧倒しまくった
7.コールを受けたとたんに、ホールは一気にバック・トゥ・ザ・フューチャー！　現在のバトファンも伝説と邂逅した
8.試合開始のゴング！　ボブはアマレス流のタックル！　年はとっても基礎は身体に染み着いている！　ボブ、元気！
9.ボブはアマレス・ウォークでアピール。このあと「スープレックスで投げるぜポーズ」も。たまらないタイム・スリップだ
10.古典的な大技、ダブルアーム・スープレックス！　ボブのこんな大技がバトのリングで見れるなんて素敵すぎる
11.出た！　UWF全盛時代に「関節だけでなく、アトミックドロップにも極め方がある」と豪語していたボブのハイアングル・アトミックドロップが炸裂！　会場を興奮のるつぼに叩き込んだ必殺技だ！
12.これまた古式ゆかしいプロレスの必殺技、ドリル・アホール・パイルドライバー！　ボブがやればひと味違う！
13.大ちゃんも負けじと、バト流の"鈍い音がしたときこそリアル"なヘッドバットの洗礼！　ボブは場外に回避！
14.出た出た出た！　フィニッシュは後方回転足折り式エビ固め（合ってるか？）。プロとしての引き出しの多さと一つひとつの技の重みに脱帽！
15.出た出た！　大ちゃんが「この技で勝つ」と言っていたキーロックを繰り出すと、ボブは3度目のトライでリフトアップ！　ナチュラルパワーもまだまだ衰えていない。ウォウウォウウォウ！

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

―いつ以来の試合ですか？

BOB　アメリカでは今年の春にシカゴでやったのが最後。日本では5年くらい前に試合をしましたね。試合ではないけど、今年の春にはミスター・イノキの引退式に来ましたしね。

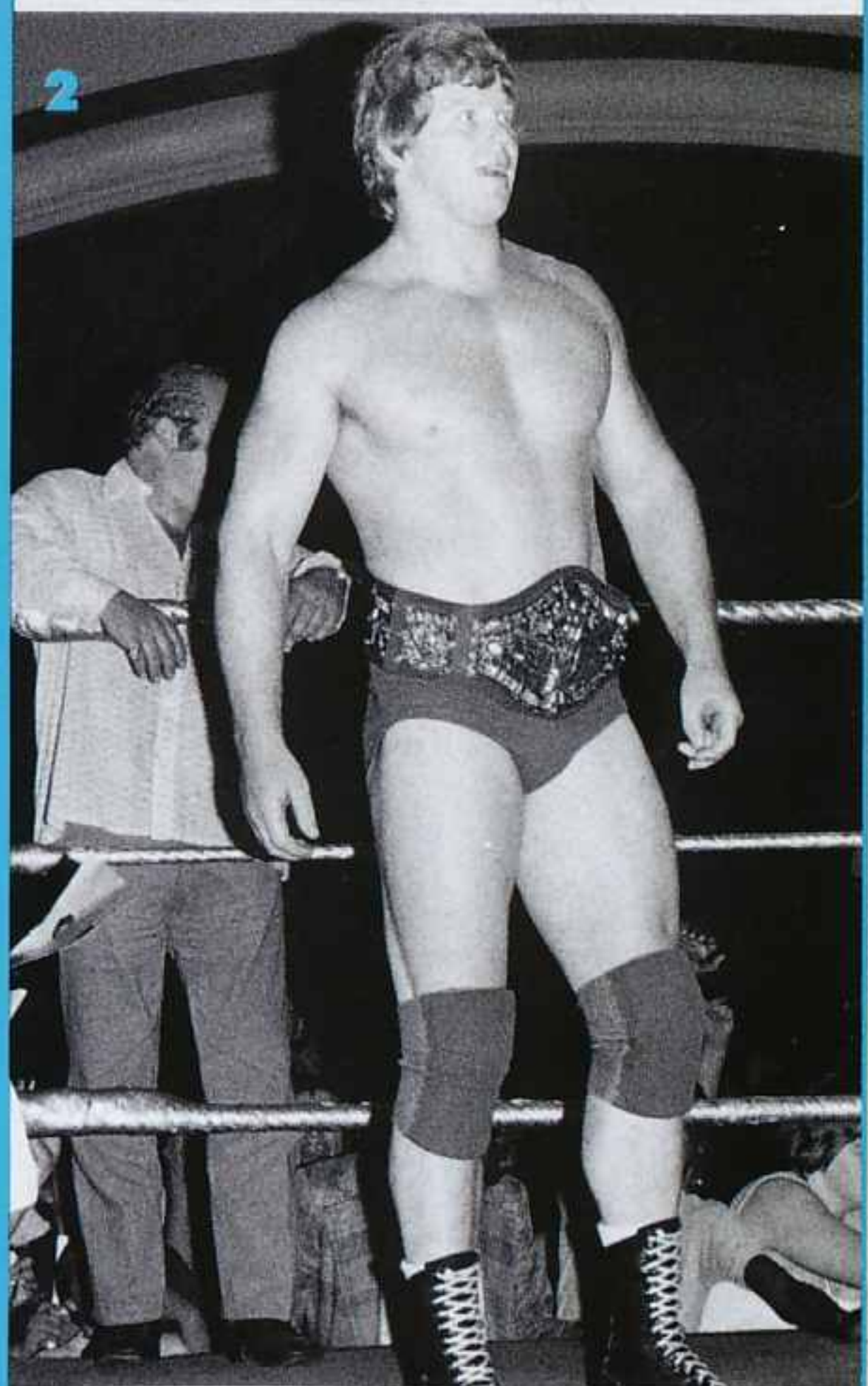
―そうですね。いまでもリングに上がっているなんて、いや、実にエネルギッシュです。

BOB　YES. しかし、どちらかといえばいまは家庭で妻と過ごすことの方が多いです。いまは建築関係の仕事に携わってますけど、毎日のトレーニングは欠かしてませんよ。

―11月23日の『B―CUP』トーナメント決勝に上がってくることは確実といわれる石川雄規のファイトは、今日は見ましたか。

BOB　イシカワについては、少しだけしか見ていないので意見を言うことはできません。アメリカに戻ってからビデオを見ます（笑）。

―でも、いまボブさんは静かに朴訥と話しているけど、なんでリングに上がるとあんなに元気になるんですか？（笑）。

BOB　そう。リングに上がると、凄く性格が変わってしまうんですよ。グッフッフ。もしかしたらこうしてしゃべっている言葉より、ボディ・アクションで示せるリングの方が一番自信を持って自分を示せるのかもしれないですね。だから、そういう風に見えるのかもしれないです。でも、非常に日本のファンが私を応援してくれたので、そのサポートによって身体の中にエネルギーが見事に注入されたような気がしますね。

―日本のファンもボブさんのファイトを見たのは久しぶりだけど、ボブさんの変わらないエネルギーを注入されて元気になったと思いますよ。

BOB　そうですか？　私も日本の人は大好きです！

―日本に来たガイジンさんはそう言う人が多いんですよ。ホントに日本の人々が好き？（笑）。

BOB　オフコース（笑）。

―でも、普段のボブさんとリング上の元気なボブさんのギャップには驚くばかりですね。もしかしたら二重人格ですか？（笑）。

BOB　私は精神分裂病じゃないですよ。グッフッフ。確かに私は日常生活においては非常にもの静かな男だと思う。できるだけストレス・フリーな生活を送りたいと思っているからね。しかし、一旦リングに上がれば、外に向けて自分の感情を思いきって出せるように、自分自身を常に準備しています。

―それはやっぱりプロのリングに上がるようになってからのことなんですか。

BOB　私が最初にレスリングを始めたのは10歳の頃です。高校、大学とレスリングをやってました。でも学業の成績はあまりよくなかったわけです（微笑）。その理由は、私がまったく努力しなかったからです。そのことをいまでは実に後悔してますけどね。

―私もズバリ言って、非常に学業の成績はよくなかったですね（笑）。

BOB　だからといって運動選手としての成績もよくなかったんです。

―ウォウ！

BOB　実を言いますと中学くらいまではずいぶん試合で負けてました。それで段々良くなってくるにつれ、それが自分にとっての褒美となり、学業が良くなくても学年を上がれることになった。1年中トレーニングすることによって自分を高めていったわけです。

―ウォウウォウ！

BOB　だから、上の学校に進んだのは教育を受けるためではなく、私のアスリートとしての能力に奨学金が出て、レスリングで大学まで行けたわけです。そういったような経緯から、自分が二つの人格を持っていることに対する説明がつくと思いますね。大学を出た時点でプロになりましたが、大学を出たとはいえ、学位は持ってはいても実際には勉強などしなかったですからね。本当に私がインテリジェンスを磨き、しかるべき知性を持とうと考えたのは42歳からなんです。

―ウォウウォウウォウ！　42歳ですか！

BOB　自分は読解能力。つまり文章を読む能力が非常に遅かったんですけど、いまでは1分間に5000ワードを読むことができるようになりたいと思ってます。はい。

―1分間に5000ワード！

BOB　それには、あと5年くらいかかるかもしれないですがね。だけど、それができるようになるまではあきらめません。ワタシが日本人を尊敬してる理由の一つには文盲率がゼロに近いということがあります。それに対してアメリカという国は識字率が高い国ではないんです。そういった意味で日本人を非常に尊敬し

1.74年7月、全日本プロレスのリングに初来日を果たしたボブ。ジャンボ鶴田、高千穂明久（カブキ＝引退）らの同世代に次々にピンを許し、勝ち星には恵まれなかったが、その素質に関係者は目を見張っていた。どこかぎこちない動きが、妙なリアリティを醸し出していた

2.76年にはハーリー・レイスを破り、当時の権威・NWA世界王座への登竜門的タイトル、ミズーリ州ヘビー級王座を獲得。2年後の78年にはNWAのオポジションの権威であるWWF王座を奪取。全世界にその名を轟かせた。ボブ時代の幕開けだ

3.78年5月にWWF王者として新日本プロレスのリングに立ったボブ。同年11月にはA猪木に一度タイトルを奪われている。一連の猪木とのストロング・マッチは記憶に残る名勝負だった。その猪木と組み「第1回MSGタッグリーグ」も制覇している

私がアメリカで最も嫌われてる者のうちの一人だったということをご存知ですか？

てますよ。

——42歳で真のインテリジェンスに目覚めた理由というのは？

BOB　レスリングというのは私にいろんなものを与えてくれました。財政的な面でも肉体的な面でも。しかし、それだけではアメリカではやっていくことはできないんです。書くこと、計算することといったスキルはもちろん、コミュニケーションの能力がないと社会で成功することはできないということです。

——ボブさんは社会で成功してるじゃないですか。

BOB　私は政治家になるつもりで選挙に立とうと思ったんですよ。今年立候補するつもりでしたけども、ある候補に道を閉ざされてしまいました。私は1992年の時にクリントンと反対の立場を取りましたよ。私は共和党ですのでね。闘いましたよ。というのは民主党というのは政府の規模というのを大きくしようとし、それに対して共和党は小さな政府でやっていこうという考え方を持っています。といっても、私は過激な共和党員ではなく、共和党のやり方というのが好きなんです。

——はー。

BOB　私は1996年のクリントンの再選の時に共和党の支援に回りました。その理由は、私は自分の娘にこう言いたかったんです。「大統領というのはマリファナを吸うような人物であってはならない」と。結局、クリントンが勝ったことによって、マリファナを吸う大統領が執務室に入ってしまうことになったわけです！　つまり、彼はマリファナを吸うバカだッ！　その時私はアメリカは負けたと思ったんだ！

——静かながらも政治に対する熱い思いが伝わってきます。日本ではかつてアントニオ猪木が政治家だったことは知ってますよね。

BOB　ミスター・イノキは、非常に素晴らしい人物だとわかっていたので政治家になっても大きな仕事ができるだろうと思っていました。

——ここで素朴な質問です。なぜ、強い人は政治に興味を持つのでしょうか（笑）。

BOB　グッド・クエスチョン。強い人は常に変化を求める。それもより良い方向に向かって変化を求めます。私が政治家になりたいと思ったバックグラウンドをお話ししましょう。私がアメリカで最も嫌われてる者のうちの一人であったことをあなたは御存知ですか？

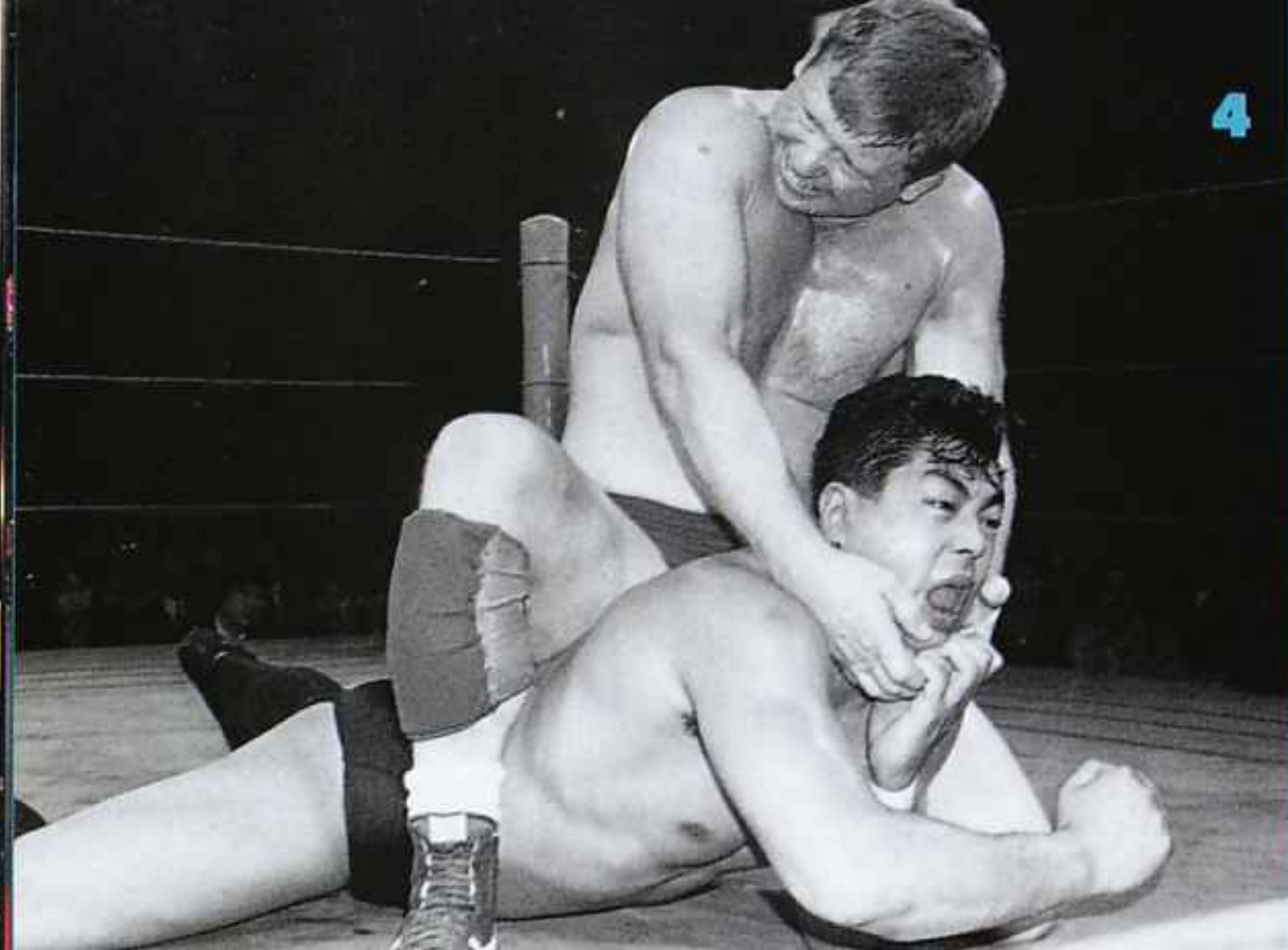
——ゲ！　ボブさんがアメリカで一番嫌われていた!!

BOB　1983年にプロレスを一時辞めた私は政治的なフィールドに行くことを決心しました。そして子供への厳しい躾、教育ということを強調して話していました。例えば、子供は呪いの言葉や汚い四文字言葉を使わないようにしなければいけないし、麻薬を使ってはいけない。そういったことを盛んに言い立てたためにアメリカでは嫌われてしまったんですよ（苦笑）。

——はっはー。要するに小うるさいオヤジだと思われたわけですか？

BOB　というよりも、私が非常に難解な言葉を使って、人によってはその言葉の定義すら知らないような難しい言葉を使って説諭をしたためです。だから、ただ単にうるさいオヤジというのではなく、聴衆が理解できない言葉を使うということで嫌われたのではないかと思います。

——う〜ん、面白い話になりそうなんですけど、この後の話はインタビューが終わってからゆっくりしましょう。

BOB　OK！（笑）。

4.88年12月22日大阪。UWFのリングにボブが異次元参戦し、高田延彦と対戦。Uスタイルvsオーバーアクション込みのアメリカン・ストロング・スタイルの激突はガ然注目を集め、チケットは発売直後に完売。軍配は日の出の勢いの高田に上がった

5.89年5月21日NKホール。Uのリングに再び立ったボブは、新日本からUに移籍した直後の船木誠勝（当時・誠治）と垂涎の一戦を行った。注目された対決は、船木がコーナーポストからドロップキックを放ち反則負け。UWFルールとは何か？　を発端に物議をかもすことになった

6.91年9月、その年に解散したUWFから派生したUWFインターのリングで若きエース・高田と対戦したボブ。が、高田のミドルキック1発で悶絶。1分15秒でKO負けとなった。ボブは「金的だ」とアピールし、釈然としない決着に場内は暴動寸前の大騒ぎとなった。11月に両者は再戦。またしても軍配は高田に上がった

7.94年3月にはWWFの「マニア・ツアー」に帯同。同年8月にはWARのリングにも登場し、WAR認定世界6人タッグ王座に就いている。この頃から第一戦から退いた感のあったボブだが、バトのリングに漂う情念を感じとり、“ボブ魂”を復活させた。いかすぜ、ボブ！

BOB BACKRUND

――ところでボブさん、ズバリ言ってあなたにとってプロフェッショナル・レスリングとは何ですか？

BOB　敢えて私は「レスリング」という言葉を使いたいです。なぜかといえばレスリングはアマチュアであれプロであれ、非常に良いものを私に与えてくれたからです。

――なるほど。

BOB　私はレスリングによって、いつでもベストを尽くすということと、自分自身に対してごまかしをしないということで自分を高めることができるようになりました。もし、自分をごまかしたり、人をごまかしたりすれば、ごまかすことによって、望んでいることは長く続かないのです。最後には負けてしまうから。いつでもベストを尽くすことが大切です。もう一つ重要なのは、レスリングは私に生活の糧を与えてくれました。

――そうすると、ボブさんの中ではアマレスもプロレスも区別はないんですか。

BOB　頭の中ではその二つを分けては考えてはいません。ただ、アプローチの面では分けています。プロフェッショナル・レスリングはビジネスであり、アマチュアはビジネスではない。取り組み方の違いです。

――では、そのビジネスに一番必要なものとはなんですか？

BOB　まず、ビジネスは根本的にお金が大切です。自分とまわりの人間のために、あるレベル以上の利益を上げられなかったら、それはビジネスとは言えない。それはたとえレスリングでも、他のあらゆる仕事でも同じですよね。

――実に頭の痛い話です（笑）。

BOB　だけど、それはわかってもらえますね？

――いや、まったくその通りです。

BOB　また、人として何をすれば自分の価値を高められるかということが成功の鍵になってくると思います。「ギミック」という言葉があります。あまり良い言葉ではないし、良いイメージはもたれないでしょうが、実はそれは価値あることなんです。

――そのギミックということでいえば、ボブさんにとってリング上でアクションすることは、価値あるギミックのうちに入るわけですか。

BOB　NO。それは違います。私が最初にプロフェッショナル・レスリングのリングに上がった当初は〝ボブ〟と呼ばれていました。しかし、やがてミスター・バックランドと呼ばれるようになりました。その過程こそが、そう呼ばれるようになったことが、つまり「ギミック」なのです。

――すいません、さっきから「ボブさん」と呼んでました（笑）。

BOB　いえいえ、それは気にしないでください。私が知性を発揮できるようなボキャブラリーを使って話すようになり、それが人に認められるようになったということが私にとっての「ギミック」なのです。

――バックランドさんなりの「ギミック」の定義ですね。

BOB　1992年、WWFからヒール（悪役）になるように頼まれたことがありましたが、私はそれを断りました。その背景は現在のアメリカの社会情勢と大きく関連します。残念なことですが、良い人が悪いと言われ、悪い人がグッド・ガイと言われる逆転現象が起こってきたわけです。O・J・シンプソン、ビル・クリントンという輩が、ある人にとっては良い人と言われるようになった。コカインを吸引し、ステロイドを使用する、本来ならバッドガイであるはずの人物がワシントン市長に再任してしまう世の中となったのです。つまりアメリカ人にとってのグッドガイは、葉巻を吸う人や、テレビに出て暴れる人と定義されてしまったようなものです。それが現在のアメリカなんです。

――ワイルドさを売りにするというか、悪い奴がヒーローになりやすいということですか。

BOB　その通りです。

――それはいまの日本も同じですよ。そして世間のバカが表面だけそれを真似するのでタチ悪いんです。ホンモノの悪い人なら僕は好きですけどね（笑）。

BOB　本当の理想の社会ならば、自分の行動に責任を持てるはずです。しかし実際にはそういう行いをする人は、いまのアメリカでは良い人とはみなされない場合があるということです。それは実に悲しいことです。

――なるほどね。バトラーツの社長の石川雄規は、ロマンや愛や勇気や強さ。いまの日本の社会ではダサイと言われることを、それこそが本当にカッコイイことであるんだよと訴えるためにプロレスをやっているんですよ。ちょっとはしょり過ぎましたけど。

BOB　それはつまり、私がやってることと同じです！

――同じ！　まさに運命の出会いだ（笑）。運命といえば、あなたはプロレス入りする際、ドリー・ファンク・ジュニアにスカウトされたということになってますが？

BOB　NO。確かにドリー・ファンク・ジュニアにはキャリアの中でいろいろ助けてもらいました。しかし、私がレスリングをアマチュアでやってた時は名前さえも知らなかった。私がプロのレスリングを始めた頃にルイジアナ州のバートンルージュというところで試合をし、そこで初めてドリーとテリー（・ファンク）に会ったのです。それからいろいろ話をして、ドリーとテリーが私を日本に来ることを助けてくれた。彼らが私に日本に来る機会を与えてくれたようなものです。その当時にジャンボ・ツルタにも会いました。彼とも随分助け合いましたよ。

――アマリロでジャンボ鶴田やスタン・ハンセンと一緒にトレーニングしたと日本では伝えられてますけど。

BOB　いえ、特に一緒に練習したことはありません。私がレスリングのトレーニングをしていたのはミネアポリスであり、一緒の場所でトレーニングしたことはありません。

――そうなんですか。そのジャンボ鶴田はあなたのことを非常に真面目な人だと評していたんですけど、ミスター・バックランドはどんな子供だったんですか。

BOB　ビッグ・シャイ（照）。

――そうすると有名な「ボブ・スマイル」はプロになってから開眼したんですか。

BOB　それは難しい質問ですね（笑）。でも確かに少年の時はあまり微笑んだりはしませんでした。ただ一つ言えること

強い者は常に変化を求める
それも、より良い方向に向かって
変化を求めます

WOW WOW WOW!!

は、どんな時でも人生を前向きに考えるということです。私は必ず物事はうまくいくのだと信じるようにして生きてきました。両親の家を18歳の時に出た時から、そういう風に思って生きてきました（遠くをみつめる）。

——恐らくそういうボブさんの前向きな考え方が今日のファイトで立ち昇ったから、日本のファンは喜んだんだと思いますよ。

BOB　私はここ数年間、レスリングをいつもしてるわけではないから、そういった意味ではファイトが減速してきてるんではないかと感じてます。そうではないといいですけど（照）。

——いえいえ。十分エネルギーをもらいました。

BOB　私はいま49歳です！　しかしながら、春の雄鳥（おんどり）みたいにエネルギーは満ちています！（笑）。

——ガハハハハ！　春の雄鳥ですか！　非常にエネルギッシュです。だから、いまこうして静かにしゃべっているのを見ると、落差があって面白いです（笑）。

BOB　グッフッフ。確かにそうかもしれないですね。そういう風に人格が変わることはある意味、意識しています。そういった人格を変えられるという技術を生かして、この夏映画に出演しました。非常に低予算で作った『ジョージズ・オート』という映画でカトリックの神父役を演じました。しかし、脚本の中に出てくる汚い四文字言葉に動揺し、怒り、「もう私は出ない」と言ったこともありましけどね（笑）。なんとかクランクアップしました。現在映画は編集中です。

——ミスター・バックランドはいつも一生懸命生きてるんですね（笑）。

BOB　私は固く信じてるんですが、物事をすべてポジティブ・シンキングで受け取るということは絶対に身体にいいことです。もし、前向きに物事を考えるならば自分の身体はエネルギーに満ちて健康でいれるわけです。ハートの病が癌を引き起こしたという例も真実味があると思います。

——元気になるには、すべては心からってことですね。

BOB　そうです。

——プロレス中継の元アナウンサーで有名なタレントの古舘伊知郎という人が「ボブ・バックランドという人は究極的に自分と闘っている気がする」と言っていたことがあるんですが、それについてはどう思いますか？

BOB　グッドクエスチョンです！　もしかしたら到達不可能なゴールかもしれないけれど、できるだけそれに向かって頑張ることです。そういうコメントをいただけるのは非常にありがたいですね（笑）。

——日本ではジャイアント馬場やアントニオ猪木をはじめとして、いろんなトップレスラーと闘ってきましたけど、日本で一番思い出に残ってることはなんでしょう。

BOB　日本に初めてやってきたのは1974年です。その時、私はゲイシャ・ガールズと一緒に写真を撮りました。その写真をゲイシャ・ガールが私の故郷・ミネソタの新聞社に送ってくれたんです。それからが大変で、その写真を結婚したばかりの妻が見つけてしまい、「これはどういうこと？」と尋ねられました。そ

11・23『BATTLE FICTION～甦れゴールデンタイム伝説～』間近！

ボブ・スマイルを見たければ両国へ来い!!

名誉や金ではなく、ロマンを賭けて闘う『B-CUP98』の準決勝、決勝が行われるバト両国大会。ボブは準決勝でサスケvsビクターの勝者とぶつかる。石川雄規はどんな手を使ってでも決勝に上がるだろうから、10・5の元気さからいけば、石川vsボブの決勝戦になることが濃厚だ（それとも石川vsサスケか?）。バトの「B」とは、バカ社長のBなのか、ボブのBなのか？　いずれにしても熱く燃えたぎる一夜となりそうだ

［チケット問い合わせ］
バトラーツ　0489・63・0005
チケットRADICAL　03・3403・5188
チケットぴあ他プレイガイドでも超絶賛発売中！

IBMもはじめは小さかった　空を見上げ続けることです　絶対に限界などないのです

れは非常に印象深い出来事でしたね。グッフッフ。

——じゃあ奥さんにとっては日本はあまりイイ国じゃないんでしょうね（笑）。

BOB　加えて新聞に掲載されたために町中の人たちが知ることになったわけです。もし、新聞に写真を載せると知っていたら芸者ガールと写真は一緒に撮らなかったでしょう（笑）。

——ガハハハハ！　恐妻家ですね。

BOB　レスリングのことに関していえば、ババ、ツルタ、イノキ、チョウシュウ、フジナミといった選手と対戦し、その一人一人を尊敬しています。みんな私に対して誠実に正直に闘ってくれました。ですから、いまでも彼らに対して感謝の念を持っています。

——アントニオ猪木の団体とジャイアント馬場の団体とのレスリング・スタイルの違いみたいなものは感じましたか。

BOB　我々はレスリングというビジネスにおいて、他人の運命というものをコントロールする立場にはない。私は自分のやるべきことをやるだけです。でも実を言うと、それに関してはあまりよく知ってるとは言えないんですよ。敢えてその少ない経験の中でいえば、イノキのスタイルの方がキャラクターというものがあったように見受けられましたね。それから、レスラーにも悪役というキャラクターでやっている人たちがいます。そうであっても私はある意味で彼らを尊敬します。生活を立てて立派にやってるからです。プロレスラーであれ、道を掃除している人であれ、大統領であれ、どんな仕事であれ、糧を得てるということに対して私は尊敬の念を払います。職業に貴賎はないのです！

——なるほど。そういえば、UWFというサブミッションとキックを主体とした団体にも上がってますよね。UWFのスタイルについてはどういう感想を持ちましたか？

BOB　ある意味で私はあのスタイルを楽しんで試合をしました。ただ、キックについては慣れていなかったので、キックに対してはもう少し練習しなくてはいけないと思いましたね。ミスター・タカダには、かなり効果的な蹴りをいくつか入れられましたから（笑）。

——高田選手とは日本で何戦かしてますが、最初の闘い（88・12・22大阪）では、あなたは鼻血を流しながら、慣れないキック攻撃に耐えてましたね。それは苦い思い出ですか？　それともいま思い出しても頭にくるとか。

BOB　レスリングは闘いです。戦争みたいなものです。タカダは幸運なことにその時に勝ちましたが、そうかといって次も勝つとは限らない。そこがレスリングの面白いところでしょう。私は負けたとしてもクヨクヨ考えたりしない質です。負けたという事実があったとしても、そこから立ち直るのが早いのが私の性格です。それにあの時はタカダも相当な痛手をこうむったと思いますよ。グッフッフ。

——極力ショーマンスタイルを排したUWFは一大ブームを起こしたんですが、アメリカのレスリングと比べてみて驚きはなかったですか。

BOB　特に驚きはなかった。チキンウィング・フェイスロックというのが私の得意技ですが、その技の理論を私は知ってますからね。

——いまそのUWFはもうないんですが、そこから派生した団体があります。そういった団体はアルティメット大会を無視できない状況にあったんですよ。ボブさ……ミスター・バックランドは、アルティメットを知ってますか？

BOB　YES。たくさんの試合を見てるというわけではないですけど、現時点ではあれに参加しようとは思いませんね。

——あまり興味がわかない？

BOB　もし、それが州のすべてでライセンスが取れるような性格を備えたものだったらわかりません。しかし、州によっては却下されてるということは何かしらの理由があるのでしょう。

——もう少し若ければチャレンジしたかもしれないですね（笑）。

BOB　大学出立てとか、そういう年齢だったらもっと攻撃的に新しいことをやってみようと思ったかもしれないです。

——去年、そのアルティメットに近いルールで、高田選手がヒクソン・グレイシーという選手と闘い負けてしまいました。そのことによってプロレスファンは深い傷を負ったんですよ。

BOB　1試合でそんなに失望することはない。なぜかといわれれば、また試合をしてみれば次の状況というのは全然違うかもわからないでしょう。

——また今年、もうすぐ再戦するんです。

BOB　未来に向かって進んでいけば状況は違ってきます。また、タカダさんというのはズッと負け続けるようなレスラーではないと思ってますよ。

——最後の質問です。バトラーツという団体にはどういう印象を持ちましたか。

BOB　非常に良い組織だと思います。観客も大変入っていたし。一番大切なことはお金を正当な形でどのように稼ぐかをよく予測し、期待度のうちのどのくらい稼げるかを計ることが大切だと思います。

——やっぱり難しいですね、ミスター・バックランドの言うことは！　でもバトラーツは、這いずり回ってようやくここまで来たんです。

BOB　IBMやインテルのような会社でも始めは非常に小さかった。しかし現在を見てください。だから、空を見上げ続けることです。絶対に限界はないのです。

——空を見上げ続けること、ですか。ジワリと熱いですね、ボブさ……ミスター・バックランド！　今日はありがとうございました。

BOB　もっとも素晴らしい男が常に勝ちます。日本の観客は一番良いファイトをした者が勝つということの証人となるでしょう。そして、リョーゴクの試合は素晴らしい闘いになるでしょう。

【10月5日／サテライト後楽園にて収録】

BOB BACKRUND

見て笑え!!　読んで笑え!!　頭の固い自分自身を笑え!!

フッ～！　みんな、リッキーのこと好きか～い？　オレは大好きだぞ～！　というわけで、プロレス界NO.1のお祭り野郎・リッキー・フジが本誌初登場だ！　素敵なコスチュームを身にまとい、リングに上がればオーディエンスを悩殺、しゃべる言葉はロックンロール！　筋金入りの色物野郎がプロレスを語ったら、エンターテイメント・プロレスが見えてきた！

プロレスはセックス!!

プロレスはロックンロール!!

ようやく時代が追いついたエンターテイメント・レスラー

リッキー・フジ

聞き手／坂井ノブ
Interview by Nobu Sakai
撮影／藤見道隆
Photographs by Michitaka Fujimi

INTERVIEW

ようやく時代がオレに追いついてきたね！

――最近マット界で二つの流れがグーンと伸びてきてると思うんですよ。一つは『PRIDE』などの総合格闘技の流れと、もう一つはFMW方面を中心としたエンターテインメントプロレスの流れがあると思うんですよ。リッキーさんの場合はエンターテインメント方面で早くからその志向がありましたよね。

リッキー　YES！　そうだね。オレは日本に帰ってきた時からそうだったからね。

――FMWに上がり始めた時から、いでたちはあまり変化ないですね（笑）。

リッキー　さかのぼればもう7、8年前かな。時代がちょっと早すぎたよね、フッ～。

――アハハハハハ！　ですよね（笑）。

リッキー　ワハハハハハ！　ようやく時代がオレに追いついてきたって感じだもんね（笑）。時代を先取りしちゃったよ。

――随分先の方に突っ走ってましたもんね（笑）。でも、常に関係者の評価は高かったですよね。

リッキー　ハッキリ言ってオレを見習ってくれればいいんだよ（笑）。あんまり深く考えることはないね。

――陽気にやってればね（笑）。

リッキー　ザッツ・オーライッ！

――リッキーさんは悩むことあるんですか？

リッキー　悩むことはあるよぉ（笑）。ただ2、3分で解決しちゃうけどね！（笑）。いい方にしか考えないから。例えば女にフラれたときでも一瞬は落ち込むけど、これは「もっとイイ女をゲットできるチャンスだ！」って考えるのさ。神様ありがとう！ってね（笑）。

――オレには神がついてるぜって感じですね（笑）。

リッキー　どんな結果になっても、それは神様が選んだ最良の道だって思ってるから（笑）。

――じゃあ、90年代のプロレスの神様はリッキーさんを選んだってことなんですね（笑）。

リッキー　そうだね（笑）。ただし、今後エンターテインメント・プロレスがもっと浸透してくれればいいんだろうけどね（笑）。

――冬木さんが「限りなくショーに近いプロレス」ってことを言い出すかなり前の時点から、そういう割り切りみたいなものがリッキーさんの中にはあったと思うんですけど。

リッキー　YES、あったよ。昔の考えで言えばショー＝インチキっていう固定観念があったから、ショーって言われることに関して嫌悪感を示した時期もあったよ。まあ、それもプロレスを始めた頃だけどね。

――それがこうまで変わってしまうというのもおもしろい話ですね。

リッキー　じつはさ、いま千葉がビジュアル系の最先端なんだよ。

――へ？　なんですかそれ？

リッキー　アー・ユー・レディー？　プロレス界にもようやくオレみたいなビジュアル系の時代が来たんだよ。オレは小学校時代から千葉に住んでるからね（笑）。X―JAPANのTOSHIとYOSHIKIなんてのは房総の田舎モンだからね（笑）。ワハハハハハ！

――千葉でビジュアル系が育つ（笑）。

リッキー　なんといってもキムタクも千葉出身だからね（笑）。

――さかのぼれば、長嶋茂雄も千葉ですね（笑）。

リッキー　ワハハハハ！　それはビジュアル系に入れていいかどうか（笑）。

――小さい頃からビジュアル系じゃないにしろ、スーパースターになりたいっていう気持ちはあったんですか。

リッキー　フッ～！　それはあったね。

――まさか、それがセクシーなロック系のキャラクターになるとはね（笑）。

リッキー　まあ、いまのコスチュームにいちばん影響を受けたのはライオン・ハートを見たからなんだよね。音楽は特にやってなかったんだ。

――でも、歌まで歌って、CDにもなってるじゃないですか（笑）。

リッキー　ハーモニカぐらいしか吹けないよ。ボーカル専門だね。クラブチッタで試合をするときには歌いながら入場したこともあるよ。せっかくそういうシチュエーションなんでね、「なんとかならない？」って言ったら長いマイクのコードをつけてやりましょうということになっちゃって。そうなると次やる時は向こうの方から言ってきてくれるからね（笑）。冬木軍が晴海で興行をやった時も歌って入ったけど、あの時は向こう側の要請だったなあ（笑）。

――やってくれと（笑）。リング上では抗争してても、エンターテインメントというテーマを通じてつながるものがあったんですね。

リッキー　YES！　そうだね（笑）。

――じゃあ、リング上のことに話を移しますけど、リッキーさんはホントに楽しそうですよ。

リッキー　YES！　やってることは凄いハードなことなんだよ。だけど、それを楽しめるか、楽しめないかの問題だよ（笑）。キツイことをシカメっ面してやるのは当然だよ。それをどれだけ笑ってできるかってことだね（笑）。いつでも心にスマイルだよ。

――それがプロ意識ってことですね。

リッキー　それぞれキャラクターがあるから一概には言えないけど、オレは悲壮感漂わせるレスラーじゃないからね。セクシーストームだからさ。

――アハハハ、リッキーさんが入ってくるだけ華やかになりますよ（笑）。

リッキー　フッ～！　うれしいね（笑）。

リッキーのコスチュームはFMWに来日したライオン・ハートに影響を受けたもの。基本はロックンロール。並んだらわからない。

Ricky Fuji

いま千葉がビジュアル系の最先端なんだよ、フッ〜！

「ロックンロール」コールもやっと浸透してきた感じで（笑）。

—リッキーさんの試合が始まるとすぐに始まるあのコールですね。

リッキー　ちょっと前にロックンロール・エキスプレスとタッグを組んでて、あいつらゴングが鳴った途端、「ロックンロール」って叫びだしたんだ。その流れにオレも乗っかって一緒にやってた（笑）。楽しいもんね。なにしろオレの座右の銘は「セックス、プロレス、ロックンロール」だから（笑）。ワハハハハハ！　アー・ユー・レディー？

—ムチャクチャかっこいいですねえ！

リッキー　それが一生オレのポリシー。ジジイになっても絶対にセックスするし（笑）、ジジイになっても絶対に身体を鍛えて、絶対にロックを聴きながら踊る。死ぬまでこれだよ、オレは（笑）。ワハハハハハハ！

—ボクも、そうなりたいです（笑）。

リッキー　みんなどっかでオレみたいに腰振ったり、楽しいことをやりたいと思ってるはずなんだよ。だからオレが助け船を出してあげないとね（笑）。「オレが横にいるから、やっていいよ」みたいな感じでね（笑）。

—お兄さんみたいですね（笑）。

リッキー　バトラーツの大ちゃん（池田大輔）もね、いまはああいうスタイルだけど「5年後にはこういうスタイルを目指す」って言ってるからね（笑）。いつだったかタッグを組んだとき、試合を終わって花道を引き上げる途中で、オレが客の女の子にガーッと抱きついたんだ。後ろで見てた大ちゃんが「リッキーさん、ああいうのもありなんですか？」って聞いてきたもん（笑）。

自分の入場テーマ曲『セクシーストーム』を歌い上げるリッキー。DirecTVのスタジオマッチでは試合をせずに歌のみの参戦。新しい形のように見えるが、これも過去、女子プロレスがやっていた手法を進化させたものである。ちなみにリッキーの歌は『THEME OF THE F～F.M.W. OFFICIAL THEME SONG 2nd～』（東芝EMI）に収録されている。必聴！

—アハハハハ！

リッキー　「いいですねぇ（笑）」だって（笑）。これはオレが10年かけて作りあげたキャラクターだから（笑）。

—それが許される土壌を作らないといけないですね（笑）。リッキーさんはこのキャラクターを押し通すために闘ってきたわけですよね。「ＦＭＷは絶対に潰さん！」って大仁田さんが絶叫してる横で（笑）。

リッキー　オレはヘラヘラしてて女の子に抱きついたりしてて（笑）。そういう部分での闘いはずっとあったよね。

—そういうリッキーさんの楽しいスタイルとはまったく違うところから、最近勢いを付けてきたプロ格闘技の人たちが勢いをつけてるんですよ。で、この人たちがプロレスに関して口撃するような背景には「試合の見せ方が上手いだけなのに客ばっかり集めてロクな死に方しないですよ」というような発言してるんですよ。

リッキー　オー、ノー！　そんなのオレから言わせれば客が集まらないヒガミでしょ。一言で言っちゃえばね。なんにしろ客を集めることがどういうことかってことを考えたら、すぐにわかると思うんだけどね。結局、プロってうたっている以上、お客を集めてナンボだとオレは思うんだよ。客がいないところで「オレはプロだ」って言ったって、そんなのアマチュアの延長線上でしかないからね。

—観客への印象度という点では勝つ自信はあるわけですね。

リッキー　オフ・コース！　どういうパフォーマンスやってるか知らないけど、マイクを持ってしゃべるんだったらお客にちゃんと伝わることを発言しろって。こもった声で、ガ〜って怒鳴るのはナンセンスだよ。オレのプロ意識の中では、マイクでしゃべるのも大事な仕事のひとつだと思ってるから。

—アメリカンプロレスの世界だと、試合前のインタビューも大事な仕事のうちですよね。

リッキー　あれだって、二階のいちばん上のお客にまで届かせるにはどうしたらいいかを考えてるからね。はじめに「ハァ〜」と息を吐いて、それで一瞬のうちにマイク・チェックするんだ。それで少しこもってるなと思ったら、マイクを少し離したりするんだよ。

—一瞬のうちにマイク・チェック！　神業ですね。

リッキー　オレは二階席のいちばん上のお客に届くようなプロレスをしてるからね。OK？

—猪木さんにしても、どんな大きな会場でやっても隅から隅まで届くようなプロレスをしてましたよね。

リッキー　そうだね、猪木さんはストロング・スタイルと銘打ってプロレスやったけど、オレに言わせれば猪木さんはアメリカン・プロレスだよ。

—ああ、武藤（敬司）選手も同じこと言ってましたね。

リッキー　リアリー？　猪木さんの闘いはアメリカン・プロレスの基本なんだよ。相手の技を受けて、受けて、それでも微妙なところでポイントをずらしてダメージを最小限に食い止めて、最後にもうだめだっていうところから大逆転する、あの醍醐味はアメリカン・プロレスの神髄だからね。あれに勝てるものはないと思うよ。

—他にリッキーさんから見て、アメリ

Ricky Fuji

SEX、プロレス、ロックンロール それがオレの座右の銘だ

プロレスってSEXだよ 観客を気持ちよくさせないと

カン・プロレスを感じさせる選手はいませんか？

リッキー　全日本プロレスの小川（良成）選手だね。

—そうですよね！　地味ですけど。

リッキー　あんなにアメリカン・プロレスを体現してる人はいないね。

—最近は注目を浴びてますよ。

リッキー　オレは派手なだけがアメリカン・プロレスじゃないと思うんだ。あの人は受け身の取り方、パンチの打ち方、全身でアメリカン・プロレスをやってるよね。オレに言わせりゃバトラーツの石川雄規選手も、完全なアメリカンプロレスだよ（笑）。

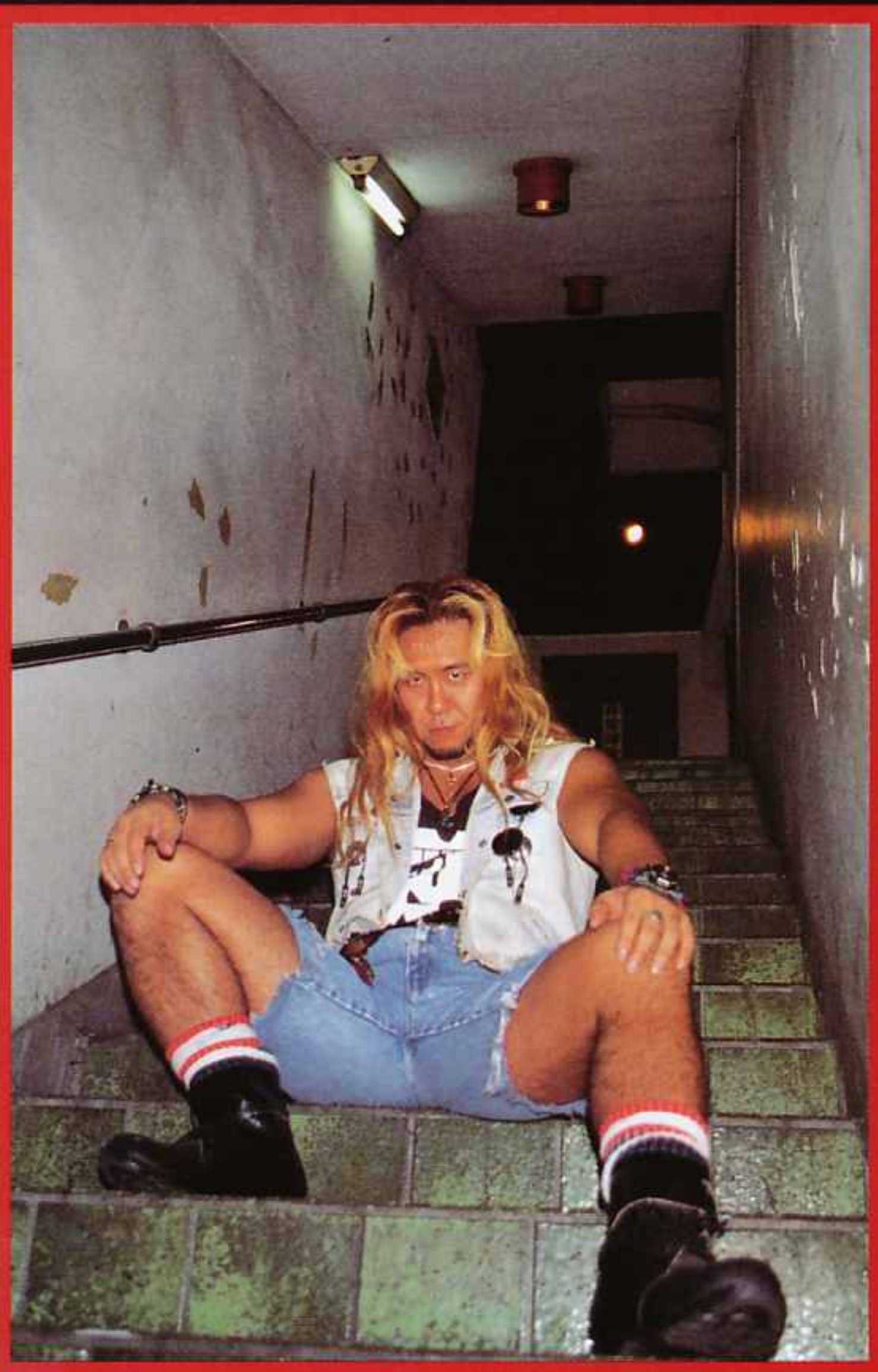
—あの人も、一種の猪木ですからね。

リッキー　ワハハハハ！　昔で言えば、ニック・ボックウインクルとかハーリー・レイスみたいにね、要所要所を締める闘い方、それがアメリカン・プロレスなんだよ。いくらオレたちがエンターテイメント・プロレスって謳ってても、最終的にお客さんに「プロレスはすごいな！」って言わせなきゃダメだと思う。エンターテイメントと言ってる意味はないよ。

—リッキーさんは海外でそういう一流選手を間近に見てきたから、そういう試合スタイルに近いんですかね。

リッキー　YES！　小川選手みたいなプロレスが認知されてきたら、それこそオレの思うツボだよ。時代がようやく追いついてきたんだ。

—冬木さんが言ってましたけど、「UWFのやってきたことはプロレスを退化させることだ。俺たちがやってるエンターテイメント・プロレスこそ進化なんだ」ってことですよね。

リッキー　UWFスタイルがもともとのプロレスだったんだろうけど、それが進化してロープに振ったり、トップロープから飛んだりしてるんだ。それをなにも元に戻さなくても……ね（笑）。

りっきー・ふじプロフィール■昭和40年9月27日ビジュアル系の郷里・千葉県千葉市出身。A・猪木に憧れてプロレスラーを目指し、新日本プロレス入門。ガチガチのストロングスタイル志向で練習に励むも、ケガなどで挫折してしまう。その後、アポなしでカール・ゴッチを訪ね渡米するも、会えないままデューク・ケオムカの家に居候。そこでアメリカンプロレスに開眼。高野俊二（現・拳磁）のルートからカルガリーに渡り、ミスター・ヒトの元でトレーニングに励む。スチュ・ハートのスタンピード・レスリングに出場するも、団体が崩壊してしまう。居場所を失ったリッキーは自分の団体CIWFを設立。帰国後はFMWに上がり続ける。新機構となったFMWでは、チーム・フェニックスの牽引車となる。得意技・カミカゼ。身長173センチ、体重96キロ。

Ricky Fuji

—リッキーさんは極端な話、客前で試合をせずに歌だけ歌う、それでもいいと思いますか？

リッキー　……プロレスラーのリッキー・フジってものがあるから、みんなの前で歌を歌うことが出来るんだ。それこそ歌手を目指してやってたら人前で歌を歌える機会なんかないだろうしね（笑）。まずプロレスを見せないことにはいけないね。昔、古舘さんが「肉体のライブステージ」って言葉をよく使ってたんだ。あれはすごくいい表現だと思う。

—そうですね。

リッキー　FMWの後楽園大会は毎回、ディレクTVが中継してるけど、生の会場が主体だから、まさにライブのプロレスだよね。オレの奏でるハーモニーでオーディエンスを酔わせるさ。だから、プロレス＝ロックンロールなんだよ。

—かぁ〜、かっこいいですね！　さっきの「SEX、プロレス、ロックンロール」っていう言葉で考えると、プロレス＝SEXということも言えるわけですよね。

リッキー　YES！　プロレスもSEXだよ。お客とのSEXであり、対戦相手とのSEXであり、だからSEXは……プッ（笑）。SEX、SEXって言い過ぎだね。

—そこで笑わないでくださいよ、セクシー・ストームなんですから（笑）。

リッキー　OK！　だからSEXに例えると、レスラーが男、観客が女、女を満足させるためにどういうふうにすればいいかを考えるのが男だよ。男の独りよがりじゃいけないしね。男だけがいっちゃっても、女が満足しないだろうし。強さだけを追究するのは男のマスターベーションだよ。そこにいる女を満足させてこそ、初めて快感が得られるっていう感じだよね。

—私生活でもそうなんですか？

リッキー　YES！　そうだね（笑）。ひとりよがりはダメだよ！

—お客を喜ばせるのが、何よりも嬉しいと？

リッキー　誰のためでもない、オレはお客さんのためにプロレスをやってるからね。お客が喜んでくれるんであれば、いくらでも自分を犠牲にするよ。オレはお客さんのためのプロレスだと思ってるからね。それがエンターテイメント・プロレスなんだよ。

—リッキーさんなりの定義ですね。

リッキー　オレのポリシーだと、「プロレス会場＝パーティー会場」なんだよ。だから、プロレス会場がパーティー会場なら、来てくれたお客さんに「さあ、今日はおもしろいものがあるよ！」って感じで、俺たちレスラーがいろんなホストになって盛り上げるんだ。血だらけのホストもいれば、リング上でお尻を出すホストもいるからね。

—だから、そういう場では、お客も好きなように騒げばいいんですよね。アメ

プロレスを八百長という奴を楽しませる自信はある!!

リカのプロレスの客席って、画面を通じて日本から見るとバカばっかりですよね（笑）。自分たちで好きなように騒いで勝手に楽しんでろパーティーみたいで。

リッキー　うん。踊るアホウに見るアホウだよ！　同じアホなら踊らにゃソンソン！　プロレスが八百長っていうヤツがいても、そいつの目の前でプロレスやっても楽しませてやるよ。「面白かったね」って言わせる自信はあるもん。

——それこそが、エンターテイメント・プロレスラーですね。では、最後に読者の皆さんに英語でメッセージをどうぞ！

リッキー　Watch me!（オレを見ろ！）面白いことやるよ。エンターテイメント・プロレスがこれからどうなるかわからないけど、とにかくオレを見てれば面白くなるよ。See You!　フッ〜！

【98年10月9日、新宿のデニーズにて収録】

バトラーツでボブ・バックランドが大爆発した翌日の10月6日、FMWの後楽園ホール大会。ボブの相手だった大ちゃんとタッグを組んだリッキーさんは、昨日のボブ・ウォークを披露。客を楽しませることに関しては天下一品の技量である。

ザッツ・エンターテイメント!!

FMWの次なるビッグマッチは
11月20日（金）
横浜文化体育館（18：30〜）

『エンターテイメントレスリング・スーパーライブ』
ハヤブサvs冬木弘道

問い合わせは
FMW 03-5496-0671まで

エンターテイメント・レスリング・ビデオの決定版！

夏色のナンシー'98

エンターテイメント路線を電車道の如くバク進中のＦＭＷ。そんなＦＭＷがちょっと気になっちゃう貴方に朗報です！　じつはＦＭＷの後楽園大会は毎回ＰＰＶ（ペイ・パー・ビュー）で放送してるんですよ。その解説を務めるのは左の写真で美女とたわむれる元祖マッチョ・バディこと杉作Ｊ太郎さん。版型が小さい頃の『紙のプロレス』本誌にも何度か寄稿しているあのＪさんが、中継の真っ最中にビール飲んで泥酔したり、裸で美女とたわむれたりするという夢のような内容なんです（もちろんメインは試合ですよ）。もハヤブサがワルブサなったりしちゃう特別企画満載のスタジオマッチもやってます。と、ここまで読んでディレクＴＶの中継を見たくなったアナタ！　でも、お金のないアナタ！　ＦＭＷ及び杉Ｊファンのアナタ！　ビデオが出ますよ、ビデオが。え、ビデオデッキを旦那に壊された？　デッキ買い直してでも見るべき！　荒井社長のレスラーデビューの模様も収録した『夏色のナンシー'98』（東芝ＥＭＩ発売）が11月中旬に発売です！

夏色のナンシー'98
FMW社長レスラー最初で最後の日

撮影協力・新宿ヘッドパワー

【住所】東京都新宿区新宿1-34-13
貝塚ビルＢ１
【TEL.】03-3354-7727
【FAX.】03-3350-1695
【営業時間】10：00〜21：30
【最寄り駅】
●営団地下鉄丸の内線新宿御苑駅下車、徒歩7分
●都営新宿線新宿三丁目駅下車、徒歩7分
（新宿厚生年金会館の向かい側）
※現在、ホールを絶賛貸し出し中。ライブ・スペースとしてもＯＫ、パーティーでもＯＫ、「まずはお問い合わせください」ということです。

Mr.デンジャー 松永光弘

プロレスも、格闘技も、もう幻想は通じない時代なんです！

ミスターデンジャー・松永光弘。空手家としてのイメージが強かった松永も、今ではプロレスラーとして、デスマッチ界では他の追随を一切許さない存在として幅広く認知されている。またある時は、プロのステーキ屋としての顔も合わせ持つ男である。プロとして二足のワラジを履きこなし、その上、理論派で鳴らす彼のプロレス観に耳を傾けろ！

聞き手／チョロ
interview by Choro

撮影／遠藤政文
photographs by Masafumi Endo

今はごまかしの効かない時代じゃないですか

Mr デンジャー 松永光弘

――メチャメチャ評判いいですね、松永さんの書いた、『ミスター・デンジャープロレス危険地帯』！

松永　プロレス本って今まで、ありきたりな〝俺が最強〟っていうのを遠回しに書いてるような本とか、少年時代の事とか、そんなこと知りたくねえよ、別にどうでもいいってのが多かったじゃないスか。そういうとこをできるだけなくしてっていう方針でしたから。

――プロレスラー名義の本って、明らかにゴーストライターが書いたってわかるモノが多かったじゃないですか。

松永　ええ。……まあこれもゴーストライターが書いたんですけどね（笑）。

――ペッ！　わからなかった（笑）。

松永　そんな暇ないッスよ（笑）。だけど、自分の言いたいことに近いモノができましたね。ゴーストライターに気合い入れて書いてもらったんで。

――アハハハ！　気合い入れて（笑）。

松永　普通は、5時間ぐらい話を聞いて、一冊作るらしいんだけど、この本は30時間ぐらい話してますからね。

――30時間！　それだけ話して反響がなきゃ嘘だって感じですよね（笑）。

松永　ホントそうッスよ（笑）。くだらないことでページ持たせたりそういうのはないッスからね。それにプロレスの暴露本ってたくさんあるけど、業界の人間が見ると「こんなのほとんど嘘じゃん」ってのが多いんだけど、これは、ほとんどホントですから（笑）。

――どう考えても本当だろっていう信頼感がありますからね、松永さんには。

松永　今までのプロレス本をある意味で否定するっていう。ギャラとかも大幅に捏造したのが多いですからね。

――正直に出してますね、ギャラの話も（笑）。プロとして、夢を与える商売として、それもどうかなとも思うんですけど。……まあ本音を言えば非常に興味のある話なんですけどね（笑）。

松永　今は、ごまかしの効かない時代じゃないですか。昔はプロレスにしろ格闘技にしろ、半分以上が幻想で成り立ってたところがありますよね。

――確かに昔は今よりファンタジーなところがありましたよね。未だ見ぬ強豪とかたくさんいましたからね。

松永　そうッスよね。昔はプロレスが最強ってみんな信じてたけど、今はもうバーリ・トゥードの台頭によって影も形もなくなっちゃたし。例えばキックを使うプロレスラーが出てきたら凄いって言われたけど、今のK―1の選手のキックと比べたら、もうカスみたいなもんっていう。体にしたって腹出てる様な選手いっぱいいるんだけど、K―1選手の研ぎ澄まされた体を見たら霞んじゃうところありますよね。スピードにしてもね。格闘界でも、極真が地上最強って思う人も少なくなったし、あくまでも空手界では最強っていう事であって。グローブ付けちゃえば結構厳しいワケだし。でも大山倍達さんが生きてたら、「グレーシーなんてボクだったらパッと目を突いてねえ」なんて言うんでしょうけど（笑）。

――確実に言ってるハズですね（笑）。

松永　今そんなこと言う人がいても誰も信用しないじゃないですか。じゃあやってみろってなるじゃないですか。石井（和義）館長なんかも言ってたんですけど、「大山さんだったら、『あんなのはね、ウチの門弟だったら一分で倒せるよ』って言えば済んだのに、ウチの選手は、それを実際にやって見せなければいけないから凄い大変だ」って（笑）。それに、プロレスは、ショーだ八百長だって言うのはタブーだったんですけど、今は、冬木さんなんか自分達のプロレスのことをショープロレスって言ってるじゃないですか。

――そうですよね。昔はそんなこと言いませんでしたよね。

松永　ある意味凄く画期的なことなんですけどね。〝ショーに限りなく近いプロレス〟っていう打ち出し方をしてますからね。

松永　21世紀に向けてもっとプロレス界を進化させようっていうのが、あの本の狙いでもあったんですよ。今までこの業界でやってきて、矛盾点っていうのは、練習をやろうがやるまいが、この業界での評価とか待遇は一切変わらないっていう疑問点があるんスよ。練習する選手が馬鹿を見て、やらない選手の方がいい思いをしてるって現実が結構ありますから。

10・5、後楽園。平成版・猪木VSシンと言われたこの一戦、タイガー・ジェット・シンのテーマ曲「サーベルタイガー」に、キラー・カーンを意識したという黒頭巾をすっぽり被り入場してきた松永。松永は、本家シンを上回るサーベルの剣先攻撃と、五寸釘、そして牙で、石川の額やら腕やら無差別に突き刺し、引き裂き、会場を大いに盛り上げた。が、最後は石川の狂ったようなマウントパンチでレフェリーストップ負けを喫してしまう。

でも自分自身は、店（『ステーキ&グリルの店 Mr.デンジャー』）が忙しくなって、実を言うと裏ドーム（大日本・5・1戸田大会）が終わってから練習はまったくできない状況なんですけどね（苦笑）。

――ヘッ！ そうなんですか。

松永 5分を回るとちょっと苦しくなってきますね。そういう現実です（笑）。まあ自分をコーディネートする能力があれば、この業界で、そこそこの地位は築けるんだけど。でも自分を売り出す能力だけで、タランタランな体してても、のし上がって行ける世界っていうのはちょっと、とは思いますね。自分はどっちかっていうと、格闘家上がりだから、練習とか割と真面目にする方だったんで。練習する選手っていうのは、ジム通ったり、食事に気を使ったり、サプリメント、プロテインだとか金が余分にかかって、貧乏だったりしますからね。逆に練習やらない選手がお金を残していけたりっていう。

――それは割が合わないですね。

松永 割が合わない。その点バトラーツの選手なんかは、いい体してるし、バネもあるし、スピードもあるし、試合しててキツイですよ、ある意味では。

――ある意味では！ また含みのある言い方しますね（笑）。

松永 体がキツイって言ったら、やっぱりデスマッチが一番キツイすけど、正直言って。スタイルで言えば。でも選手の質っていうと、バトラーツの選手ってクオリティーが高いですよね。みんなちゃんと練習してますよね。ああいう選手が評価を受けるようなマット界になっていかなきゃいけないと思うんですよ。本来、昔の幻想が通じてる時代だったら、『石川なんか叩き潰してやる！』っていうインタビューにすべきなんでしょうけど。

――松永さんはそれはしたくないと？

石川社長との対戦で、平成版シンのイメージがある松永だが、「どっちかっていうと、シンより（ザ・）シークの方が好きなんですよ。シークは無表情で自分に似てるし、シークっていうのは強いのか弱いのかわかんないじゃないですか。自分もどっちかというと、強いか弱いかわかんないっていうか、なんか負けてる数は結構多いけど、勝つ時は勝ってるっていう」とのことだが、並べて見てみると、確かに松永がシークに見えてくるから不思議である。

あえてそういうインタビューにしようかなとも思ってたんですけどね。

松永 今はそんなこと言っても笑っちゃうみたいな感じッスね（笑）。『あんな奴認めねぇ！』とか『何が猪木だ！』って言った方が、昔は良かったんでしょうけど。俺なんか逆に、石川選手をインチキ猪木って言うんだったら、俺のシンの方がよっぽどインチキシンだって気がしますからね（笑）。

――そういえば石川社長に〝インチキ猪木〟〝ニセ猪木〟コールはありましたけど、不思議と松永さんにインチキシンコールは起こりませんでしたね。

松永 ないんですよね、不思議ですよね、プロレスファンって。そういう意味で面白い業界というか。あとバトラーツは〝情念〟って言い方をしてるんですけど、自分達がW★INGの頃といろんな意味でオーバーラップするとこがあるんですよ。金はないけどプロレスに賭ける熱意だけは負けないっていうね。W★INGの頃も、あれだけ華やかで、あれだけ人気が出て、だけど実は内情は苦しいっていう。

――内情は苦しかったみたいですね、W★INGは（笑）。

松永 どの団体もそうだと思うんですよ。新日、全日のいいとき以外は。FMWだってW★INGだってそうだったし。バトラーツでもそうだと思うんですよ。リング作りとかしてるぐらいだから。まあ頑張って欲しいッスね。

――それと『ファイト』のインタビューで「自分はプロレスは下手だけど」って言ってましたけど、プロレス上手いじゃないですか、松永さんは。

松永 正確に分析すると、自分はレスリングが下手なんですよ。プロレスは決して下手じゃないんですよ。凶器の使い方とか、間の取り方とか、やられ方とかは決して下手じゃないんですよ。じゃなかったら臼田戦とか、石川戦とか、あんな盛り上がってないですよ。

――石川戦でも、シークばりの絶妙な凶器攻撃を見せてくれましたからね。

松永 だから、いわゆる普通のプロレス、新日本がやってるようなプロレスとか、FMWがやってるようなハイスパートなプロレスとか、ああいうのは下手ですよ。性に合わないし。でも、ちょっと異端なプロレスは、決して下手じゃないと思いますよ。バトラーツだって異端といえば異端ですからね。

――松永さんにとって、バトラーツのプロレスも異端に感じられると？

松永 異端な方じゃないですか。石川社長自ら、本気で猪木さんを継ごうとしてたりするところも異端じゃないですか。異質な空気ですよね。正気の沙汰じゃないッスよ。

――アハハ！ 正気の沙汰じゃない。

松永 まともに考えたら猪木ファン怒るぞってとこですよね。だけど本人は本気ですから。そりゃ面白いですよ。でもバトラーツがなんであんなに人気があるのか、いまだにわからないんですよね。……ただ自分はバトラーツの躍進を予言してるんですよ。

――松永さんは、旗揚げ当初からバトラーツに注目していたんですよね。

松永 バトラーツが後楽園に初進出する前に、北沢タウンホール大会を見に行ってるんですよ。一目見て、この団体は伸

自分はどんなインタビューでも真実しかしゃべんなかったですから

びるって思いましたからね。控室訪ねて、石川選手に「この団体は伸びる」って予言したんですよ、自分は。

——社長に直接言いましたか（笑）。

松永　具体的には説明できないけれども、理屈じゃなしに、直感ですね。

——その直感はどこから来たんでしょうね。試合を見て何か感じるモノがあったとか？

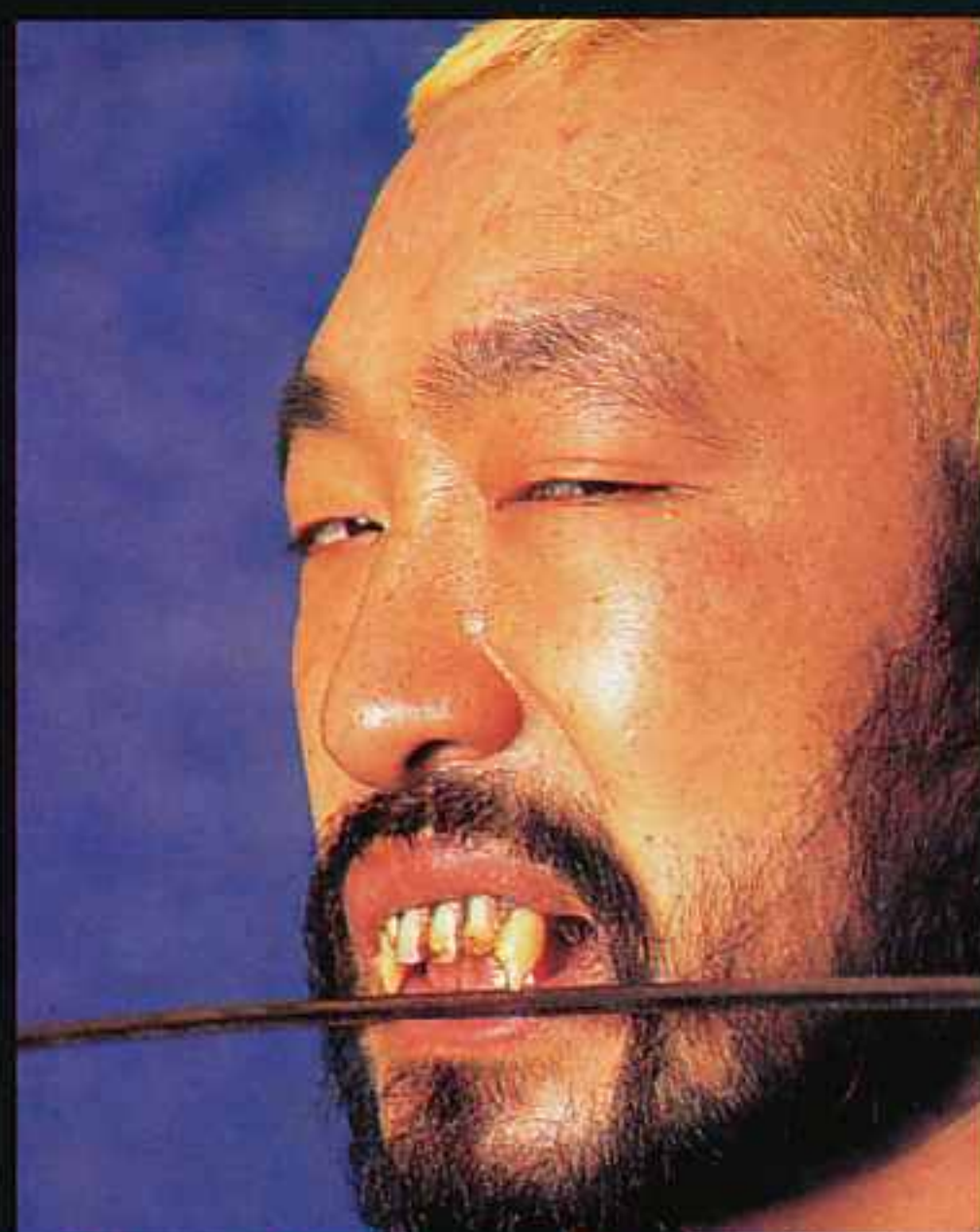
松永　試合内容が特別面白かったワケじゃないんですよ。半端なUWFというか（笑）。ルールもそんなに制限されてないし。ロープエスケープ何回だとか、ヒールホールド禁止とかあるワケじゃないし。タッグマッチもやるし。プロレスの色が少し残っているUWFっていうイメージですよね。言ってみれば時代を元に戻しただけっていう見方もできるんだけど。直感でこの団体に上がってみたいなって思ったんですよ。それで、バトラーツ用の練習を始めた時が、実はあって。

——そんな時期があったんですか？

松永　ウェートトレーニングを控えて、サンドバックとかやりだした時があったんですよ。そうこうしてるうちにバトラーツは、後楽園ホールに進出してブレイクしたんですよ。

——じゃあ松永さんもバトラーツに出て、一緒にブレイクしようぜって感じだったんですか？

松永　いや、その時の後楽園の試合を見て、やめたって感じですね。

96・11・17有明コロシアム、ダン・スバーン戦。新日のドーム出場を拒否した松永は、「ムタが怖くて逃げたと思われるのもシャクだし、スバーンと闘えば、誰もそんなことは思わないだろう」、更に「プロとして話題作りのため」と、松永らしさ全開の素敵な発言を残している。有刺鉄線ハチマキに、有刺鉄線バット片手に入場し（with矢口壹琅）、ファンの大歓声を浴びた。試合でも観客を大いに沸かせたが、最後はワキ固めで無念のタップ。

Mrデンジャー 松永光弘

——それはまたどうしてですか？

松永　今はまだ出る幕じゃないと判断したわけですね。

——まだその時期じゃないと。

松永　内輪の人間だけでうまくいってる時は、変に他の血を入れてカラーを増やす必要はないと。インディーっていうのは、絶対行き詰まるから、オレの出番は何年か後だなって、そういう気持ちで見送ったんです。

——今年に入ってのバトラーツ参戦は、その頃から考えるとピタッとはまるワケですね、タイミング的に。

松永　タイミング的にはベストだったと思いますね。久々のヒールをやれましたし。どうしても大日本ではベビーフェイスになっちゃいますからね。自分は元々がヒール志向だったけど、実際のヒールっていうのは新日本の時以来やってなかったですから。FMW時代もヒールだったけど、あんなものは全然ヒールのウチに入らない。いわゆる大仁田厚のダシ。情けないヒール。ああいうのはヒールって言っても、全く面白くなかったですね。

——FMW時代は、あんまりいい思い出はなかったみたいですね（笑）。

松永　まあバトラーツの会場に行けば、FMWの関係者ともバッティングしますけどね。別に挨拶なんかしなくてもいいんだって感じですよね。言いたいことあったら面と向かって言えばいいんだっつの。顔見た時だけ「お疲れさまです」って。知らん顔してりゃいいじゃねえかって気はしますよね。誰にでも調子がいいってのも、この業界の嫌いなところでもありますね。犬猿の仲だって言われてたのに、顔見ると「あっ、どうも！　元気？」みたいな。そんなヨタ話する必要ないって。

——プロレスラーとして、調子がいいのはリングの上だけで充分ですね。

松永　嫌いなものは嫌いでいいんだよ。この業界は嫌いなモン同士でも、何年もしたら、お互い苦しくなったら、また手に手を取り合って、もう一度商売しようみたいなのが多すぎます。あと頭に来るのは、コーディネートが上手くてのし上がった選手？　金村とか大仁田さんとか。あの辺のインタビューなんか見てると、フザけんな全部嘘じゃねえかって。ちょっとは本当のこと言えよと。自分はどんなインタビューでも真実しかしゃべんなかったですから。ホント、俺の名前出すなって言いたくなりますね。

——ズバリ言って、今現在松永さんが認められる選手って誰かいますか？

松永　それはデスマッチでですか？

——はい。デスマッチで骨のある奴って誰かいます？

松永　………ん〜、ズバリ言ってしまうと、自分とその次に来る選手との間は大差があると思ってますけどね。自信過剰かも知れないですけど、相当な差が開いてると思いますね。

——いいですねぇ。そういう松永さんの発言は実に気持ちいいですね。

Mrデンジャー 松永光弘

松永　もう、けたたましい差が開いてると思ってますね。

——アハハハ！　けたたましい差！

松永　強いて上げたら山川（竜司）とか。アレは大したもんですよね。本間（朋晃）なんかも面白いと思うし。外人選手で言えばサヴゥーですかね。自分は、サヴゥーはカクタス（・ジャック）よりも上だと思ってますから。やる事の危険さという点では。

——確かにムチャしますよね。

松永　自分とはタイプが違いますけど、体張るっていうことに関しては、カクタスより遥かに上だと思いますね。あとはスーパーレザーとかですかね。レザーっていうのはどのくらい強いかとか、そういう次元じゃなく、デスマッチに対する肝っ玉っていう部分で自分は買ってたんですよ。

——肝っ玉ですか

松永　うん。強い弱いのっていったら、グラジエーターとかビクター・クルーガーとかの方が強いと思うんですけど。やっぱり肝っ玉っていう部分では、金村とか、ああいう選手を遥かに凌駕してたというか、ホントにデスマッチに関して、肝っ玉が座ってた選手と言えば、スーパーレザーが随一だったなって思いますね。

——私生活も含めて（笑）。

松永　ええ、私生活も含めて（笑）。「五寸釘マッチ？　いいよ」って軽く受けてくれる度胸がありますからね。

——外人選手でデスマッチやってくれる選手は少ないでしょうからね。それとデスマッチとは違いますけど、最近の（斉藤）彰俊選手はどう見てますか。今度、ドン・フライとやりますけど？

松永　昔は斉藤が『週プロ』の表紙とかになったら、俺も頑張ろうとか思ってたんだけど、もう今はあんまり気にならないですね。斉藤が「俺は新日本っていうメジャーなリングで頑張っているんだ」っていうモノで優越感を感じれば、それはそれでいいと思うし。まあ自分は本も出したし、『週プロ』の表紙も、ポイントの表紙も含めたら7回取ってるし、ワニともやったし、オクタゴンでダン・スバーンとも闘ったし。店も出してるし（笑）。

——アハハハ！　そういう松永さんこそが、本当の意味でバーリ・トゥードなのかもしれませんね。

松永　何でもありッスよね（笑）。斉藤がドン・フライとやって勝ったとしても、焦りとかひがみとか、そういうのはもうないッスね。オクタゴンに入れったって、なかなか入れるもんじゃないッスから。

——入りたいと口では言っても、実際にオクタゴンに入ったレスラーって数えるほどしかいませんからね。ところで松永さんのプロレスの師匠というか、プロレスを教わった人っていうのは誰になるんですか？

松永　誰もいないッスねぇ。ただ自分が一回ポーゴさんのことを「あの人はもう余生だ」って言ったら、ポーゴさんが、「松永なんてプロレスラーとして認めてないんだ」って言って。「今は、格闘家とプロレスラーの境界線がなくなってきて、そんな中でアイツは生まれた男だ」みたいな言い方してて、普通だったら怒るんですけど、自分はなるほど、そうだなって。そういえば俺いつからレスラーになったんだろうって思って（笑）。ですよね？

——本人も気付かないうちに、レスラー松永光弘が誕生してたわけですね。

松永　自分はもともと、存在的に、ファンからも関係者からも、「アイツはレスラーじゃねえ、認められねえんだ」っていう攻撃の的になってても、不思議じゃないレスラーであったんですよ。格闘家からなんとなくレスラーになって。下積みも経験してないし。ポーゴさんのインタビューを読んで自分という者の存在がハッキリとわかったんですよ。「松永はレスラーとして認めない」なるほどその通りだと。言ってることは全部当たってる。

——ポーゴさんに気付かされたわけですか（笑）。

松永　自分っていう者がそこでやっとわかった。なんで自分が、「あんな奴レスラーじゃない」って言われなくなったかっていうのは、松永っていう人間が台頭して以来、自分よりレスラーらしくないレスラーがいっぱい出てきちゃったから、自分がレスラーの部類に入ってしまったんですよ。

——はぁ〜。そういう見方をしているわけですか。やっぱり松永さんは抜群に面白いですねぇ。さすが理論派！

松永　FMWの時は、ああいうハイスパートなレスリングが台頭してきて、自分は居場所がなくなってくるのも感じたんスけど。だからといっていまさらアレを憶えるつもりもなかったし、あそこに融合していくつもりは全くなかった。そんなら辞めた方がマシだっていう。W★ING時代もよく言われましたよ。「プロレスラーの基礎としてレスリングを憶えて

9・23後楽園。松永の長年の夢だったワニマッチが遂に実現した。ワニ戦前の、シャドウWX戦が素晴らしいデスマッチだった為、「ワニが小さい」というブーイングもほとんど飛ばず、逆に、動きの悪いワニを前にし困り果てた松永への声援が多く飛んでいた。松永は「失敗だったけど、ワニは入手してリングの上まで持っていくのが、もの凄く大変なんですよ。でもデカくなったらもう一回チャレンジしますよ」とワニに再戦を呼び掛けた。

暫くプロレス界からフェードアウトしようかなって…

おいた方がいいよ」って。俺はデスマッチしかやらないから、そういう技術は必要ないし、いらないんだと思ってましたから。昔から自分は合理主義ですから。

——なにからなにまで徹底してますね。松永さんみたいに、プロレス頭をフルに回転させなければ、プロレスラーとして成功できないんでしょうね。

松永　そうなんですよ。W★INGは道場がなかったけど、いまだに名前を残してる人間が多いじゃないですか。

——みんな強烈なキャラクターがありましたからね。

松永　そういうアイディアも凄く重要なんですよ。だからって練習やらない人間が陽の目を見るっていうのは、やっぱりおかしい。それは正していかなきゃいけないんじゃないかと。今、自分も店が忙しいのもあって、練習もあんまりできない状況だし、自分を棚に上げて人事みたいに言うのはアレなんですけどね(笑)。でも自分はそういう意味では、ステロイド使ってるんじゃないかって言われたぐらい、ウエートとか練習してましたからね。……でももう、俺もやることはやったかなと。暫くプロレス界からフェードアウトしようかなって気も出たんですよ、実は。

——エッ！　フェードアウトしちゃうんですか。

松永　半年ぐらい体調整えないとダメかなって思ってて。あとタイトルも失ったのもあるし、それと石川選手に負けたことによってテーマもなくなってきてるのも事実だし。そんなことを考えてたんだけど……。それで大日本の11月の後楽園大会も断ろっかなって思ってたんだけど。そんなことを考えてた時に、自分のやらなきゃいけないことが見つかったんですよ。

——エッ、一体全体何が見つかったんですか？

松永　大日本の一員としてではなく、まあ一員であることは事実なんですけど、もう一回自分一人でW★INGをやってくという気持ちが出てきたんで。最近はもうケチつきっぱなしでアレなんですけど。負けても負けても一人でW★INGを守ろうと。そういう気持ちに変わったんですよ。

——W★ING松永光弘がまた見られるということですね。W★INGファンから、W★INGフリークまで、もう一回大集合させましょう！

松永　そうッスね。ワニをもうちょっとデカくして、大日本もバトラーツも一人でかき回して、メチャメチャにしてやろうと。レザーも、フレディも、(ケビン・)サリバンも、(ヘッド)ハンターズも、金村にしても、非道にしても、全て死んだんだって思うようにして。もう過去は全部切り捨てて、俺が一人でW★INGを背負っていきますんで。そのうち俺が、まあこれは言っちゃうとインパクトに欠けるんで、載せて欲しくないんですけど(デンジャーが、これからやろうとしているプランを一通り説明される)。

——エエッ！　松永さんがそれをやるんですか？　ホントにそれをやったらメチャメチャ盛り上がりますね。早く見たいなぁ。楽しみにしてます。

【98年10月7日、ステーキ＆グリル　Mrデンジャーにて収録】

8・23、大阪鶴見緑地駅前花博公園広場。同月9日に続き、1月に2回も行われたファイアーデスマッチ。9日の川崎大会で松永は火葬KOされるが、再戦ではW★ING式スリーパーであっさり勝利をモノにした松永。「ポーゴは『こんな怖いことできない』って泣き入れてましたから、呆れてモノも言えないですね。簡単に負けて、バツが悪いから、「キサマを認める」とか言って、認めてほしかないって感じですね」と怒りを露にした。

昭和41年3月24日、愛知県知多郡出身。相撲、寛水流、誠心会館で格闘経験を積み重ね、FMWマットでのビリー・マック戦でデビュー。パイオニア戦志、新日を経て、W★INGマットで一躍名を挙げる。一時期、FMWマットで潜伏していたが、今年に入り、『ステーキ＆グリルの店　Mrデンジャー』をオープンさせる。同時に大日本で過激なデスマッチを続け、更にバトラーツにも参戦するなど精力的な活動を続けている。通称ミスター・デンジャー。

「おもろいハガキこそが正義」がモットーの過激な読プレ

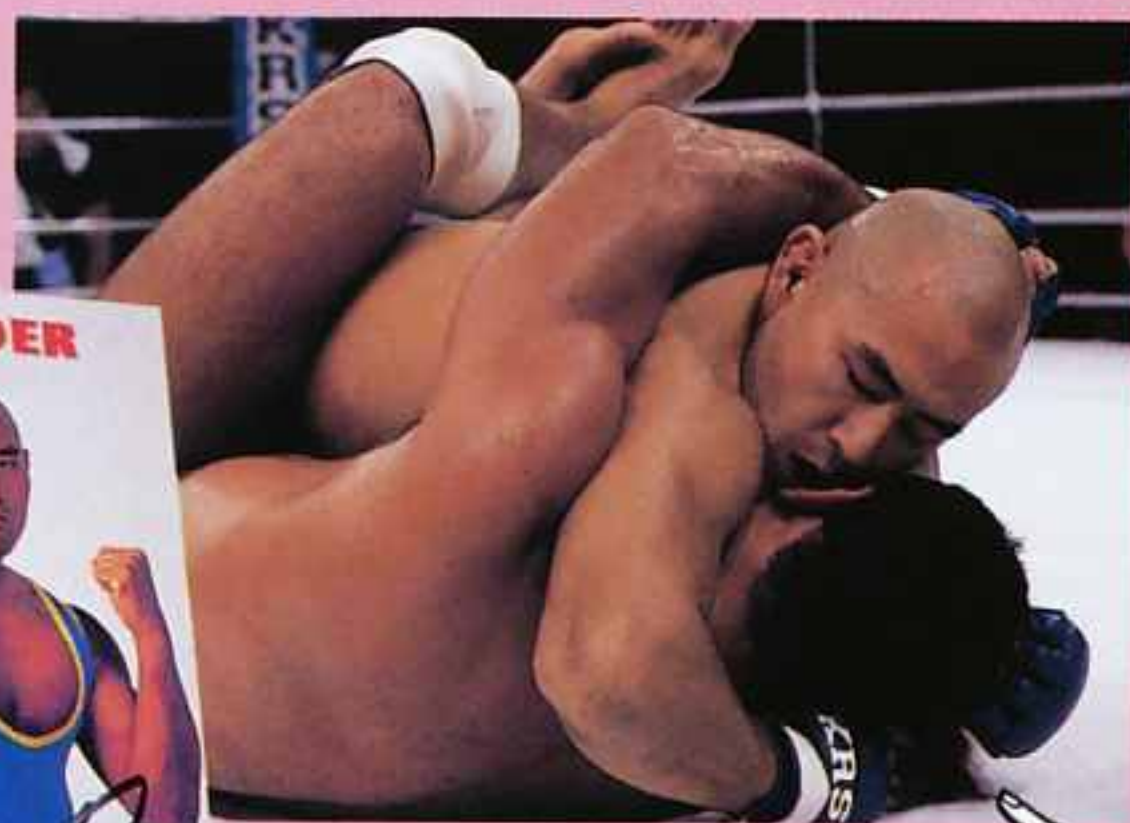
全身すべて読者プレゼント!!

byアゲルサンダー・クレリン

10・11 PRIDEでアレク完勝記念!!

アレクのセコンドTシャツ byダイエットブッチャー+サイン色紙 計8名

1、2、3、4、やったぜアレク! というわけで、PRIDE.4のにアレクのセコンド陣が着用していたTシャツに直筆サイン色紙をつけてプレゼント! サイズ(SorM)、色(黒or白)を明記しろ! これからバトラーツの売店で発売するそうです。

【DIET BUTCHER SLIM SKIN提供】

心の無限大記念日 10・11PRIDE.4のパンフ(アレクの直筆サイン入り) 3名

話題になった「22人全員アレクが負ける予想」を掲載したPRIDE.4のパンフにザマアミロとばかりにアレクのサインを付けた痛快な逸品!

【アレクさん+メディアファクトリー提供】

祝・アレク激勝! PRIDE.4でアレクが実際に使用したグローブ 1名

『紙プロ』史上最高のプレゼントを大放出! ホントはあげたくないけれど、アレクを応援してくれた読者のみなんさんのために涙を呑んでプレゼントするぜ。アレク、ありがとう!! 実際にマルコをブン殴った証に返り血までついてるぞ! 倍率は高いだろうけどガンバッテー!

【アゲルサンダー大塚さん提供】

11・23 バトラーツ両国グッズ

真っ赤なタオルは闘魂の証 石川雄規の情念タオル 3名

最近、猪木っぷりにますます円熟味が増してきた燃える情念・石川雄規が情念タオルを作った!

【格闘探偵団バトラーツさん提供】

♪教えて監督ぅ〜! 鬼かわいい話題のサウスポー直筆サイン入りCD 3名

バトラーツ11・23両国大会を応援するアイドル・グループ「サウスポー」が歌う珠玉の応援歌!

【バト大好きなサウスポーのみなさん提供】

いい味出まくりのブロディTシャツ　1名

ホレボレしちゃうブロディTシャツ。お店(世田谷区北沢2-33-11-2F)には過去の名作Tシャツもドカンとあるよ。

【バンバンビガロ提供】

バンバンビガロ2周年記念Tシャツ　1名

めでたく2周年を迎えたビガロさんの記念Tシャツ。お問い合わせはバンバンビガロ(TEL.03-3460-1145)まで。

【バンバンビガロ提供】

べらぼうにかわいいマサ'Sカレッジ Tシャツ　1名

マサのワイルドかつ動物的な面構えが最高にいかした文句の付けようがない逸品。新作だよ。

【バンバンビガロ提供】

超レア！ 鬼ヤバ！ 即ゲット！ アレクの直筆サイン入りポラロイド詰め合わせ　1名

見事な勝利を飾りついでに本誌の表紙と巻頭も飾ってくれたアレクさん。ここではお見せできない秘蔵写真も一緒にして1名だけにプレゼント！　急いでハガキ出せ！

【アレク父さん提供】

プロレス者なら貼りまくれ！バンバンビガロのステッカー　セットで3名

原宿ラフォーレ前で、マサ斉藤Tシャツを着たオシャレさんを見ました。そういうことです。

【バンバンビガロ提供】

アレクのコスチューム制作で話題のダイエット・ブッチャー冬のスウェット　2名

本誌ではいち早く昨年からグッズを紹介してきたおなじみのブランドです！　ウェアは直営店『オクタゴン』(東京都渋谷区神宮前5―16―8　TEL.03―3486―5539)で買えるぞ。

【DIET BUTCHER SLIM SKIN提供】

ウルトラ・レアなプロレスグッズ

ザ＝ライオンマン＆グレート＝ゼブラ・キーホルダー　セットで1名

編集部に転がっていたキーホルダーをあげちゃいます。グレート・ゼブラがまた見たいなあ。

絶対欲しいゾ!! みちのく5周年記念ウオッチ　1名

みちのく5周年記念パーティーの記念品。読者思いの『紙プロ』は、ファンのために放出します。

【みちのくプロレスさん提供】

入手不可能度2000％！不滅の闘魂ガラナ　1名

裏ルートから入手した十数年前の缶ジュース。飲めはしないが、インテリアに最適！

平成のTPGこと浅草キッドの直筆サイン入り犯行声明　1名

燃える情念・石川雄規に突きつけたTPG改めKPG(きよしプロレス軍団)の公開犯行声明。

【浅草キッドさん提供】

とにかく見ろ、聞け、感じろ！PRIDE.4永久保存版ビデオ　2名

ここ数年の間ではベラボウに素晴らしい興行だったPRIDE.4の全容を見逃すな！　収録時間90分(予定)。

【メディアファクトリー提供】

ダダ～ンと新日大放出!!

問答無用の過激な闘い THE ジュニアイズム 2名

カ・シンの加入以後、がぜん混迷の度合いが増した新日ジュニアの攻防をまるごと一本にしたぞ！【VALiS提供】

ナチュラル・ボーン・マスターの苦悩！ 復活！ 武藤敬司 2名

ヒザのケガを押して満身創痍の状態から這いあがる武藤の姿を追いかけろ！【VALiS提供】

熱戦を一挙収録! G1クライマックス'98 PART1&2 セットで2名

破壊王が涙の初優勝した今年のG1の模様を余すところなく収録！ 山ちゃんと安田は必見！【東芝EMI提供】

新製品！ 今どきの焼きそばDX俺のどろ 5名

nWoが焼きソバ業界にも進出したぞ！ 蝶野&武藤がCMに出演している、こってり味のカップ焼きソバ『俺のどろ』を12食セットで読者の方5名にプレゼント。パッケージの上蓋にキャンペーンの表示がある商品の中に封入された当たり券を所定の応募先に送るとマル焼きTシャツorマル焼きトレーナーが合計5000名に当たるキャンペーンを実施中。【東洋水産提供】

（このマークが対象商品です。）

ドド～ンとアキラもの大放出!!

日明兄さんとノブ兄さんの対談も収録！ T多重ウェイブ3名

書評の星座でボコボコに叩かれたのはShow氏であって、内容は素晴らしい一冊。プロレスファンはもち必読【スコラ提供】

絶対必見! 格闘王・前田日明 PART1&2 セットで2名

新日マットに上がっていた頃の日明兄さんの試合をノーカット収録！ たまんねえ！【東芝EMI提供】

引退試合正式決定記念！ 前田日明メモリアル2 神話篇 1名

旧UWF崩壊後、新日に乗り込む頃から新生UWF最後の試合までの試合を中心に収録。マスト！【QUEST提供】

ドカ～ンとインディー&女子プロ大放出!!

タイガードリーム誕生！ ZION'98 TOURNAMENT 1名

8月31日に行われたアルシオンのビッグマッチをまるごと収録。目ん玉に刻み込め！【QUEST提供】

圧倒的破壊力！ ATHENAでキャンディー奥津 2名

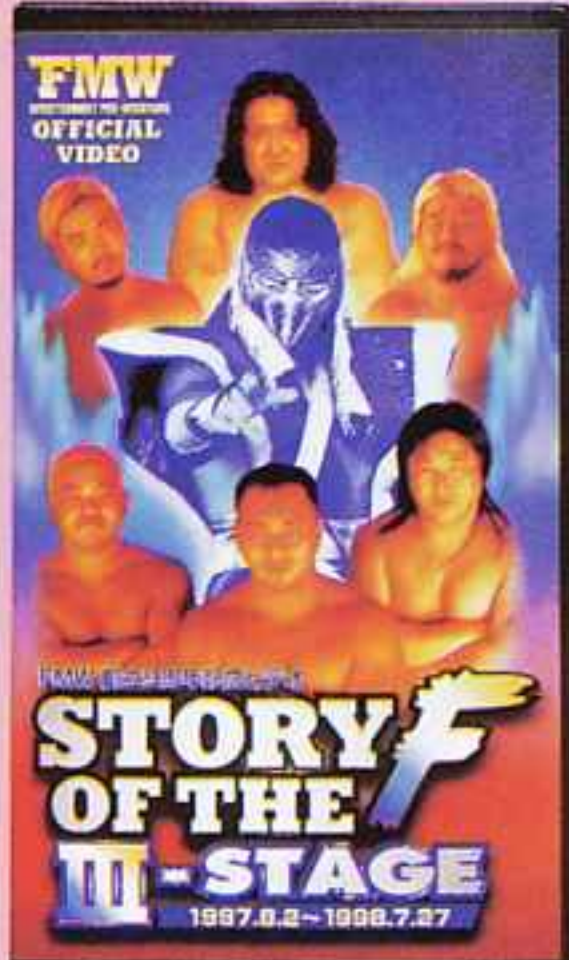
アルシオン・セクシーVIDEOシリーズの最後を飾る力作。開いた瞳孔が塞がりません。強烈!!【東芝EMI提供】

いちばん体で張ってるのはキャンディーだ！ キャンディー奥津写真集 ATHENA 2名

多少の汚れもなんのその、このシリーズ中でいちばん体当たりした写真集。【ゲオ販売提供】

写真集で凄さを納得！ 浜田文子写真集 ANDOREDA 2名

南の島でド迫力ボディーを惜しげもなくさらす文子に拍手！【ゲオ販売提供】

超豪華2本組！ STORY OF THE F Ⅲ-STAGE 2名

ドキュメント集とベストバウト集の2本立て。97年8月から98年7月までを総まくりだ！【東芝EMI提供】

Mr.デンジャーがワニとご対面！ ワニでもわかるデスマッチ講座 1名

大日本のリングで行われてきたデスマッチ集。解説を務めるのは松永自身！ 必見だ！【QUEST提供】

「なぁ、みんな～！ ハガキ書いてるか～い？ 忙しさに押しつぶされて、ハガキ書くのをサボってないか～い？ みんながハガキを書き続けるために俺はプレゼントし続けるんじゃ～！」（小路風）な

応募要項

業界関係者から、「あのプレゼント欲しいんだけど、ダメ?」という声が続出する怒濤の超豪華読者プレゼント。しかし、本誌はどんな袖の下にも負けない地上最強の読者プレゼントである。ちんけな金で魂を売るつもりはない。本誌が魂を売るのは読者が書いてくるハガキだけだ！ というわけで、「なぁ、みんな～！ ハガキ書いてるか～い?」。ハガキは右の要領で書いてください。応募券を必ず貼付してください。応募券のないハガキは無効になるので注意してくれよな！
締め切りは11月30日当日必着だぜ！

宛先は
〒151-0051東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702
（株）ダブルクロス『紙プロRADICAL』編集部「♪シも当たりもヒな～い～」係まで

1.住所 2.氏名
3.年齢
4.プレゼント希望商品
5.面白かった記事&理由
6.つまらなかった記事&理由
7.『PRIDE-0』（P116～）の勝者は誰？
8.高田vsヒクソン 3度目は見たい？見たくない？
9.紙プロ未登場の人で誰を取り上げてほしい？
10.ジャイ子に一言

応募券

RADICAL13号 応募券

紙のプロレス PRESENTS

開講目前!! 申込みは急げ

帰ってきた

青空プロレス道場

道場生求ム

闘う技術は教えませんが
闘う心なら教えます

10・28 第1回

リアル版
格闘技から見たプロレス

[ゲスト]VTJ'98の3日後

エンセン井上

(PUREBREDシューティングジム大宮)

11・11 第2回

マルコを破ったパーマンが語る
プロレス～バーリ・トゥードの幅

[ゲスト]PRIDE.4後の初トークライブ

アレクサンダー大塚

(格闘探偵団バトラーツ)

ゴチャゴチャ言わんと豪華なゲストを揃えて待ってます!!

■講師/『紙プロ』編集長・山口日昇+『紙プロ』編集スタッフ・吉田豪、坂井ノブ、松澤チョロ、中村カタブツ君(35歳)+毎回スペシャル・ゲストが登場!

『紙プロRADICAL』でおなじみのプロレス&格闘技界のビッグ・ネームたちがあなたの目の前で生講義をしちゃいます! 机をドンドン叩いて炎上するあの人?、目をつぶって30秒のあの人?、テープレコーダーを止めればいろいろしゃべってくれる人?、おへその下が35歳の人?、などなど決まり次第、誌面を通じて発表します。キミもこの機会に生の『紙プロ』を体験してみないか? レッツ紙プロ!

前回よりもお安くなってお得です!

■受講料 【10回通し券】一般30.000円 【1回券】3.500円 ※消費税別
■申込み方法/池袋コミュニティ・カレッジ8F総合受付にて受け付けます。申込書に必要事項をご記入の上、受講料を添えてお申し込みください。定員になり次第締め切らせていただきます。

※受付時間は10:00～18:20(日曜日は18:00まで。祝祭日は休館)

第2、第4水曜日は『青空プロレス道場』の日!

【青空プロレス道場日程】内容はあくまでも予定です。当日になって変わってるなんてことは、『紙のプロレス』ならよくあることなので、あらかじめ電話で講義内容を確認してください) **講義時間(18:30～20:30)**

11/25 UWFを語る夕べ
新生UWFから10年目。あの運動体の根幹には何があったのか? 今しか、あの男にしか語れない秘話が、いま明らかに!

12/9 リアル版・S多重アリバイ
数々の伝説と現在のマット界に足りない何かを持ったまま消え去った伝説の団体を再評価します。あの男がデンジャラスなトークをぶちかます!

12/23 プロレスファン実力世界一決定戦
どうしてこんなにプロレスファンが冷めてしまったのだろう? 超一流の批評眼と超一流のギャグという二刀流を持った、あの人たちが遂に登場!

1/13 新春・マット界BIG3そろい踏み
おとそ気分も抜けきらないうちに、『紙プロ』から超ビッグなお年玉爆弾が落とされます。この人たちがいる限りプロレスは永遠に不滅です!

1/27 アマレスから見たプロレス
やってきました! あのアマレス王が徹底的にプロレス界を斬る、斬る、斬る! あの人ならきっと目をつぶっても30秒です!

2/10 格闘技を通じてプロレスを考えてみよう
「強くて、面白いヤツこそが真のプロレスラー」と本誌は定義してみましたが、要するにこの人こそが真のプロレスラーなんですよ!

2/24 甦る道場王伝説
超人的なトレーニングをこなし、浴びるほど酒を飲み、道場破りを半殺しにしてきたあの男が、レスラーのあり方とファンタジー溢れる昔話を披露します!

3/10 プロレスマスコミの通信簿
「問題多すぎますよ!」とマエダアキラに言われてますが、マスコミ界の元祖問題児が本音で語るマスコミ論! 誰が悪いのか、はっきりさせろ!

[お問い合わせ]池袋コミュニティ・カレッジ TEL.03-3988-9281

紙のプロレス RADICAL
WANIMAGAZIN MOOK 91
1998 No.13
前田日明、エンセン井上が語る「髙田vsヒクソン戦」!!
平成10年11月25日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-11-3-702 電話／03-3403-5188
ワニマガジン社 定価：本体743円＋税

雑誌 69861-91
ISBN4-89829-542-8
C9476 ¥743E
9784898295427
1929476007438

印刷：図書印刷株式会社

誰が喜ぶかわからないポートレートシリーズ①

㊗バーリ・トゥード初出場初勝利

アレクサンダー大塚&ののもの夫妻の愛娘・愛(いと)ちゃん（0歳）

お前ら、みんな

オリアーズ

再来襲!!

地獄へ叩き落としてやる!!

暴走戦士

ロードウオ